

科目名	環境と社会 (FB200200)
英文科目名	Environment and Society
担当教員名	劔持堅志* (けんもつかたし*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	なぜ今環境問題に真剣に取り組む必要があるのかについて講義する。日常生活において環境問題が切実な問題だと考える人はまだ少ないが、真剣に取り組まないでそのまま放置しておく、人類の生存にも関わる重大な問題になることを提起する。また、電気自動車や自動運転の開発、人工知能(AI)の急激な発達などが及ぼす社会及び環境への影響についても講義する。
2回	日本で発生した深刻な公害(足尾鋳毒事件、水俣病、イタイタイ病、四日市ぜんそくなど)やPCBによるカネミ油症事件などについて講義し、これらの問題が発生した原因と背景、これを解決するために国や自治体、企業、そして国民が如何に対処し、対応したかについて講義する。
3回	岡山県内で発生した公害・環境問題や事故について講義する。私たちが暮らす身近な場所でも、過去には深刻な公害や事故が発生し、自治体、企業、地域住民などはその解決にいかにか努力し、克服したかについて講義する。
4回	地球の歴史や今地球で起きている人口問題、食糧自給、貧困・格差の拡大、政治における反グローバル主義の台頭、その影響、課題などについて講義する。
5回	地球レベルで進む森林破壊や砂漠化、水資源の不足、酸性雨、深刻な大気汚染、オゾン層の破壊などの現状と対策について講義する。
6回	地球温暖化の現状とその原因、今後に予想される地球温暖化の影響について講義する。また、地球温暖化防止に関する国際協力の歴史とその枠組み、地球温暖化対策の現況、岡山県真備町の豪雨災害の原因など、身近に迫ってきた地球温暖化対策の影響について講義する。
7回	日本のエネルギー自給の現状とエネルギー自給における電力の役割、原子力発電の仕組み、メリット及びディメリット、核燃料サイクルと再処理について講義する。また、福島第一原発事故直後の現地の状況についても実際の体験を踏まえて講義する。
8回	原子力発電に換わるエネルギー源として注目されている太陽光、風力、バイオマス発電等の仕組みと再生可能エネルギーを活用する上での問題点について講義する。 中間評価試験を実施
9回	水の循環と海洋の働き、水質汚濁の指標、水環境汚染が生じる原因、その歴史、対策について講義する。 水環境汚染を防止するための法制度、水質浄化施設の機能と役割、安全で安心な水道水を供給するための仕組みについて講義する。
10回	大気環境汚染が生じる原因、その歴史と対策、大気環境汚染の指標と汚染を防止するための法制度(環境基準等)について講義する。大気汚染防止のための技術開発、諸外国における大気汚染の現状と越境汚染問題について講義する。
11回	化学物質汚染とそのリスクと対策、海洋汚染、生物汚染、人体汚染、食品汚染等の現状について講義する。また、非意図的な有害物質の生成、遠隔地への輸送等についても講義する。
12回	循環型社会実現の必要性と課題について講義する。 廃棄物問題の歴史、廃棄物処理の現状と課題、3R(リデュース(Reduce)、リユース(Reuse)、リサイクル(Recycle))の現状とその課題について講義する。
13回	環境モニタリング技術について講義する。環境中に微量に存在する有害化学物質の高感度分析技術、大気、水質、放射線などの監視測定技術、微生物汚染の検査技術、県民の安全と安心を確保するために実施されている常時監視システムについて講義する。
14回	自動車の排ガス規制がもたらした技術の進歩と企業の努力について講義する。自動車の出現が社会・経済に与えたインパクト、自動車排ガス問題に対する規制の歴史について講義する。自動車排ガスクリーン化や、燃費の向上のための技術開発、電気自動車への急激な移行や自動運転車の開発などの影響についても講義する。
15回	技術の進歩がもたらす環境や社会経済へのインパクトについて講義する。シェール革命が与えたエネルギー供給へのインパクト、太陽光発電や電気自動車の開発に見られる急速な技術開発、自動運転、人工知能(AI)、IT技術などの進歩がもたらす経済・社会への衝撃について講義する。
16回	かけがえのない地球を次世代に残すため、「持続可能な社会実現」に向けた国際機関、国、自治体の活動と市民が果たすべき役割について講義する。 ライフスタイルの変革、環境アセスメント、環境ISO、ESD教育、ESG投資など現の社会の変化について言及し、講義を締めくくる。 最終評価試験を実施

回数	準備学習
----	------

1回	自分なりに考えている環境問題を文章にまとめておくこと。特に将来どのような問題が重要になるのかを考えておくこと。参考書の構成と目次(4~9)などを参照し、興味のある章を勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
2回	日本で発生してきた主要な公害問題や食品汚染などについて、参考書やインターネットなどを参照して調査しておくこと。 (標準学習時間60分)
3回	岡山県内で発生した公害、環境問題についてインターネットなどを参照してまとめておくこと。水島工業地帯で発生した重油流失事故、日本海で発生したナホトカ号重油流出事故についても講義する。 (標準学習時間60分)
4回	参考書 第2~3章、インターネットなどを参照して、地球の歴史と現在地球が直面している課題について学習しておくこと。
5回	地球レベルの環境破壊について、参考書 3-4、3-6章、インターネットなどを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
6回	地球温暖化の原因と現状について、参考書 3-1章、インターネットなどを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
7回	原子力発電所事故等について、参考書 3-8章などを勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
8回	再生可能エネルギーについて、参考書 3-2章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 評価試験を行うので、今までの講義をよく理解しておくこと。(標準学習時間120分) 評価試験の範囲は1~8回
9回	生活を支える水環境の保全について、参考書 3-6章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。機会があれば、浄水場、下水処理場、児島湖、ダム湖等を見学しておくこと。
10回	生活を支える水環境の保全について、参考書 3-6章や参考書やインターネットなどで大気汚染情報など関連するニュースを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
11回	化学物質汚染について、参考書 3-7章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
12回	循環型社会について、参考書 3-5章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
13回	インターネットなどで、どのような技術が環境監視や環境・食品汚染等の測定に使用されているか事前に情報収集して文章にまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
14回	インターネットなどで、自動車排ガス規制の規制の歴史と自動車メーカーの対応状況について事前に情報収集して文章にまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
15回	インターネットなどで、自動運転技術の現状と将来、その影響について情報収集して文章にまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
16回	各主体の役割と取り組みについて、参考書 5章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 また、評価試験の準備を行うこと。(標準学習時間120分) 後期評価試験の範囲は8~16回

講義目的	地球誕生以来培われてきた自然に対して人類が如何に影響を与えてきたかを学び、自然の大切さを知り、これを保全していく努力が必要なことを講義する。過去に発生した公害・環境問題を如何に人々が如何に克服してきたかを知り、喫緊の課題となっている地球温暖化問題についてその重要性を認識し、ライフスタイルを変革していく必要があることを講義する。更に今後の企業社会を支えていく学生に、課題を解決するための技術開発が課題解決の原動力になってきたこと、逆にこうした技術開発が社会経済や私たちの生活に大きな影響を与える可能性があることを講義する。 また最近普及してきたIT技術、自動運転、AI技術などが、学生の将来や私たちの生活に重大な影響を与えていることを講義するとともに、現在の課題を解決するためには、時には社会構造を変革する必要もあることを伝える。 (教養教育センター単位認定方針の知識・理解にもっとも強く関与する)
達成目標	地球の歴史と自然の大切さを学ぶ。 過去の公害・環境問題について学び、環境問題の重要性について認識する。 様々な課題解決の努力が技術の進歩につながることを学ぶ。 環境問題を解決するためにはエネルギーの適切な使用が大切なことを学ぶ。

	<p>学生、社会人として必要となる環境保全の基礎知識を習得する。 環境問題は社会の仕組みや経済と密接に関連していることを学ぶ。 今おきている自動運転、AIなどIT技術の社会・経済・生活への重大な影響について講義する。 (教養教育センター単位認定方針の知識・理解にもっとも強く関与する)</p>
キーワード	<p>公害、環境問題、人口問題、貧困・格差の拡大、グローバル主義と反グローバル主義、地球環境問題、地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、代替エネルギー、再生可能エネルギー、原子力発電、原子力事故、水質汚染、大気汚染、化学物質汚染、食品汚染、循環型社会、リサイクル、環境モニタリング、電気自動車、自動運転、人口知能(AI)の進化と影響、環境アセスメント、環境ISO、ESD教育、ESG投資、ライフスタイルの変革</p>
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	<p>16回受講者については、中間評価試験(1~8回)及び最終評価試験(9~16回)を行い、平均値で評価し、総計60%以上を合格とする。 8回受講者については、8回受講終了後に評価試験を行う。</p>
教科書	講義内容を要約した資料を配布する。講義はPowerPointを用いて行う。
関連科目	特にないが、歴史、社会、経済の動きに関心を持ってほしい。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・改定6版 eco検定(環境社会検定試験)®」公式松井孝典テキスト/東京商工会議所/日本能率会マネジメントセンター/ISBN: 978-4-8207-5952-2 C3051 ・不都合な真実(アルゴア著、ランダムハウス講談社) ISBN 978-4270001813) ・地球システムの崩壊(松井 孝典、新潮選書) ・生命の多様性(エドワード・O. ウィルソン、岩波現代文庫)
連絡先	<p>(個人メール) katashi_kenmotsu@festa.ocn.ne.jp katashi.kenmotsu@gmail.com (講義資料等に関する問合せ)</p>
授業の運営方針	講生に今おきている社会の変動に関心を持っていただき、講義では、積極的な質問と討論を期待する。
アクティブ・ラーニング	今急速に変化する社会(AI技術、自動運転など)について講義することにより、受講生の積極的な参加と交流を行う。
課題に対するフィードバック	個人メールアドレスを公開するなど、学生との意思疎通を図る手段を確保し、質問等に積極的に答える。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は申し出ること。
実務経験のある教員	<p>環境省化学物質環境汚染に関する検討会の運営(座長)、福島原発事故の際には、岡山県から放射能汚染調査の責任者として福島県に派遣され、汚染調査を行った。 また、地域では、地域活性化を目的とした団体の運営、地域のニュースの毎月発刊、地域誌の刊行、講演会の開催、ホームページの運営等を行っている。</p>
その他(注意・備考)	講義において、受講者との積極的な討論と交流を期待する。

科目名	環境と社会 (FB200210)
英文科目名	Environment and Society
担当教員名	劔持堅志* (けんもつかたし*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	なぜ今環境問題に真剣に取り組む必要があるのかについて講義する。日常生活において環境問題が切実な問題だと考える人はまだ少ないが、真剣に取り組まないでそのまま放置しておく、人類の生存にも関わる重大な問題になることを提起する。また、電気自動車や自動運転の開発、人工知能(AI)の急激な発達などが及ぼす社会及び環境への影響についても講義する。
2回	日本で発生した深刻な公害(足尾鉍毒事件、水俣病、イタイタイ病、四日市ぜんそくなど)やPCBによるカネミ油症事件などについて講義し、これらの問題が発生した原因と背景、これを解決するために国や自治体、企業、そして国民が如何に対処し、対応したかについて講義する。
3回	岡山県内で発生した公害・環境問題や事故について講義する。私たちが暮らす身近な場所でも、過去には深刻な公害や事故が発生し、自治体、企業、地域住民などはその解決にいかにかつ努力し、克服したかについて講義する。
4回	地球の歴史や今地球で起きている人口問題、食糧自給、貧困・格差の拡大、政治における反グローバル主義の台頭、その影響、課題などについて講義する。
5回	地球レベルで進む森林破壊や砂漠化、水資源の不足、酸性雨、深刻な大気汚染、オゾン層の破壊などの現状と対策について講義する。
6回	地球温暖化の現状とその原因、今後に予想される地球温暖化の影響について講義する。また、地球温暖化防止に関する国際協力の歴史とその枠組み、地球温暖化対策の現況、岡山県真備町の豪雨災害の原因など、身近に迫ってきた地球温暖化対策の影響について講義する。
7回	日本のエネルギー自給の現状とエネルギー自給における電力の役割、原子力発電の仕組み、メリット及びディメリット、核燃料サイクルと再処理について講義する。また、福島第一原発事故直後の現地の状況についても実際の体験を踏まえて講義する。
8回	原子力発電に換わるエネルギー源として注目されている太陽光、風力、バイオマス発電等の仕組みと再生可能エネルギーを活用する上での問題点について講義する。 中間評価試験を実施
9回	水の循環と海洋の働き、水質汚濁の指標、水環境汚染が生じる原因、その歴史、対策について講義する。 水環境汚染を防止するための法制度、水質浄化施設の機能と役割、安全で安心な水道水を供給するための仕組みについて講義する。
10回	大気環境汚染が生じる原因、その歴史と対策、大気環境汚染の指標と汚染を防止するための法制度(環境基準等)について講義する。大気汚染防止のための技術開発、諸外国における大気汚染の現状と越境汚染問題について講義する。
11回	化学物質汚染とそのリスクと対策、海洋汚染、生物汚染、人体汚染、食品汚染等の現状について講義する。また、非意図的な有害物質の生成、遠隔地への輸送等についても講義する。
12回	循環型社会実現の必要性と課題について講義する。 廃棄物問題の歴史、廃棄物処理の現状と課題、3R(リデュース(Reduce)、リユース(Reuse)、リサイクル(Recycle))の現状とその課題について講義する。
13回	環境モニタリング技術について講義する。環境中に微量に存在する有害化学物質の高感度分析技術、大気、水質、放射線などの監視測定技術、微生物汚染の検査技術、県民の安全と安心を確保するために実施されている常時監視システムについて講義する。
14回	自動車の排ガス規制がもたらした技術の進歩と企業の努力について講義する。自動車の出現が社会・経済に与えたインパクト、自動車排ガス問題に対する規制の歴史について講義する。自動車排ガスクリーン化や、燃費の向上のための技術開発、電気自動車への急激な移行や自動運転車の開発などの影響についても講義する。
15回	技術の進歩がもたらす環境や社会経済へのインパクトについて講義する。シェール革命が与えたエネルギー供給へのインパクト、太陽光発電や電気自動車の開発に見られる急速な技術開発、自動運転、人工知能(AI)、IT技術などの進歩がもたらす経済・社会への衝撃について講義する。
16回	かけがえのない地球を次世代に残すため、「持続可能な社会実現」に向けた国際機関、国、自治体の活動と市民が果たすべき役割について講義する。 ライフスタイルの変革、環境アセスメント、環境ISO、ESD教育、ESG投資など現の社会の変化について言及し、講義を締めくくる。 最終評価試験を実施

回数	準備学習
----	------

1回	自分なりに考えている環境問題を文章にまとめておくこと。特に将来どのような問題が重要になるのかを考えておくこと。参考書の構成と目次(4~9)などを参照し、興味のある章を勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
2回	日本で発生してきた主要な公害問題や食品汚染などについて、参考書やインターネットなどを参照して調査しておくこと。 (標準学習時間60分)
3回	岡山県内で発生した公害、環境問題についてインターネットなどを参照してまとめておくこと。水島工業地帯で発生した重油流失事故、日本海で発生したナホトカ号重油流出事故についても講義する。 (標準学習時間60分)
4回	参考書 第2~3章、インターネットなどを参照して、地球の歴史と現在地球が直面している課題について学習しておくこと。
5回	地球レベルの環境破壊について、参考書 3-4、3-6章、インターネットなどを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
6回	地球温暖化の原因と現状について、参考書 3-1章、インターネットなどを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
7回	原子力発電所事故等について、参考書 3-8章などを勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
8回	再生可能エネルギーについて、参考書 3-2章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 評価試験を行うので、今までの講義をよく理解しておくこと。(標準学習時間120分) 評価試験の範囲は1~8回
9回	生活を支える水環境の保全について、参考書 3-6章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。機会があれば、浄水場、下水処理場、児島湖、ダム湖等を見学しておくこと。
10回	生活を支える水環境の保全について、参考書 3-6章や参考書やインターネットなどで大気汚染情報など関連するニュースを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
11回	化学物質汚染について、参考書 3-7章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
12回	循環型社会について、参考書 3-5章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
13回	インターネットなどで、どのような技術が環境監視や環境・食品汚染等の測定に使用されているか事前に情報収集して文章にまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
14回	インターネットなどで、自動車排ガス規制の規制の歴史と自動車メーカーの対応状況について事前に情報収集して文章にまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
15回	インターネットなどで、自動運転技術の現状と将来、その影響について情報収集して文章にまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
16回	各主体の役割と取り組みについて、参考書 5章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 また、評価試験の準備を行うこと。(標準学習時間120分) 後期評価試験の範囲は8~16回

講義目的	地球誕生以来培われてきた自然に対して人類が如何に影響を与えてきたかを学び、自然の大切さを知り、これを保全していく努力が必要なことを講義する。過去に発生した公害・環境問題を如何に人々が如何に克服してきたかを知り、喫緊の課題となっている地球温暖化問題についてその重要性を認識し、ライフスタイルを変革していく必要があることを講義する。更に今後の企業社会を支えていく学生に、課題を解決するための技術開発が課題解決の原動力になってきたこと、逆にこうした技術開発が社会経済や私たちの生活に大きな影響を与える可能性があることを講義する。 また最近普及してきたIT技術、自動運転、AI技術などが、学生の将来や私たちの生活に重大な影響を与えていることを講義するとともに、現在の課題を解決するためには、時には社会構造を変革する必要もあることを伝える。 (教養教育センター単位認定方針の知識・理解にもっとも強く関与する)
達成目標	地球の歴史と自然の大切さを学ぶ。 過去の公害・環境問題について学び、環境問題の重要性について認識する。 様々な課題解決の努力が技術の進歩につながることを学ぶ。 環境問題を解決するためにはエネルギーの適切な使用が大切なことを学ぶ。

	<p>学生、社会人として必要となる環境保全の基礎知識を習得する。 環境問題は社会の仕組みや経済と密接に関連していることを学ぶ。 今おきている自動運転、AIなどIT技術の社会・経済・生活への重大な影響について講義する。 (教養教育センター単位認定方針の知識・理解にもっとも強く関与する)</p>
キーワード	<p>公害、環境問題、人口問題、貧困・格差の拡大、グローバル主義と反グローバル主義、地球環境問題、地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、代替エネルギー、再生可能エネルギー、原子力発電、原子力事故、水質汚染、大気汚染、化学物質汚染、食品汚染、循環型社会、リサイクル、環境モニタリング、電気自動車、自動運転、人口知能(AI)の進化と影響、環境アセスメント、環境ISO、ESD教育、ESG投資、ライフスタイルの変革</p>
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	<p>16回受講者については、中間評価試験(1~8回)及び最終評価試験(9~16回)を行い、平均値で評価し、総計60%以上を合格とする。 8回受講者については、8回受講終了後に評価試験を行う。</p>
教科書	講義内容を要約した資料を配布する。講義はPowerPointを用いて行う。
関連科目	特にないが、歴史、社会、経済の動きに関心を持ってほしい。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・改定6版 eco検定(環境社会検定試験)®」公式松井孝典テキスト/東京商工会議所/日本能率会マネジメントセンター/ISBN: 978-4-8207-5952-2 C3051 ・不都合な真実(アルゴア著、ランダムハウス講談社) ISBN 978-4270001813) ・地球システムの崩壊(松井 孝典、新潮選書) ・生命の多様性(エドワード・O. ウィルソン、岩波現代文庫)
連絡先	<p>(個人メール) katashi_kenmotsu@festa.ocn.ne.jp katashi.kenmotsu@gmail.com (講義資料等に関する問合せ)</p>
授業の運営方針	講生に今おきている社会の変動に関心を持っていただき、講義では、積極的な質問と討論を期待する。
アクティブ・ラーニング	今急速に変化する社会(AI技術、自動運転など)について講義することにより、受講生の積極的な参加と交流を行う。
課題に対するフィードバック	個人メールアドレスを公開するなど、学生との意思疎通を図る手段を確保し、質問等に積極的に答える。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は申し出ること。
実務経験のある教員	<p>環境省化学物質環境汚染に関する検討会の運営(座長)、福島原発事故の際には、岡山県から放射能汚染調査の責任者として福島県に派遣され、汚染調査を行った。 また、地域では、地域活性化を目的とした団体の運営、地域のニュースの毎月発刊、地域誌の刊行、講演会の開催、ホームページの運営等を行っている。</p>
その他(注意・備考)	講義において、受講者との積極的な討論と交流を期待する。

科目名	環境と社会 (FB200220)
英文科目名	Environment and Society
担当教員名	劔持堅志* (けんもつかたし*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	なぜ今環境問題に真剣に取り組む必要があるのかについて講義する。日常生活において環境問題が切実な問題だと考える人はまだ少ないが、真剣に取り組まないでそのまま放置しておく、人類の生存にも関わる重大な問題になることを提起する。また、電気自動車や自動運転の開発、人工知能(AI)の急激な発達などが及ぼす社会及び環境への影響についても講義する。
2回	日本で発生した深刻な公害(足尾鋳毒事件、水俣病、イタイタイ病、四日市ぜんそくなど)やPCBによるカネミ油症事件などについて講義し、これらの問題が発生した原因と背景、これを解決するために国や自治体、企業、そして国民が如何に対処し、対応したかについて講義する。
3回	岡山県内で発生した公害・環境問題や事故について講義する。私たちが暮らす身近な場所でも、過去には深刻な公害や事故が発生し、自治体、企業、地域住民などはその解決にいかに関与し、克服したかについて講義する。
4回	地球の歴史や今地球で起きている人口問題、食糧自給、貧困・格差の拡大、政治における反グローバル主義の台頭、その影響、課題などについて講義する。
5回	地球レベルで進む森林破壊や砂漠化、水資源の不足、酸性雨、深刻な大気汚染、オゾン層の破壊などの現状と対策について講義する。
6回	地球温暖化の現状とその原因、今後予想される地球温暖化の影響について講義する。また、地球温暖化防止に関する国際協力の歴史とその枠組み、地球温暖化対策の現況、岡山県真備町の豪雨災害の原因など、身近に迫ってきた地球温暖化対策の影響について講義する。
7回	日本のエネルギー自給の現状とエネルギー自給における電力の役割、原子力発電の仕組み、メリット及びディメリット、核燃料サイクルと再処理について講義する。また、福島第一原発事故直後の現地の状況についても実際の体験を踏まえて講義する。
8回	原子力発電に換わるエネルギー源として注目されている太陽光、風力、バイオマス発電等の仕組みと再生可能エネルギーを活用する上での問題点について講義する。 中間評価試験を実施
9回	水の循環と海洋の働き、水質汚濁の指標、水環境汚染が生じる原因、その歴史、対策について講義する。 水環境汚染を防止するための法制度、水質浄化施設の機能と役割、安全で安心な水道水を供給するための仕組みについて講義する。
10回	大気環境汚染が生じる原因、その歴史と対策、大気環境汚染の指標と汚染を防止するための法制度(環境基準等)について講義する。大気汚染防止のための技術開発、諸外国における大気汚染の現状と越境汚染問題について講義する。
11回	化学物質汚染とそのリスクと対策、海洋汚染、生物汚染、人体汚染、食品汚染等の現状について講義する。また、非意図的な有害物質の生成、遠隔地への輸送等についても講義する。
12回	循環型社会実現の必要性と課題について講義する。 廃棄物問題の歴史、廃棄物処理の現状と課題、3R(リデュース(Reduce)、リユース(Reuse)、リサイクル(Recycle))の現状とその課題について講義する。
13回	環境モニタリング技術について講義する。環境中に微量に存在する有害化学物質の高感度分析技術、大気、水質、放射線などの監視測定技術、微生物汚染の検査技術、県民の安全と安心を確保するために実施されている常時監視システムについて講義する。
14回	自動車の排ガス規制がもたらした技術の進歩と企業の努力について講義する。自動車の出現が社会・経済に与えたインパクト、自動車排ガス問題に対する規制の歴史について講義する。自動車排ガスクリーン化や、燃費の向上のための技術開発、電気自動車への急激な移行や自動運転車の開発などの影響についても講義する。
15回	技術の進歩がもたらす環境や社会経済へのインパクトについて講義する。シェール革命が与えたエネルギー供給へのインパクト、太陽光発電や電気自動車の開発に見られる急速な技術開発、自動運転、人工知能(AI)、IT技術などの進歩がもたらす経済・社会への衝撃について講義する。
16回	かけがえのない地球を次世代に残すため、「持続可能な社会実現」に向けた国際機関、国、自治体の活動と市民が果たすべき役割について講義する。 ライフスタイルの変革、環境アセスメント、環境ISO、ESD教育、ESG投資など現の社会の変化について言及し、講義を締めくくる。 最終評価試験を実施

回数	準備学習
----	------

1回	自分なりに考えている環境問題を文章にまとめておくこと。特に将来どのような問題が重要になるのかを考えておくこと。参考書の構成と目次(4~9)などを参照し、興味のある章を勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
2回	日本で発生してきた主要な公害問題や食品汚染などについて、参考書やインターネットなどを参照して調査しておくこと。 (標準学習時間60分)
3回	岡山県内で発生した公害、環境問題についてインターネットなどを参照してまとめておくこと。水島工業地帯で発生した重油流失事故、日本海で発生したナホトカ号重油流出事故についても講義する。 (標準学習時間60分)
4回	参考書 第2~3章、インターネットなどを参照して、地球の歴史と現在地球が直面している課題について学習しておくこと。
5回	地球レベルの環境破壊について、参考書 3-4、3-6章、インターネットなどを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
6回	地球温暖化の原因と現状について、参考書 3-1章、インターネットなどを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
7回	原子力発電所事故等について、参考書 3-8章などを勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
8回	再生可能エネルギーについて、参考書 3-2章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 評価試験を行うので、今までの講義をよく理解しておくこと。(標準学習時間120分) 評価試験の範囲は1~8回
9回	生活を支える水環境の保全について、参考書 3-6章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。機会があれば、浄水場、下水処理場、児島湖、ダム湖等を見学しておくこと。
10回	生活を支える水環境の保全について、参考書 3-6章や参考書やインターネットなどで大気汚染情報など関連するニュースを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
11回	化学物質汚染について、参考書 3-7章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
12回	循環型社会について、参考書 3-5章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
13回	インターネットなどで、どのような技術が環境監視や環境・食品汚染等の測定に使用されているか事前に情報収集して文章にまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
14回	インターネットなどで、自動車排ガス規制の規制の歴史と自動車メーカーの対応状況について事前に情報収集して文章にまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
15回	インターネットなどで、自動運転技術の現状と将来、その影響について情報収集して文章にまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
16回	各主体の役割と取り組みについて、参考書 5章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 また、評価試験の準備を行うこと。(標準学習時間120分) 後期評価試験の範囲は8~16回

講義目的	地球誕生以来培われてきた自然に対して人類が如何に影響を与えてきたかを学び、自然の大切さを知り、これを保全していく努力が必要なことを講義する。過去に発生した公害・環境問題を如何に人々が如何に克服してきたかを知り、喫緊の課題となっている地球温暖化問題についてその重要性を認識し、ライフスタイルを変革していく必要があることを講義する。更に今後の企業社会を支えていく学生に、課題を解決するための技術開発が課題解決の原動力になってきたこと、逆にこうした技術開発が社会経済や私たちの生活に大きな影響を与える可能性があることを講義する。 また最近普及してきたIT技術、自動運転、AI技術などが、学生の将来や私たちの生活に重大な影響を与えていることを講義するとともに、現在の課題を解決するためには、時には社会構造を変革する必要もあることを伝える。 (教養教育センター単位認定方針の知識・理解にもっとも強く関与する)
達成目標	地球の歴史と自然の大切さを学ぶ。 過去の公害・環境問題について学び、環境問題の重要性について認識する。 様々な課題解決の努力が技術の進歩につながることを学ぶ。 環境問題を解決するためにはエネルギーの適切な使用が大切なことを学ぶ。

	<p>学生、社会人として必要となる環境保全の基礎知識を習得する。 環境問題は社会の仕組みや経済と密接に関連していることを学ぶ。 今おきている自動運転、AIなどIT技術の社会・経済・生活への重大な影響について講義する。 (教養教育センター単位認定方針の知識・理解にもっとも強く関与する)</p>
キーワード	<p>公害、環境問題、人口問題、貧困・格差の拡大、グローバル主義と反グローバル主義、地球環境問題、地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、代替エネルギー、再生可能エネルギー、原子力発電、原子力事故、水質汚染、大気汚染、化学物質汚染、食品汚染、循環型社会、リサイクル、環境モニタリング、電気自動車、自動運転、人口知能(AI)の進化と影響、環境アセスメント、環境ISO、ESD教育、ESG投資、ライフスタイルの変革</p>
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	<p>16回受講者については、中間評価試験(1~8回)及び最終評価試験(9~16回)を行い、平均値で評価し、総計60%以上を合格とする。 8回受講者については、8回受講終了後に評価試験を行う。</p>
教科書	講義内容を要約した資料を配布する。講義はPowerPointを用いて行う。
関連科目	特にないが、歴史、社会、経済の動きに関心を持ってほしい。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・改定6版 eco検定(環境社会検定試験)®」公式松井孝典テキスト/東京商工会議所/日本能率会マネジメントセンター/ISBN: 978-4-8207-5952-2 C3051 ・不都合な真実(アルゴア著、ランダムハウス講談社) ISBN 978-4270001813) ・地球システムの崩壊(松井 孝典、新潮選書) ・生命の多様性(エドワード・O. ウィルソン、岩波現代文庫)
連絡先	<p>(個人メール) katashi_kenmotsu@festa.ocn.ne.jp katashi.kenmotsu@gmail.com (講義資料等に関する問合せ)</p>
授業の運営方針	講生に今おきている社会の変動に関心を持っていただき、講義では、積極的な質問と討論を期待する。
アクティブ・ラーニング	今急速に変化する社会(AI技術、自動運転など)について講義することにより、受講生の積極的な参加と交流を行う。
課題に対するフィードバック	個人メールアドレスを公開するなど、学生との意思疎通を図る手段を確保し、質問等に積極的に答える。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は申し出ること。
実務経験のある教員	<p>環境省化学物質環境汚染に関する検討会の運営(座長)、福島原発事故の際には、岡山県から放射能汚染調査の責任者として福島県に派遣され、汚染調査を行った。 また、地域では、地域活性化を目的とした団体の運営、地域のニュースの毎月発刊、地域誌の刊行、講演会の開催、ホームページの運営等を行っている。</p>
その他(注意・備考)	講義において、受講者との積極的な討論と交流を期待する。

科目名	環境と社会 (FB200230)
英文科目名	Environment and Society
担当教員名	剣持堅志* (けんもつかたし*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	なぜ今環境問題に真剣に取り組む必要があるのかについて講義する。日常生活において環境問題が切実な問題だと考える人はまだ少ないが、真剣に取り組まないでそのまま放置しておく、人類の生存にも関わる重大な問題になることを提起する。また、電気自動車や自動運転の開発、人工知能(AI)の急激な発達などが及ぼす社会及び環境への影響についても講義する。
2回	日本で発生した深刻な公害(足尾鋇毒事件、水俣病、イタイタイ病、四日市ぜんそくなど)やPCBによるカネミ油症事件などについて講義し、これらの問題が発生した原因と背景、これを解決するために国や自治体、企業、そして国民が如何に対処し、対応したかについて講義する。
3回	岡山県内で発生した公害・環境問題や事故について講義する。私たちが暮らす身近な場所でも、過去には深刻な公害や事故が発生し、自治体、企業、地域住民などはその解決にいかにか努力し、克服したかについて講義する。
4回	地球の歴史や今地球で起きている人口問題、食糧自給、貧困・格差の拡大、政治における反グローバル主義の台頭、その影響、課題などについて講義する。
5回	地球レベルで進む森林破壊や砂漠化、水資源の不足、酸性雨、深刻な大気汚染、オゾン層の破壊などの現状と対策について講義する。
6回	地球温暖化の現状とその原因、今後に予想される地球温暖化の影響について講義する。また、地球温暖化防止に関する国際協力の歴史とその枠組み、地球温暖化対策の現況、岡山県真備町の豪雨災害の原因など、身近に迫ってきた地球温暖化対策の影響について講義する。
7回	日本のエネルギー自給の現状とエネルギー自給における電力の役割、原子力発電の仕組み、メリット及びディメリット、核燃料サイクルと再処理について講義する。また、福島第一原発事故直後の現地の状況についても実際の体験を踏まえて講義する。
8回	原子力発電に換わるエネルギー源として注目されている太陽光、風力、バイオマス発電等の仕組みと再生可能エネルギーを活用する上での問題点について講義する。 中間評価試験を実施
9回	水の循環と海洋の働き、水質汚濁の指標、水環境汚染が生じる原因、その歴史、対策について講義する。 水環境汚染を防止するための法制度、水質浄化施設の機能と役割、安全で安心な水道水を供給するための仕組みについて講義する。
10回	大気環境汚染が生じる原因、その歴史と対策、大気環境汚染の指標と汚染を防止するための法制度(環境基準等)について講義する。大気汚染防止のための技術開発、諸外国における大気汚染の現状と越境汚染問題について講義する。
11回	化学物質汚染とそのリスクと対策、海洋汚染、生物汚染、人体汚染、食品汚染等の現状について講義する。また、非意図的な有害物質の生成、遠隔地への輸送等についても講義する。
12回	循環型社会実現の必要性と課題について講義する。 廃棄物問題の歴史、廃棄物処理の現状と課題、3R(リデュース(Reduce)、リユース(Reuse)、リサイクル(Recycle))の現状とその課題について講義する。
13回	環境モニタリング技術について講義する。環境中に微量に存在する有害化学物質の高感度分析技術、大気、水質、放射線などの監視測定技術、微生物汚染の検査技術、県民の安全と安心を確保するために実施されている常時監視システムについて講義する。
14回	自動車の排ガス規制がもたらした技術の進歩と企業の努力について講義する。自動車の出現が社会・経済に与えたインパクト、自動車排ガス問題に対する規制の歴史について講義する。自動車排ガスクリーン化や、燃費の向上のための技術開発、電気自動車への急激な移行や自動運転車の開発などの影響についても講義する。
15回	技術の進歩がもたらす環境や社会経済へのインパクトについて講義する。シェール革命が与えたエネルギー供給へのインパクト、太陽光発電や電気自動車の開発に見られる急速な技術開発、自動運転、人工知能(AI)、IT技術などの進歩がもたらす経済・社会への衝撃について講義する。
16回	かけがえのない地球を次世代に残すため、「持続可能な社会実現」に向けた国際機関、国、自治体の活動と市民が果たすべき役割について講義する。 ライフスタイルの変革、環境アセスメント、環境ISO、ESD教育、ESG投資など現の社会の変化について言及し、講義を締めくくる。 最終評価試験を実施

回数	準備学習
----	------

1回	自分なりに考えている環境問題を文章にまとめておくこと。特に将来どのような問題が重要になるのかを考えておくこと。参考書の構成と目次(4~9)などを参照し、興味のある章を勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
2回	日本で発生してきた主要な公害問題や食品汚染などについて、参考書やインターネットなどを参照して調査しておくこと。 (標準学習時間60分)
3回	岡山県内で発生した公害、環境問題についてインターネットなどを参照してまとめておくこと。水島工業地帯で発生した重油流失事故、日本海で発生したナホトカ号重油流出事故についても講義する。 (標準学習時間60分)
4回	参考書 第2~3章、インターネットなどを参照して、地球の歴史と現在地球が直面している課題について学習しておくこと。
5回	地球レベルの環境破壊について、参考書 3-4、3-6章、インターネットなどを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
6回	地球温暖化の原因と現状について、参考書 3-1章、インターネットなどを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
7回	原子力発電所事故等について、参考書 3-8章などを勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
8回	再生可能エネルギーについて、参考書 3-2章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 評価試験を行うので、今までの講義をよく理解しておくこと。(標準学習時間120分) 評価試験の範囲は1~8回
9回	生活を支える水環境の保全について、参考書 3-6章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。機会があれば、浄水場、下水処理場、児島湖、ダム湖等を見学しておくこと。
10回	生活を支える水環境の保全について、参考書 3-6章や参考書やインターネットなどで大気汚染情報など関連するニュースを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
11回	化学物質汚染について、参考書 3-7章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
12回	循環型社会について、参考書 3-5章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 (標準学習時間60分)
13回	インターネットなどで、どのような技術が環境監視や環境・食品汚染等の測定に使用されているか事前に情報収集して文章にまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
14回	インターネットなどで、自動車排ガス規制の規制の歴史と自動車メーカーの対応状況について事前に情報収集して文章にまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
15回	インターネットなどで、自動運転技術の現状と将来、その影響について情報収集して文章にまとめておくこと。 (標準学習時間60分)
16回	各主体の役割と取り組みについて、参考書 5章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。 また、評価試験の準備を行うこと。(標準学習時間120分) 後期評価試験の範囲は8~16回

講義目的	地球誕生以来培われてきた自然に対して人類が如何に影響を与えてきたかを学び、自然の大切さを知り、これを保全していく努力が必要なことを講義する。過去に発生した公害・環境問題を如何に人々が如何に克服してきたかを知り、喫緊の課題となっている地球温暖化問題についてその重要性を認識し、ライフスタイルを変革していく必要があることを講義する。更に今後の企業社会を支えていく学生に、課題を解決するための技術開発が課題解決の原動力になってきたこと、逆にこうした技術開発が社会経済や私たちの生活に大きな影響を与える可能性があることを講義する。 また最近普及してきたIT技術、自動運転、AI技術などが、学生の将来や私たちの生活に重大な影響を与えていることを講義するとともに、現在の課題を解決するためには、時には社会構造を変革する必要もあることを伝える。 (教養教育センター単位認定方針の知識・理解にもっとも強く関与する)
達成目標	地球の歴史と自然の大切さを学ぶ。 過去の公害・環境問題について学び、環境問題の重要性について認識する。 様々な課題解決の努力が技術の進歩につながることを学ぶ。 環境問題を解決するためにはエネルギーの適切な使用が大切なことを学ぶ。

	<p>学生、社会人として必要となる環境保全の基礎知識を習得する。 環境問題は社会の仕組みや経済と密接に関連していることを学ぶ。 今おきている自動運転、AIなどIT技術の社会・経済・生活への重大な影響について講義する。 (教養教育センター単位認定方針の知識・理解にもっとも強く関与する)</p>
キーワード	<p>公害、環境問題、人口問題、貧困・格差の拡大、グローバル主義と反グローバル主義、地球環境問題、地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、代替エネルギー、再生可能エネルギー、原子力発電、原子力事故、水質汚染、大気汚染、化学物質汚染、食品汚染、循環型社会、リサイクル、環境モニタリング、電気自動車、自動運転、人口知能(AI)の進化と影響、環境アセスメント、環境ISO、ESD教育、ESG投資、ライフスタイルの変革</p>
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	<p>16回受講者については、中間評価試験(1~8回)及び最終評価試験(9~16回)を行い、平均値で評価し、総計60%以上を合格とする。 8回受講者については、8回受講終了後に評価試験を行う。</p>
教科書	講義内容を要約した資料を配布する。講義はPowerPointを用いて行う。
関連科目	特にないが、歴史、社会、経済の動きに関心を持ってほしい。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・改定6版 eco検定(環境社会検定試験)®」公式松井孝典テキスト/東京商工会議所/日本能率会マネジメントセンター/ISBN: 978-4-8207-5952-2 C3051 ・不都合な真実(アルゴア著、ランダムハウス講談社) ISBN 978-4270001813) ・地球システムの崩壊(松井 孝典、新潮選書) ・生命の多様性(エドワード・O. ウィルソン、岩波現代文庫)
連絡先	<p>(個人メール) katashi_kenmotsu@festa.ocn.ne.jp katashi.kenmotsu@gmail.com (講義資料等に関する問合せ)</p>
授業の運営方針	講生に今おきている社会の変動に関心を持っていただき、講義では、積極的な質問と討論を期待する。
アクティブ・ラーニング	今急速に変化する社会(AI技術、自動運転など)について講義することにより、受講生の積極的な参加と交流を行う。
課題に対するフィードバック	個人メールアドレスを公開するなど、学生との意思疎通を図る手段を確保し、質問等に積極的に答える。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は申し出ること。
実務経験のある教員	<p>環境省化学物質環境汚染に関する検討会の運営(座長)、福島原発事故の際には、岡山県から放射能汚染調査の責任者として福島県に派遣され、汚染調査を行った。 また、地域では、地域活性化を目的とした団体の運営、地域のニュースの毎月発刊、地域誌の刊行、講演会の開催、ホームページの運営等を行っている。</p>
その他(注意・備考)	講義において、受講者との積極的な討論と交流を期待する。

科目名	哲学 (FB200800)
英文科目名	Philosophy
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、哲学の概要を説明する。
2回	自然哲学者やソフィストたちの思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
3回	ソクラテスとプラトンの思想について説明した後、プラトンの弟子アリストテレスの思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
4回	中世という時代の特徴について説明した後、中世哲学について説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
5回	デカルトの生涯と思想について説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
6回	カントの生涯と思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
7回	ニーチェ、ハイデガーの生涯と思想について説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
8回	前半に中間評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。
9回	後半の授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、東洋哲学の概要を説明する。
10回	インド文明の誕生の経緯やヴェーダ聖典について説明した後、沙門たちの思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
11回	インドの「六派哲学」について説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
12回	古代中国の「諸子百家」と呼ばれる思想家の思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
13回	朱子学と陽明学の思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
14回	キンディーとファーラービーの思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
15回	イブン・スィナーとガザーリーの思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
16回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1回	「哲学」とはどのような学問であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
2回	自然哲学者、ソフィストとはどのような人たちであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
3回	ソクラテス、プラトン、アリストテレスとはどのような人物であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
4回	ヨーロッパの中世とはどのような時代であるのか、またその時代の哲学はどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
5回	デカルトとはどのような人物であるのか、またその代表的な著作などを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
6回	カントとはどのような人物であるのか、またその代表的な著作などを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
7回	ニーチェ、ハイデガーとはどのような人物であるのか、またその代表的な著作などを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
8回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)
9回	「東洋哲学」とは何か、「東洋哲学」とはどのような学問であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
10回	ヴェーダ聖典とはどのようなものであるのか、パラモン、沙門とはどのような人たちであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
11回	六派哲学とはどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
12回	諸子百家とはどのような者たちであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
13回	朱子学、陽明学とはどのような学問であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)

14回	イスラーム教とはどのような宗教であるのか、またキンディーとファーラービーとはどのような人物であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
15回	イブン・スィナーとガザーリーとはどのような人物であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
16回	第9回～第15回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	西洋哲学と東洋哲学の歴史をひと通り理解し、哲学を学ぶうえでの最低限の知識を身につけたうえで、新しい問題に直面した際にも、正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は4領域の項目のうちの「思考・判断・表現」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は4領域の項目のうちの「思考・判断・表現」ともっとも強く関連しており、以下の3点を達成目標とする。 西洋哲学・東洋哲学の学習に最低限必要な知識を身につけ、そのおおまかな歴史を説明することができる。(A) 学んだ哲学者の思想について、自分の言葉できちんと説明することができる。(B) 過去の哲学者の思考を追体験し、新しい問題にも対応することができる。(B)
キーワード	哲学、思想、宗教、西洋哲学、東洋哲学
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業時間内の試験：練習問題への取り組み 評価割合60%、中間評価試験 評価割合20%、最終評価試験 評価割合20%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「倫理と宗教」「論理学」と関連しています。哲学をさらに深く理解したい学生は「倫理と宗教」「論理学」を受講して下さい。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はパワーポイントを使用して講義を行う。 ・確認テストはプリントを配布し、授業内で解答・解説を行う。 ・授業時間中の私語は厳禁で、場合によっては、成績評価の対象から外すこともある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・確認テストの解答と解説を授業内に行う。 ・中間評価試験、最終評価試験の模範解答と解説は、それぞれのテスト後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	哲学 (FB200810)
英文科目名	Philosophy
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、哲学の概要を説明する。
2回	自然哲学者やソフィストたちの思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
3回	ソクラテスとプラトンの思想について説明した後、プラトンの弟子アリストテレスの思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
4回	中世という時代の特徴について説明した後、中世哲学について説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
5回	デカルトの生涯と思想について説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
6回	カントの生涯と思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
7回	ニーチェ、ハイデガーの生涯と思想について説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
8回	前半に中間評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。
9回	後半の授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、東洋哲学の概要を説明する。
10回	インド文明の誕生の経緯やヴェーダ聖典について説明した後、沙門たちの思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
11回	インドの「六派哲学」について説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
12回	古代中国の「諸子百家」と呼ばれる思想家の思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
13回	朱子学と陽明学の思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
14回	キンディーとファーラービーの思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
15回	イブン・スィナーとガザーリーの思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
16回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1回	「哲学」とはどのような学問であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
2回	自然哲学者、ソフィストとはどのような人たちであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
3回	ソクラテス、プラトン、アリストテレスとはどのような人物であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
4回	ヨーロッパの中世とはどのような時代であるのか、またその時代の哲学はどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
5回	デカルトとはどのような人物であるのか、またその代表的な著作などを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
6回	カントとはどのような人物であるのか、またその代表的な著作などを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
7回	ニーチェ、ハイデガーとはどのような人物であるのか、またその代表的な著作などを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
8回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)
9回	「東洋哲学」とは何か、「東洋哲学」とはどのような学問であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
10回	ヴェーダ聖典とはどのようなものであるのか、パラモン、沙門とはどのような人たちであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
11回	六派哲学とはどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
12回	諸子百家とはどのような者たちであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
13回	朱子学、陽明学とはどのような学問であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)

14回	イスラーム教とはどのような宗教であるのか、またキンディーとファーラービーとはどのような人物であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
15回	イブン・スィナーとガザーリーとはどのような人物であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
16回	第9回～第15回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	西洋哲学と東洋哲学の歴史をひと通り理解し、哲学を学ぶうえでの最低限の知識を身につけたうえで、新しい問題に直面した際にも、正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は4領域の項目のうちの「思考・判断・表現」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は4領域の項目のうちの「思考・判断・表現」ともっとも強く関連しており、以下の3点を達成目標とする。 西洋哲学・東洋哲学の学習に最低限必要な知識を身につけ、そのおおまかな歴史を説明することができる。(A) 学んだ哲学者の思想について、自分の言葉できちんと説明することができる。(B) 過去の哲学者の思考を追体験し、新しい問題にも対応することができる。(B)
キーワード	哲学、思想、宗教、西洋哲学、東洋哲学
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業時間内の試験：練習問題への取り組み 評価割合60%、中間評価試験 評価割合20%、最終評価試験 評価割合20%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「倫理と宗教」「論理学」と関連しています。哲学をさらに深く理解したい学生は「倫理と宗教」「論理学」を受講して下さい。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はパワーポイントを使用して講義を行う。 ・確認テストはプリントを配布し、授業内で解答・解説を行う。 ・授業時間中の私語は厳禁で、場合によっては、成績評価の対象から外すこともある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・確認テストの解答と解説を授業内に行う。 ・中間評価試験、最終評価試験の模範解答と解説は、それぞれのテスト後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	哲学 (FB200820)
英文科目名	Philosophy
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、哲学の概要を説明する。
2回	自然哲学者やソフィストたちの思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
3回	ソクラテスとプラトンの思想について説明した後、プラトンの弟子アリストテレスの思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
4回	中世という時代の特徴について説明した後、中世哲学について説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
5回	デカルトの生涯と思想について説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
6回	カントの生涯と思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
7回	ニーチェ、ハイデガーの生涯と思想について説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
8回	前半に中間評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。
9回	後半の授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、東洋哲学の概要を説明する。
10回	インド文明の誕生の経緯やヴェーダ聖典について説明した後、沙門たちの思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
11回	インドの「六派哲学」について説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
12回	古代中国の「諸子百家」と呼ばれる思想家の思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
13回	朱子学と陽明学の思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
14回	キンディーとファーラービーの思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
15回	イブン・スィナーとガザーリーの思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
16回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1回	「哲学」とはどのような学問であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
2回	自然哲学者、ソフィストとはどのような人たちであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
3回	ソクラテス、プラトン、アリストテレスとはどのような人物であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
4回	ヨーロッパの中世とはどのような時代であるのか、またその時代の哲学はどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
5回	デカルトとはどのような人物であるのか、またその代表的な著作などを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
6回	カントとはどのような人物であるのか、またその代表的な著作などを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
7回	ニーチェ、ハイデガーとはどのような人物であるのか、またその代表的な著作などを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
8回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)
9回	「東洋哲学」とは何か、「東洋哲学」とはどのような学問であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
10回	ヴェーダ聖典とはどのようなものであるのか、パラモン、沙門とはどのような人たちであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
11回	六派哲学とはどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
12回	諸子百家とはどのような者たちであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
13回	朱子学、陽明学とはどのような学問であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)

14回	イスラーム教とはどのような宗教であるのか、またキンディーとファーラービーとはどのような人物であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
15回	イブン・スィナーとガザーリーとはどのような人物であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
16回	第9回～第15回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	西洋哲学と東洋哲学の歴史をひと通り理解し、哲学を学ぶうえでの最低限の知識を身につけたうえで、新しい問題に直面した際にも、正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は4領域の項目のうちの「思考・判断・表現」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は4領域の項目のうちの「思考・判断・表現」ともっとも強く関連しており、以下の3点を達成目標とする。 西洋哲学・東洋哲学の学習に最低限必要な知識を身につけ、そのおおまかな歴史を説明することができる。(A) 学んだ哲学者の思想について、自分の言葉できちんと説明することができる。(B) 過去の哲学者の思考を追体験し、新しい問題にも対応することができる。(B)
キーワード	哲学、思想、宗教、西洋哲学、東洋哲学
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業時間内の試験：練習問題への取り組み 評価割合60%、中間評価試験 評価割合20%、最終評価試験 評価割合20%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「倫理と宗教」「論理学」と関連しています。哲学をさらに深く理解したい学生は「倫理と宗教」「論理学」を受講して下さい。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はパワーポイントを使用して講義を行う。 ・確認テストはプリントを配布し、授業内で解答・解説を行う。 ・授業時間中の私語は厳禁で、場合によっては、成績評価の対象から外すこともある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・確認テストの解答と解説を授業内に行う。 ・中間評価試験、最終評価試験の模範解答と解説は、それぞれのテスト後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	哲学 (FB200830)
英文科目名	Philosophy
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、哲学の概要を説明する。
2回	自然哲学者やソフィストたちの思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
3回	ソクラテスとプラトンの思想について説明した後、プラトンの弟子アリストテレスの思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
4回	中世という時代の特徴について説明した後、中世哲学について説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
5回	デカルトの生涯と思想について説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
6回	カントの生涯と思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
7回	ニーチェ、ハイデガーの生涯と思想について説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
8回	前半に中間評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。
9回	後半の授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、東洋哲学の概要を説明する。
10回	インド文明の誕生の経緯やヴェーダ聖典について説明した後、沙門たちの思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
11回	インドの「六派哲学」について説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
12回	古代中国の「諸子百家」と呼ばれる思想家の思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
13回	朱子学と陽明学の思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
14回	キンディーとファーラービーの思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
15回	イブン・スィナーとガザーリーの思想を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
16回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1回	「哲学」とはどのような学問であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
2回	自然哲学者、ソフィストとはどのような人たちであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
3回	ソクラテス、プラトン、アリストテレスとはどのような人物であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
4回	ヨーロッパの中世とはどのような時代であるのか、またその時代の哲学はどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
5回	デカルトとはどのような人物であるのか、またその代表的な著作などを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
6回	カントとはどのような人物であるのか、またその代表的な著作などを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
7回	ニーチェ、ハイデガーとはどのような人物であるのか、またその代表的な著作などを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
8回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)
9回	「東洋哲学」とは何か、「東洋哲学」とはどのような学問であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
10回	ヴェーダ聖典とはどのようなものであるのか、パラモン、沙門とはどのような人たちであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
11回	六派哲学とはどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
12回	諸子百家とはどのような者たちであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
13回	朱子学、陽明学とはどのような学問であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)

14回	イスラーム教とはどのような宗教であるのか、またキンディーとファーラービーとはどのような人物であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
15回	イブン・スィナーとガザーリーとはどのような人物であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
16回	第9回～第15回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	西洋哲学と東洋哲学の歴史をひと通り理解し、哲学を学ぶうえでの最低限の知識を身につけたうえで、新しい問題に直面した際にも、正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は4領域の項目のうちの「思考・判断・表現」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は4領域の項目のうちの「思考・判断・表現」ともっとも強く関連しており、以下の3点を達成目標とする。 西洋哲学・東洋哲学の学習に最低限必要な知識を身につけ、そのおおまかな歴史を説明することができる。(A) 学んだ哲学者の思想について、自分の言葉できちんと説明することができる。(B) 過去の哲学者の思考を追体験し、新しい問題にも対応することができる。(B)
キーワード	哲学、思想、宗教、西洋哲学、東洋哲学
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業時間内の試験：練習問題への取り組み 評価割合60%、中間評価試験 評価割合20%、最終評価試験 評価割合20%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「倫理と宗教」「論理学」と関連しています。哲学をさらに深く理解したい学生は「倫理と宗教」「論理学」を受講して下さい。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はパワーポイントを使用して講義を行う。 ・確認テストはプリントを配布し、授業内で解答・解説を行う。 ・授業時間中の私語は厳禁で、場合によっては、成績評価の対象から外すこともある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・確認テストの解答と解説を授業内に行う。 ・中間評価試験、最終評価試験の模範解答と解説は、それぞれのテスト後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	倫理と宗教 (FB200900)
英文科目名	Ethics and Religion
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、倫理や宗教というのがどのようなものであるのかという概要を説明する。
2回	ユダヤ教、キリスト教の倫理を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
3回	イスラーム教の倫理を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
4回	カントの倫理学を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
5回	功利主義を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
6回	徳倫理学を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
7回	動物の生命についての様々な考え方を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
8回	前半に中間評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。
9回	後半の授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、東洋の倫理や宗教というのがどのようなものであるのかという概要を説明する。
10回	バラモン教、沙門宗教の倫理を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
11回	儒教の倫理を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
12回	日本の倫理思想を通史的に説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
13回	死刑問題について説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
14回	自死問題、尊厳死・安楽死問題について説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
15回	脳死・臓器移植問題について説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
16回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1回	「倫理」とは何か、「宗教」とはどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
2回	ユダヤ教、キリスト教というのはどのような宗教であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
3回	イスラーム教とはどのような宗教であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
4回	カントというのはどのような人物であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
5回	功利主義とはどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
6回	徳倫理学とはどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
7回	動物倫理とはどのような考え方であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
8回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)
9回	東洋の「倫理」とは何か、「宗教」とはどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
10回	バラモン教、沙門宗教というのはどのような宗教であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
11回	儒教とはどのような宗教であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
12回	日本の伝統的倫理とはどのようなものかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
13回	死刑制度の問題点を、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
14回	自死、尊厳死、安楽死の問題点を、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
15回	脳死・臓器移植の問題点を、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
16回	第9回～第15回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	代表的な宗教や哲学者の思想を通じて、東西の倫理思想をひと通り理解する。そのうえで、現代の倫理的問題にも意欲・関心を示し、日常の各場面において正しく思考し、適切な判断を下すことが
------	--

	できるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」と最も強く関連しており、以下の3点を達成目標としている。 倫理や宗教の学習に最低限必要な知識を身につけ、その概要を説明することができる。(A) 学んだ倫理・宗教思想について、自分の言葉できちんと説明することができる。(B) 身のまわりの倫理的問題にも関心を示し、新しい問題にも適切に対応することができる。(B・C)
キーワード	倫理、宗教、哲学、思想、西洋哲学、東洋哲学
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	授業時間内の試験：確認テストへの取り組み 評価割合50%、中間評価試験 評価割合 25%、最終評価試験 評価割合25%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「哲学」と関連しています。倫理や宗教をさらに深く理解したい学生は「哲学」を受講して下さい。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はパワーポイントを使用して講義を行う。 ・確認テストはプリントを配布し、授業内で解答・解説を行う。 ・授業時間中の私語は厳禁で、場合によっては、成績評価の対象から外すこともある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・確認テストの解答と解説を授業内に行う。 ・最終評価試験の模範解答と解説は、各テスト後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	倫理と宗教 (FB200910)
英文科目名	Ethics and Religion
担当教員名	藤丸智雄* (ふじまるともお*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「倫理学」とは何かについて講義する。善悪が不安定なことからであることから、善悪を考えることの重要性について確認していく。キーワード：倫理学、善悪、自死
2回	善悪は、誰が決めるのかという問題を、ギリシャ神話の神々について学びながら考える。また、どのような人に惹かれるかのアンケートを元に、自由と善悪について考えていく。キーワード：自由、善悪
3回	ギリシャ哲学、特にアリストテレスの思想を題材にして、なぜ善をなすのか、善をなす意味を、善と幸福との関係から学ぶ。キーワード：ギリシャ哲学、善の動機、徳、善の定義 “幸福と善の関係”
4回	善を具体的に実践した結果を元に、善と幸福度について検証し、善の分類、幸福の分類を行う。キーワード：幸福度、善の分類、幸福の分類
5回	古代社会における「善」について考える。インド宗教についての基本的な知識を学び、バラモン教とカースト制度を題材として、古代社会における「幸福」「善」「祭祀」等の関係について考え、現代社会と古代社会との異同を考えていく。キーワード：バラモン教、カースト制度、祭祀、占い、祈祷
6回	善は結果が重要かという議論を行う。バラモン教と対比しながら仏教とジャイナ教の基礎について学習し、仏教とジャイナ教におけるアヒンサー（非暴力・不殺生）の違いを比較し、帰結主義についての理解を深めていく。キーワード：仏教、ジャイナ教、アヒンサー、帰結主義
7回	善と理性との関係について、カントの思想を通して学ぶ。理性と義務、善との関係を、「脳科学」「猿と人間の違い」なども題材にしながらかえる。キーワード：理性、脳科学、猿との違い、善の定義 “義務としての善”
8回	嘘は悪かについて考える。カントの嘘問題を題材にして、カントの義務論について学んでいく。「嘘」を題材にして、善悪の基準がどこにあるかを検討しつつ、自己愛の問題について考える。また、中間試験を行う。キーワード：嘘、定言命法、仮言命法、自己愛、善意志
9回	現代社会の基礎となっている功利主義の基本について学ぶ。ベンサム の生涯、基本的な考え方（最大多数の最大幸福、快・苦、帰結主義）とその独自性、現代社会との関係について学ぶ。キーワード：ベンサム、最大多数の最大幸福、善の定義 “善と快楽”
10回	幸福を数量で計れるのかという問題について考える。トロッコケースのジレンマ、9.11の事例を用いて、最大多数の最大幸福の修正点について学ぶ。キーワード：トロッコケース、9.11
11回	幸福を数量で計れるのかという問題について考える。GDPと幸福度との関係、幸福な国や地域はどこか、幸福度の低い場所はどこかという点から、功利主義の「最大幸福」について批判的に検証する。キーワード：GDP、幸福度調査
12回	科学技術や医療の発展がもたらす課題について考える。功利主義の歴史的背景について学び、功利主義の背景に産業革命や医療の発展があることを学ぶ。キーワード：科学技術、医療の発展
13回	ユダヤ教の歴史を学び、宗教における「善」について学ぶ。宗教的な戒律や救いと「善」を考えつつ、宗教と幸福の関係について分析する。キーワード：ユダヤ教、救い、宗教、幸福
14回	ユダヤ教の歴史を学び、宗教における「善」について学ぶ。宗教的な戒律や救いと「善」を考えつつ、宗教と幸福の関係について分析する。キーワード：ユダヤ教、救い、宗教、幸福
15回	「愛」と「善」の関係について考える。キリスト教の歴史を学び、キリスト教の特徴的な教えである「隣人愛」について「サマリア人の喩」を題材に学習する。キーワード：愛、隣人愛、キリスト教、サマリア人の喩
16回	基礎的知識の習得、倫理的思考の習熟度をはかるための最終評価試験を行い、解説を実施する。

回数	準備学習
1回	教科書の1-9ページを読むこと。（標準学習時間30分）
2回	教科書27-28ページを読むこと。（標準学習時間30分）
3回	教科書27-28ページを読むこと。（標準学習時間30分）
4回	これまでの講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）
5回	教科書の28ページを読むこと。（標準学習時間30分）
6回	前回の講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）
7回	教科書の33-38ページを読むこと。（標準学習時間30分）
8回	教科書の33-38ページを読むこと。（標準学習時間30分）
9回	教科書の28-29ページを読むこと。（標準学習時間30分）
10回	教科書の30-32ページを読むこと。（標準学習時間30分）

1 1 回	これまでの講義内容を復習すること。(標準学習時間30分)
1 2 回	これまでの講義内容を復習すること。(標準学習時間30分)
1 3 回	これまでの講義内容を復習すること。(標準学習時間30分)
1 4 回	これまでの講義内容を復習すること。(標準学習時間30分)
1 5 回	これまでの講義内容を復習すること。(標準学習時間30分)
1 6 回	講義内容全体を復習すること。(標準学習時間30分)

講義目的	代表的な宗教や哲学者の思想を通じて、東西の倫理思想をひと通り理解する。そのうえで、現代の倫理的問題にも意欲・関心を示し、日常の各場面において正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」と最も強く関連しており、以下の3点を達成目標としている。 倫理や宗教の学習に最低限必要な知識を身につけ、その概要を説明することができる。(A) 学んだ倫理・宗教思想について、自分の言葉できちんと説明することができる。(B) 身のまわりの倫理的問題にも関心を示し、新しい問題にも適切に対応することができる。(B・C)
キーワード	倫理、現代社会、自死、ギリシャ哲学、カント、自己愛、仏教、ジャイナ教、キリスト教、ベンサム、理性、脳、幸福、自由
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業時間内の試験：確認テストへの取り組み 評価割合50%、中間評価試験 評価割合 25%、最終評価試験 評価割合25%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	柘植尚則『プレップ倫理学』(弘文堂)
関連科目	哲学
参考書	
連絡先	fujimarutomoo@gmail.com
授業の運営方針	基本的に多くの学生を対象とした講義形式であるため、学生の理解度を完全に把握して講義を進めることは難しいが、講義中に行ってもらおうペーパーへの記述を確認し、学生の理解度や関心を見極めつつ講義を進めたいと考えている。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	講義内で行ってもらおう思考実験などの結果については、次回の講義にてフィードバックする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。また、講義内容の録音、板書の撮影を認めます。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	倫理と宗教 (FB200920)
英文科目名	Ethics and Religion
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、倫理や宗教というのがどのようなものであるのかという概要を説明する。
2回	ユダヤ教、キリスト教の倫理を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
3回	イスラーム教の倫理を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
4回	カントの倫理学を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
5回	功利主義を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
6回	徳倫理学を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
7回	動物の生命についての様々な考え方を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
8回	前半に中間評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。
9回	後半の授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、東洋の倫理や宗教というのがどのようなものであるのかという概要を説明する。
10回	バラモン教、沙門宗教の倫理を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
11回	儒教の倫理を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
12回	日本の倫理思想を通史的に説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
13回	死刑問題について説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
14回	自死問題、尊厳死・安楽死問題について説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
15回	脳死・臓器移植問題について説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
16回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1回	「倫理」とは何か、「宗教」とはどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
2回	ユダヤ教、キリスト教というのはどのような宗教であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
3回	イスラーム教とはどのような宗教であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
4回	カントというのはどのような人物であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
5回	功利主義とはどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
6回	徳倫理学とはどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
7回	動物倫理とはどのような考え方であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
8回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)
9回	東洋の「倫理」とは何か、「宗教」とはどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
10回	バラモン教、沙門宗教というのはどのような宗教であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
11回	儒教とはどのような宗教であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
12回	日本の伝統的倫理とはどのようなものかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
13回	死刑制度の問題点を、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
14回	自死、尊厳死、安楽死の問題点を、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
15回	脳死・臓器移植の問題点を、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
16回	第9回～第15回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	代表的な宗教や哲学者の思想を通じて、東西の倫理思想をひと通り理解する。そのうえで、現代の倫理的問題にも意欲・関心を示し、日常の各場面において正しく思考し、適切な判断を下すことが
------	--

	できるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」と最も強く関連しており、以下の3点を達成目標としている。 倫理や宗教の学習に最低限必要な知識を身につけ、その概要を説明することができる。(A) 学んだ倫理・宗教思想について、自分の言葉できちんと説明することができる。(B) 身のまわりの倫理的問題にも関心を示し、新しい問題にも適切に対応することができる。(B・C)
キーワード	倫理、宗教、哲学、思想、西洋哲学、東洋哲学
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業時間内の試験：確認テストへの取り組み 評価割合50%、中間評価試験 評価割合 25%、最終評価試験 評価割合25%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「哲学」と関連しています。倫理や宗教をさらに深く理解したい学生は「哲学」を受講して下さい。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はパワーポイントを使用して講義を行う。 ・確認テストはプリントを配布し、授業内で解答・解説を行う。 ・授業時間中の私語は厳禁で、場合によっては、成績評価の対象から外すこともある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・確認テストの解答と解説を授業内に行う。 ・最終評価試験の模範解答と解説は、各テスト後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	倫理と宗教 (FB200930)
英文科目名	Ethics and Religion
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、倫理や宗教というのがどのようなものであるのかという概要を説明する。
2回	ユダヤ教、キリスト教の倫理を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
3回	イスラーム教の倫理を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
4回	カントの倫理を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
5回	功利主義を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
6回	徳倫理を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
7回	動物の生命についての様々な考え方を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
8回	前半に中間評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。
9回	後半の授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、東洋の倫理や宗教というのがどのようなものであるのかという概要を説明する。
10回	バラモン教、沙門宗教の倫理を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
11回	儒教の倫理を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
12回	日本の倫理思想を通史的に説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
13回	死刑問題について説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
14回	自死問題、尊厳死・安楽死問題について説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
15回	脳死・臓器移植問題について説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
16回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1回	「倫理」とは何か、「宗教」とはどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
2回	ユダヤ教、キリスト教というのはどのような宗教であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
3回	イスラーム教とはどのような宗教であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
4回	カントというのはどのような人物であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
5回	功利主義とはどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
6回	徳倫理とはどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
7回	動物倫理とはどのような考え方であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
8回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)
9回	東洋の「倫理」とは何か、「宗教」とはどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
10回	バラモン教、沙門宗教というのはどのような宗教であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
11回	儒教とはどのような宗教であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
12回	日本の伝統的倫理とはどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
13回	死刑制度の問題点を、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
14回	自死、尊厳死、安楽死の問題点を、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
15回	脳死・臓器移植の問題点を、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
16回	第9回～第15回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	代表的な宗教や哲学者の思想を通じて、東西の倫理思想をひと通り理解する。そのうえで、現代の倫理的問題にも意欲・関心を示し、日常の各場面において正しく思考し、適切な判断を下すことが
------	--

	できるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」と最も強く関連しており、以下の3点を達成目標としている。 倫理や宗教の学習に最低限必要な知識を身につけ、その概要を説明することができる。(A) 学んだ倫理・宗教思想について、自分の言葉できちんと説明することができる。(B) 身のまわりの倫理的問題にも関心を示し、新しい問題にも適切に対応することができる。(B・C)
キーワード	倫理、宗教、哲学、思想、西洋哲学、東洋哲学
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	授業時間内の試験：確認テストへの取り組み 評価割合50%、中間評価試験 評価割合 25%、最終評価試験 評価割合25%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「哲学」と関連しています。倫理や宗教をさらに深く理解したい学生は「哲学」を受講して下さい。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はパワーポイントを使用して講義を行う。 ・確認テストはプリントを配布し、授業内で解答・解説を行う。 ・授業時間中の私語は厳禁で、場合によっては、成績評価の対象から外すこともある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・確認テストの解答と解説を授業内に行う。 ・最終評価試験の模範解答と解説は、各テスト後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	倫理と宗教 (FB200940)
英文科目名	Ethics and Religion
担当教員名	藤丸智雄* (ふじまるともお*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「倫理学」とは何かについて講義する。善悪が不安定なことからであることから、善悪を考えることの重要性について確認していく。キーワード：倫理学、善悪、自死
2回	善悪は、誰が決めるのかという問題を、ギリシャ神話の神々について学びながら考える。また、どのような人に惹かれるかのアンケートを元に、自由と善悪について考えていく。キーワード：自由、善悪
3回	ギリシャ哲学、特にアリストテレスの思想を題材にして、なぜ善をなすのか、善をなす意味を、善と幸福との関係から学ぶ。キーワード：ギリシャ哲学、善の動機、徳、善の定義 “幸福と善の関係”
4回	善を具体的に実践した結果を元に、善と幸福度について検証し、善の分類、幸福の分類を行う。キーワード：幸福度、善の分類、幸福の分類
5回	古代社会における「善」について考える。インド宗教についての基本的な知識を学び、バラモン教とカースト制度を題材として、古代社会における「幸福」「善」「祭祀」等の関係について考え、現代社会と古代社会との異同を考えていく。キーワード：バラモン教、カースト制度、祭祀、占い、祈祷
6回	善は結果が重要かという議論を行う。バラモン教と対比しながら仏教とジャイナ教の基礎について学習し、仏教とジャイナ教におけるアヒンサー（非暴力・不殺生）の違いを比較し、帰結主義についての理解を深めていく。キーワード：仏教、ジャイナ教、アヒンサー、帰結主義
7回	善と理性との関係について、カントの思想を通して学ぶ。理性と義務、善との関係を、「脳科学」「猿と人間の違い」なども題材にしながらかえる。キーワード：理性、脳科学、猿との違い、善の定義 “義務としての善”
8回	嘘は悪かについて考える。カントの嘘問題を題材にして、カントの義務論について学んでいく。「嘘」を題材にして、善悪の基準がどこにあるかを検討しつつ、自己愛の問題について考える。また、中間試験を行う。キーワード：嘘、定言命法、仮言命法、自己愛、善意志
9回	現代社会の基礎となっている功利主義の基本について学ぶ。ベンサム の生涯、基本的な考え方（最大多数の最大幸福、快・苦、帰結主義）とその独自性、現代社会との関係について学ぶ。キーワード：ベンサム、最大多数の最大幸福、善の定義 “善と快楽”
10回	幸福を数量で計れるのかという問題について考える。トロッコケースのジレンマ、9.11の事例を用いて、最大多数の最大幸福の修正点について学ぶ。キーワード：トロッコケース、9.11
11回	幸福を数量で計れるのかという問題について考える。GDPと幸福度との関係、幸福な国や地域はどこか、幸福度の低い場所はどこかという点から、功利主義の「最大幸福」について批判的に検証する。キーワード：GDP、幸福度調査
12回	科学技術や医療の発展がもたらす課題について考える。功利主義の歴史的背景について学び、功利主義の背景に産業革命や医療の発展があることを学ぶ。キーワード：科学技術、医療の発展
13回	ユダヤ教の歴史を学び、宗教における「善」について学ぶ。宗教的な戒律や救いと「善」を考えつつ、宗教と幸福の関係について分析する。キーワード：ユダヤ教、救い、宗教、幸福
14回	ユダヤ教の歴史を学び、宗教における「善」について学ぶ。宗教的な戒律や救いと「善」を考えつつ、宗教と幸福の関係について分析する。キーワード：ユダヤ教、救い、宗教、幸福
15回	「愛」と「善」の関係について考える。キリスト教の歴史を学び、キリスト教の特徴的な教えである「隣人愛」について「サマリア人の喩」を題材に学習する。キーワード：愛、隣人愛、キリスト教、サマリア人の喩
16回	基礎的知識の習得、倫理的思考の習熟度をはかるための最終評価試験を行い、解説を実施する。

回数	準備学習
1回	教科書の1-9ページを読むこと。（標準学習時間30分）
2回	教科書27-28ページを読むこと。（標準学習時間30分）
3回	教科書27-28ページを読むこと。（標準学習時間30分）
4回	これまでの講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）
5回	教科書の28ページを読むこと。（標準学習時間30分）
6回	前回の講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）
7回	教科書の33-38ページを読むこと。（標準学習時間30分）
8回	教科書の33-38ページを読むこと。（標準学習時間30分）
9回	教科書の28-29ページを読むこと。（標準学習時間30分）
10回	教科書の30-32ページを読むこと。（標準学習時間30分）

1 1 回	これまでの講義内容を復習すること。(標準学習時間30分)
1 2 回	これまでの講義内容を復習すること。(標準学習時間30分)
1 3 回	これまでの講義内容を復習すること。(標準学習時間30分)
1 4 回	これまでの講義内容を復習すること。(標準学習時間30分)
1 5 回	これまでの講義内容を復習すること。(標準学習時間30分)
1 6 回	講義内容全体を復習すること。(標準学習時間30分)

講義目的	代表的な宗教や哲学者の思想を通じて、東西の倫理思想をひと通り理解する。そのうえで、現代の倫理的問題にも意欲・関心を示し、日常の各場面において正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」と最も強く関連しており、以下の3点を達成目標としている。 倫理や宗教の学習に最低限必要な知識を身につけ、その概要を説明することができる。(A) 学んだ倫理・宗教思想について、自分の言葉できちんと説明することができる。(B) 身のまわりの倫理的問題にも関心を示し、新しい問題にも適切に対応することができる。(B・C)
キーワード	倫理、現代社会、自死、ギリシャ哲学、カント、自己愛、仏教、ジャイナ教、キリスト教、ベンサム、理性、脳、幸福、自由
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業時間内の試験：確認テストへの取り組み 評価割合50%、中間評価試験 評価割合 25%、最終評価試験 評価割合25%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	柘植尚則『プレップ倫理学』(弘文堂)
関連科目	哲学
参考書	
連絡先	fujimarutomoo@gmail.com
授業の運営方針	基本的に多くの学生を対象とした講義形式であるため、学生の理解度を完全に把握して講義を進めることは難しいが、講義中に行ってもらおうペーパーへの記述を確認し、学生の理解度や関心を見極めつつ講義を進めたいと考えている。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	講義内で行ってもらおう思考実験などの結果については、次回の講義にてフィードバックする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。また、講義内容の録音、板書の撮影を認めます。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	倫理と宗教 (FB200950)
英文科目名	Ethics and Religion
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、倫理や宗教というのがどのようなものであるのかという概要を説明する。
2回	ユダヤ教、キリスト教の倫理を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
3回	イスラーム教の倫理を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
4回	カントの倫理学を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
5回	功利主義を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
6回	徳倫理学を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
7回	動物の生命についての様々な考え方を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
8回	前半に中間評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。
9回	後半の授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、東洋の倫理や宗教というのがどのようなものであるのかという概要を説明する。
10回	バラモン教、沙門宗教の倫理を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
11回	儒教の倫理を説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
12回	日本の倫理思想を通史的に説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
13回	死刑問題について説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
14回	自死問題、尊厳死・安楽死問題について説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
15回	脳死・臓器移植問題について説明する。そのうえで、理解度をチェックするための確認テストを解く。
16回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1回	「倫理」とは何か、「宗教」とはどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
2回	ユダヤ教、キリスト教というのはどのような宗教であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
3回	イスラーム教とはどのような宗教であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
4回	カントというのはどのような人物であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
5回	功利主義とはどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
6回	徳倫理学とはどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
7回	動物倫理とはどのような考え方であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
8回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)
9回	東洋の「倫理」とは何か、「宗教」とはどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
10回	バラモン教、沙門宗教というのはどのような宗教であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
11回	儒教とはどのような宗教であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
12回	日本の伝統的倫理とはどのようなものかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
13回	死刑制度の問題点を、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
14回	自死、尊厳死、安楽死の問題点を、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
15回	脳死・臓器移植の問題点を、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
16回	第9回～第15回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)

講義目的	代表的な宗教や哲学者の思想を通じて、東西の倫理思想をひと通り理解する。そのうえで、現代の倫理的問題にも意欲・関心を示し、日常の各場面において正しく思考し、適切な判断を下すことが
------	--

	できるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」と最も強く関連しており、以下の3点を達成目標としている。 倫理や宗教の学習に最低限必要な知識を身につけ、その概要を説明することができる。(A) 学んだ倫理・宗教思想について、自分の言葉できちんと説明することができる。(B) 身のまわりの倫理的問題にも関心を示し、新しい問題にも適切に対応することができる。(B・C)
キーワード	倫理、宗教、哲学、思想、西洋哲学、東洋哲学
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	授業時間内の試験：確認テストへの取り組み 評価割合50%、中間評価試験 評価割合25%、最終評価試験 評価割合25%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「哲学」と関連しています。倫理や宗教をさらに深く理解したい学生は「哲学」を受講して下さい。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はパワーポイントを使用して講義を行う。 ・確認テストはプリントを配布し、授業内で解答・解説を行う。 ・授業時間中の私語は厳禁で、場合によっては、成績評価の対象から外すこともある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・確認テストの解答と解説を授業内に行う。 ・最終評価試験の模範解答と解説は、各テスト後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	心理学 (FB201000)
英文科目名	Psychology
担当教員名	鉄川大健* (てつかわひろかつ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	学問としての心理学について知識を深め、心理学の歴史について概説する
2回	知覚心理学 : 視覚を中心に、感覚・知覚のメカニズムについて視覚体験の中で学ぶ
3回	知覚心理学 : 視覚以外の感覚・知覚について理解を深める
4回	認知心理学 : 自由再生実験を通して、記憶のメカニズムについて学ぶ
5回	学習心理学 : 条件づけの実験を紹介し、学習について学ぶ
6回	社会心理学 : 身近な対人関係について学び、日常生活に活かす
7回	社会心理学 : 集団における心の働きについて学ぶ
8回	知覚、記憶、学習、社会心理について学んだことを復習し、中間評価試験を実施する
9回	パーソナリティ心理学 : 心理検査を基に自分の性格について考え、自己理解を進める
10回	発達心理学 : 発達の理論を概説し、人の心の発達について考える
11回	発達心理学 : 母子間の愛着の理論を概説し、対人関係を読み解く
12回	感情心理学 : 人の感情や欲求の生起メカニズムについて学ぶ
13回	健康心理学 : ストレスについて学び、人のメンタルヘルスについて考える
14回	臨床心理学 : 心理的な疾患・障害や心理療法について概説し、心理的な多様性について理解を深める
15回	臨床心理学 : 臨床心理学の現場について知り、自分自身の将来に役立てる
16回	性格、発達、感情、健康、臨床心理について学んだことを復習し、最終評価試験を実施する

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、講義過程と講義内容を把握しておくこと(30分)
2回	前回の講義内容の復習に加え、ヒトがどのような情報を環境から得ているのかを考えてみること(120分)
3回	前回の講義内容の復習に加え、身近な錯覚の例を探してみること(120分)
4回	前回の講義内容の復習に加え、自分自身が行っている記憶方法について考えておくこと(120分)
5回	前回の講義内容の復習に加え、学習とは何かについて考えておくこと(120分)
6回	前回の講義内容の復習に加え、友人との関係がどのように築かれてきたかを振り返っておくこと(120分)
7回	前回の講義内容の復習に加え、自分自身が所属する集団について考えてきておくこと(120分)
8回	これまでの講義内容を振り返り、中間評価試験に備えておくこと(180分)
9回	これまでの講義内容を復習し、自分自身について知っていることを整理しておくこと(120分)
10回	前回の授業内容の復習に加え、自分自身がこれまでどのように発達してきたかを振り返っておくこと(120分)
11回	前回の授業内容の復習に加え、これまでに形成してきた親子関係について振り返っておくこと(120分)
12回	前回の授業内容の復習に加え、自分自身が感じる感情の種類について考えておくこと(120分)
13回	前回の授業内容の復習に加え、ストレスをどのように感じ、それにどのように対処しているのかを考えておくこと(120分)
14回	前回の授業内容の復習に加え、既知の心理的な疾患や障害について理解を深めておくこと(120分)
15回	前回の授業内容の復習に加え、心理学の現場についての疑問を明らかにし、整理しておくこと(120分)
16回	これまでの講義内容を振り返り、最終評価試験に備えておくこと(180分)

講義目的	心理学の基礎である感覚、知覚、記憶、パーソナリティなどの領域からスタートし、応用である健康、臨床などの領域にわたる、人の心に関わる様々な問題を科学的に扱う方法を理解し、身に着けることを目的とする。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	心理学の基礎～応用領域について理解を深め、人の心についての科学的な研究方法を知ること、日常経験を通して得られた自らの問題意識との関連を考察し、それらを文章で説明できるようになることを目標とする。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	知覚、記憶、学習、社会、パーソナリティ、発達、感情、健康、臨床
試験実施	実施する

成績評価（合格基準60点）	各講義におけるシャトルカードへのレポート回答とその提出（35%） 講義内容の理解についての中間試験及び最終評価試験（65%） 上記の2つによって、総合的に成績を評価する。
教科書	「心理学・臨床心理学概論【第三版】」 / 山脇圭輔 / 北樹出版 / ISBN:978-4-7793-0462-0
関連科目	教育心理学、社会心理学
参考書	適宜紹介する
連絡先	htetsukawa.kougi@gmail.com
授業の運営方針	授業の構成は「（講義開始までに）シャトルカードの返却」「講義の実施」「講義についての小レポートへの回答」の順に行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験に対するフィードバックは、最終評価試験実施後に行うものとする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 また、本講義教員は臨床心理士の資格を有しているため、上記以外にも合理的配慮が必要な学生がいる場合は、個別に対応することが可能です。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	心理学 (FB201010)
英文科目名	Psychology
担当教員名	鉄川大健* (てつかわひろかつ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	学問としての心理学について知識を深め、心理学の歴史について概説する
2回	知覚心理学 : 視覚を中心に、感覚・知覚のメカニズムについて視覚体験の中で学ぶ
3回	知覚心理学 : 視覚以外の感覚・知覚について理解を深める
4回	認知心理学 : 自由再生実験を通して、記憶のメカニズムについて学ぶ
5回	学習心理学 : 条件づけの実験を紹介し、学習について学ぶ
6回	社会心理学 : 身近な対人関係について学び、日常生活に活かす
7回	社会心理学 : 集団における心の働きについて学ぶ
8回	知覚、記憶、学習、社会心理について学んだことを復習し、中間評価試験を実施する
9回	パーソナリティ心理学 : 心理検査を基に自分の性格について考え、自己理解を進める
10回	発達心理学 : 発達の理論を概説し、人の心の発達について考える
11回	発達心理学 : 母子間の愛着の理論を概説し、対人関係を読み解く
12回	感情心理学 : 人の感情や欲求の生起メカニズムについて学ぶ
13回	健康心理学 : ストレスについて学び、人のメンタルヘルスについて考える
14回	臨床心理学 : 心理的な疾患・障害や心理療法について概説し、心理的な多様性について理解を深める
15回	臨床心理学 : 臨床心理学の現場について知り、自分自身の将来に役立てる
16回	性格、発達、感情、健康、臨床心理について学んだことを復習し、最終評価試験を実施する

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、講義過程と講義内容を把握しておくこと (30分)
2回	前回の講義内容の復習に加え、ヒトがどのような情報を環境から得ているのかを考えてみること (120分)
3回	前回の講義内容の復習に加え、身近な錯覚の例を探してみること (120分)
4回	前回の講義内容の復習に加え、自分自身が行っている記憶方法について考えておくこと (120分)
5回	前回の講義内容の復習に加え、学習とは何かについて考えておくこと (120分)
6回	前回の講義内容の復習に加え、友人との関係がどのように築かれてきたかを振り返っておくこと (120分)
7回	前回の講義内容の復習に加え、自分自身が所属する集団について考えてきておくこと (120分)
8回	これまでの講義内容を振り返り、中間評価試験に備えておくこと (180分)
9回	これまでの講義内容を復習し、自分自身について知っていることを整理しておくこと (120分)
10回	前回の授業内容の復習に加え、自分自身がこれまでどのように発達してきたかを振り返っておくこと (120分)
11回	前回の授業内容の復習に加え、これまでに形成してきた親子関係について振り返っておくこと (120分)
12回	前回の授業内容の復習に加え、自分自身が感じる感情の種類について考えておくこと (120分)
13回	前回の授業内容の復習に加え、ストレスをどのように感じ、それにどのように対処しているのかを考えておくこと (120分)
14回	前回の授業内容の復習に加え、既知の心理的な疾患や障害について理解を深めておくこと (120分)
15回	前回の授業内容の復習に加え、心理学の現場についての疑問を明らかにし、整理しておくこと (120分)
16回	これまでの講義内容を振り返り、最終評価試験に備えておくこと (180分)

講義目的	心理学の基礎である感覚、知覚、記憶、パーソナリティなどの領域からスタートし、応用である健康、臨床などの領域にわたる、人の心に関わる様々な問題を科学的に扱う方法を理解し、身に着けることを目的とする。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	心理学の基礎～応用領域について理解を深め、人の心についての科学的な研究方法を知ること、日常経験を通して得られた自らの問題意識との関連を考察し、それらを文章で説明できるようになることを目標とする。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	知覚、記憶、学習、社会、パーソナリティ、発達、感情、健康、臨床
試験実施	実施する

成績評価（合格基準60点）	各講義におけるシャトルカードへのレポート回答とその提出（35%） 講義内容の理解についての中間試験及び最終評価試験（65%） 上記の2つによって、総合的に成績を評価する。
教科書	「心理学・臨床心理学概論【第三版】」 / 山脇圭輔 / 北樹出版 / ISBN:978-4-7793-0462-0
関連科目	教育心理学、社会心理学
参考書	適宜紹介する
連絡先	htetsukawa.kougi@gmail.com
授業の運営方針	授業の構成は「（講義開始までに）シャトルカードの返却」「講義の実施」「講義についての小レポートへの回答」の順に行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験に対するフィードバックは、最終評価試験実施後に行うものとする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 また、本講義教員は臨床心理士の資格を有しているため、上記以外にも合理的配慮が必要な学生がいる場合は、個別に対応することが可能です。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	心理学 (FB201020)
英文科目名	Psychology
担当教員名	松浦美晴* (まつうらみはる*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業の概要と、「心理学の歴史」について説明する。
2回	「科学としての心理学」について説明する。
3回	「知覚のはたらき」について説明する。
4回	「記憶と学習のメカニズム」について説明する。
5回	「人間の空間行動」について説明する。
6回	「パーソナリティと発達」について説明する。
7回	「心の健康」について説明する。
8回	「心の危機」について説明し、中間試験を実施する。
9回	授業の概要と、「情動と動機づけ」について説明する。
10回	「対人認知・対人魅力と態度変容」について説明する。
11回	「援助行動・攻撃行動」について説明する。
12回	「集団と個人」について説明する。
13回	「リーダーシップと集団間葛藤」について説明する。
14回	「人間のコミュニケーション行動」について説明する。
15回	「情報と人間行動」について説明する。
16回	「情報化社会での人間行動の変化」について説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んで、学習の過程を把握しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	教科書の目次と、第1章に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	教科書第2章に目を通し、p.14の「演習」を行ってくること。(標準学習時間120分)
4回	教科書第3章に目を通し、「演習」p.25「課題2」を行ってくること。(標準学習時間120分)
5回	教科書第4章に目を通し、p.38の「演習」を行ってくること。(標準学習時間120分)
6回	教科書第5章に目を通し、「演習」p.49「課題3」を行ってくること。(標準学習時間120分)
7回	教科書第6章に目を通し、「演習」p.63「課題1」、p.65「課題3」を行ってくること。(標準学習時間120分)
8回	これまでの内容を見直して、整理しておくこと。(標準学習時間180分)
9回	シラバスを読んで、学習の過程を把握しておくこと。(標準学習時間60分)
10回	教科書第7章のp.69~76に目を通し、「演習」p.81「課題1」を行ってくること。(標準学習時間120分)
11回	教科書第7章のp.77~80に目を通し、「演習」p.83「課題3」を行ってくること。(標準学習時間120分)
12回	教科書第8章のp.85~89に目を通し、「演習」p.95「課題2」を行ってくること。(標準学習時間120分)
13回	教科書第8章のp.89~92に目を通し、「演習」p.96「課題3」を行ってくること。(標準学習時間120分)
14回	教科書第9章に目を通し、「演習」p.107「課題2」を行ってくること。(標準学習時間120分)
15回	教科書第10章に目を通して行くこと。(標準学習時間60分)
16回	これまでの内容を見直して、整理しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	人間の心と行動の仕組みを研究する学問である心理学について概説し、体系的な理論を学ばせる。心理学の基本的な知識についての理解を深めさせ、よりよい人間性の育成を目指す。4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	1) 心理学における人間の心と行動のとらえかたを理解する。 2) 体系的な理論と関連のトピックについて知識を得る。 3) 心理学の理論と、日常の具体的な人間行動との関連を理解する。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	こころの理解、知覚、認知、学習、パーソナリティ、感情、集団、社会行動
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60)	達成目標1)~3)の達成度を評価する中間試験(50%)と最終評価試験(50%)を行う。

点)	
教科書	生活にいかす心理学ver.2 / 古城和子 (編著) / ナカニシヤ出版 / 4888487057
関連科目	特に指定はない。
参考書	授業中に適宜指示する。
連絡先	山陽学園大学 TEL : 086-272-6254 (代表)
授業の運営方針	教科書を用いて行う。 教科書中の重要事項やキーワードについて解説するために、パワーポイントによる提示資料を用いる。 提示資料中では、理解を深めるために必要な補足事項について、教科書に記載されていない内容も扱う。 提示資料、配布資料を教員の指定するウェブサイトアップロードするので、授業の復習に利用してほしい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験について、個別に資料を基に説明を行います。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他 (注意・備考)	

科目名	心理学 (FB201030)
英文科目名	Psychology
担当教員名	鉄川大健* (てつかわひろかつ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	学問としての心理学について知識を深め、心理学の歴史について概説する
2回	知覚心理学：視覚を中心に、感覚・知覚のメカニズムについて視覚体験の中で学ぶ
3回	知覚心理学：視覚以外の感覚・知覚について理解を深める
4回	認知心理学：自由再生実験を通して、記憶のメカニズムについて学ぶ
5回	学習心理学：条件づけの実験を紹介し、学習について学ぶ
6回	社会心理学：身近な対人関係について学び、日常生活に活かす
7回	社会心理学：集団における心の働きについて学ぶ
8回	知覚、記憶、学習、社会心理について学んだことを復習し、中間評価試験を実施する
9回	パーソナリティ心理学：心理検査を基に自分の性格について考え、自己理解を進める
10回	発達心理学：発達の理論を概説し、人の心の発達について考える
11回	発達心理学：母子間の愛着の理論を概説し、対人関係を読み解く
12回	感情心理学：人の感情や欲求の生起メカニズムについて学ぶ
13回	健康心理学：ストレスについて学び、人のメンタルヘルスについて考える
14回	臨床心理学：心理的な疾患・障害や心理療法について概説し、心理的な多様性について理解を深める
15回	臨床心理学：臨床心理学の現場について知り、自分自身の将来に役立てる
16回	性格、発達、感情、健康、臨床心理について学んだことを復習し、最終評価試験を実施する

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、講義過程と講義内容を把握しておくこと(30分)
2回	前回の講義内容の復習に加え、ヒトがどのような情報を環境から得ているのかを考えてみること(120分)
3回	前回の講義内容の復習に加え、身近な錯覚の例を探してみること(120分)
4回	前回の講義内容の復習に加え、自分自身が行っている記憶方法について考えておくこと(120分)
5回	前回の講義内容の復習に加え、学習とは何かについて考えておくこと(120分)
6回	前回の講義内容の復習に加え、友人との関係がどのように築かれてきたかを振り返っておくこと(120分)
7回	前回の講義内容の復習に加え、自分自身が所属する集団について考えてきておくこと(120分)
8回	これまでの講義内容を振り返り、中間評価試験に備えておくこと(180分)
9回	これまでの講義内容を復習し、自分自身について知っていることを整理しておくこと(120分)
10回	前回の授業内容の復習に加え、自分自身がこれまでどのように発達してきたかを振り返っておくこと(120分)
11回	前回の授業内容の復習に加え、これまでに形成してきた親子関係について振り返っておくこと(120分)
12回	前回の授業内容の復習に加え、自分自身が感じる感情の種類について考えておくこと(120分)
13回	前回の授業内容の復習に加え、ストレスをどのように感じ、それにどのように対処しているのかを考えておくこと(120分)
14回	前回の授業内容の復習に加え、既知の心理的な疾患や障害について理解を深めておくこと(120分)
15回	前回の授業内容の復習に加え、心理学の現場についての疑問を明らかにし、整理しておくこと(120分)
16回	これまでの講義内容を振り返り、最終評価試験に備えておくこと(180分)

講義目的	心理学の基礎である感覚、知覚、記憶、パーソナリティなどの領域からスタートし、応用である健康、臨床などの領域にわたる、人の心に関わる様々な問題を科学的に扱う方法を理解し、身に着けることを目的とする。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	心理学の基礎～応用領域について理解を深め、人の心についての科学的な研究方法を知ることで、日常経験を通して得られた自らの問題意識との関連を考察し、それらを文章で説明できるようになることを目標とする。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	知覚、記憶、学習、社会、パーソナリティ、発達、感情、健康、臨床
試験実施	実施する

成績評価（合格基準60点）	各講義におけるシャトルカードへのレポート回答とその提出（35%） 講義内容の理解についての中間試験及び最終評価試験（65%） 上記の2つによって、総合的に成績を評価する。
教科書	「心理学・臨床心理学概論【第三版】」 / 山脇圭輔 / 北樹出版 / ISBN:978-4-7793-0462-0
関連科目	教育心理学、社会心理学
参考書	適宜紹介する
連絡先	htetsukawa.kougi@gmail.com
授業の運営方針	授業の構成は「（講義開始までに）シャトルカードの返却」「講義の実施」「講義についての小レポートへの回答」の順に行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験に対するフィードバックは、最終評価試験実施後に行うものとする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 また、本講義教員は臨床心理士の資格を有しているため、上記以外にも合理的配慮が必要な学生がいる場合は、個別に対応することが可能です。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	心理学 (FB201040)
英文科目名	Psychology
担当教員名	鉄川大健* (てつかわひろかつ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	学問としての心理学について知識を深め、心理学の歴史について概説する
2回	知覚心理学 : 視覚を中心に、感覚・知覚のメカニズムについて視覚体験の中で学ぶ
3回	知覚心理学 : 視覚以外の感覚・知覚について理解を深める
4回	認知心理学 : 自由再生実験を通して、記憶のメカニズムについて学ぶ
5回	学習心理学 : 条件づけの実験を紹介し、学習について学ぶ
6回	社会心理学 : 身近な対人関係について学び、日常生活に活かす
7回	社会心理学 : 集団における心の働きについて学ぶ
8回	知覚、記憶、学習、社会心理について学んだことを復習し、中間評価試験を実施する
9回	パーソナリティ心理学 : 心理検査を基に自分の性格について考え、自己理解を進める
10回	発達心理学 : 発達の理論を概説し、人の心の発達について考える
11回	発達心理学 : 母子間の愛着の理論を概説し、対人関係を読み解く
12回	感情心理学 : 人の感情や欲求の生起メカニズムについて学ぶ
13回	健康心理学 : ストレスについて学び、人のメンタルヘルスについて考える
14回	臨床心理学 : 心理的な疾患・障害や心理療法について概説し、心理的な多様性について理解を深める
15回	臨床心理学 : 臨床心理学の現場について知り、自分自身の将来に役立てる
16回	性格、発達、感情、健康、臨床心理について学んだことを復習し、最終評価試験を実施する

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、講義過程と講義内容を把握しておくこと (30分)
2回	前回の講義内容の復習に加え、ヒトがどのような情報を環境から得ているのかを考えてみること (120分)
3回	前回の講義内容の復習に加え、身近な錯覚の例を探してみること (120分)
4回	前回の講義内容の復習に加え、自分自身が行っている記憶方法について考えておくこと (120分)
5回	前回の講義内容の復習に加え、学習とは何かについて考えておくこと (120分)
6回	前回の講義内容の復習に加え、友人との関係がどのように築かれてきたかを振り返っておくこと (120分)
7回	前回の講義内容の復習に加え、自分自身が所属する集団について考えてきておくこと (120分)
8回	これまでの講義内容を振り返り、中間評価試験に備えておくこと (180分)
9回	これまでの講義内容を復習し、自分自身について知っていることを整理しておくこと (120分)
10回	前回の授業内容の復習に加え、自分自身がこれまでどのように発達してきたかを振り返っておくこと (120分)
11回	前回の授業内容の復習に加え、これまでに形成してきた親子関係について振り返っておくこと (120分)
12回	前回の授業内容の復習に加え、自分自身が感じる感情の種類について考えておくこと (120分)
13回	前回の授業内容の復習に加え、ストレスをどのように感じ、それにどのように対処しているのかを考えておくこと (120分)
14回	前回の授業内容の復習に加え、既知の心理的な疾患や障害について理解を深めておくこと (120分)
15回	前回の授業内容の復習に加え、心理学の現場についての疑問を明らかにし、整理しておくこと (120分)
16回	これまでの講義内容を振り返り、最終評価試験に備えておくこと (180分)

講義目的	心理学の基礎である感覚、知覚、記憶、パーソナリティなどの領域からスタートし、応用である健康、臨床などの領域にわたる、人の心に関わる様々な問題を科学的に扱う方法を理解し、身に着けることを目的とする。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	心理学の基礎～応用領域について理解を深め、人の心についての科学的な研究方法を知ることで、日常経験を通して得られた自らの問題意識との関連を考察し、それらを文章で説明できるようになることを目標とする。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	知覚、記憶、学習、社会、パーソナリティ、発達、感情、健康、臨床
試験実施	実施する

成績評価（合格基準60点）	各講義におけるシャトルカードへのレポート回答とその提出（35%） 講義内容の理解についての中間試験及び最終評価試験（65%） 上記の2つによって、総合的に成績を評価する。
教科書	「心理学・臨床心理学概論【第三版】」 / 山脇圭輔 / 北樹出版 / ISBN:978-4-7793-0462-0
関連科目	教育心理学、社会心理学
参考書	適宜紹介する
連絡先	htetsukawa.kougi@gmail.com
授業の運営方針	授業の構成は「（講義開始までに）シャトルカードの返却」「講義の実施」「講義についての小レポートへの回答」の順に行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験に対するフィードバックは、最終評価試験実施後に行うものとする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 また、本講義教員は臨床心理士の資格を有しているため、上記以外にも合理的配慮が必要な学生がいる場合は、個別に対応することが可能です。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	心理学 (FB201050)
英文科目名	Psychology
担当教員名	松浦美晴* (まつうらみはる*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業の概要と、「心理学の歴史」について説明する。
2回	「科学としての心理学」について説明する。
3回	「知覚のはたらき」について説明する。
4回	「記憶と学習のメカニズム」について説明する。
5回	「人間の空間行動」について説明する。
6回	「パーソナリティと発達」について説明する。
7回	「心の健康」について説明する。
8回	「心の危機」について説明し、中間試験を実施する。
9回	授業の概要と、「情動と動機づけ」について説明する。
10回	「対人認知・対人魅力と態度変容」について説明する。
11回	「援助行動・攻撃行動」について説明する。
12回	「集団と個人」について説明する。
13回	「リーダーシップと集団間葛藤」について説明する。
14回	「人間のコミュニケーション行動」について説明する。
15回	「情報と人間行動」について説明する。
16回	「情報化社会での人間行動の変化」について説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んで、学習の過程を把握しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	教科書の目次と、第1章に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	教科書第2章に目を通し、p.14の「演習」を行ってくること。(標準学習時間120分)
4回	教科書第3章に目を通し、「演習」p.25「課題2」を行ってくること。(標準学習時間120分)
5回	教科書第4章に目を通し、p.38の「演習」を行ってくること。(標準学習時間120分)
6回	教科書第5章に目を通し、「演習」p.49「課題3」を行ってくること。(標準学習時間120分)
7回	教科書第6章に目を通し、「演習」p.63「課題1」、p.65「課題3」を行ってくること。(標準学習時間120分)
8回	これまでの内容を見直して、整理しておくこと。(標準学習時間180分)
9回	シラバスを読んで、学習の過程を把握しておくこと。(標準学習時間60分)
10回	教科書第7章のp.69~76に目を通し、「演習」p.81「課題1」を行ってくること。(標準学習時間120分)
11回	教科書第7章のp.77~80に目を通し、「演習」p.83「課題3」を行ってくること。(標準学習時間120分)
12回	教科書第8章のp.85~89に目を通し、「演習」p.95「課題2」を行ってくること。(標準学習時間120分)
13回	教科書第8章のp.89~92に目を通し、「演習」p.96「課題3」を行ってくること。(標準学習時間120分)
14回	教科書第9章に目を通し、「演習」p.107「課題2」を行ってくること。(標準学習時間120分)
15回	教科書第10章に目を通してくること。(標準学習時間60分)
16回	これまでの内容を見直して、整理しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	人間の心と行動の仕組みを研究する学問である心理学について概説し、体系的な理論を学ばせる。心理学の基本的な知識についての理解を深めさせ、よりよい人間性の育成を目指す。4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	1) 心理学における人間の心と行動のとらえかたを理解する。 2) 体系的な理論と関連のトピックについて知識を得る。 3) 心理学の理論と、日常の具体的な人間行動との関連を理解する。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	こころの理解、知覚、認知、学習、パーソナリティ、感情、集団、社会行動
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60)	達成目標1)~3)の達成度を評価する中間試験(50%)と最終評価試験(50%)を行う。

点)	
教科書	生活にいかす心理学ver.2 / 古城和子 (編著) / ナカニシヤ出版 / 4888487057
関連科目	特に指定はない。
参考書	授業中に適宜指示する。
連絡先	山陽学園大学 TEL : 086-272-6254 (代表)
授業の運営方針	教科書を用いて行う。 教科書中の重要事項やキーワードについて解説するために、パワーポイントによる提示資料を用いる。 提示資料中では、理解を深めるために必要な補足事項について、教科書に記載されていない内容も扱う。 提示資料、配布資料を教員の指定するウェブサイトアップロードするので、授業の復習に利用してほしい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験について、個別に資料を基に説明を行います。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他 (注意・備考)	

科目名	マスメディア論 (FB201600)
英文科目名	Mass Media-Theory and Practice
担当教員名	八木一郎 (やぎいちろう)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして授業の内容、進め方、成績評価の方針について把握する。続いて、メディアとは何か、情報を伝える媒体としての特性について理解する。
2回	メディアとは何かについて、ウォルター・リップマンやマーシャル・マクルーハンの提唱した概念について理解する。
3回	新聞の歴史と特性について理解する。
4回	ラジオの歴史と特性について理解する。
5回	映画の歴史と特性について理解する。
6回	テレビの歴史と特性について理解する。
7回	出版の歴史と特性について理解する。
8回	中間的な評価をするための試験を実施し、フィードバックとして模範解答と解説を配布する。
9回	後半のオリエンテーションとして、授業の進め方や評価方法などについて把握する。続いて、インターネットの歴史と特性について理解する。
10回	前回到続き、インターネットによる光と影について理解する。情報環境が大きく変化して便利になった半面、様々な問題点も浮上しており、革命的ともいえるネット社会について理解する。
11回	マスメディアの発展とともに進化してきた広告について、その歴史と特性について理解する。
12回	前回到続き、広告の歴史と特性に加えて、ネット時代の新しい広告について理解する。
13回	メディアのもたらす影響や効果に関する研究について理解する。
14回	活字メディアと映像メディアの特性について学習し、情報操作やプロパガンダとしてメディアが利用された歴史や現状について理解する。
15回	メディアリテラシーの意義と役割について理解する。
16回	最終評価試験を実施し、フィードバックとして模範解答と解説を配布する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスをよく読んでおくこと。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：メディアの役割について授業の内容をまとめたノートを作成すること。(標準学習時間90分)
2回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：リップマンが唱えた「疑似環境」、マクルーハンが提唱した「メディアはメッセージである」といったメディアに関する概念についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
3回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：ゲーテンベルグの活版印刷技術の発明を契機に大量の出版物が出回るようになる中で、始まった新聞の歴史と紙媒体ならではの特性についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
4回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：電子技術の進化の中で生まれたラジオが歴史上、果たした役割、音声媒体ならではの特性についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
5回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：映画の歴史や映像という強いインパクトを持つ媒体としての特性、娯楽や芸術として発展してきたことをまとめておくこと。(標準学習時間120分)
6回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：映画やラジオの黄金時代の中で登場したテレビが急速に普及し、お茶の間に浸透した歴史や、人々の暮らしや生活習慣にまで影響を与えたことをまとめておくこと。(標準学習時間120分)
7回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：戦後の日本社会で出版物が教養や娯楽をもたらした歴史や、近年の本離れの実態についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
8回	予習：これまでの授業を振り返り、試験準備をする。
9回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：インターネットが始まった歴史や既存メディアとは異なる特性についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
10回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：インターネットの浸透は、既存のメディアに多大な影響を及ぼしており、特に新聞、出版といった活字メディアの衰退につながっていることをまとめておくこと。(標準学習時間120分)
11回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこととともに、広告にも注意しておくこと。復習：広告の歴史はメディアの歴史であり、技術やデザインの発展のとも歩調を合わせてきたことをまとめておくこと。(標準学習時間120分)
12回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接し、広告にも注意しておくこと。復習：ネット時代

	になり、広告のシステムが様変わりし、既存のメディアにも影響を及ぼしていることをまとめておくこと。(標準学習時間120分)
13回	予習:新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習:弾丸効果論や限定効果論など主に米国で研究が進んだメディアの効果研究についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
14回	予習:新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習:メディアが世論に影響を与え、ときに政治に利用された歴史があることをまとめておくこと。(標準学習時間120分)
15回	予習:新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習:メディアの特性を学んできたことを踏まえ、リテラシー能力を高めて、情報に接していくことの重要性をまとめておくこと。(標準学習時間120分)
16回	予習:後半の授業を振り返り、試験に備えること。

講義目的	現代社会において、情報を得る手段としてのマスメディアは欠かせない存在である。その特性を知り、情報の取捨選択に生かしていくことは実社会を生きていく上で重要な要素となる。特に急速に普及しているネットメディアとの違いについて考えることで、新しい情報環境の中での想像力豊かな社会人としての資質を身に付ける。(教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	1)マスメディアが現代社会で果たす役割を理解する。(知識・理解) 2)マスメディアとネットメディアの関係、その功罪を知り、適切な接し方を身につける(知識・理解) 3)正しい情報の扱い方、発言する側の責任など情報モラルの大切さを学ぶ(知識・理解)
キーワード	マスコミュニケーション、ジャーナリズム、ソーシャルメディア、メディア・リテラシー
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業時間中に毎回書いてもらう小レポート10%(達成目標1、3を評価)、最終評価試験90%(達成目標1、2、3を評価)により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	適宜、資料などを配布する
関連科目	現代のメディア、ジャーナリズム論、
参考書	図説 日本のメディア/藤竹暁/NHK出版:たったひとつの「真実」なんてない/森達也/ちくまブリマー新書
連絡先	A1号館6F 八木研究室 直通電話086-256-9758 E-mail:yagi@mgt.ous.ac.jp オフィスアワー 月曜日3時限
授業の運営方針	授業で配布するプリントと板書を基に、自分なりのノートを作成すること。小レポートは毎回、時事問題について書いてもらうので、日ごろから新聞やテレビなどでニュースに接しておくこと。
アクティブ・ラーニング	ライティング
課題に対するフィードバック	提出課題は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。
実務経験のある教員	元山陽新聞社勤務:新聞記者としての取材活動や編集業務などの実務経験を生かし、社会の仕組みや情報の重要性などへの理解を深め、リテラシー能力とニュースの読み解き方など、現代社会における情報の接し方について講義する。
その他(注意・備考)	

科目名	マスメディア論 (FB201610)
英文科目名	Mass Media-Theory and Practice
担当教員名	高下義彦* (こうげよしひこ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	マスメディア論のいわば入門編。イントロダクション「現代人とマスメディア」講義の進め方、試験の方法や評価方法、マスメディアの概略について説明する。
2回	「メディアと日本人」幕末に創刊された新聞から現在のインターネットまで、日本人がどのようにメディアを受け入れてきたかを学習する。
3回	「新聞」日本や世界の新聞の誕生から変遷や現状を学習する。
4回	「新聞」日本の新聞社の組織、新聞の作り方を、山陽新聞を例に見ていく。取材、編集から制作までを学習し、ニュースの価値判断について考察する。
5回	「新聞」新聞はどのように読まれているか、どのように評価されているか。日本新聞協会が行った「全国メディア接触・評価調査」の結果から、日本人の新聞との付き合い方を学習する。
6回	「放送」日本の放送の歴史と現状をテレビを中心に学習する。
7回	「出版」日本の出版産業の歴史と現状を学習する。
8回	1~7回を総括し、中間評価試験を実施する。
9回	中間試験の解答と結果を解説する。
10回	「広告」2016年の統計数字を中心に日本の広告について考察する。
11回	「インターネット」インターネットの歴史、概観、現状を学習する。
12回	「インターネット」ネットの世界と現実世界の違い、関係、問題、課題を学習する。
13回	「ソーシャルメディア」現代人にとって不可欠になったソーシャルメディアの歴史からキャンペーンについて学習する。
14回	「ソーシャルメディア」ソーシャルメディアにおける権利、IoT、規制問題、教育とのかかわりなどを考察する。
15回	「音楽」日本の音楽の変遷、CD市場、配信、カラオケまで歴史と現況を学習する。
16回	「映画」映画の誕生、変遷、動向、市場などを日本を中心に考察する。
17回	9~15回を総括し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
2回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
3回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
4回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
5回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
6回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
7回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
8回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読んでおくこと。(60分)
9回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
10回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)

1 1 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
1 2 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
1 3 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
1 4 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
1 5 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
1 6 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読んでおくこと。(60分)

講義目的	現代社会において、情報を得る手段としてマスメディアは欠かせない存在である。その特性を知り、情報の取捨選択に生かしていくことは実社会を生きていくうえでの重要な要素となる。特に急速に普及しているネットメディアとの違いについて考えることで、新しい情報環境の中での想像力豊かな社会人としての資質を身につけていく。(教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	マスメディアが現代社会で果たす役割を理解する。 マスメディアとネットメディアの関係、その功罪を知り、適切な接し方を身につける。 正しい情報の扱い方、発信する側の責任など情報モラルの大切さを学ぶ。 (教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
キーワード	マスコミュニケーション、ジャーナリズム、ソーシャルメディア、メディア・リテラシー
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	合格基準60点。最終評価試験90%、講義の終わりに書いてもらう小レポート(時事ニュースなどについて)10%
教科書	適宜、資料などを配布する。
関連科目	情報社会論、ジャーナリズム論
参考書	図説 日本のメディア/藤竹暁編著/NHK出版:メディアと日本人/橋元良明著/岩波新書:鈴木さんにも分かるネットの未来/川上量生著/岩波新書:ソーシャルメディア論/藤代裕之編著/青弓社:メディア・リテラシー/菅谷明子著/岩波新書
連絡先	山陽新聞社編集局製作管理センター 岡山市柳町2-1-1 電話086-803-8168(工程管理部) メール koge.yoshihiko@sanyonews.jp
授業の運営方針	最初にその日の講義で使う資料と出席票を1人1枚とって着席。私語が激しい場合、注意しても直らない場合退出を求める。出席票が明らかに代筆と認められる場合は、両人を欠席扱いとすることがある。
アクティブ・ラーニング	ライティング 授業の最後に、「最近気になったニュース」を記入する。
課題に対するフィードバック	中間、最終評価試験のフィードバックとして、Momo-campusに模範解答と解説を掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音、録画、撮影は許可する。
実務経験のある教員	山陽新聞社で30年超、取材記者、紙面制作記者及び両部門のデスク、管理職を経験。現在は、新聞制作システムから印刷、発送までの流れを管轄する編集局製作管理センター長を務める。
その他(注意・備考)	

科目名	マスメディア論 (FB201620)
英文科目名	Mass Media-Theory and Practice
担当教員名	八木一郎 (やぎいちろう)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして授業の内容、進め方、成績評価の方針について把握する。続いて、メディアとは何か、情報を伝える媒体としての特性について理解する。
2回	メディアとは何かについて、ウォルター・リップマンやマーシャル・マクルーハンの提唱した概念について理解する。
3回	新聞の歴史と特性について理解する。
4回	ラジオの歴史と特性について理解する。
5回	映画の歴史と特性について理解する。
6回	テレビの歴史と特性について理解する。
7回	出版の歴史と特性について理解する。
8回	中間的な評価をするための試験を実施し、フィードバックとして模範解答と解説を配布する。
9回	後半のオリエンテーションとして、授業の進め方や評価方法などについて把握する。続いて、インターネットの歴史と特性について理解する。
10回	前回到続き、インターネットによる光と影について理解する。情報環境が大きく変化して便利になった半面、様々な問題点も浮上しており、革命的ともいえるネット社会について理解する。
11回	マスメディアの発展とともに進化してきた広告について、その歴史と特性について理解する。
12回	前回到続き、広告の歴史と特性に加えて、ネット時代の新しい広告について理解する。
13回	メディアのもたらす影響や効果に関する研究について理解する。
14回	活字メディアと映像メディアの特性について学習し、情報操作やプロパガンダとしてメディアが利用された歴史や現状について理解する。
15回	メディアリテラシーの意義と役割について理解する。
16回	最終評価試験を実施し、フィードバックとして模範解答と解説を配布する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスをよく読んでおくこと。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：メディアの役割について授業の内容をまとめたノートを作ること。(標準学習時間90分)
2回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：リップマンが唱えた「疑似環境」、マクルーハンが提唱した「メディアはメッセージである」といったメディアに関する概念についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
3回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：ゲーテンベルグの活版印刷技術の発明を契機に大量の出版物が出回るようになる中で、始まった新聞の歴史と紙媒体ならではの特性についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
4回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：電子技術の進化の中で生まれたラジオが歴史上、果たした役割、音声媒体ならではの特性についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
5回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：映画の歴史や映像という強いインパクトを持つ媒体としての特性、娯楽や芸術として発展してきたことをまとめておくこと。(標準学習時間120分)
6回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：映画やラジオの黄金時代の中で登場したテレビが急速に普及し、お茶の間に浸透した歴史や、人々の暮らしや生活習慣にまで影響を与えたことをまとめておくこと。(標準学習時間120分)
7回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：戦後の日本社会で出版物が教養や娯楽をもたらした歴史や、近年の本離れの実態についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
8回	予習：これまでの授業を振り返り、試験準備をする。
9回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：インターネットが始まった歴史や既存メディアとは異なる特性についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
10回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習：インターネットの浸透は、既存のメディアに多大な影響を及ぼしており、特に新聞、出版といった活字メディアの衰退につながっていることをまとめておくこと。(標準学習時間120分)
11回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこととともに、広告にも注意しておくこと。復習：広告の歴史はメディアの歴史であり、技術やデザインの発展のとも歩調を合わせてきたことをまとめておくこと。(標準学習時間120分)
12回	予習：新聞やテレビで日々のニュースに接し、広告にも注意しておくこと。復習：ネット時代

	になり、広告のシステムが様変わりし、既存のメディアにも影響を及ぼしていることをまとめておくこと。(標準学習時間120分)
13回	予習:新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習:弾丸効果論や限定効果論など主に米国で研究が進んだメディアの効果研究についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
14回	予習:新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習:メディアが世論に影響を与え、ときに政治に利用された歴史があることをまとめておくこと。(標準学習時間120分)
15回	予習:新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。復習:メディアの特性を学んできたことを踏まえ、リテラシー能力を高めて、情報に接していくことの重要性をまとめておくこと。(標準学習時間120分)
16回	予習:後半の授業を振り返り、試験に備えること。

講義目的	現代社会において、情報を得る手段としてのマスメディアは欠かせない存在である。その特性を知り、情報の取捨選択に生かしていくことは実社会を生きていく上で重要な要素となる。特に急速に普及しているネットメディアとの違いについて考えることで、新しい情報環境の中での想像力豊かな社会人としての資質を身に付ける。(教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	1)マスメディアが現代社会で果たす役割を理解する。(知識・理解) 2)マスメディアとネットメディアの関係、その功罪を知り、適切な接し方を身につける(知識・理解) 3)正しい情報の扱い方、発言する側の責任など情報モラルの大切さを学ぶ(知識・理解)
キーワード	マスコミュニケーション、ジャーナリズム、ソーシャルメディア、メディア・リテラシー
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業時間中に毎回書いてもらう小レポート10%(達成目標1、3を評価)、最終評価試験90%(達成目標1、2、3を評価)により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	適宜、資料などを配布する
関連科目	現代のメディア、ジャーナリズム論、
参考書	図説 日本のメディア/藤竹暁/NHK出版:たったひとつの「真実」なんてない/森達也/ちくまブリマー新書
連絡先	A1号館6F 八木研究室 直通電話086-256-9758 E-mail:yagi@mgt.ous.ac.jp オフィスアワー 月曜日3時限
授業の運営方針	授業で配布するプリントと板書を基に、自分なりのノートを作成すること。小レポートは毎回、時事問題について書いてもらうので、日ごろから新聞やテレビなどでニュースに接しておくこと。
アクティブ・ラーニング	ライティング
課題に対するフィードバック	提出課題は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。
実務経験のある教員	元山陽新聞社勤務:新聞記者としての取材活動や編集業務などの実務経験を生かし、社会の仕組みや情報の重要性などへの理解を深め、リテラシー能力とニュースの読み解き方など、現代社会における情報の接し方について講義する。
その他(注意・備考)	

科目名	マスメディア論 (FB201630)
英文科目名	Mass Media-Theory and Practice
担当教員名	高下義彦* (こうげよしひこ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	マスメディア論のいわば入門編。イントロダクション「現代人とマスメディア」講義の進め方、試験の方法や評価方法、マスメディアの概略について説明する。
2回	「メディアと日本人」幕末に創刊された新聞から現在のインターネットまで、日本人がどのようにメディアを受け入れてきたかを学習する。
3回	「新聞」日本や世界の新聞の誕生から変遷や現状を学習する。
4回	「新聞」日本の新聞社の組織、新聞の作り方を、山陽新聞を例に見ていく。取材、編集から制作までを学習し、ニュースの価値判断について考察する。
5回	「新聞」新聞はどのように読まれているか、どのように評価されているか。日本新聞協会が行った「全国メディア接触・評価調査」の結果から、日本人の新聞との付き合い方を学習する。
6回	「放送」日本の放送の歴史と現状をテレビを中心に学習する。
7回	「出版」日本の出版産業の歴史と現状を学習する。
8回	1~7回を総括し、中間評価試験を実施する。
9回	中間試験の解答と結果を解説する。
10回	「広告」2016年の統計数字を中心に日本の広告について考察する。
11回	「インターネット」インターネットの歴史、概観、現状を学習する。
12回	「インターネット」ネットの世界と現実世界の違い、関係、問題、課題を学習する。
13回	「ソーシャルメディア」現代人にとって不可欠になったソーシャルメディアの歴史からキャンペーンについて学習する。
14回	「ソーシャルメディア」ソーシャルメディアにおける権利、IoT、規制問題、教育とのかかわりなどを考察する。
15回	「音楽」日本の音楽の変遷、CD市場、配信、カラオケまで歴史と現況を学習する。
16回	「映画」映画の誕生、変遷、動向、市場などを日本を中心に考察する。
17回	9~15回を総括し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
2回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
3回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
4回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
5回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
6回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
7回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
8回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読んでおくこと。(60分)
9回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
10回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)

1 1 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
1 2 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
1 3 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
1 4 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
1 5 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
1 6 回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読んでおくこと。(60分)

講義目的	現代社会において、情報を得る手段としてマスメディアは欠かせない存在である。その特性を知り、情報の取捨選択に生かしていくことは実社会を生きていくうえでの重要な要素となる。特に急速に普及しているネットメディアとの違いについて考えることで、新しい情報環境の中での想像力豊かな社会人としての資質を身につけていく。(教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	マスメディアが現代社会で果たす役割を理解する。 マスメディアとネットメディアの関係、その功罪を知り、適切な接し方を身につける。 正しい情報の扱い方、発信する側の責任など情報モラルの大切さを学ぶ。 (教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
キーワード	マスコミュニケーション、ジャーナリズム、ソーシャルメディア、メディア・リテラシー
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	合格基準60点。最終評価試験90%、講義の終わりに書いてもらう小レポート(時事ニュースなどについて)10%
教科書	適宜、資料などを配布する。
関連科目	情報社会論、ジャーナリズム論
参考書	図説 日本のメディア/藤竹暁編著/NHK出版:メディアと日本人/橋元良明著/岩波新書:鈴木さんにも分かるネットの未来/川上量生著/岩波新書:ソーシャルメディア論/藤代裕之編著/青弓社:メディア・リテラシー/菅谷明子著/岩波新書
連絡先	山陽新聞社編集局製作管理センター 岡山市柳町2-1-1 電話086-803-8168(工程管理部) メール koge.yoshihiko@sanyonews.jp
授業の運営方針	最初にその日の講義で使う資料と出席票を1人1枚とって着席。私語が激しい場合、注意しても直らない場合退出を求める。出席票が明らかに代筆と認められる場合は、両人を欠席扱いとすることがある。
アクティブ・ラーニング	ライティング 授業の最後に、「最近気になったニュース」を記入する。
課題に対するフィードバック	中間、最終評価試験のフィードバックとして、Momo-campusに模範解答と解説を掲示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音、録画、撮影は許可する。
実務経験のある教員	山陽新聞社で30年超、取材記者、紙面制作記者及び両部門のデスク、管理職を経験。現在は、新聞製作システムから印刷、発送までの流れを管轄する編集局製作管理センター長を務める。
その他(注意・備考)	

科目名	法学 (FB201800)
英文科目名	Law
担当教員名	佐藤元治 (さとうもとはる)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	法とは何かについての講義をする。 [内容] 社会規範としての法、法と道德の違い
2回	六法の使い方についての説明をする。 [内容] 六法とは?、六法の構造と使い方、条文の構造、条文の表記の仕方
3回	法の体系についての講義をする。 [内容] 法の存在形式による分類、成文法主義、成文法の体系
4回	法の分類についての講義をする。 [内容] 法の内容による分類 (公法と私法、一般法と特別法など)
5回	法の効力についての講義をする。 [内容] 法の効力とは?、法の始期と終期、法の遡及効、無効と取消
6回	法の適用についての講義をする。 [内容] 法の適用とは?、事実認定の必要性和重要性
7回	法の解釈 についての講義をする。 [内容] 文理解釈、論理 (目的) 解釈
8回	これまでの授業内容の中間テストをし、その後、テストの解説およびこれまでの授業の総括をする。
9回	司法制度についての概説の講義をする。 [内容] 裁判所の種類と関係、三審制度
10回	国民の司法参加についての講義をする。 [内容] 諸外国の国民の司法参加の種類 (陪審制、参審制)、日本の裁判員制度とその問題点、検察審査会
11回	模擬裁判員 (陪審員) 体験授業を行い、裁判のルールに従った自身の判定について授業内レポートを作成する。
12回	刑事裁判の仕組みと現状についての講義をする。 [内容] 刑事裁判の目的、構造、手続、冤罪の原因とその防止策
13回	刑罰制度の仕組みと現状についての講義をする。 [内容] 刑罰の本質、刑罰の種類、死刑および刑務所の実情と問題点
14回	民事裁判の仕組みと現状についての講義をする。 [内容] 民事裁判の目的、構造、手続、少額訴訟
15回	司法制度へのアクセス (利用方法) についての講義をする。 [内容] 法律家 (法曹3者) について、日本司法支援制度 (法テラス)、国選弁護士制度、当番弁護士制度
16回	最終評価試験を行い、その後試験の解説と全体の総括をする。

回数	準備学習
1回	このシラバスを熟読し、授業内容全体を確認すること。初回の授業で講義の進め方と履修上の注意などを説明するので必ず参加すること (やむを得ず初回授業に出られなかった場合、次回授業までに必ず担当教員に申し出ること)。初回の授業までに各自でなぜこの授業を履修し、この授業を通して何を学ぶのかについて考えてから初回の授業に臨むこと (標準学習時間60分)
2回	第1回の授業内容である法の特徴を正確に理解し、復習しておくこと。購入した自分の六法の中身を見ておくこと。(例えば、どんな法令が幾つ収録されているか? 国語や英語の辞書と違う点は何か? など) ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	第1回および第2回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第2回の授業で教えた六法の基本的な使い方、条文の構造、表記の仕方などについてきちんと復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	第3回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第3回の授業内容の法の体系について、法の種類と関係を正確に理解し、復習しておくこと (授業で示した体系図がすぐに思い出せるようにしておくこと)。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	第4回の確認プリントをやって、次回に提出すること。第4回の授業内容の法の内容による分類について正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	第5回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第5回の授業内容の法の効力について正確に理解し、復習しておくこと (特に法の遡及効や、無効と取消しの違いなど)。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	第6回の授業内容の確認プリントをやって、次回に提出すること。第6回の授業内容の法の適用について正確に理解し、復習しておくこと (特に事実認定の必要性・重要性など)。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	第7回の授業内容の法の解釈について正確に理解し、復習しておくこと (解釈の種類と具体例をセットで覚えておくこと)。また、中間テストを行うので、第1回から第7回までの内容を復習し

	ておくこと。(標準学習時間180分)
9回	各自でインターネットで最高裁判所のHPを探して、裁判所の組織などを観ておくこと。また、現在の最高裁判所長官が誰なのか、その氏名を調べておくこと。(標準学習時間60分)
10回	第9回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。裁判所のHPで裁判員制度および検察審査会の概要について、あらかじめ各自で調べておくこと(標準学習時間120分)
11回	第10回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	第11回の模擬裁判員体験授業で出てきた刑事裁判の判定方法について復習しておくこと。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
13回	第12回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
14回	第13回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
15回	第14回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
16回	第15回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第9回から第15回までの授業内容を復習しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	学生の皆さんにとって法とか裁判というと、何だか難しそうで自分とは関わりのないもののように思われるかもしれない。しかし、私たちは既に法がとりまく社会の中で生活していて、将来、法や裁判に関わらざるを得ないことになるかもしれない。そうであるなら、一般市民として必要な法や裁判に関する知識や考え方を身につけておくことは自身にとっても有益なことであるし、また一般市民が法や裁判に関心を持つことは司法制度の向上にも必要不可欠であるといえる。この授業では、そのような法や裁判についての基本的な知識や考え方を具体的な事例や裁判例を交えて分かりやすく解説し、法や裁判に関する問題点について一緒に考えてもらうことを目的とする。また初めて法学を勉強する者のための学習のコツなども適宜教えたいと思っている。(教養教育センターの到達目標の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	(1) 法および司法制度に関する基礎的知識と基本的な考え方を習得し、正しく説明することができる(知識・理解)。 (2) 六法を使って関連する法令の必要な条文が検索できる(知識・理解)。 (3) 法および司法制度にまつわる諸問題について、問題点を正確に把握したうえで、自身の考えを適切に表明できる(知識・理解、思考・判断・表現)。 4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	法、司法、法律家、裁判、裁判員制度、その他授業内容の項目に挙げられている用語を参照。
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業確認プリント[計12回:30%](達成目標1~2を確認)+授業内小テスト・レポート[計3回:20%](到達目標1~3を確認)+中間テストおよび最終評価試験[各25%:計50%](到達目標1~3を確認)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	ポケット六法平成31年版 / 宇賀克也・佐伯仁志(編集代表) / 有斐閣 / ISBN 978-4-641-00919-6 (書き込み等がないものであれば、同六法の平成30年版でも可)
関連科目	日本国憲法
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	B3号館4階佐藤研究室(オフィスアワーについてはマイログを参照のこと) 連絡については直接・口頭主義を原則とする。
授業の運営方針	(1) 指定の六法を必ず毎回持参すること。六法を忘れたときは、授業前に必ず申し出て、指示を受けること(事前に図書館で借りてきた場合も同様)。無断で六法なしで受講しないこと。 (2) テキストとしての教科書は使用しないが、代わりに授業で用いるスライドのPDF(レジュメ)を授業用ブログに事前にアップしておくので、各自でプリントアウトしたりノートに書き写すなどして予習に使い、授業当日に持参すること。ブログのアドレス等について詳しくは初回の授業時に説明するので必ず参加すること。 (3) 復習用の授業確認プリントを次回の授業時までにはやってきてもらい提出してもらう。これも各自で授業用ブログからダウンロード・プリントアウトし、自筆で記入し提出すること。 (4) 授業中の録音・録画・撮影は認めない(電子機器の使用禁止)。ただし特別の理由がある場合には、事前に相談すること。 (5) (大学の定める自己都合によらない遅刻・欠席および忌引以外の)遅刻・欠席による不利益についてはフォローしないものとする(ただし事前に分かっている場合には相談に応じる)。
アクティブ・ラーニング	(1) ビデオを用いた模擬裁判員(陪審員)の体験授業を行う(時間的に余裕があれば、それに基づいた評議(ディスカッション)も行う)。 (2) 授業内容によっては、授業中に説明や意見を求めるなど、双方向授業を行う。 (3) 授業内容によっては、授業準備として事前に裁判所HPなどで基本的事項について各自で主体的に調べてきてもらう。 (4) 授業内容の理解を深めるため、授業確認プリントを次回までにやってきてもらう。
課題に対するフィード	小テストについては採点の後、返却し、訂正・復習をしてもらったうえで再提出してもらう(再提

バック	出までして成績評価に加える)。 授業確認プリントおよび授業内レポートについては、後日、解答・解説をアップする。中間・最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	(1) 履修希望者はこのシラバスをきちんと読んだうえで、必ず初回の授業に参加すること。やむを得ず初回の授業に出られなかった場合は、必ず2回目の授業までに担当教員に直接申し出ること。 (2) 上記「準備学習」「授業の運営方針」の項目にあるように、教員からの配布物はすべて各自でダウンロード・プリントアウトしてもらおうので(ただしテストを除く)、大学の設備などが利用できるようにしておくこと。 (3) テスト・プリント等の提出物において授業名、担当教員名が正しく記入されていないものについては、評価対象外とすることがあるので気をつけること。 (4) 新聞・ニュースをかかさずチェックし、実際の社会で起きている出来事や事件・裁判などに関心を持つようにすること。

科目名	法学 (FB201810)
英文科目名	Law
担当教員名	佐藤元治 (さとうもと はる)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	法とは何かについての講義をする。 [内容] 社会規範としての法、法と道徳の違い
2回	六法の使い方についての説明をする。 [内容] 六法とは?、六法の構造と使い方、条文の構造、条文の表記の仕方
3回	法の体系についての講義をする。 [内容] 法の存在形式による分類、成文法主義、成文法の体系
4回	法の分類についての講義をする。 [内容] 法の内容による分類 (公法と私法、一般法と特別法など)
5回	法の効力についての講義をする。 [内容] 法の効力とは?、法の始期と終期、法の遡及効、無効と取消
6回	法の適用についての講義をする。 [内容] 法の適用とは?、事実認定の必要性和重要性
7回	法の解釈 についての講義をする。 [内容] 文理解釈、論理 (目的) 解釈
8回	これまでの授業内容の中間テストをし、その後、テストの解説およびこれまでの授業の総括をする。
9回	司法制度についての概説の講義をする。 [内容] 裁判所の種類と関係、三審制度
10回	国民の司法参加についての講義をする。 [内容] 諸外国の国民の司法参加の種類 (陪審制、参審制)、日本の裁判員制度とその問題点、検察審査会
11回	模擬裁判員 (陪審員) 体験授業を行い、裁判のルールに従った自身の判定について授業内レポートを作成する。
12回	刑事裁判の仕組みと現状についての講義をする。 [内容] 刑事裁判の目的、構造、手続、冤罪の原因とその防止策
13回	刑罰制度の仕組みと現状についての講義をする。 [内容] 刑罰の本質、刑罰の種類、死刑および刑務所の実情と問題点
14回	民事裁判の仕組みと現状についての講義をする。 [内容] 民事裁判の目的、構造、手続、少額訴訟
15回	司法制度へのアクセス (利用方法) についての講義をする。 [内容] 法律家 (法曹3者) について、日本司法支援制度 (法テラス)、国選弁護士制度、当番弁護士制度
16回	最終評価試験を行い、その後試験の解説と全体の総括をする。

回数	準備学習
1回	このシラバスを熟読し、授業内容全体を確認すること。初回の授業で講義の進め方と履修上の注意などを説明するので必ず参加すること (やむを得ず初回授業に出られなかった場合、次回授業までに必ず担当教員に申し出ること)。初回の授業までに各自でなぜこの授業を履修し、この授業を通して何を学ぶのかについて考えてから初回の授業に臨むこと (標準学習時間60分)
2回	第1回の授業内容である法の特徴を正確に理解し、復習しておくこと。購入した自分の六法の中身を見ておくこと。(例えば、どんな法令が幾つ収録されているか? 国語や英語の辞書と違う点は何か? など) ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	第1回および第2回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第2回の授業で教えた六法の基本的な使い方、条文の構造、表記の仕方などについてきちんと復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	第3回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第3回の授業内容の法の体系について、法の種類と関係を正確に理解し、復習しておくこと (授業で示した体系図がすぐに思い出せるようにしておくこと)。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	第4回の確認プリントをやって、次回に提出すること。第4回の授業内容の法の内容による分類について正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	第5回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第5回の授業内容の法の効力について正確に理解し、復習しておくこと (特に法の遡及効や、無効と取消しの違いなど)。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	第6回の授業内容の確認プリントをやって、次回に提出すること。第6回の授業内容の法の適用について正確に理解し、復習しておくこと (特に事実認定の必要性・重要性など)。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	第7回の授業内容の法の解釈について正確に理解し、復習しておくこと (解釈の種類と具体例をセットで覚えておくこと)。また、中間テストを行うので、第1回から第7回までの内容を復習し

	ておくこと。(標準学習時間180分)
9回	各自でインターネットで最高裁判所のHPを探して、裁判所の組織などを観ておくこと。また、現在の最高裁判所長官が誰なのか、その氏名を調べておくこと。(標準学習時間60分)
10回	第9回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。裁判所のHPで裁判員制度および検察審査会の概要について、あらかじめ各自で調べておくこと(標準学習時間120分)
11回	第10回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	第11回の模擬裁判員体験授業で出てきた刑事裁判の判定方法について復習しておくこと。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
13回	第12回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
14回	第13回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
15回	第14回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
16回	第15回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第9回から第15回までの授業内容を復習しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	学生の皆さんにとって法とか裁判というと、何だか難しそうで自分とは関わりのないもののように思われるかもしれない。しかし、私たちは既に法がとりまく社会の中で生活していて、将来、法や裁判に関わらざるを得ないことになるかもしれない。そうであるなら、一般市民として必要な法や裁判に関する知識や考え方を身につけておくことは自身にとっても有益なことであるし、また一般市民が法や裁判に関心を持つことは司法制度の向上にも必要不可欠であるといえる。この授業では、そのような法や裁判についての基本的な知識や考え方を具体的な事例や裁判例を交えて分かりやすく解説し、法や裁判に関する問題点について一緒に考えてもらうことを目的とする。また初めて法学を勉強する者のための学習のコツなども適宜教えたいと思っている。(教養教育センターの到達目標の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	(1) 法および司法制度に関する基礎的知識と基本的な考え方を習得し、正しく説明することができる(知識・理解)。 (2) 六法を使って関連する法令の必要な条文が検索できる(知識・理解)。 (3) 法および司法制度にまつわる諸問題について、問題点を正確に把握したうえで、自身の考えを適切に表明できる(知識・理解、思考・判断・表現)。 4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	法、司法、法律家、裁判、裁判員制度、その他授業内容の項目に挙げられている用語を参照。
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	授業確認プリント[計12回:30%](達成目標1~2を確認)+授業内小テスト・レポート[計3回:20%](到達目標1~3を確認)+中間テストおよび最終評価試験[各25%:計50%](到達目標1~3を確認)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	ポケット六法平成31年版 / 宇賀克也・佐伯仁志(編集代表) / 有斐閣 / ISBN 978-4-641-00919-6 (書き込み等がないものであれば、同六法の平成30年版でも可)
関連科目	日本国憲法
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	B3号館4階佐藤研究室(オフィスアワーについてはマイログを参照のこと) 連絡については直接・口頭主義を原則とする。
授業の運営方針	(1) 指定の六法を必ず毎回持参すること。六法を忘れたときは、授業前に必ず申し出て、指示を受けること(事前に図書館で借りてきた場合も同様)。無断で六法なしで受講しないこと。 (2) テキストとしての教科書は使用しないが、代わりに授業で用いるスライドのPDF(レジュメ)を授業用ブログに事前にアップしておくので、各自でプリントアウトしたりノートに書き写すなどして予習に使い、授業当日に持参すること。ブログのアドレス等については初回の授業時に説明するので必ず参加すること。 (3) 復習用の授業確認プリントを次回の授業時までにはやってきてもらい提出してもらう。これも各自で授業用ブログからダウンロード・プリントアウトし、自筆で記入し提出すること。 (4) 授業中の録音・録画・撮影は認めない(電子機器の使用禁止)。ただし特別の理由がある場合には、事前に相談すること。 (5) (大学の定める自己都合によらない遅刻・欠席および忌引以外の)遅刻・欠席による不利益についてはフォローしないものとする(ただし事前に分かっている場合には相談に応じる)。
アクティブ・ラーニング	(1) ビデオを用いた模擬裁判員(陪審員)の体験授業を行う(時間的に余裕があれば、それに基づいた評議(ディスカッション)も行う)。 (2) 授業内容によっては、授業中に説明や意見を求めるなど、双方向授業を行う。 (3) 授業内容によっては、授業準備として事前に裁判所HPなどで基本的事項について各自で主体的に調べてきてもらう。 (4) 授業内容の理解を深めるため、授業確認プリントを次回までにやってきてもらう。
課題に対するフィード	小テストについては採点の後、返却し、訂正・復習をしてもらったうえで再提出してもらう(再提

バック	出までして成績評価に加える)。 授業確認プリントおよび授業内レポートについては、後日、解答・解説をアップする。中間・最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	(1) 履修希望者はこのシラバスをきちんと読んだうえで、必ず初回の授業に参加すること。やむを得ず初回の授業に出られなかった場合は、必ず2回目の授業までに担当教員に直接申し出ること。 (2) 上記「準備学習」「授業の運営方針」の項目にあるように、教員からの配布物はすべて各自でダウンロード・プリントアウトしてもらうので(ただしテストを除く)、大学の設備などが利用できるようにしておくこと。 (3) テスト・プリント等の提出物において授業名、担当教員名が正しく記入されていないものについては、評価対象外とすることがあるので気をつけること。 (4) 新聞・ニュースをかかさずチェックし、実際の社会で起きている出来事や事件・裁判などに関心を持つようにすること。

科目名	法学 (FB201820)
英文科目名	Law
担当教員名	佐藤元治 (さとうもと はる)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	法とは何かについての講義をする。 [内容] 社会規範としての法、法と道德の違い
2回	六法の使い方についての説明をする。 [内容] 六法とは?、六法の構造と使い方、条文の構造、条文の表記の仕方
3回	法の体系についての講義をする。 [内容] 法の存在形式による分類、成文法主義、成文法の体系
4回	法の分類についての講義をする。 [内容] 法の内容による分類 (公法と私法、一般法と特別法など)
5回	法の効力についての講義をする。 [内容] 法の効力とは?、法の始期と終期、法の遡及効、無効と取消
6回	法の適用についての講義をする。 [内容] 法の適用とは?、事実認定の必要性和重要性
7回	法の解釈 についての講義をする。 [内容] 文理解釈、論理 (目的) 解釈
8回	これまでの授業内容の中間テストをし、その後、テストの解説およびこれまでの授業の総括をする。
9回	司法制度についての概説の講義をする。 [内容] 裁判所の種類と関係、三審制度
10回	国民の司法参加についての講義をする。 [内容] 諸外国の国民の司法参加の種類 (陪審制、参審制)、日本の裁判員制度とその問題点、検察審査会
11回	模擬裁判員 (陪審員) 体験授業を行い、裁判のルールに従った自身の判定について授業内レポートを作成する。
12回	刑事裁判の仕組みと現状についての講義をする。 [内容] 刑事裁判の目的、構造、手続、冤罪の原因とその防止策
13回	刑罰制度の仕組みと現状についての講義をする。 [内容] 刑罰の本質、刑罰の種類、死刑および刑務所の実情と問題点
14回	民事裁判の仕組みと現状についての講義をする。 [内容] 民事裁判の目的、構造、手続、少額訴訟
15回	司法制度へのアクセス (利用方法) についての講義をする。 [内容] 法律家 (法曹3者) について、日本司法支援制度 (法テラス)、国選弁護士制度、当番弁護士制度
16回	最終評価試験を行い、その後試験の解説と全体の総括をする。

回数	準備学習
1回	このシラバスを熟読し、授業内容全体を確認すること。初回の授業で講義の進め方と履修上の注意などを説明するので必ず参加すること (やむを得ず初回授業に出られなかった場合、次回授業までに必ず担当教員に申し出ること)。初回の授業までに各自でなぜこの授業を履修し、この授業を通して何を学ぶのかについて考えてから初回の授業に臨むこと (標準学習時間60分)
2回	第1回の授業内容である法の特徴を正確に理解し、復習しておくこと。購入した自分の六法の中身を見ておくこと。(例えば、どんな法令が幾つ収録されているか? 国語や英語の辞書と違う点は何か? など) ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	第1回および第2回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第2回の授業で教えた六法の基本的な使い方、条文の構造、表記の仕方などについてきちんと復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	第3回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第3回の授業内容の法の体系について、法の種類と関係を正確に理解し、復習しておくこと (授業で示した体系図がすぐに思い出せるようにしておくこと)。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	第4回の確認プリントをやって、次回に提出すること。第4回の授業内容の法の内容による分類について正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	第5回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第5回の授業内容の法の効力について正確に理解し、復習しておくこと (特に法の遡及効や、無効と取消しの違いなど)。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	第6回の授業内容の確認プリントをやって、次回に提出すること。第6回の授業内容の法の適用について正確に理解し、復習しておくこと (特に事実認定の必要性・重要性など)。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	第7回の授業内容の法の解釈について正確に理解し、復習しておくこと (解釈の種類と具体例をセットで覚えておくこと)。また、中間テストを行うので、第1回から第7回までの内容を復習し

	ておくこと。(標準学習時間180分)
9回	各自でインターネットで最高裁判所のHPを探して、裁判所の組織などを観ておくこと。また、現在の最高裁判所長官が誰なのか、その氏名を調べておくこと。(標準学習時間60分)
10回	第9回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。裁判所のHPで裁判員制度および検察審査会の概要について、あらかじめ各自で調べておくこと(標準学習時間120分)
11回	第10回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	第11回の模擬裁判員体験授業で出てきた刑事裁判の判定方法について復習しておくこと。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
13回	第12回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
14回	第13回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
15回	第14回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
16回	第15回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第9回から第15回までの授業内容を復習しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	学生の皆さんにとって法とか裁判というと、何だか難しそうで自分とは関わりのないもののように思われるかもしれない。しかし、私たちは既に法がとりまく社会の中で生活していて、将来、法や裁判に関わらざるを得ないことになるかもしれない。そうであるなら、一般市民として必要な法や裁判に関する知識や考え方を身につけておくことは自身にとっても有益なことであるし、また一般市民が法や裁判に関心を持つことは司法制度の向上にも必要不可欠であるといえる。この授業では、そのような法や裁判についての基本的な知識や考え方を具体的な事例や裁判例を交えて分かりやすく解説し、法や裁判に関する問題点について一緒に考えてもらうことを目的とする。また初めて法学を勉強する者のための学習のコツなども適宜教えたいと思っている。(教養教育センターの到達目標の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	(1) 法および司法制度に関する基礎的知識と基本的な考え方を習得し、正しく説明することができる(知識・理解)。 (2) 六法を使って関連する法令の必要な条文が検索できる(知識・理解)。 (3) 法および司法制度にまつわる諸問題について、問題点を正確に把握したうえで、自身の考えを適切に表明できる(知識・理解、思考・判断・表現)。 4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	法、司法、法律家、裁判、裁判員制度、その他授業内容の項目に挙げられている用語を参照。
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	授業確認プリント[計12回:30%](達成目標1~2を確認)+授業内小テスト・レポート[計3回:20%](到達目標1~3を確認)+中間テストおよび最終評価試験[各25%:計50%](到達目標1~3を確認)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	ポケット六法平成31年版 / 宇賀克也・佐伯仁志(編集代表) / 有斐閣 / ISBN 978-4-641-00919-6 (書き込み等がないものであれば、同六法の平成30年版でも可)
関連科目	日本国憲法
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	B3号館4階佐藤研究室(オフィスアワーについてはマイログを参照のこと) 連絡については直接・口頭主義を原則とする。
授業の運営方針	(1) 指定の六法を必ず毎回持参すること。六法を忘れたときは、授業前に必ず申し出て、指示を受けること(事前に図書館で借りてきた場合も同様)。無断で六法なしで受講しないこと。 (2) テキストとしての教科書は使用しないが、代わりに授業で用いるスライドのPDF(レジュメ)を授業用ブログに事前にアップしておくので、各自でプリントアウトしたりノートに書き写すなどして予習に使い、授業当日に持参すること。ブログのアドレス等について詳しくは初回の授業時に説明するので必ず参加すること。 (3) 復習用の授業確認プリントを次回の授業時までにはやってきてもらい提出してもらう。これも各自で授業用ブログからダウンロード・プリントアウトし、自筆で記入し提出すること。 (4) 授業中の録音・録画・撮影は認めない(電子機器の使用禁止)。ただし特別の理由がある場合には、事前に相談すること。 (5) (大学の定める自己都合によらない遅刻・欠席および忌引以外の)遅刻・欠席による不利益についてはフォローしないものとする(ただし事前に分かっている場合には相談に応じる)。
アクティブ・ラーニング	(1) ビデオを用いた模擬裁判員(陪審員)の体験授業を行う(時間的に余裕があれば、それに基づいた評議(ディスカッション)も行う)。 (2) 授業内容によっては、授業中に説明や意見を求めるなど、双方向授業を行う。 (3) 授業内容によっては、授業準備として事前に裁判所HPなどで基本的事項について各自で主体的に調べてきてもらう。 (4) 授業内容の理解を深めるため、授業確認プリントを次回までにやってきてもらう。
課題に対するフィード	小テストについては採点の後、返却し、訂正・復習をしてもらったうえで再提出してもらう(再提

バック	出までして成績評価に加える)。 授業確認プリントおよび授業内レポートについては、後日、解答・解説をアップする。中間・最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	(1) 履修希望者はこのシラバスをきちんと読んだうえで、必ず初回の授業に参加すること。やむを得ず初回の授業に出られなかった場合は、必ず2回目の授業までに担当教員に直接申し出ること。 (2) 上記「準備学習」「授業の運営方針」の項目にあるように、教員からの配布物はすべて各自でダウンロード・プリントアウトしてもらおうので(ただしテストを除く)、大学の設備などが利用できるようにしておくこと。 (3) テスト・プリント等の提出物において授業名、担当教員名が正しく記入されていないものについては、評価対象外とすることがあるので気をつけること。 (4) 新聞・ニュースをかかさずチェックし、実際の社会で起きている出来事や事件・裁判などに関心を持つようにすること。

科目名	法学 (FB201830)
英文科目名	Law
担当教員名	佐藤元治 (さとうもとはる)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	法とは何かについての講義をする。 [内容] 社会規範としての法、法と道德の違い
2回	六法の使い方についての説明をする。 [内容] 六法とは?、六法の構造と使い方、条文の構造、条文の表記の仕方
3回	法の体系についての講義をする。 [内容] 法の存在形式による分類、成文法主義、成文法の体系
4回	法の分類についての講義をする。 [内容] 法の内容による分類 (公法と私法、一般法と特別法など)
5回	法の効力についての講義をする。 [内容] 法の効力とは?、法の始期と終期、法の遡及効、無効と取消
6回	法の適用についての講義をする。 [内容] 法の適用とは?、事実認定の必要性和重要性
7回	法の解釈 についての講義をする。 [内容] 文理解釈、論理 (目的) 解釈
8回	これまでの授業内容の中間テストをし、その後、テストの解説およびこれまでの授業の総括をする。
9回	司法制度についての概説の講義をする。 [内容] 裁判所の種類と関係、三審制度
10回	国民の司法参加についての講義をする。 [内容] 諸外国の国民の司法参加の種類 (陪審制、参審制)、日本の裁判員制度とその問題点、検察審査会
11回	模擬裁判員 (陪審員) 体験授業を行い、裁判のルールに従った自身の判定について授業内レポートを作成する。
12回	刑事裁判の仕組みと現状についての講義をする。 [内容] 刑事裁判の目的、構造、手続、冤罪の原因とその防止策
13回	刑罰制度の仕組みと現状についての講義をする。 [内容] 刑罰の本質、刑罰の種類、死刑および刑務所の実情と問題点
14回	民事裁判の仕組みと現状についての講義をする。 [内容] 民事裁判の目的、構造、手続、少額訴訟
15回	司法制度へのアクセス (利用方法) についての講義をする。 [内容] 法律家 (法曹3者) について、日本司法支援制度 (法テラス)、国選弁護士制度、当番弁護士制度
16回	最終評価試験を行い、その後試験の解説と全体の総括をする。

回数	準備学習
1回	このシラバスを熟読し、授業内容全体を確認すること。初回の授業で講義の進め方と履修上の注意などを説明するので必ず参加すること (やむを得ず初回授業に出られなかった場合、次回授業までに必ず担当教員に申し出ること)。初回の授業までに各自でなぜこの授業を履修し、この授業を通して何を学ぶのかについて考えてから初回の授業に臨むこと (標準学習時間60分)
2回	第1回の授業内容である法の特徴を正確に理解し、復習しておくこと。購入した自分の六法の中身を見ておくこと。(例えば、どんな法令が幾つ収録されているか? 国語や英語の辞書と違う点は何か? など) ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	第1回および第2回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第2回の授業で教えた六法の基本的な使い方、条文の構造、表記の仕方などについてきちんと復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	第3回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第3回の授業内容の法の体系について、法の種類と関係を正確に理解し、復習しておくこと (授業で示した体系図がすぐに思い出せるようにしておくこと)。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	第4回の確認プリントをやって、次回に提出すること。第4回の授業内容の法の内容による分類について正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	第5回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第5回の授業内容の法の効力について正確に理解し、復習しておくこと (特に法の遡及効や、無効と取消しの違いなど)。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	第6回の授業内容の確認プリントをやって、次回に提出すること。第6回の授業内容の法の適用について正確に理解し、復習しておくこと (特に事実認定の必要性・重要性など)。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	第7回の授業内容の法の解釈について正確に理解し、復習しておくこと (解釈の種類と具体例をセットで覚えておくこと)。また、中間テストを行うので、第1回から第7回までの内容を復習し

	ておくこと。(標準学習時間180分)
9回	各自でインターネットで最高裁判所のHPを探して、裁判所の組織などを観ておくこと。また、現在の最高裁判所長官が誰なのか、その氏名を調べておくこと。(標準学習時間60分)
10回	第9回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。裁判所のHPで裁判員制度および検察審査会の概要について、あらかじめ各自で調べておくこと(標準学習時間120分)
11回	第10回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	第11回の模擬裁判員体験授業で出てきた刑事裁判の判定方法について復習しておくこと。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
13回	第12回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
14回	第13回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
15回	第14回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
16回	第15回の授業の確認プリントをやって、次回に提出すること。第9回から第15回までの授業内容を復習しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	学生の皆さんにとって法とか裁判というと、何だか難しそうで自分とは関わりのないもののように思われるかもしれない。しかし、私たちは既に法がとりまく社会の中で生活していて、将来、法や裁判に関わらざるを得ないことになるかもしれない。そうであるなら、一般市民として必要な法や裁判に関する知識や考え方を身につけておくことは自身にとっても有益なことであるし、また一般市民が法や裁判に関心を持つことは司法制度の向上にも必要不可欠であるといえる。この授業では、そのような法や裁判についての基本的な知識や考え方を具体的な事例や裁判例を交えて分かりやすく解説し、法や裁判に関する問題点について一緒に考えてもらうことを目的とする。また初めて法学を勉強する者のための学習のコツなども適宜教えたいと思っている。(教養教育センターの到達目標の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	(1) 法および司法制度に関する基礎的知識と基本的な考え方を習得し、正しく説明することができる(知識・理解)。 (2) 六法を使って関連する法令の必要な条文が検索できる(知識・理解)。 (3) 法および司法制度にまつわる諸問題について、問題点を正確に把握したうえで、自身の考えを適切に表明できる(知識・理解、思考・判断・表現)。 4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	法、司法、法律家、裁判、裁判員制度、その他授業内容の項目に挙げられている用語を参照。
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	授業確認プリント[計12回:30%](達成目標1~2を確認)+授業内小テスト・レポート[計3回:20%](到達目標1~3を確認)+中間テストおよび最終評価試験[各25%:計50%](到達目標1~3を確認)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	ポケット六法平成31年版 / 宇賀克也・佐伯仁志(編集代表) / 有斐閣 / ISBN 978-4-641-00919-6 (書き込み等がないものであれば、同六法の平成30年版でも可)
関連科目	日本国憲法
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	B3号館4階佐藤研究室(オフィスアワーについてはマイログを参照のこと) 連絡については直接・口頭主義を原則とする。
授業の運営方針	(1) 指定の六法を必ず毎回持参すること。六法を忘れたときは、授業前に必ず申し出て、指示を受けること(事前に図書館で借りてきた場合も同様)。無断で六法なしで受講しないこと。 (2) テキストとしての教科書は使用しないが、代わりに授業で用いるスライドのPDF(レジュメ)を授業用ブログに事前にアップしておくので、各自でプリントアウトしたりノートに書き写すなどして予習に使い、授業当日に持参すること。ブログのアドレス等については初回の授業時に説明するので必ず参加すること。 (3) 復習用の授業確認プリントを次回の授業時までにはやってきてもらい提出してもらおう。これも各自で授業用ブログからダウンロード・プリントアウトし、自筆で記入し提出すること。 (4) 授業中の録音・録画・撮影は認めない(電子機器の使用禁止)。ただし特別の理由がある場合には、事前に相談すること。 (5) (大学の定める自己都合によらない遅刻・欠席および忌引以外の)遅刻・欠席による不利益についてはフォローしないものとする(ただし事前に分かっている場合には相談に応じる)。
アクティブ・ラーニング	(1) ビデオを用いた模擬裁判員(陪審員)の体験授業を行う(時間的に余裕があれば、それに基づいた評議(ディスカッション)も行う)。 (2) 授業内容によっては、授業中に説明や意見を求めるなど、双方向授業を行う。 (3) 授業内容によっては、授業準備として事前に裁判所HPなどで基本的事項について各自で主体的に調べてきてもらう。 (4) 授業内容の理解を深めるため、授業確認プリントを次回までにやってきてもらう。
課題に対するフィード	小テストについては採点の後、返却し、訂正・復習をしてもらったうえで再提出してもらう(再提

バック	出までして成績評価に加える)。 授業確認プリントおよび授業内レポートについては、後日、解答・解説をアップする。中間・最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	(1)履修希望者はこのシラバスをきちんと読んだうえで、必ず初回の授業に参加すること。やむを得ず初回の授業に出られなかった場合は、必ず2回目の授業までに担当教員に直接申し出ること。 (2)上記「準備学習」「授業の運営方針」の項目にあるように、教員からの配布物はすべて各自でダウンロード・プリントアウトしてもらおうので(ただしテストを除く)、大学の設備などが利用できるようにしておくこと。 (3)テスト・プリント等の提出物において授業名、担当教員名が正しく記入されていないものについては、評価対象外とすることがあるので気をつけること。 (4)新聞・ニュースをかかさずチェックし、実際の社会で起きている出来事や事件・裁判などに関心を持つようにすること。

科目名	論理学 (FB201900)
英文科目名	Logic
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、論理学というのがどのような学問であるのかという概要を説明する。
2回	論理とは何かを説明した後、命題や命題の真・偽について説明する。そのうえで、理解度を確認するための練習問題を解く。
3回	否定とは何かを説明した後、矛盾律・排中律、「かつ」と「または」の用法、ド・モルガンの法則について説明する。そのうえで、理解度を確認するための練習問題を解く。
4回	条件文とは何かを説明した後、必要条件・十分条件、同値について説明する。そのうえで、理解度を確認するための練習問題を解く。
5回	「逆」「裏」「対偶」といった概念について説明した後、推論 (演繹・帰納・仮説形成) について説明する。そのうえで、理解度を確認するための練習問題を解く。
6回	命題論理とは何かを説明する。そのうえで、理解度を確認するための練習問題を解く。
7回	述語論理とは何かを説明する。そのうえで、理解度を確認するための練習問題を解く。
8回	前半に中間評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。
9回	後半の授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、東洋の論理学というのがどのようなものであるのかという概要を説明する。
10回	『チャラカ・サンヒター』や『ニヤーヤ・スートラ』に見られる論理学説を説明する。そのうえで、理解度を確認するための練習問題を解く。
11回	ナーガールジュナの帰謬法を説明する。そのうえで、理解度を確認するための練習問題を解く。
12回	ディグナーガの論理学を説明する。そのうえで、理解度を確認するための練習問題を解く。
13回	ダルマキールティの論理学を説明する。そのうえで、理解度を確認するための練習問題を解く。
14回	公孫竜や墨家集団の唯名論的思想を説明する。そのうえで、理解度を確認するための練習問題を解く。
15回	荀子の実念論的思想を説明する。そのうえで、理解度を確認するための練習問題を解く。
16回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1回	「論理」とは何か、「論理学」とはどのような学問であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
2回	命題や命題の真・偽について、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
3回	論理学における否定、矛盾律と排中律、ド・モルガンの法則について、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
4回	必要条件、十分条件、同値について、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
5回	「逆」「裏」「対偶」といった概念、演繹、帰納、仮説形成について、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
6回	命題論理とはどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
7回	述語論理とはどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
8回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)
9回	東洋の論理学とはどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
10回	インドの医学書『チャラカ・サンヒター』、ニヤーヤ学派の根本経典『ニヤーヤ・スートラ』とはどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
11回	ナーガールジュナとはどのような人物であり、どのような著作があるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
12回	ディグナーガとはどのような人物であり、どのような著作があるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
13回	ダルマキールティとはどのような人物であり、どのような著作があるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
14回	公孫竜とはどのような人物であり、墨家とはどのような集団であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
15回	荀子とはどのような人物であり、どのような著作があるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
16回	第9回～第15回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。

講義目的	論理学という学問の初歩をひと通り理解し、その知識を身につけたうえで、他のすべての学問を学ぶ際や日常生活においても、正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連しており、以下の2点を達成目標としている。 論理学の学習に最低限必要な知識を身につけ、論理学の概要を説明することができる。(A) 論理的な知識に基づいて思考し、物事を考えるうえで適切な判断を下すことができる。(B)
キーワード	論理、述語論理、命題論理、インド論理学、仏教論理学、名実論争
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業時間内の試験：練習問題への取り組み 評価割合60%、中間評価試験 評価割合20%、最終評価試験 評価割合20%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「哲学」と関連しています。論理学をさらに深く理解したい学生は「哲学」を受講して下さい。
参考書	野矢茂樹『入門！ 論理学』（中公新書） 仲島ひとみ『それゆけ！ 論理さん』（筑摩書房） 野矢茂樹『論理学』（東京大学出版会） 桂紹隆『インド人の論理学』（中公新書） 加地伸行『中国人の論理学』（ちくま学芸文庫）
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はパワーポイントを使用して講義を行う。 ・練習問題はプリントを配布し、授業内で解答・解説を行う。 ・授業時間中の私語は厳禁で、場合によっては、成績評価の対象から外すこともある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・練習問題の解答と解説を授業内に行う。 ・中間・最終評価試験の模範解答と解説は、各テスト後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	論理学 (FB201910)
英文科目名	Logic
担当教員名	堀田和義 (ほったかずよし)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、論理学というのがどのような学問であるのかという概要を説明する。
2回	論理とは何かを説明した後、命題や命題の真・偽について説明する。そのうえで、理解度を確認するための練習問題を解く。
3回	否定とは何かを説明した後、矛盾律・排中律、「かつ」と「または」の用法、ド・モルガンの法則について説明する。そのうえで、理解度を確認するための練習問題を解く。
4回	条件文とは何かを説明した後、必要条件・十分条件、同値について説明する。そのうえで、理解度を確認するための練習問題を解く。
5回	「逆」「裏」「対偶」といった概念について説明した後、推論 (演繹・帰納・仮説形成) について説明する。そのうえで、理解度を確認するための練習問題を解く。
6回	命題論理とは何かを説明する。そのうえで、理解度を確認するための練習問題を解く。
7回	述語論理とは何かを説明する。そのうえで、理解度を確認するための練習問題を解く。
8回	前半に中間評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。
9回	後半の授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。そのうえで、東洋の論理学というのがどのようなものであるのかという概要を説明する。
10回	『チャラカ・サンヒター』や『ニヤーヤ・スートラ』に見られる論理学説を説明する。そのうえで、理解度を確認するための練習問題を解く。
11回	ナーガールジュナの帰謬法を説明する。そのうえで、理解度を確認するための練習問題を解く。
12回	ディグナーガの論理学を説明する。そのうえで、理解度を確認するための練習問題を解く。
13回	ダルマキールティの論理学を説明する。そのうえで、理解度を確認するための練習問題を解く。
14回	公孫竜や墨家集団の唯名論的思想を説明する。そのうえで、理解度を確認するための練習問題を解く。
15回	荀子の実念論的思想を説明する。そのうえで、理解度を確認するための練習問題を解く。
16回	前半に最終評価試験を行い、後半に試験の解答と解説を行う。

回数	準備学習
1回	「論理」とは何か、「論理学」とはどのような学問であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
2回	命題や命題の真・偽について、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
3回	論理学における否定、矛盾律と排中律、ド・モルガンの法則について、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
4回	必要条件、十分条件、同値について、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
5回	「逆」「裏」「対偶」といった概念、演繹、帰納、仮説形成について、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
6回	命題論理とはどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
7回	述語論理とはどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
8回	第1回～第7回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。(標準学習時間 180分)
9回	東洋の論理学とはどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
10回	インドの医学書『チャラカ・サンヒター』、ニヤーヤ学派の根本経典『ニヤーヤ・スートラ』とはどのようなものであるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
11回	ナーガールジュナとはどのような人物であり、どのような著作があるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
12回	ディグナーガとはどのような人物であり、どのような著作があるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
13回	ダルマキールティとはどのような人物であり、どのような著作があるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
14回	公孫竜とはどのような人物であり、墨家とはどのような集団であるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
15回	荀子とはどのような人物であり、どのような著作があるのかを、自分なりに調べておくこと。(標準学習時間 90分)
16回	第9回～第15回までの授業で学習した内容をきちんと復習しておくこと。

講義目的	論理学という学問の初歩をひと通り理解し、その知識を身につけたうえで、他のすべての学問を学ぶ際や日常生活においても、正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連している。
達成目標	本講義は、4領域の項目の「思考・判断・表現」ともっとも強く関連しており、以下の2点を達成目標としている。 論理学の学習に最低限必要な知識を身につけ、論理学の概要を説明することができる。(A) 論理的な知識に基づいて思考し、物事を考えるうえで適切な判断を下すことができる。(B)
キーワード	論理、述語論理、命題論理、インド論理学、仏教論理学、名実論争
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	授業時間内の試験：練習問題への取り組み 評価割合60%、中間評価試験 評価割合20%、最終評価試験 評価割合20%により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	指定しない。
関連科目	「哲学」と関連しています。論理学をさらに深く理解したい学生は「哲学」を受講して下さい。
参考書	野矢茂樹『入門！ 論理学』（中公新書） 仲島ひとみ『それゆけ！ 論理さん』（筑摩書房） 野矢茂樹『論理学』（東京大学出版会） 桂紹隆『インド人の論理学』（中公新書） 加地伸行『中国人の論理学』（ちくま学芸文庫）
連絡先	研究室 C4号館1階 堀田研究室 直通電話 086-256-9660 E-mail: k_hotta@mech.ous.ac.jp オフィスアワー 水曜日3時限、木曜日昼休み
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はパワーポイントを使用して講義を行う。 ・練習問題はプリントを配布し、授業内で解答・解説を行う。 ・授業時間中の私語は厳禁で、場合によっては、成績評価の対象から外すこともある。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・練習問題の解答と解説を授業内に行う。 ・中間・最終評価試験の模範解答と解説は、各テスト後に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	経済学 (FB202000)
英文科目名	Economics
担当教員名	横尾昌紀* (よこおまさのり*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	経済学の概要とゲーム理論の関係について
2回	囚人のジレンマ
3回	戦略形ゲームとナッシュ均衡 (標準学習時間40分)
4回	戦略形ゲームの応用例: 価格競争, 家事の分担, OSの選択等
5回	混合戦略のナッシュ均衡: ジャンケンの「必勝法」
6回	展開形ゲームと部分ゲーム完全均衡
7回	展開形ゲームの応用例(1): 参入阻止ゲーム, ネズミ講, チェインストアパラドクス
8回	まとめ. 中間試験.
9回	展開形ゲームと戦略形ゲームの関係について
10回	展開形ゲームの応用例(2): 「裁量かルールか?」あるいは「なぜ大学のシラバスが必要なのか?」
11回	非対称情報ゲームと完全ベイジアン均衡
12回	労働市場の分析(1): エイジェンシー問題, あるいは「なぜブラック企業が跋扈するのか?」
13回	労働市場の分析: シグナリングゲーム, あるいは「あなたはなぜ大学へ行くのか?」
14回	進化と合理性
15回	レプリケータダイナミクスと進化的安定戦略
16回	まとめ 最終評価試験

回数	準備学習
1回	教科書の第1章を授業の前か後に読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
2回	教科書の第2章と第5章の最初の節を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
3回	教科書の第3章と4章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
4回	教科書の第3章と4章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
5回	教科書の第4章と5章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
6回	教科書の第6章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
7回	教科書の第6章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
8回	いままでのところを復習してください。 (標準学習時間40分)
9回	教科書の第6章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
10回	配布した資料を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
11回	教科書の第8章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
12回	教科書の第8章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
13回	教科書の第8章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
14回	教科書の第11章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
15回	教科書の第11章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
16回	全体の復習をしておいてください。

	(標準学習時間 40分)
講義目的	現代の経済学のひとつの基礎を成す理論であるゲーム理論の基礎的部分を講義します。人々の意思決定が相互に依存している状況、すなわち、駆け引きのある状況を「戦略的状況」と呼びます。ゲーム理論はそのような状況をシステムティックに分析するために開発された比較的新しい学問分野です。このゲーム理論の学習を通じて、「戦略的思考」を身につけることを目的とします。(教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・戦略形表現のゲームの構造を理解する。 ・簡単な戦略形ゲームにおける純粋戦略のナッシュ均衡を求める。 ・簡単な戦略形ゲームにおける混合戦略のナッシュ均衡を求める。 ・展開形表現のゲームの構造を理解する。 ・簡単な展開形ゲームにおける部分ゲーム完全均衡を求める。 4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	経済学, 戦略, 戦略的状況, 戦略的思考, ゲーム理論, ナッシュ均衡, 部分ゲーム完全均衡。
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	課題提出(20%), 中間試験(20%), 最終評価試験(60%)
教科書	ゲーム理論・入門/岡田章著/有斐閣アルマ/9784641123625
関連科目	社会と人間
参考書	『ゲーム理論 ワークブック』, 岡田章他, 有斐閣
連絡先	電子メール: yokoo@e.okayama-u.ac.jp
授業の運営方針	講義形式で行います。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	下の注意事項を参照ください。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	ポータルサイト 共有スペース 学部共通 「経済学(横尾)後期」のフォルダーに過去の試験問題や演習問題が入っていますので、必ず確認してください。

科目名	経済学 (FB202010)
英文科目名	Economics
担当教員名	山下賢二* (やましたけんじ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	経済学とは何かについての概要を講義する。
2回	ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。 特に消費者行動の原則と効用の概念について講義する。
3回	ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。 特に効用関数について講義する。
4回	ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。 特に無差別曲線について講義する。
5回	ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。 特に最適消費点の導出について講義する。
6回	ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。 特に最適消費点を解析的に求める方法について講義する。
7回	ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。 特に所得消費曲線、需要曲線、補償需要曲線について講義する。
8回	1～7回分の講義のまとめを行う。 中間試験を行う。
9回	ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。 特に企業行動の原則と生産関数について講義する。
10回	ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。 特に生産関数と等量曲線の関係について講義する。
11回	ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。 特に生産関数と費用関数の関係について講義する。
12回	ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。 特にS字型短期費用関数を用いた損益分岐点、操業停止点の導出について講義する。
13回	ミクロ経済理論のうち市場の理論について講義する。 特に完全競争市場、独占市場、厚生分析について講義する。
14回	ミクロ経済理論のうち市場の理論について講義する。 特に独占市場について講義する。
15回	マクロ経済理論の基礎を講義する。 特に短期と長期の違いを強調する。
16回	9～15回分の講義のまとめを行う。 最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	新聞などから経済ニュースを読んでおくこと (内容は何でもよい。) (標準学習時間60分)
2回	1. 微分の復習をしておくこと 2. 第1回目の講義で指示したホームページから資料をダウンロードしておくこと (標準学習時間60分)

3回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間60分)
4回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間60分)
5回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間60分)
6回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間60分)
7回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間60分)
8回	すべての講義を復習しておくこと (標準学習時間120分)
9回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間60分)
10回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間60分)
11回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間60分)
12回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間60分)
13回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間60分)
14回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間60分)
15回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間60分)
16回	9～15回分の講義の復習を行うこと (標準学習時間120分)

講義目的	経済現象は日々変化しており、その把握は経済理論の助けなしでは困難なものがある。本講義では、経済現象に対する科学的・論理的な冷静なる視点を養うことを目的として、若干の数学を用いながら、経済理論の最も基本的な部分を講義する。主として、個々の経済主体や個々の市場の経済行動を取り扱うミクロ経済理論について講義するが、国レベルでの経済行動を取り扱うマクロ経済理論についても講義する。 (教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	・基本的な経済理論を理解できる ・様々な経済問題を科学的・論理的に把握できる 4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	ミクロ経済学・マクロ経済学・家計・企業・政府・消費・投資・市場・国民所得・経済政策
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	中間試験+最終評価試験(100%) 内訳: 中間試験50%、最終評価試験50%
教科書	1からの経済学/中谷武・中村保編著/碩学舎/中央経済社/9784502680809 プリント(ホームページからダウンロード。URLは第1回目の講義で指示する。)
関連科目	ミクロ経済学・マクロ経済学
参考書	
連絡先	岡山商科大学経済学部 山下賢二研究室 kenyamashi ta@po.osu.ac.jp
授業の運営方針	プリントを中心に進めていく。 試験は中間試験(経済学Aにあたる部分)、期末試験(経済学Bにあたる部分)を各50%ずつで評価する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	年度最後の追再試験終了後に模範解答・解説(プリント当該箇所指示)をWeb上に上げる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	

その他（注意・備考）	講義では、微分（偏微分・全微分含む）を多用する。高校で微分を既に学んでいることが望ましい。そうでない場合は各自で初等的な「微分積分」の科目を受講するなりすることを勧める。 試験はクォータ制のもとでの試験期間中に行い、試験形態は筆記試験とする。
------------	--

科目名	経済学 (FB202020)
英文科目名	Economics
担当教員名	横尾昌紀* (よこおまさのり*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	経済学の概要とゲーム理論の関係について
2回	囚人のジレンマ
3回	戦略形ゲームとナッシュ均衡 (標準学習時間40分)
4回	戦略形ゲームの応用例: 価格競争, 家事の分担, OSの選択等
5回	混合戦略のナッシュ均衡: ジャンケンの「必勝法」
6回	展開形ゲームと部分ゲーム完全均衡
7回	展開形ゲームの応用例(1): 参入阻止ゲーム, ネズミ講, チェインストアパラドクス
8回	まとめ. 中間試験.
9回	展開形ゲームと戦略形ゲームの関係について
10回	展開形ゲームの応用例(2): 「裁量かルールか?」あるいは「なぜ大学のシラバスが必要なのか?」
11回	非対称情報ゲームと完全ベイジアン均衡
12回	労働市場の分析(1): エイジェンシー問題, あるいは「なぜブラック企業が跋扈するのか?」
13回	労働市場の分析: シグナリングゲーム, あるいは「あなたはなぜ大学へ行くのか?」
14回	進化と合理性
15回	レプリケータダイナミクスと進化的安定戦略
16回	まとめ 最終評価試験

回数	準備学習
1回	教科書の第1章を授業の前か後に読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
2回	教科書の第2章と第5章の最初の節を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
3回	教科書の第3章と4章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
4回	教科書の第3章と4章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
5回	教科書の第4章と5章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
6回	教科書の第6章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
7回	教科書の第6章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
8回	いままでのところを復習してください。 (標準学習時間40分)
9回	教科書の第6章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
10回	配布した資料を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
11回	教科書の第8章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
12回	教科書の第8章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
13回	教科書の第8章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
14回	教科書の第11章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
15回	教科書の第11章を読んでおいてください。 (標準学習時間40分)
16回	全体の復習をしておいてください。

	(標準学習時間 40分)
講義目的	現代の経済学のひとつの基礎を成す理論であるゲーム理論の基礎的部分を講義します。人々の意思決定が相互に依存している状況、すなわち、駆け引きのある状況を「戦略的状況」と呼びます。ゲーム理論はそのような状況をシステムティックに分析するために開発された比較的新しい学問分野です。このゲーム理論の学習を通じて、「戦略的思考」を身につけることを目的とします。(教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・戦略形表現のゲームの構造を理解する。 ・簡単な戦略形ゲームにおける純粋戦略のナッシュ均衡を求める。 ・簡単な戦略形ゲームにおける混合戦略のナッシュ均衡を求める。 ・展開形表現のゲームの構造を理解する。 ・簡単な展開形ゲームにおける部分ゲーム完全均衡を求める。 4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	経済学, 戦略, 戦略的状況, 戦略的思考, ゲーム理論, ナッシュ均衡, 部分ゲーム完全均衡.
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	課題提出(20%), 中間試験(20%), 最終評価試験(60%)
教科書	ゲーム理論・入門/岡田章著/有斐閣アルマ/9784641123625
関連科目	社会と人間
参考書	『ゲーム理論 ワークブック』, 岡田章他, 有斐閣
連絡先	電子メール: yokoo@e.okayama-u.ac.jp
授業の運営方針	講義形式で行います。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	下の注意事項を参照ください。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	ポータルサイト 共有スペース 学部共通 「経済学(横尾)後期」のフォルダーに過去の試験問題や演習問題が入っていますので、必ず確認してください。

科目名	経済学 (FB202030)
英文科目名	Economics
担当教員名	山下賢二* (やましたけんじ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	経済学とは何かについての概要を講義する。
2回	ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。 特に消費者行動の原則と効用の概念について講義する。
3回	ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。 特に効用関数について講義する。
4回	ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。 特に無差別曲線について講義する。
5回	ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。 特に最適消費点の導出について講義する。
6回	ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。 特に最適消費点を解析的に求める方法について講義する。
7回	ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。 特に所得消費曲線、需要曲線、補償需要曲線について講義する。
8回	1～7回分の講義のまとめを行う。 中間試験を行う。
9回	ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。 特に企業行動の原則と生産関数について講義する。
10回	ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。 特に生産関数と等量曲線の関係について講義する。
11回	ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。 特に生産関数と費用関数の関係について講義する。
12回	ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。 特にS字型短期費用関数を用いた損益分岐点、操業停止点の導出について講義する。
13回	ミクロ経済理論のうち市場の理論について講義する。 特に完全競争市場、独占市場、厚生分析について講義する。
14回	ミクロ経済理論のうち市場の理論について講義する。 特に独占市場について講義する。
15回	マクロ経済理論の基礎を講義する。 特に短期と長期の違いを強調する。
16回	9～15回分の講義のまとめを行う。 最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	新聞などから経済ニュースを読んでおくこと (内容は何でもよい。) (標準学習時間60分)
2回	1. 微分の復習をしておくこと 2. 第1回目の講義で指示したホームページから資料をダウンロードしておくこと (標準学習時間60分)

3回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間60分)
4回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間60分)
5回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間60分)
6回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間60分)
7回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間60分)
8回	すべての講義を復習しておくこと (標準学習時間120分)
9回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間60分)
10回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間60分)
11回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間60分)
12回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間60分)
13回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間60分)
14回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間60分)
15回	前回の講義を復習しておくこと (標準学習時間60分)
16回	9～15回分の講義の復習を行うこと (標準学習時間120分)

講義目的	経済現象は日々変化しており、その把握は経済理論の助けなしでは困難なものがある。本講義では、経済現象に対する科学的・論理的な冷静なる視点を養うことを目的として、若干の数学を用いながら、経済理論の最も基本的な部分を講義する。主として、個々の経済主体や個々の市場の経済行動を取り扱うミクロ経済理論について講義するが、国レベルでの経済行動を取り扱うマクロ経済理論についても講義する。 (教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	・基本的な経済理論を理解できる ・様々な経済問題を科学的・論理的に把握できる 4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	ミクロ経済学・マクロ経済学・家計・企業・政府・消費・投資・市場・国民所得・経済政策
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	中間試験+最終評価試験(100%) 内訳:中間試験50%、最終評価試験50%
教科書	1からの経済学/中谷武・中村保編著/碩学舎/中央経済社/9784502680809 プリント(ホームページからダウンロード。URLは第1回目の講義で指示する。)
関連科目	ミクロ経済学・マクロ経済学
参考書	
連絡先	岡山商科大学経済学部 山下賢二研究室 kenyamashi ta@po.osu.ac.jp
授業の運営方針	プリントを中心に進めていく。 試験は中間試験(経済学Aにあたる部分)、期末試験(経済学Bにあたる部分)を各50%ずつで評価する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	年度最後の追再試験終了後に模範解答・解説(プリント当該箇所指示)をWeb上に上げる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。

実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	講義では、微分（偏微分・全微分含む）を多用する。高校で微分を既に学んでいることが望ましい。そうでない場合は各自で初等的な「微分積分」の科目を受講するなりすることを勧める。 試験はクォータ制のもとでの試験期間中に行い、試験形態は筆記試験とする。

科目名	国際関係論 (FB202100)
英文科目名	Approaches to Transnational Relations
担当教員名	玉井良尚* (たまいよしなお*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション「国際関係理論とは?」: 国際政治の理解に必要な一般的諸理論について紹介する。
2回	国際政治のアクター1「主権国家」: 国際政治の基本アクターである「国家」の歴史的展開について説明する。
3回	国際政治のアクター2「国際連合」: 国際連合の国際政治における意義と役割について説明する。
4回	国際政治のアクター3「世界銀行とIMF」: 20世紀から今日までの国際経済金融体制の歴史とともに、当該体制における世界銀行とIMFの役割について説明する。
5回	国際政治のアクター4「EU」: 20世紀後半、地域統合の模範とされたEUの歴史とともに、今日起きているその諸問題についても説明する。
6回	国際政治のアクター5「NGOとCSO(市民社会組織)」: 今日、国際社会において大きな役割を果たすようになったNGOの意義について、1970~1980年代の東西冷戦終結プロセスをもとに説明する。
7回	国際政治のアクター6「企業とCSR(企業の社会的責任)」: グローバル経済化した今日における企業の責任について、国連グローバル・コンパクト成立の観点から説明する。
8回	ここまでの講義内容について中間的な評価をするための試験を実施する。 試験のフィードバックとして、試験内容の解説を行う。
9回	国際政治と問題領域1「国家の安全保障」: 国家安全保障が軍事や経済など伝統的領域だけでなく、今日、情報や技術など様々な領域へと拡大している現状について説明する。
10回	国際政治と問題領域2「人間の安全保障」: 冷戦終結後、新しい安全保障概念として登場した「人間の安全保障」の歴史的展開について説明する。
11回	国際政治と問題領域3「軍備管理」: NPT体制やNGO主導で成立した対人地雷禁止条約を紹介し、今日の軍備管理問題について説明する。
12回	国際政治と問題領域4「内戦とテロリズム」: 1990年代の民族問題に起因する内戦と、ISやアルカイダ等に見られるグローバルに拡大したテロリズムについて説明する。
13回	国際政治と問題領域5「民主化と人権」: OSCEの活動を紹介することによって、今日の国際社会の民主化への努力について説明する。
14回	国際政治と問題領域6「資源」: 石油や天然ガスに着目することによって、エネルギー資源の国際政治へ与えるインパクトについて説明する。
15回	国際政治と問題領域7「開発と環境」: 旧ソ連の開発によるアラル海消失問題を題材にし、開発と環境問題について考える。
16回	最終評価試験を実施する。 最終評価試験のフィードバックとして、試験内容の解説を行う。

回数	準備学習
1回	新聞やTV、インターネットを通じ国際ニュースに触れて、現在、国際社会でどんな事が起きているのか、そしてどんな問題があるのか目を通しておくこと(標準学習時間30分)
2回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
3回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
4回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
5回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
6回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
7回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
8回	前回までの講義内容についてしっかり復習しておくこと(標準学習時間60分)
9回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
10回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
11回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)

	時間30分)
1 2 回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
1 3 回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
1 4 回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
1 5 回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
1 6 回	前回までの講義内容についてしっかり復習しておくこと(標準学習時間120分)

講義目的	国際関係や国際公共政策の決定には、どのようなアクターが関与し、そしてどのような役割を果たしているのかを理解できるようになるとともに、国際社会における様々な問題に対して、解決のためには何が必要かを考察できるようになることを目的とする。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	国際政治に関与する諸アクターとその意義・役割について説明できる。今日の国際政治における基本的な諸問題について説明できる。国際社会がグローバルな問題に対してどのように取り組もうとしているのか説明できる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	主権国家、第1次・第2次世界大戦、東西冷戦、国際機構、市民社会、安全保障、人権、資源問題、環境問題
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	上記達成目標の到達度を中間評価試験(50%)と最終評価試験(50%)で評価する。
教科書	・新グローバル公共政策[改訂版]/庄司真理子・宮脇昇・玉井雅隆(編)/晃洋書房/978-4771027480 ・グローバル・ガバナンス学 II 主体・地域・新領域/グローバルガバナンス学会(編)/法律文化社/978-4589038814
関連科目	政治学A/B
参考書	マイノリティ保護のクロアチア政治史/山川卓/晃洋書房/978-4771031432 その他の参考書については適宜指示する。
連絡先	
授業の運営方針	・国際社会における諸国家間の行動や態度または出来事について、受講生の「何でだろう」という疑問に応えるような授業にしていく。そのため、受講生には新聞やニュースなどで、世界情勢に関して常に関心を持ち、情報を集めてもらいたい。また講義に関する受講生からの質問などは大いに歓迎する。 ・毎回授業開始時にその回の授業に関するレジュメ・資料を配布する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	中間評価試験と最終評価試験のフィードバックとして、試験問題内容の解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	国際関係論 (FB202110)
英文科目名	Approaches to Transnational Relations
担当教員名	玉井良尚* (たまいよしなお*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション「国際関係理論とは?」: 国際政治の理解に必要な一般的諸理論について紹介する。
2回	国際政治のアクター1「主権国家」: 国際政治の基本アクターである「国家」の歴史的展開について説明する。
3回	国際政治のアクター2「国際連合」: 国際連合の国際政治における意義と役割について説明する。
4回	国際政治のアクター3「世界銀行とIMF」: 20世紀から今日までの国際経済金融体制の歴史とともに、当該体制における世界銀行とIMFの役割について説明する。
5回	国際政治のアクター4「EU」: 20世紀後半、地域統合の模範とされたEUの歴史とともに、今日起きているその諸問題についても説明する。
6回	国際政治のアクター5「NGOとCSO(市民社会組織)」: 今日、国際社会において大きな役割を果たすようになったNGOの意義について、1970~1980年代の東西冷戦終結プロセスをもとに説明する。
7回	国際政治のアクター6「企業とCSR(企業の社会的責任)」: グローバル経済化した今日における企業の責任について、国連グローバル・コンパクト成立の観点から説明する。
8回	ここまでの講義内容について中間的な評価をするための試験を実施する。 試験のフィードバックとして、試験内容の解説を行う。
9回	国際政治と問題領域1「国家の安全保障」: 国家安全保障が軍事や経済など伝統的領域だけでなく、今日、情報や技術など様々な領域へと拡大している現状について説明する。
10回	国際政治と問題領域2「人間の安全保障」: 冷戦終結後、新しい安全保障概念として登場した「人間の安全保障」の歴史的展開について説明する。
11回	国際政治と問題領域3「軍備管理」: NPT体制やNGO主導で成立した対人地雷禁止条約を紹介し、今日の軍備管理問題について説明する。
12回	国際政治と問題領域4「内戦とテロリズム」: 1990年代の民族問題に起因する内戦と、ISやアルカイダ等に見られるグローバルに拡大したテロリズムについて説明する。
13回	国際政治と問題領域5「民主化と人権」: OSCEの活動を紹介することによって、今日の国際社会の民主化への努力について説明する。
14回	国際政治と問題領域6「資源」: 石油や天然ガスに着目することによって、エネルギー資源の国際政治へ与えるインパクトについて説明する。
15回	国際政治と問題領域7「開発と環境」: 旧ソ連の開発によるアラル海消失問題を題材にし、開発と環境問題について考える。
16回	最終評価試験を実施する。 最終評価試験のフィードバックとして、試験内容の解説を行う。

回数	準備学習
1回	新聞やTV、インターネットを通じ国際ニュースに触れて、現在、国際社会でどんな事が起きているのか、そしてどんな問題があるのか目を通しておくこと(標準学習時間30分)
2回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
3回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
4回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
5回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
6回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
7回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
8回	前回までの講義内容についてしっかり復習しておくこと(標準学習時間60分)
9回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
10回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
11回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)

	時間30分)
1 2 回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
1 3 回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
1 4 回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
1 5 回	講義終了時に、次回の範囲(テキスト該当ページ)を指定するので、予習しておくこと(標準学習時間30分)
1 6 回	前回までの講義内容についてしっかり復習しておくこと(標準学習時間120分)

講義目的	国際関係や国際公共政策の決定には、どのようなアクターが関与し、そしてどのような役割を果たしているのかを理解できるようになるとともに、国際社会における様々な問題に対して、解決のためには何が必要かを考察できるようになることを目的とする。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	国際政治に関与する諸アクターとその意義・役割について説明できる。今日の国際政治における基本的な諸問題について説明できる。国際社会がグローバルな問題に対してどのように取り組もうとしているのか説明できる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	主権国家、第1次・第2次世界大戦、東西冷戦、国際機構、市民社会、安全保障、人権、資源問題、環境問題
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	上記達成目標の到達度を中間評価試験(50%)と最終評価試験(50%)で評価する。
教科書	・新グローバル公共政策[改訂版]/庄司真理子・宮脇昇・玉井雅隆(編)/晃洋書房/978-4771027480 ・グローバル・ガバナンス学 II 主体・地域・新領域/グローバルガバナンス学会(編)/法律文化社/978-4589038814
関連科目	政治学A/B
参考書	マイノリティ保護のクロアチア政治史/山川卓/晃洋書房/978-4771031432 その他の参考書については適宜指示する。
連絡先	
授業の運営方針	・国際社会における諸国家間の行動や態度または出来事について、受講生の「何でだろう」という疑問に応えるような授業にしていく。そのため、受講生には新聞やニュースなどで、世界情勢に関して常に関心を持ち、情報を集めてもらいたい。また講義に関する受講生からの質問などは大いに歓迎する。 ・毎回授業開始時にその回の授業に関するレジュメ・資料を配布する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	中間評価試験と最終評価試験のフィードバックとして、試験問題内容の解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	比較文化論 (FB202200)
英文科目名	Comparative Cultures
担当教員名	世良利和* (せらとしかず*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の進め方とテキスト、受講マナーについて説明し、映画による比較文化論の意義と講義の概略を示す。
2回	「ゴジラ」を軸に日本映画における放射能の表象を分析する。
3回	アメリカ映画における放射能の表象を分析し、日本映画と比較する。
4回	日本映画における物語の舞台としての「学校」について考察する。
5回	外国映画における「学校」について分析し、日本映画と比較する。
6回	アクション映画における日本から香港への影響を分析する。
7回	アクション映画における香港から日本への影響を分析する。中間テストについて説明する。
8回	中間テストを実施する。テスト終了後、テスト問題について解説する。
9回	後半の講義の概要を説明し、映画分析の実例を示す。
10回	瀬戸内海の映画史を概観し、映画に描かれた瀬戸内海の島々を分析する。
11回	国内の他地域および海外の島々が映画でどう描かれているかを考察し、瀬戸内海の島々と比較する。
12回	アメリカ映画を中心にロードムービーの特徴を分析する。
13回	日本映画におけるロードムービーを分析し、アメリカ映画と比較する。
14回	映画「男はつらいよ」と岡山の関係について検証する。
15回	映画「男はつらいよ」の主人公について、その原像と岡山の関係について分析する。最終評価試験について説明する。
16回	最終評価試験を実施する。試験終了後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講マナーと講義の概略を確認すること。(標準学習時間30分)
2回	予習：テキスト第1章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間45分)
3回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義で取上げた比較のポイントを整理すること。(標準学習時間45分)
4回	予習：テキスト第3章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間45分)
5回	予習：テキスト第14章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた比較のポイントを整理すること。(標準学習時間45分)
6回	予習：テキスト第4章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間60分)
7回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義で取上げた比較のポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
8回	予習：ここまでの講義を整理し、中間テストの準備をしておくこと。復習：中間テストについて自己点検すること。(標準学習時間120分)
9回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：後半の講義の概要を確認し、映画分析についてまとめること。(標準学習時間45分)
10回	予習：テキストの第5章、第6章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間60分)
11回	予習：テキストの第10章、第17章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた比較のポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
12回	予習：テキストの第8章、第15章を読んでおくこと。復習：講義で取上げたロードムービーの特徴をまとめること。(標準学習時間60分)
13回	予習：テキストの第7章、第9章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた比較のポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
14回	予習：テキストの第23章を読んでおくこと。復習：映画「男はつらいよ」シリーズの特徴についてまとめること。(標準学習時間60分)
15回	予習：テキストの19章、24章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた「男はつらいよ」の主人公の原像についてまとめること。(標準学習時間60分)
16回	予習：講義の内容を整理し、最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験を自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけで言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作っていくことを目的とする。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	・少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できるような人間になること。 ・「日本では」「国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解について説ける。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	岡山、映画、アニメ、比較文化、表象文化
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	学修の到達度確認試験100%（中間テスト50%、最終評価試験50%）により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和 / 「まあ映画な、岡山じゃ県！」 / 蜻文庫
関連科目	なし
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公表
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. 必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。 3. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。 4. 毎回、講義内容と自身の考えを文章にまとめる作業を行う。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2. 参考映像をめぐる各自の感想や考えを述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 中間テストや最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツアー取締役（総務・人事・広報担当） 2. 会社での経験を踏まえて、プレゼンテーションのポイントをわかりやすく、具体的に指導する。
その他（注意・備考）	1. 受講者は必ず第1回目の講義に出席すること。 2. 受講者は必ず指定されたテキストを用意すること。 3. 講義中の飲食や私語、無断の入退室は禁じる。 4. 講義中は通信器機の電源を切り、かばんに片付けること。 5. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、講義で課したレポートが未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 6. 100名程度を目安に受講制限を行うことがある。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 講義中の録音・録画・撮影は、プライバシー保護および著作権の観点から許可しない。

科目名	比較文化論 (FB202210)
英文科目名	Comparative Cultures
担当教員名	世良利和* (せらとしかず*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の進め方とテキスト、受講マナーについて説明し、映画による比較文化論の意義と講義の概略を示す。
2回	日本映画における「嘘」について考察する。
3回	外国映画における「嘘」について考察し、日本映画と比較する。
4回	外国映画に描かれた日本や日本文化を検証する。
5回	日本映画に描かれた外国や外国文化を分析する。
6回	日本映画と台湾映画における「桃太郎」のイメージを比較する。
7回	戦時下の映画における「桃太郎」のイメージを分析する。中間テストについて説明する。
8回	中間テストを実施する。テスト終了後、テスト問題について解説する。
9回	後半の講義の概要を説明し、映画分析の実例を示す。
10回	日本映画における「引用・オマージュ・模倣」を分析する。
11回	外国映画における「引用・オマージュ・模倣」を分析し、日本映画と比較する。
12回	日本のアニメ映画史を概観する(1) 誕生から戦時下まで
13回	日本のアニメ映画史を概観する(2) 東映動画と虫プロ
14回	日本のアニメ映画史を概観する(3) アニメブームの盛衰と現在
15回	「世界のクロサワ」を分析し、その影響について概観する。最終評価試験について説明する。
16回	最終評価試験を実施する。試験終了後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講マナーと講義の概略を確認すること。(標準学習時間30分)
2回	予習：テキスト第1章、第8章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間45分)
3回	予習：テキスト第4章～第6章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた比較のポイントをまとめておくこと。(標準学習時間60分)
4回	予習：テキスト第7章、第12章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間45分)
5回	予習：テキスト第9章、第11章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間45分)
6回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間60分)
7回	予習：テキスト第10章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間60分)
8回	予習：ここまでの講義をまとめ、中間テストの準備をしておくこと。復習：中間テストについて自己点検すること。(標準学習時間120分)
9回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講マナーと講義の概略を確認すること。(標準学習時間30分)
10回	予習：テキスト第1章、第8章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間45分)
11回	予習：テキスト第4章～第6章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた比較のポイントをまとめておくこと。(標準学習時間60分)
12回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間60分)
13回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間60分)
14回	予習：テキストの第17章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間60分)
15回	予習：テキストの第24章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた比較のポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
16回	予習：後半の講義内容をまとめ、最終評価試験の準備をすること。復習：最終評価試験を自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場
------	--

	<p>所が違っただけで言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作ってゆくことを目的とする。</p> <p>4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。</p>
達成目標	<p>・少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できるような人間になること。</p> <p>・「日本では」「国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解について説ける。</p> <p>4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。</p>
キーワード	岡山、映画、アニメ、比較文化、表象文化
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	学修の到達度確認試験（中間テスト50%、最終評価試験50%）により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和 / 「まあ映画な、岡山じゃ県2」 / 蜻文庫
関連科目	比較文化論B
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公開
授業の運営方針	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. 必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。 3. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。 4. 毎回、講義内容と自身の考えを文章にまとめる作業を行う。
アクティブ・ラーニング	<p>ディスカッション、アクティブ・ラーニング</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2. 参考映像をめぐる各自の感想や考えを述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	<ol style="list-style-type: none"> 1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 中間テストや最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	<ol style="list-style-type: none"> 1. 元・株式会社ケーアイツアー取締役（総務・人事・広報担当） 2. 会社での経験を踏まえて、プレゼンテーションのポイントをわかりやすく、具体的に指導する。
その他（注意・備考）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受講者は必ず第1回目の講義に出席すること。 2. 受講者は必ず指定されたテキストを用意すること。 3. 講義中の飲食や私語、無断の入退室は禁じる。 4. 講義中は通信器機の電源を切り、かばんに片付けること。 5. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、講義で課したレポートが未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 6. 100名程度を目安に受講制限を行うことがある。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 講義中の録音・録画・撮影は、プライバシー保護および著作権の観点から許可しない。

科目名	比較文化論 (FB202220)
英文科目名	Comparative Cultures
担当教員名	高池久隆 (たかいけひさたか)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ドイツと日本を比較することの意味について概説するとともに、講義の進め方、成績評価などについても説明する。
2回	ドイツという国について概観する。
3回	ドイツと日本の間に見られる大きな相違について説明する。(1)(車社会、ルール、マイスター制度を中心に)
4回	ドイツと日本の間に見られる大きな相違について説明する。(2)(メディア、余暇、環境問題をを中心に)
5回	ドイツと日本の間に見られる大きな相違について説明する。(3)(結婚、育児、学生生活をを中心に)
6回	ドイツと日本の間に見られる大きな相違について説明する。(4)(大学、68年世代、サッカーを中心に)
7回	ドイツの食文化について説明する。
8回	ドイツの街道と都市およびショッピング事情について説明する。 中間的な評価をするためのテストを実施する。テスト終了後解説をする。
9回	ドイツにおける代表的王、芸術家について説明する。
10回	ドイツにおける宗教の問題について説明する。
11回	オーストリア事情について説明する。
12回	ドイツの今後の課題について説明する。(1)(再統一の影響、文化の多元性をを中心に)
13回	ドイツの今後の課題について説明する。(2)(多民族国家ドイツ、「アウシュビッツ」の記憶を中心に)
14回	ドイツの今後の課題について説明する。(3)(EUとユーロを中心に)
15回	ドイツおよび周辺諸国の変貌について説明する。
16回	日本とドイツの共通点・相違点について総括的に説明する。 学修の到達度確認テストを実施する。 テスト終了後解説をする。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、比較文化に関わる質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	テキストの9~24ページを読み、ドイツという国について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	テキストの25~35ページを読み、車社会、ルール、マイスター制度などについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	テキストの35~44ページを読み、メディア、余暇、環境問題などについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	テキストの44~52ページを読み、結婚、育児、学生生活などについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	テキストの52~66ページを読み、大学、68年世代、サッカーなどについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	テキストの67~78ページを読み、ドイツの食文化について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	テキストの79~98ページを読み、ドイツの街道と都市およびショッピング事情について質問事項を整理しておくこと。テストの準備をすること。(標準学習時間120分)
9回	テキストの100~118ページを読み、王、芸術家について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
10回	テキストの119~130ページを読み、宗教の問題について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
11回	テキストの131~142ページを読みオーストリア事情について、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	テキストの143~150ページを読み、再統一の影響、文化の多元性などについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
13回	テキストの150~165ページを読み、多民族国家ドイツ、「アウシュビッツ」の記憶などについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
14回	テキストの165~178ページを読み、EUとユーロなどについて質問事項を整理しておくこと。

	(標準学習時間120分)
15回	テキストの180～184ページを読み、ドイツおよび周辺諸国の変貌について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
16回	テストの準備をすること。(標準学習時間120分)
講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけで言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作ってゆくことを目的とする。4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1)少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できる。 2)「日本では」「XX国では」というステレオタイプの間人ではなく、文化の相互理解について説明できる。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	文化、異文化、比較文化、ドイツ
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	中間的な評価をするためのテスト(50%)(達成目標1,2を評価)、学修の到達度確認テスト(50%)(達成目標1,2を評価)により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツ その文化・歴史・社会 / 高橋 憲 / 郁文堂 / 978-4-261-01265-1
関連科目	文学
参考書	適宜指示する。
連絡先	研究室：B1号館2階高池研究室 直通電話:086-256-9448 E-mail:takaike(アットマーク)dbc.ous.ac.jp オフィスアワー：火曜日2時限
授業の運営方針	・テストにおける不正行為に対して厳格に対処する。 ・やむを得ず早退する場合は、あらかじめ相談すること。無断早退が判明した場合は厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	中間的な評価をするためのテストおよび学修の到達度確認テストの終了後、フィードバックとして解説をする。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	・新聞やテレビ・ラジオのニュースなどを通して世界の動きに注目してほしい。

科目名	比較文化論 (FB202230)
英文科目名	Comparative Cultures
担当教員名	高池久隆 (たかいけひさたか)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ドイツと日本を比較することの意味について概説するとともに、講義の進め方、成績評価などについても説明する。
2回	ドイツという国について概観する。
3回	ドイツと日本の間に見られる大きな相違について説明する。(1)(車社会、ルール、マイスター制度を中心に)
4回	ドイツと日本の間に見られる大きな相違について説明する。(2)(メディア、余暇、環境問題をを中心に)
5回	ドイツと日本の間に見られる大きな相違について説明する。(3)(結婚、育児、学生生活をを中心に)
6回	ドイツと日本の間に見られる大きな相違について説明する。(4)(大学、68年世代、サッカーを中心に)
7回	ドイツの食文化について説明する。
8回	ドイツの街道と都市およびショッピング事情について説明する。 中間的な評価をするためのテストを実施する。テスト終了後解説をする。
9回	ドイツにおける代表的王、芸術家について説明する。
10回	ドイツにおける宗教の問題について説明する。
11回	オーストリア事情について説明する。
12回	ドイツの今後の課題について説明する。(1)(再統一の影響、文化の多元性をを中心に)
13回	ドイツの今後の課題について説明する。(2)(多民族国家ドイツ、「アウシュビッツ」の記憶を中心に)
14回	ドイツの今後の課題について説明する。(3)(EUとユーロを中心に)
15回	ドイツおよび周辺諸国の変貌について説明する。
16回	日本とドイツの共通点・相違点について総括的に説明する。 学修の到達度確認テストを実施する。 テスト終了後解説をする。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、比較文化に関わる質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	テキストの9~24ページを読み、ドイツという国について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	テキストの25~35ページを読み、車社会、ルール、マイスター制度などについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	テキストの35~44ページを読み、メディア、余暇、環境問題などについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	テキストの44~52ページを読み、結婚、育児、学生生活などについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	テキストの52~66ページを読み、大学、68年世代、サッカーなどについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	テキストの67~78ページを読み、ドイツの食文化について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	テキストの79~98ページを読み、ドイツの街道と都市およびショッピング事情について質問事項を整理しておくこと。テストの準備をすること。(標準学習時間120分)
9回	テキストの100~118ページを読み、王、芸術家について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
10回	テキストの119~130ページを読み、宗教の問題について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
11回	テキストの131~142ページを読みオーストリア事情について、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	テキストの143~150ページを読み、再統一の影響、文化の多元性などについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
13回	テキストの150~165ページを読み、多民族国家ドイツ、「アウシュビッツ」の記憶などについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
14回	テキストの165~178ページを読み、EUとユーロなどについて質問事項を整理しておくこと。

	(標準学習時間120分)
15回	テキストの180～184ページを読み、ドイツおよび周辺諸国の変貌について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
16回	テストの準備をすること。(標準学習時間120分)
講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけで言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作ってゆくことを目的とする。4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1)少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できる。 2)「日本では」「XX国では」というステレオタイプの間人ではなく、文化の相互理解について説明できる。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	文化、異文化、比較文化、ドイツ
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	中間的な評価をするためのテスト(50%)(達成目標1,2を評価)、学修の到達度確認テスト(50%)(達成目標1,2を評価)により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツ その文化・歴史・社会 / 高橋 憲 / 郁文堂 / 978-4-261-01265-1
関連科目	文学
参考書	適宜指示する。
連絡先	研究室：B1号館2階高池研究室 直通電話:086-256-9448 E-mail:takaike(アットマーク)dbc.ous.ac.jp オフィスアワー：火曜日2時限
授業の運営方針	・テストにおける不正行為に対して厳格に対処する。 ・やむを得ず早退する場合は、あらかじめ相談すること。無断早退が判明した場合は厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	中間的な評価をするためのテストおよび学修の到達度確認テストの終了後、フィードバックとして解説をする。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	・新聞やテレビ・ラジオのニュースなどを通して世界の動きに注目してほしい。

科目名	比較文化論 (FB202240)
英文科目名	Comparative Cultures
担当教員名	辻維周 (つじまさちか)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス ・ 文化についてを概説する。
2回	テキストの解説と考え方について講義する。
3回	文化が発生する要因とその変遷を歴史や自然環境を含めて解説する。
4回	太平洋圏の文化 (日本・沖縄編1) 沖縄の地勢について解説する。
5回	太平洋圏の文化 (日本・沖縄編2) 沖縄の風俗について解説する。
6回	太平洋圏の文化 (日本・沖縄編3) 沖縄の習慣について解説する。
7回	太平洋圏の文化 (日本・沖縄編4) うちなーぐちについて解説する。
8回	7回目までのまとめ・学修の到達度確認試験
9回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア1) グアムの概要について解説する。
10回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア2) グアムの歴史と民俗 (チャモロの歴史) について解説する。
11回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア3) ポナペの歴史について解説する。
12回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア4) ポナペの遺跡について解説する。
13回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア5) インドネシアとマヤ遺跡について解説する。
14回	信仰と宗教文化論 オカルティズムについて解説する。
15回	信仰と宗教文化論 神と仏について解説する。
16回	まとめ、学修の到達度確認試験

回数	準備学習
1回	テキストを読み、十分に理解しておくこと。
2回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
3回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
4回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
5回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
6回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
7回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
8回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
9回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
10回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。

	<復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 1 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 2 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 3 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 4 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 5 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 6 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけで言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作っていくことを目的とする。4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できる。 2) 「日本では」「 国では」というステレオタイプではなく、文化の相互理解について説明できる。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	文化、文明、歴史、地理、神話、日本文化
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	学修の到達度確認試験2回（50%、50%）により成績を評価し、60%以上を合格とする。到達目標1、2を評価。
教科書	「異文化理解」岩波新書 青木保著 ISBN4-00-430740-6
関連科目	文章表現法
参考書	「文化人類学事典」日本文化人類学会編著、「太平洋百科事典」太平洋学会
連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4F
授業の運営方針	この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加することは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。質問・相談等あれば、B3号館4Fの辻研究室まで遠慮なく来ることに。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認試験後、簡単なフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 録音、録画はSNSに上げないという条件で許可します。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	比較文化論 (FB202250)
英文科目名	Comparative Cultures
担当教員名	辻維周 (つじまさちか)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス ・ 文化についてを概説する。
2回	テキストの解説と考え方について講義する。
3回	文化が発生する要因とその変遷を歴史や自然環境を含めて解説する。
4回	太平洋圏の文化 (日本・沖縄編1) 沖縄の地勢について解説する。
5回	太平洋圏の文化 (日本・沖縄編2) 沖縄の風俗について解説する。
6回	太平洋圏の文化 (日本・沖縄編3) 沖縄の習慣について解説する。
7回	太平洋圏の文化 (日本・沖縄編4) うちなーぐちについて解説する。
8回	7回目までのまとめ・学修の到達度確認試験
9回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア1) グアムの概要について解説する。
10回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア2) グアムの歴史と民俗 (チャモロの歴史) について解説する。
11回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア3) ポナペの歴史について解説する。
12回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア4) ポナペの遺跡について解説する。
13回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア5) インドネシアとマヤ遺跡について解説する。
14回	信仰と宗教文化論 オカルティズムについて解説する。
15回	信仰と宗教文化論 神と仏について解説する。
16回	まとめ、学修の到達度確認試験

回数	準備学習
1回	テキストを読み、十分に理解しておくこと。
2回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
3回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
4回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
5回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
6回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
7回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
8回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
9回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
10回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。

	<復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 1 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 2 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 3 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 4 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 5 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 6 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけで言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作ってゆくことを目的とする。4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できる。 2) 「日本では」「 国では」というステレオタイプではなく、文化の相互理解について説明できる。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	文化、文明、歴史、地理、神話、日本文化
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	学修の到達度確認試験2回（50%、50%）により成績を評価し、60%以上を合格とする。到達目標1、2を評価。
教科書	「異文化理解」岩波新書 青木保著 ISBN4-00-430740-6
関連科目	文章表現法
参考書	「文化人類学事典」日本文化人類学会編著、「太平洋百科事典」太平洋学会
連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4F
授業の運営方針	この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加することは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。質問・相談等あれば、B3号館4Fの辻研究室まで遠慮なく来ることに。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認試験後、簡単なフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 録音、録画はSNSに上げないという条件で許可します。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	比較文化論 (FB202260)
英文科目名	Comparative Cultures
担当教員名	辻維周 (つじまさちか)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス ・ 文化についてを概説する。
2回	テキストの解説と考え方について講義する。
3回	文化が発生する要因とその変遷を歴史や自然環境を含めて解説する。
4回	太平洋圏の文化 (日本・沖縄編1) 沖縄の地勢について解説する。
5回	太平洋圏の文化 (日本・沖縄編2) 沖縄の風俗について解説する。
6回	太平洋圏の文化 (日本・沖縄編3) 沖縄の習慣について解説する。
7回	太平洋圏の文化 (日本・沖縄編4) うちなーぐちについて解説する。
8回	7回目までのまとめ・学修の到達度確認試験
9回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア1) グアムの概要について解説する。
10回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア2) グアムの歴史と民俗 (チャモロの歴史) について解説する。
11回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア3) ポナペの歴史について解説する。
12回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア4) ポナペの遺跡について解説する。
13回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア5) インドネシアとマヤ遺跡について解説する。
14回	信仰と宗教文化論 オカルティズムについて解説する。
15回	信仰と宗教文化論 神と仏について解説する。
16回	まとめ、学修の到達度確認試験

回数	準備学習
1回	テキストを読み、十分に理解しておくこと。
2回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
3回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
4回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
5回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
6回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
7回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
8回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
9回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
10回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。

	<復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 1 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 2 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 3 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 4 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 5 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 6 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけで言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作っていくことを目的とする。4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できる。 2) 「日本では」「 国では」というステレオタイプではなく、文化の相互理解について説明できる。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	文化、文明、歴史、地理、神話、日本文化
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	学修の到達度確認試験2回（50%、50%）により成績を評価し、60%以上を合格とする。到達目標1、2を評価。
教科書	「異文化理解」岩波新書 青木保著 ISBN4-00-430740-6
関連科目	文章表現法
参考書	「文化人類学事典」日本文化人類学会編著、「太平洋百科事典」太平洋学会
連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4F
授業の運営方針	この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加することは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。質問・相談等あれば、B3号館4Fの辻研究室まで遠慮なく来ることに。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認試験後、簡単なフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 録音、録画はSNSに上げないという条件で許可します。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	比較文化論 (FB202270)
英文科目名	Comparative Cultures
担当教員名	辻維周 (つじまさちか)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス ・ 文化についてを概説する。
2回	テキストの解説と考え方について講義する。
3回	文化が発生する要因とその変遷を歴史や自然環境を含めて解説する。
4回	太平洋圏の文化 (日本・沖縄編1) 沖縄の地勢について解説する。
5回	太平洋圏の文化 (日本・沖縄編2) 沖縄の風俗について解説する。
6回	太平洋圏の文化 (日本・沖縄編3) 沖縄の習慣について解説する。
7回	太平洋圏の文化 (日本・沖縄編4) うちなーぐちについて解説する。
8回	7回目までのまとめ・学修の到達度確認試験
9回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア1) グアムの概要について解説する。
10回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア2) グアムの歴史と民俗 (チャモロの歴史) について解説する。
11回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア3) ポナペの歴史について解説する。
12回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア4) ポナペの遺跡について解説する。
13回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア5) インドネシアとマヤ遺跡について解説する。
14回	信仰と宗教文化論 オカルティズムについて解説する。
15回	信仰と宗教文化論 神と仏について解説する。
16回	まとめ、学修の到達度確認試験

回数	準備学習
1回	テキストを読み、十分に理解しておくこと。
2回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
3回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
4回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
5回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
6回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
7回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
8回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
9回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
10回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。

	<復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 1 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 2 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 3 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 4 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 5 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 6 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけで言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作ってゆくことを目的とする。4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できる。 2) 「日本では」「 国では」というステレオタイプではなく、文化の相互理解について説明できる。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	文化、文明、歴史、地理、神話、日本文化
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	学修の到達度確認試験2回（50%、50%）により成績を評価し、60%以上を合格とする。到達目標1、2を評価。
教科書	「異文化理解」岩波新書 青木保著 ISBN4-00-430740-6
関連科目	文章表現法
参考書	「文化人類学事典」日本文化人類学会編著、「太平洋百科事典」太平洋学会
連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4F
授業の運営方針	この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加することは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。質問・相談等あれば、B3号館4Fの辻研究室まで遠慮なく来ることに。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認試験後、簡単なフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 録音、録画はSNSに上げないという条件で許可します。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	比較文化論 (FB202280)
英文科目名	Comparative Cultures
担当教員名	辻維周 (つじまさちか)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス ・ 文化についてを概説する。
2回	テキストの解説と考え方について講義する。
3回	文化が発生する要因とその変遷を歴史や自然環境を含めて解説する。
4回	太平洋圏の文化 (日本・沖縄編1) 沖縄の地勢について解説する。
5回	太平洋圏の文化 (日本・沖縄編2) 沖縄の風俗について解説する。
6回	太平洋圏の文化 (日本・沖縄編3) 沖縄の習慣について解説する。
7回	太平洋圏の文化 (日本・沖縄編4) うちなーぐちについて解説する。
8回	7回目までのまとめ・学修の到達度確認試験
9回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア1) グアムの概要について解説する。
10回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア2) グアムの歴史と民俗 (チャモロの歴史) について解説する。
11回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア3) ポナペの歴史について解説する。
12回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア4) ポナペの遺跡について解説する。
13回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア5) インドネシアとマヤ遺跡について解説する。
14回	信仰と宗教文化論 オカルティズムについて解説する。
15回	信仰と宗教文化論 神と仏について解説する。
16回	まとめ、学修の到達度確認試験

回数	準備学習
1回	テキストを読み、十分に理解しておくこと。
2回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
3回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
4回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
5回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
6回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
7回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
8回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
9回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
10回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。

	<復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 1 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 2 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 3 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 4 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 5 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 6 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけで言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作っていくことを目的とする。4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できる。 2) 「日本では」「 国では」というステレオタイプではなく、文化の相互理解について説明できる。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	文化、文明、歴史、地理、神話、日本文化
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	学修の到達度確認試験2回（50%、50%）により成績を評価し、60%以上を合格とする。到達目標1、2を評価。
教科書	「異文化理解」岩波新書 青木保著 ISBN4-00-430740-6
関連科目	文章表現法
参考書	「文化人類学事典」日本文化人類学会編著、「太平洋百科事典」太平洋学会
連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4F
授業の運営方針	この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加することは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。質問・相談等あれば、B3号館4Fの辻研究室まで遠慮なく来ることに。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認試験後、簡単なフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 録音、録画はSNSに上げないという条件で許可します。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	比較文化論 (FB202290)
英文科目名	Comparative Cultures
担当教員名	辻維周 (つじまさちか)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス ・ 文化についてを概説する。
2回	テキストの解説と考え方について講義する。
3回	文化が発生する要因とその変遷を歴史や自然環境を含めて解説する。
4回	太平洋圏の文化 (日本・沖縄編1) 沖縄の地勢について解説する。
5回	太平洋圏の文化 (日本・沖縄編2) 沖縄の風俗について解説する。
6回	太平洋圏の文化 (日本・沖縄編3) 沖縄の習慣について解説する。
7回	太平洋圏の文化 (日本・沖縄編4) うちなーぐちについて解説する。
8回	7回目までのまとめ・学修の到達度確認試験
9回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア1) グアムの概要について解説する。
10回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア2) グアムの歴史と民俗 (チャモロの歴史) について解説する。
11回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア3) ポナペの歴史について解説する。
12回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア4) ポナペの遺跡について解説する。
13回	太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア5) インドネシアとマヤ遺跡について解説する。
14回	信仰と宗教文化論 オカルティズムについて解説する。
15回	信仰と宗教文化論 神と仏について解説する。
16回	まとめ、学修の到達度確認試験

回数	準備学習
1回	テキストを読み、十分に理解しておくこと。
2回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
3回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
4回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
5回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
6回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
7回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
8回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
9回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみる。
10回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。

	<復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 1 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 2 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 3 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 4 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 5 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。
1 6 回	<予習> 自分自身なりに次回のテーマの考察をしておくこと。 <復習> 各回で教えた事例について、きちんと理解し自分のものにしておくこと。また疑問が出たらその都度質問してみることに。

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけで言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作っていくことを目的とする。4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できる。 2) 「日本では」「 国では」というステレオタイプではなく、文化の相互理解について説明できる。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	文化、文明、歴史、地理、神話、日本文化
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	学修の到達度確認試験2回（50%、50%）により成績を評価し、60%以上を合格とする。到達目標1、2を評価。
教科書	「異文化理解」岩波新書 青木保著 ISBN4-00-430740-6
関連科目	文章表現法
参考書	「文化人類学事典」日本文化人類学会編著、「太平洋百科事典」太平洋学会
連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4F
授業の運営方針	この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加することは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。質問・相談等あれば、B3号館4Fの辻研究室まで遠慮なく来ることに。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認試験後、簡単なフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 録音、録画はSNSに上げないという条件で許可します。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	文学 (FB202400)
英文科目名	Literature
担当教員名	浅野純一 (あさのじゅんいち)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション：この講義についてと中国文学のうち、詩歌の特徴について説明する。
2回	詩経について説明する。
3回	楚辞と漢賦について、具体例をあげながら説明する。
4回	六朝の詩人陶淵明について説明する。
5回	唐代の詩人李白について説明する。
6回	唐代の詩人杜甫について李白と比較しながら説明する。
7回	中唐・晩唐の詩人白居易、李賀、李商隠について説明する。
8回	到達度確認テストを実施する。テスト終了後解説をする。
9回	『論語』と儒教について説明する。
10回	老子と荘子、道教について説明する。
11回	『史記』と司馬遷について、文学的側面から説明する。
12回	六朝の志人小説『世説新語』について説明する。
13回	六朝志怪小説『搜神記』について説明する。
14回	唐代伝奇小説『杜子春伝』について説明する。
15回	明代四大奇書『三国志演義』『西遊記』『水滸伝』『金瓶梅』、および清代の『紅樓夢』について概説する。
16回	到達度確認テストを実施する。 テスト終了後解説をする。

回数	準備学習
1回	シラバスをよくよむこと。「中国の歴史」「中国歴史年表」などのキーワードで中国の王朝名を予習しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	前回の教材を読み直し、また、自分の好きな楽曲などを聞いて、押韻、対句などについて理解を確認すること。(120分)
3回	詩経について配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
4回	楚辞について配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
5回	陶淵明について配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
6回	李白について配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
7回	李白と杜甫についてその違いを意識しながら、配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
8回	授業中に説明したキーワードを確認し、授業中に指示した通りテストの準備をしておくこと。(150分)
9回	シラバスをよくよむこと。「中国の歴史」「中国歴史年表」などのキーワードで中国の王朝名を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
10回	『論語』と儒教について配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認し、さらに理解を深めること。(120分)
11回	儒教と道教の違いを確認し、配布されたプリントを元に、老子と荘子についてネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
12回	『史記』と司馬遷について、配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
13回	『世説新語』について、配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
14回	志人小説と志怪小説の違いを意識しながら、『搜神記』について配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
15回	創作としての小説を意識しながら『杜子春伝』について、配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。また、芥川龍之介『杜子春』も読んでおくこと。(120分)
16回	第9回～15回の授業中に説明したキーワードを確認し、授業中に指示した通りテストの準備をしておくこと。(150分)

講義目的	中国の文学の主な作者や作品について知識を身に付け、内容を理解して味わうことができる。文学が人間にとってどのような意味を持つか、考えることができる。 (DP4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。)
------	---

達成目標	1) 授業で取り扱った作品について、基本的な事柄（内容、時代背景など）を説明できる。（4領域の「知識・理解」） 2) 個別の作品について、自分なりの評価をすることができる。（4領域の「知識・理解」） 3) 講義で話された個別の文化圏の文学史的内容を、概ね説明できる。（4領域の「知識・理解」）
キーワード	文学、中国、詩歌、小説、漢詩、漢文
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	第8回目の到達度確認テスト（50%）（達成目標1,2,3を評価）、と第16回目の到達度確認テスト（50%）（達成目標1,2,3を評価）により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	授業時にプリントを配布する。
関連科目	中国語（ ）、比較文化論
参考書	適宜指示する。
連絡先	研究室：B 3号館3階浅野研究室 E-mail: asanoj (アットマーク) big.ous.ac.jp オフィスアワー：mylogで確認してください。
授業の運営方針	・テストにおける不正行為に対して厳格に対処する。 ・飲食は原則禁止（ただし、飲料は必要であれば可）
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認テストの終了後、フィードバックとして解説をする。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文学 (FB202410)
英文科目名	Literature
担当教員名	高池久隆 (たかいけひさたか)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ドイツ文学の特徴について概説するとともに、講義の進め方、成績評価などについても説明する。
2回	ドイツ中世の文学について説明する。
3回	レッシングを中心に啓蒙主義時代の文学について説明する。
4回	若いゲーテの文学活動について説明する。
5回	円熟期のゲーテと若いシラーの文学活動について説明する。
6回	円熟期のシラーの文学活動について説明する。
7回	ロマン派の詩人たちについて説明する。
8回	中間的な評価をするためのテストを実施する。テスト終了後解説をする。
9回	ハイネの文学活動について説明する。
10回	トーマス・マンの文学活動 (青年期) について説明する。
11回	トーマス・マンの文学活動 (壮年期) について説明する。
12回	カフカの文学活動 (『変身』を中心に) について説明する。
13回	カフカの文学活動 (短編を中心に) について説明する。
14回	第二次世界大戦後のドイツ文学について説明する。(ナチスとの関わりを中心に)
15回	第二次世界大戦後のドイツ文学について説明する。(旧東ドイツの問題を中心に)
16回	学修の到達度確認テストを実施する。 テスト終了後解説をする。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、ドイツ文学に関わる質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	テキストの24~36ページを読み、中世期のドイツ文学について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	テキストの51~57ページを読み、啓蒙主義とレッシングについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	テキストの58~70ページを読み、シュトゥルム・ウント・ドラングについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	テキストの71~123ページを読み、ゲーテについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	テキストの124~139ページを読み、シラーについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	テキストの167~187ページを読み、ロマン派の詩人たちについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	テストの準備をすること。(標準学習時間120分)
9回	テキストの197~201ページを読み、ハイネについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
10回	テキストの284~288ページを読み、トーマス・マンについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
11回	配布したプリントを読み、トーマス・マンについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	テキストの280~281ページを読み、カフカについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
13回	配布したプリントを読み、カフカについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
14回	テキストの289~307ページを読み、第二次世界大戦後のドイツ文学について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
15回	配布したプリントを読み、第二次世界大戦後のドイツ文学について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
16回	テストの準備をすること。(標準学習時間120分)

講義目的	世界(中国、またはドイツ、および日本)の文学の主な作者や作品について知識を身に付け、内容を理解して味わうことができる。文学が人間にとってどのような意味を持つか、考えることができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。
------	--

達成目標	1)授業で取り扱った作品について、基本的な事柄(内容、時代背景など)を説明できる。 2)個別の作品について、自分なりの評価をすることができる。 3)講義で話された個別の文化圏の文学史的内容を、概ね説明できる。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。
キーワード	文学、ドイツ
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	中間的な評価をするためのテスト(50%)(達成目標1,2,3を評価)、学修の到達度確認テスト(50%)(達成目標1,2,3を評価)により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	増補 ドイツ文学案内/手塚 富雄、神品 芳夫/岩波文庫/978-4-00-350003-2
関連科目	比較文化論
参考書	適宜指示する。
連絡先	研究室：B 1号館 2階高池研究室 直通電話:086-256-9448 E-mail:takaike(アットマーク)dbc.ous.ac.jp オフィスアワー：火曜日2時限
授業の運営方針	・テストにおける不正行為に対して厳格に対処する。 ・やむを得ず早退する場合は、あらかじめ相談すること。無断早退が判明した場合は厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	中間的な評価をするためのテストおよび学修の到達度確認テストの終了後、フィードバックとして解説をする。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	文学 (FB202420)
英文科目名	Literature
担当教員名	高池久隆 (たかいけひさたか)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ドイツ文学の特徴について概説するとともに、講義の進め方、成績評価などについても説明する。
2回	ドイツ中世の文学について説明する。
3回	レッシングを中心に啓蒙主義時代の文学について説明する。
4回	若いゲーテの文学活動について説明する。
5回	円熟期のゲーテと若いシラーの文学活動について説明する。
6回	円熟期のシラーの文学活動について説明する。
7回	ロマン派の詩人たちについて説明する。
8回	中間的な評価をするためのテストを実施する。テスト終了後解説をする。
9回	ハイネの文学活動について説明する。
10回	トーマス・マンの文学活動 (青年期) について説明する。
11回	トーマス・マンの文学活動 (壮年期) について説明する。
12回	カフカの文学活動 (『変身』を中心に) について説明する。
13回	カフカの文学活動 (短編を中心に) について説明する。
14回	第二次世界大戦後のドイツ文学について説明する。(ナチスとの関わりを中心に)
15回	第二次世界大戦後のドイツ文学について説明する。(旧東ドイツの問題を中心に)
16回	学修の到達度確認テストを実施する。 テスト終了後解説をする。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、ドイツ文学に関わる質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	テキストの24~36ページを読み、中世期のドイツ文学について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	テキストの51~57ページを読み、啓蒙主義とレッシングについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	テキストの58~70ページを読み、シュトゥルム・ウント・ドラングについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	テキストの71~123ページを読み、ゲーテについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	テキストの124~139ページを読み、シラーについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	テキストの167~187ページを読み、ロマン派の詩人たちについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	テストの準備をすること。(標準学習時間120分)
9回	テキストの197~201ページを読み、ハイネについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
10回	テキストの284~288ページを読み、トーマス・マンについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
11回	配布したプリントを読み、トーマス・マンについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	テキストの280~281ページを読み、カフカについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
13回	配布したプリントを読み、カフカについて質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
14回	テキストの289~307ページを読み、第二次世界大戦後のドイツ文学について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
15回	配布したプリントを読み、第二次世界大戦後のドイツ文学について質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
16回	テストの準備をすること。(標準学習時間120分)

講義目的	世界(中国、またはドイツ、および日本)の文学の主な作者や作品について知識を身に付け、内容を理解して味わうことができる。文学が人間にとってどのような意味を持つか、考えることができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。
------	--

達成目標	1)授業で取り扱った作品について、基本的な事柄（内容、時代背景など）を説明できる。 2)個別の作品について、自分なりの評価をすることができる。 3)講義で話された個別の文化圏の文学史的内容を、概ね説明できる。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。
キーワード	文学、ドイツ
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	中間的な評価をするためのテスト（50％）（達成目標1,2,3を評価）、学修の到達度確認テスト（50％）（達成目標1,2,3を評価）により成績を評価し、総計で得点率60％以上を合格とする。
教科書	増補 ドイツ文学案内 / 手塚 富雄、神品 芳夫 / 岩波文庫 / 978-4-00-350003-2
関連科目	比較文化論
参考書	適宜指示する。
連絡先	研究室：B 1号館 2階高池研究室 直通電話:086-256-9448 E-mail:takaike (アットマーク) dbc.ous.ac.jp オフィスアワー：火曜日 2時限
授業の運営方針	・テストにおける不正行為に対して厳格に対処する。 ・やむを得ず早退する場合は、あらかじめ相談すること。無断早退が判明した場合は厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	中間的な評価をするためのテストおよび学修の到達度確認テストの終了後、フィードバックとして解説をする。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音 / 録画 / 撮影は原則認めない。特別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	文学 (FB202430)
英文科目名	Literature
担当教員名	三木恒治 (みきこうじ)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス。講義の進め方を説明する。
2回	ヨーロッパとドイツについて概説する。
3回	「ニーベルンゲンの歌」 英雄の人間像に見るゲルマン気質について説明する。
4回	「エミーリア・ガロツィー」 近代市民悲劇の誕生について概説する。
5回	「若きヴェルテルの悩み」 若者の情熱と社会の確執をめぐって考察する。
6回	「ファウスト」 人間の飽くなき欲望の行き着くところを考察する。
7回	「青い花」 真理を求める果てしなき憧れについて説明する。
8回	「金髪のエックベルト」 夢と現実の相克に引き裂かれる人間像について説明し、中間テストを行う。
9回	「グリムのメルヘン」 メルヘンに託された庶民の願望について説明する。
10回	「みずうみ」 過ぎ去った青春時代と人生の無常について説明する。
11回	「変身」 不条理な世界に取り込まれる現代人の悲劇について説明する。
12回	「トーニオ・クレーガー」 市民と芸術家の間で苦悩する人間像について説明する。
13回	「魔の山」 現代社会の精神的混迷の縮図について説明する。
14回	ドイツの叙情詩について概説する。
15回	後半部のまとめを行う。
16回	到達度確認テストと今後の文学の読み方についての提言を行う。

回数	準備学習
1回	シラバスの内容を確認し、講義の主旨を把握しておくこと。
2回	ヨーロッパの地図を見て、ドイツの位置関係を確認しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	テキストの第一章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	テキストの第二章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	テキストの第三章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	テキストの第四章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。また前回配付のゲーテの年譜を必ず持参すること。(標準学習時間120分)
7回	テキストの第五章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	テキストの第六章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。 これまでの重要事項を復習して、中間テストに備えること。(標準学習時間120分)
9回	テキストの第七章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
10回	テキストの第八章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
11回	テキストの第九章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	テキストの第十章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
13回	テキストの第十一章に目を通して、物語の概略を理解して、複雑な人間関係を整理しておくこと。 また前回配付のトーマス・マン資料を必ず持参すること。(標準学習時間120分)
14回	テキストの第十二章に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)
15回	講義中指示したテキストの重要箇所を確認しておくこと。(標準学習時間120分)
16回	七章から十二章までの重要事項を復習し、テストの準備をしておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	世界(中国またはドイツ、および日本)の文学の主な作者や作品について知識を身に付け、内容を理解して味わうことができる。文学が人間にとってどのような意味を持つか、考えることができる。4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 作品について、基本的な事柄(内容、時代背景など)を説明できる。 2) 個別の作品について、自分なりの評価をすることができる。 3) 講義で話された個別の文化圏の文学史的内容を、概ね説明できる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。
キーワード	文学、社会
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	中間テスト、学修の到達度確認テスト(50%×2)により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	「新しく読むドイツ文学」/三木恒治/蜻文庫
関連科目	ドイツ語、(ただし受講にあたって習得の必要はまったくありません。)

参考書	適宜指示します。
連絡先	A-2号館8階、内線4384 E-mail: miki (アットマーク) xmath.ous.ac.jp オフィスアワー：火曜3時限（春学期、秋学期とも）
授業の運営方針	各回ごとの要点は整理して、時代背景も交えて作品の面白さを分かりやすく解説します。講義中心になりますが、受講マナーをきちんと守ることを必要条件としておきます。
アクティブ・ラーニング	テキストの部分的な朗読や、内容についての簡単な質問に対する回答を課すことがあります。
課題に対するフィードバック	中間テスト、到達度確認テスト終了後、テストの解説と今後の提言を行います。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音/録画/撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	作品は、原則として日本語訳を参考にして説明します。

科目名	文学 (FB202440)
英文科目名	Literature
担当教員名	三木恒治 (みきこうじ)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス。講義の進め方を説明する。
2回	ヨーロッパとドイツについて概説する。
3回	「ニーベルンゲンの歌」 英雄の人間像に見るゲルマン気質について説明する。
4回	「エミーリア・ガロツィー」 近代市民悲劇の誕生について概説する。
5回	「若きヴェルテルの悩み」 若者の情熱と社会の確執をめぐって考察する。
6回	「ファウスト」 人間の飽くなき欲望の行き着くところを考察する。
7回	「青い花」 真理を求める果てしなき憧れについて説明する。
8回	「金髪のエックベルト」 夢と現実の相克に引き裂かれる人間像について説明し、中間テストを行う。
9回	「グリムのメルヘン」 メルヘンに託された庶民の願望について説明する。
10回	「みずうみ」 過ぎ去った青春時代と人生の無常について説明する。
11回	「変身」 不条理な世界に取り込まれる現代人の悲劇について説明する。
12回	「トーニオ・クレーガー」 市民と芸術家の間で苦悩する人間像について説明する。
13回	「魔の山」 現代社会の精神的混迷の縮図について説明する。
14回	ドイツの叙情詩について概説する。
15回	後半部のまとめを行う。
16回	到達度確認テストと今後の文学の読み方についての提言を行う。

回数	準備学習
1回	シラバスの内容を確認し、講義の主旨を把握しておくこと。
2回	ヨーロッパの地図を見て、ドイツの位置関係を確認しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	テキストの第一章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	テキストの第二章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	テキストの第三章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	テキストの第四章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。また前回配付のゲーテの年譜を必ず持参すること。(標準学習時間120分)
7回	テキストの第五章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	テキストの第六章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。 これまでの重要事項を復習して、中間テストに備えること。(標準学習時間120分)
9回	テキストの第七章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
10回	テキストの第八章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
11回	テキストの第九章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	テキストの第十章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
13回	テキストの第十一章に目を通して、物語の概略を理解して、複雑な人間関係を整理しておくこと。 また前回配付のトーマス・マン資料を必ず持参すること。(標準学習時間120分)
14回	テキストの第十二章に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)
15回	講義中指示したテキストの重要箇所を確認しておくこと。(標準学習時間120分)
16回	七章から十二章までの重要事項を復習し、テストの準備をしておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	世界(中国またはドイツ、および日本)の文学の主な作者や作品について知識を身に付け、内容を理解して味わうことができる。文学が人間にとってどのような意味を持つか、考えることができる。4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 作品について、基本的な事柄(内容、時代背景など)を説明できる。 2) 個別の作品について、自分なりの評価をすることができる。 3) 講義で話された個別の文化圏の文学史的内容を、概ね説明できる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。
キーワード	文学、社会
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	中間テスト、学修の到達度確認テスト(50%×2)により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	「新しく読むドイツ文学」/三木恒治/蜻文庫
関連科目	ドイツ語、(ただし受講にあたって習得の必要はまったくありません。)

参考書	適宜指示します。
連絡先	A-2号館8階、内線4384 E-mail: miki (アットマーク) xmath.ous.ac.jp オフィスアワー：火曜3時限（春学期、秋学期とも）
授業の運営方針	各回ごとの要点は整理して、時代背景も交えて作品の面白さを分かりやすく解説します。講義中心になりますが、受講マナーをきちんと守ることを必要条件としておきます。
アクティブ・ラーニング	テキストの部分的な朗読や、内容についての簡単な質問に対する回答を課することがあります。
課題に対するフィードバック	中間テスト、到達度確認テスト終了後、テストの解説と今後の提言を行います。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音/録画/撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	作品は、原則として日本語訳を参考にして説明します。

科目名	文学 (FB202450)
英文科目名	Literature
担当教員名	浅野純一 (あさのじゅんいち)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション：この講義についてと中国文学のうち、詩歌の特徴について説明する。
2回	詩経について説明する。
3回	楚辞と漢賦について、具体例をあげながら説明する。
4回	六朝の詩人陶淵明について説明する。
5回	唐代の詩人李白について説明する。
6回	唐代の詩人杜甫について李白と比較しながら説明する。
7回	中唐・晩唐の詩人白居易、李賀、李商隠について説明する。
8回	到達度確認テストを実施する。テスト終了後解説をする。
9回	『論語』と儒教について説明する。
10回	老子と荘子、道教について説明する。
11回	『史記』と司馬遷について、文学的側面から説明する。
12回	六朝の志人小説『世説新語』について説明する。
13回	六朝志怪小説『搜神記』について説明する。
14回	唐代伝奇小説『杜子春伝』について説明する。
15回	明代四大奇書『三国志演義』『西遊記』『水滸伝』『金瓶梅』、および清代の『紅樓夢』について概説する。
16回	到達度確認テストを実施する。 テスト終了後解説をする。

回数	準備学習
1回	シラバスをよくよむこと。「中国の歴史」「中国歴史年表」などのキーワードで中国の王朝名を予習しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	前回の教材を読み直し、また、自分の好きな楽曲などを聞いて、押韻、対句などについて理解を確認すること。(120分)
3回	詩経について配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
4回	楚辞について配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
5回	陶淵明について配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
6回	李白について配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
7回	李白と杜甫についてその違いを意識しながら、配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
8回	授業中に説明したキーワードを確認し、授業中に指示した通りテストの準備をしておくこと。(150分)
9回	シラバスをよくよむこと。「中国の歴史」「中国歴史年表」などのキーワードで中国の王朝名を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
10回	『論語』と儒教について配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認し、さらに理解を深めること。(120分)
11回	儒教と道教の違いを確認し、配布されたプリントを元に、老子と荘子についてネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
12回	『史記』と司馬遷について、配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
13回	『世説新語』について、配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
14回	志人小説と志怪小説の違いを意識しながら、『搜神記』について配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。(120分)
15回	創作としての小説を意識しながら『杜子春伝』について、配布されたプリントを元に、ネットで訓読、日本語訳など確認すること。また、芥川龍之介『杜子春』も読んでおくこと。(120分)
16回	第9回～15回の授業中に説明したキーワードを確認し、授業中に指示した通りテストの準備をしておくこと。(150分)

講義目的	中国の文学の主な作者や作品について知識を身に付け、内容を理解して味わうことができる。文学が人間にとってどのような意味を持つか、考えることができる。 (DP4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与している。)
------	---

達成目標	1) 授業で取り扱った作品について、基本的な事柄（内容、時代背景など）を説明できる。（4領域の「知識・理解」） 2) 個別の作品について、自分なりの評価をすることができる。（4領域の「知識・理解」） 3) 講義で話された個別の文化圏の文学史的内容を、概ね説明できる。（4領域の「知識・理解」）
キーワード	文学、中国、詩歌、小説、漢詩、漢文
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	第8回目の到達度確認テスト（50%）（達成目標1,2,3を評価）、と第16回目の到達度確認テスト（50%）（達成目標1,2,3を評価）により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	授業時にプリントを配布する。
関連科目	中国語（ ）、比較文化論
参考書	適宜指示する。
連絡先	研究室：B 3号館3階浅野研究室 E-mail: asanoj (アットマーク) big.ous.ac.jp オフィスアワー：mylogで確認してください。
授業の運営方針	・テストにおける不正行為に対して厳格に対処する。 ・飲食は原則禁止（ただし、飲料は必要であれば可）
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	学修の到達度確認テストの終了後、フィードバックとして解説をする。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	考古学 (FB202600)
英文科目名	Archaeology
担当教員名	白石純 (しらいしじゅん)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義概要として講義内容と講義の進め方を説明する。 考古学がなぜ必要かについて実例を挙げながら講義する。
2回	考古学はどんな学問か。考古学の定義について実例を挙げながら講義する。
3回	考古学の研究対象・時間的範囲・地域的範囲について実例を挙げながら講義する。
4回	いろいろな考古学(時代・地域・宗教・その他)について実例を挙げながら講義する。
5回	考古学はどのように発達したか、について実例を挙げながら講義する。
6回	考古学資料の種類(遺跡・遺構・遺物)について実例を挙げながら講義する。
7回	考古学の研究方法(型式学・一括遺物と共存関係)について実例を挙げながら講義する。
8回	考古学で用いられる年代測定法(放射性炭素法・考古地磁気法・年輪年代法)について実例を挙げながら講義する。 中間試験を実施する。
9回	旧石器時代前半について実例を挙げながら講義する。
10回	旧石器時代後半について実例を挙げながら講義する。
11回	縄文時代草創期、早期、前期について実例を挙げながら講義する。
12回	縄文時代中期、後期、晩期について実例を挙げながら講義する。
13回	弥生時代前期、中期について実例を挙げながら講義する。
14回	弥生時代後期について実例を挙げながら講義する。
15回	古墳時代前期について実例を挙げながら講義する。
16回	古墳時代中期・後期について実例を挙げながら講義する。 これまでの講義内容について総括する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認し講義内容を理解しておくこと。図書館等で考古学について調べておくこと。(標準学習時間60分)
2回	事前の講義内容について復習し「考古学の目的・定義」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
3回	事前の講義内容について復習し「考古学が対象とするものや年代の範囲」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
4回	事前の講義内容について復習し「考古学は時代・地域・その他で区分」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
5回	事前の講義内容について復習し「考古学が古代からどのように発達してきたか」につて調べておくこと。(標準学習時間60分)
6回	事前の講義内容について復習し「考古学が取り扱う資料」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
7回	事前の講義内容について復習し「考古学の研究方法」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
8回	事前の講義内容について復習し「考古学で用いられる年代測定」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
9回	事前の講義内容について復習し「日本の旧石器時代」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
10回	事前の講義内容について復習し「日本の旧石器時代後半の石器・製作技法・狩猟方法」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
11回	事前の講義内容について復習し「縄文時代について、定義・年代・生業」につて調べておくこと。(標準学習時間60分)
12回	事前の講義内容について復習し「縄文時代の住居と集落・墓地と埋葬・土器」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
13回	事前の講義内容について復習し「弥生時代の定義・年代・生業」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
14回	事前の講義内容について復習し「弥生時代の住居と集落・墓地と埋葬・土器からみた地域性」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
15回	事前の講義内容について復習し「古墳時代の年代・古墳の種類と埋葬施設」について調べておくこと。(標準学習時間60分)

16回	事前の講義内容について復習し「古墳時代の住居・生活様式」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
講義目的	考古学がなぜ必要であるのか。どんな学問であるか理解する。現代社会においてどのように役立つのか理解する。歴史が不得意な受講生にも理解しやすいように習得する。具体的には考古学における資料の分析や研究方法について解説し、考古学で扱う分析資料の分類や基礎的な知識を理解する。また、考古学における年代決定法(相対年代・絶対年代)について理解させることで、考古学が人文的研究法のみでなく、自然科学的分析法によっても研究されていることを習得する。4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断力・表現」に強く関与している。
達成目標	1) 理系、文系を問わず、歴史について説明できる。 2) さまざまな知識、学問に応用することができる。 3) 発想や資料分析法の仕方に応用することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	考古理化学、文化財、文化財科学
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	中間試験50%(達成目標1を評価)、最終評価試験50%(達成目標1~3を評価)により成績を評価する。合格基準は100点満点のうち60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。 適宜プリントを配付する。
関連科目	日本考古学、先史考古学
参考書	考古学ゼミナール/江上波夫/山川出版社:考古学の基礎知識/広瀬和雄/角川選書
連絡先	C2号館6階 白石研究室 shiraish@big.ous.ac.jp 086-256-9655 オフィスアワー 月曜5・6時限
授業の運営方針	・プロジェクターにより図を提示し、視覚的な説明と板書を組み合わせて講義を進めていく。 ・講義資料を適宜、配付する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	中間試験・最終評価試験の解説は試験終了後におこなう。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科における障がい学習支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので配慮が必要な場合は、事前に相談すること。 障がいに応じて補助器具(ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能)の使用を認めるので、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	考古学 (FB202610)
英文科目名	Archaeology
担当教員名	白石純 (しらいしじゅん)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義概要として講義内容と講義の進め方を説明する。 考古学がなぜ必要かについて実例を挙げながら講義する。
2回	考古学はどんな学問か。考古学の定義について実例を挙げながら講義する。
3回	考古学の研究対象・時間的範囲・地域的範囲について実例を挙げながら講義する。
4回	いろいろな考古学(時代・地域・宗教・その他)について実例を挙げながら講義する。
5回	考古学はどのように発達したか、について実例を挙げながら講義する。
6回	考古学資料の種類(遺跡・遺構・遺物)について実例を挙げながら講義する。
7回	考古学の研究方法(型式学・一括遺物と共存関係)について実例を挙げながら講義する。
8回	考古学で用いられる年代測定法(放射性炭素法・考古地磁気法・年輪年代法)について実例を挙げながら講義する。 中間試験を実施する。
9回	旧石器時代前半について実例を挙げながら講義する。
10回	旧石器時代後半について実例を挙げながら講義する。
11回	縄文時代草創期、早期、前期について実例を挙げながら講義する。
12回	縄文時代中期、後期、晩期について実例を挙げながら講義する。
13回	弥生時代前期、中期について実例を挙げながら講義する。
14回	弥生時代後期について実例を挙げながら講義する。
15回	古墳時代前期について実例を挙げながら講義する。
16回	古墳時代中期・後期について実例を挙げながら講義する。 これまでの講義内容について総括する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認し講義内容を理解しておくこと。図書館等で考古学について調べておくこと。(標準学習時間60分)
2回	事前の講義内容について復習し「考古学の目的・定義」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
3回	事前の講義内容について復習し「考古学が対象とするものや年代の範囲」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
4回	事前の講義内容について復習し「考古学は時代・地域・その他で区分」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
5回	事前の講義内容について復習し「考古学が古代からどのように発達してきたか」につて調べておくこと。(標準学習時間60分)
6回	事前の講義内容について復習し「考古学が取り扱う資料」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
7回	事前の講義内容について復習し「考古学の研究方法」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
8回	事前の講義内容について復習し「考古学で用いられる年代測定」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
9回	事前の講義内容について復習し「日本の旧石器時代」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
10回	事前の講義内容について復習し「日本の旧石器時代後半の石器・製作技法・狩猟方法」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
11回	事前の講義内容について復習し「縄文時代について、定義・年代・生業」につて調べておくこと。(標準学習時間60分)
12回	事前の講義内容について復習し「縄文時代の住居と集落・墓地と埋葬・土器」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
13回	事前の講義内容について復習し「弥生時代の定義・年代・生業」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
14回	事前の講義内容について復習し「弥生時代の住居と集落・墓地と埋葬・土器からみた地域性」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
15回	事前の講義内容について復習し「古墳時代の年代・古墳の種類と埋葬施設」について調べておくこと。(標準学習時間60分)

16回	事前の講義内容について復習し「古墳時代の住居・生活様式」について調べておくこと。(標準学習時間60分)
講義目的	考古学がなぜ必要であるのか。どんな学問であるか理解する。現代社会においてどのように役立っているのか理解する。歴史が不得意な受講生にも理解しやすいように習得する。具体的には考古学における資料の分析や研究方法について解説し、考古学で扱う分析資料の分類や基礎的な知識を理解する。また、考古学における年代決定法(相対年代・絶対年代)について理解させることで、考古学が人文学的研究法のみでなく、自然科学的分析法によっても研究されていることを習得する。4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断力・表現」に強く関与している。
達成目標	1) 理系、文系を問わず、歴史について説明できる。 2) さまざまな知識、学問に応用することができる。 3) 発想や資料分析法の仕方に応用することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	考古理化学、文化財、文化財科学
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	中間試験50%(達成目標1を評価)、最終評価試験50%(達成目標1~3を評価)により成績を評価する。合格基準は100点満点のうち60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。 適宜プリントを配付する。
関連科目	日本考古学、先史考古学
参考書	考古学ゼミナール/江上波夫/山川出版社:考古学の基礎知識/広瀬和雄/角川選書
連絡先	C2号館6階 白石研究室 shiraish@big.ous.ac.jp 086-256-9655 オフィスアワー 月曜5・6時限
授業の運営方針	・プロジェクターにより図を提示し、視覚的な説明と板書を組み合わせて講義を進めていく。 ・講義資料を適宜、配付する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	中間試験・最終評価試験の解説は試験終了後におこなう。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科における障がい学習支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので配慮が必要な場合は、事前に相談すること。 障がいに応じて補助器具(ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能)の使用を認めるので、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	日本史 (FB203600)
英文科目名	Japanese History
担当教員名	小林博昭* (こばやしひろあき*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション。授業の進め方を説明する。くわえて弥生時代の特色や、この時代の時期区分について説明する。
2回	弥生時代に海外から伝播した技術について、水田によるコメ作り技術について、具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
3回	前回到続いて、水田によるコメ作りの技術について補足説明し、さらにガラス加工技術について、具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。時間的余裕があれば、青銅器加工技術についても説明する。
4回	前回から続いて、弥生時代におこなわれた青銅器加工技術と青銅製武器の変遷過程について説明した後、鉄器の加工技術と製品についてOHCを用いながら、配布プリントを中心に説明する。
5回	青銅器や鉄器加工技術の補足説明と、それら製品を説明した後、古墳時代へつなげる意味で、弥生時代の墓制の変遷について、西日本の各地域における例を説明する。今回は、そのなかで北部九州の具体例にスポットを当てて、スライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
6回	畿内の弥生時代における墓構築技術と社会的背景について、さらに日本海側、とくに出雲地域における弥生時代の特定集団墓について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
7回	瀬戸内地域、とくに岡山県の特集集団墓について説明する。さらに後期中頃から出現する規模の大きなそれらの墓とその特徴について具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。くわえて、初回以降、今回までの授業内容の整理とまとめをおこない、受講生の当授業内容への理解の深化を促す。
8回	第1回目から第7回目までの授業で扱った歴史的な事象についての補足説明をおこなう。ここまでの授業内容について、中間的な評価のための試験を実施する。
9回	古墳時代の概要や、この時代の時期区分について、OHC等を用いて説明する。
10回	古墳出現前夜の様相について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。さらに箸墓を中心に、出現期古墳の特色を説明する。
11回	古墳時代、前期、中期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
12回	前回到続いて、古墳時代中、そして後期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
13回	古墳時代後期の物質文化と採用された技術、社会的背景についての追加説明をする。これに加えて、古墳時代に残された金石文について、そこから読み取れる大陸との交渉の状況等、それら具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
14回	前回到続いて、金石文のなかから、具体例を説明する。さらに、古墳時代末期について説明する。これらの説明には、スライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用する。
15回	古墳時代末期の補足説明と、古墳時代のロジステックス(物流)について、具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。さらに、これまでの授業内容の整理とまとめをおこなう。
16回	今まで扱ってきた歴史事象の補足説明をする。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスの注意事項を熟読しておくこと。弥生時代の特色、そして時期区分の方法についてノートを中心に復習すること。弥生時代のコメ作りについて、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
2回	弥生時代の水田によるコメ作り技術について十分に復習すること。弥生時代のガラス製品について図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	弥生時代のコメ作りやガラス加工技術について、復習すること。弥生時代に製作、使用された青銅器について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	青銅器加工技術や青銅製武器の移り変わり、そして鉄器の加工技術と製品について、配布プリントを中心に十分復習すること。弥生時代の鉄器についてどのような種類があるのか、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	北部九州の弥生時代の墓制について復習をおこなうこと。畿内の弥生時代の墓制、とくに方形周溝

	墓について図書館等で予習しておくこと。さらに出雲地域における弥生時代の特定集団墓について、その構築技術などを図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	畿内、および出雲地域の弥生時代における墓構築技術と社会的背景について説明できるように復習をおこなうこと。くわえて、岡山県の弥生時代の特定集団墓について予習しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	第1回目から第7回目までの授業のポイントを各自まとめて再度確認し、内容を十分理解しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	これまでの授業で習った歴史的な事象について、復習を十分おこなうこと。さらに古墳時代の概要や、特徴について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
9回	古墳時代の概要や特徴をノートを中心に復習し、さらに古墳出現前夜の様子を図書館等で、調べておくこと。(標準学習時間120分)
10回	古墳出現前夜の様相について、また箸墓などの出現期古墳の特色を説明できるように復習すること。くわえて、古墳時代の文化と駆使された技術を中心に図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
11回	古墳時代前期、中期の物質文化やそれらに採用された技術について、復習しておくこと。さらに古墳時代後期の物質文化と採用された技術について図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	古墳時代中、そして後期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、配布プリントやノートを中心に十分復習しておくこと。また、古墳時代に残された文字資料について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
13回	古墳時代後期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、そして習った金石文について配布プリントやノートを中心に十分復習しておくこと。また、古墳時代終末期の様子を図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
14回	これまでの授業で扱った金石文と、古墳時代末期の内容について十分に復習をすること。また、古墳時代の物流について、図書館等で予習しておくこと。さらに、第9回からこれまで習ったことの内容のまとめと整理を各自おこない、質問などをノートにメモしておくこと。(標準学習時間120分)
15回	古墳時代の物流と、第1回から第7回までの授業のポイントを各自まとめて、十分復習しておくこと。(標準学習時間120分)
16回	ここまでの授業内容についての復習をおこなうこと。(標準学習時間120分)

講義目的	主として、日本列島内における古代史を扱う。具体的には物質文化の発達過程に視座をおき、列島の弥生時代から最もミステリアスな時代といわれる古墳時代、さらに乙巳の変を経て、大化の薄葬令発布前後までの時代における人々が製作した「もの」から、当時の文化を復原し、時系列の中でそれらの変遷の様相や、極東アジア地域からの文化伝播の問題に関して述べる。4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	1)我が国の国家形成等にかかわる古代史を構成する諸要素を抽出できる。 2)歴史という時系列の中で、抽出した諸要素を客観的に把握できる。 3)諸要素相互の因果関係や、その背景について分析できる。 4)それらの分析結果について深く考察できる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	“古代”、“弥生時代”、“古墳時代”、“日本史”
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	中間テスト(達成目標1~4)(50%)、最終評価試験(達成目標1~4)(50%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。講義の進行過程で、資料をプリント等で配布する。
関連科目	とくに無し。
参考書	講義の進行過程で適宜紹介する。
連絡先	
授業の運営方針	(1)毎回の授業は、スライドプロジェクターによる様々な画像をスクリーンに上映し、受講生の興味と理解の促進、さらにはそれらの深化をはかる。 (2)(1)に加えて、授業の開始時にプリントを配布し、それらをOHCを通じて提示しプリントに重要事項を受講生自らが記入することによって、授業で説明する事柄の理解と整理をはかる。プリント類は特別な事情が無い限り、後日の配布には応じない。なお、配布に際してMomo-campus等を利用することがある。その場合は、事前に受講生に連絡する。 (3)出欠は毎回とる。 (4)ケガ、病気、その他で欠席した場合は、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出すること。もし無い場合は欠席扱いとなる。 (5)授業中に私語をする受講生や、他の受講生に迷惑がかかるような受講態度が悪い受講生に対しては、即刻退場や以降の受講を断る場合がある。 (6)講義中の録音/録画/撮影等は、原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に必ず相談すること。

アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	試験結果のフィードバックは、Momo-campus等による。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 なお、講義中の録音/録画/撮影等は、原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	日本史 (FB203610)
英文科目名	Japanese History
担当教員名	小林博昭* (こばやしひろあき*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション。授業の進め方を説明する。くわえて弥生時代の特色や、この時代の時期区分について説明する。
2回	弥生時代に海外から伝播した技術について、水田によるコメ作り技術について、具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
3回	前回到続いて、水田によるコメ作りの技術について補足説明し、さらにガラス加工技術について、具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。時間的余裕があれば、青銅器加工技術についても説明する。
4回	前回から続いて、弥生時代におこなわれた青銅器加工技術と青銅製武器の変遷過程について説明した後、鉄器の加工技術と製品についてOHCを用いながら、配布プリントを中心に説明する。
5回	青銅器や鉄器加工技術の補足説明と、それら製品を説明した後、古墳時代へつなげる意味で、弥生時代の墓制の変遷について、西日本の各地域における例を説明する。今回は、そのなかで北部九州の具体例にスポットを当てて、スライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
6回	畿内の弥生時代における墓構築技術と社会的背景について、さらに日本海側、とくに出雲地域における弥生時代の特定集団墓について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
7回	瀬戸内地域、とくに岡山県の特集集団墓について説明する。さらに後期中頃から出現する規模の大きなそれらの墓とその特徴について具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。くわえて、初回以降、今回までの授業内容の整理とまとめをおこない、受講生の当授業内容への理解の深化を促す。
8回	第1回目から第7回目までの授業で扱った歴史的な事象についての補足説明をおこなう。ここまでの授業内容について、中間的な評価のための試験を実施する。
9回	古墳時代の概要や、この時代の時期区分について、OHC等を用いて説明する。
10回	古墳出現前夜の様相について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。さらに箸墓を中心に、出現期古墳の特色を説明する。
11回	古墳時代、前期、中期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
12回	前回到続いて、古墳時代中、そして後期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
13回	古墳時代後期の物質文化と採用された技術、社会的背景についての追加説明をする。これに加えて、古墳時代に残された金石文について、そこから読み取れる大陸との交渉の状況等、それら具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
14回	前回到続いて、金石文のなかから、具体例を説明する。さらに、古墳時代末期について説明する。これらの説明には、スライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用する。
15回	古墳時代末期の補足説明と、古墳時代のロジステックス(物流)について、具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。さらに、これまでの授業内容の整理とまとめをおこなう。
16回	今まで扱ってきた歴史事象の補足説明をする。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスの注意事項を熟読しておくこと。弥生時代の特色、そして時期区分の方法についてノートを中心に復習すること。弥生時代のコメ作りについて、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
2回	弥生時代の水田によるコメ作り技術について十分に復習すること。弥生時代のガラス製品について図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	弥生時代のコメ作りやガラス加工技術について、復習すること。弥生時代に製作、使用された青銅器について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	青銅器加工技術や青銅製武器の移り変わり、そして鉄器の加工技術と製品について、配布プリントを中心に十分復習すること。弥生時代の鉄器についてどのような種類があるのか、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	北部九州の弥生時代の墓制について復習をおこなうこと。畿内の弥生時代の墓制、とくに方形周溝

	墓について図書館等で予習しておくこと。さらに出雲地域における弥生時代の特定集団墓について、その構築技術などを図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	畿内、および出雲地域の弥生時代における墓構築技術と社会的背景について説明できるように復習をおこなうこと。くわえて、岡山県の弥生時代の特定集団墓について予習しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	第1回目から第7回目までの授業のポイントを各自まとめて再度確認し、内容を十分理解しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	これまでの授業で習った歴史的な事象について、復習を十分おこなうこと。さらに古墳時代の概要や、特徴について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
9回	古墳時代の概要や特徴をノートを中心に復習し、さらに古墳出現前夜の様子を図書館等で、調べておくこと。(標準学習時間120分)
10回	古墳出現前夜の様相について、また箸墓などの出現期古墳の特色を説明できるように復習すること。くわえて、古墳時代の文化と駆使された技術を中心に図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
11回	古墳時代前期、中期の物質文化やそれらに採用された技術について、復習しておくこと。さらに古墳時代後期の物質文化と採用された技術について図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	古墳時代中、そして後期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、配布プリントやノートを中心に十分復習しておくこと。また、古墳時代に残された文字資料について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
13回	古墳時代後期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、そして習った金石文について配布プリントやノートを中心に十分復習しておくこと。また、古墳時代終末期の様子を図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
14回	これまでの授業で扱った金石文と、古墳時代末期の内容について十分に復習をすること。また、古墳時代の物流について、図書館等で予習しておくこと。さらに、第9回からこれまで習ったことの内容のまとめと整理を各自おこない、質問などをノートにメモしておくこと。(標準学習時間120分)
15回	古墳時代の物流と、第1回から第7回までの授業のポイントを各自まとめて、十分復習しておくこと。(標準学習時間120分)
16回	ここまでの授業内容についての復習をおこなうこと。(標準学習時間120分)

講義目的	主として、日本列島内における古代史を扱う。具体的には物質文化の発達過程に視座をおき、列島の弥生時代から最もミステリアスな時代といわれる古墳時代、さらに乙巳の変を経て、大化の薄葬令発布前後までの時代における人々が製作した「もの」から、当時の文化を復原し、時系列の中でそれらの変遷の様相や、極東アジア地域からの文化伝播の問題に関して述べる。4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	1)我が国の国家形成等にかかわる古代史を構成する諸要素を抽出できる。 2)歴史という時系列の中で、抽出した諸要素を客観的に把握できる。 3)諸要素相互の因果関係や、その背景について分析できる。 4)それらの分析結果について深く考察できる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	“古代”、“弥生時代”、“古墳時代”、“日本史”
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	中間テスト(達成目標1~4)(50%)、最終評価試験(達成目標1~4)(50%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。講義の進行過程で、資料をプリント等で配布する。
関連科目	とくに無し。
参考書	講義の進行過程で適宜紹介する。
連絡先	
授業の運営方針	(1)毎回の授業は、スライドプロジェクターによる様々な画像をスクリーンに上映し、受講生の興味と理解の促進、さらにはそれらの深化をはかる。 (2)(1)に加えて、授業の開始時にプリントを配布し、それらをOHCを通じて提示しプリントに重要事項を受講生自らが記入することによって、授業で説明する事柄の理解と整理をはかる。プリント類は特別な事情が無い限り、後日の配布には応じない。なお、配布に際してMomo-campus等を利用することがある。その場合は、事前に受講生に連絡する。 (3)出欠は毎回とる。 (4)ケガ、病気、その他で欠席した場合は、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出すること。もし無い場合は欠席扱いとなる。 (5)授業中に私語をする受講生や、他の受講生に迷惑がかかるような受講態度が悪い受講生に対しては、即刻退場や以降の受講を断る場合がある。 (6)講義中の録音/録画/撮影等は、原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に必ず相談すること。

アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	試験結果のフィードバックは、Momo-campus等による。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 なお、講義中の録音/録画/撮影等は、原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	政治学 (FB204000)
英文科目名	Political Science
担当教員名	玉井良尚* (たまいよしなお*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「政治とは」：権力と権威、そして支配の正統性について説明する。
2回	「国家」：市民革命と国民国家、主権概念について説明する。
3回	「政治体制とイデオロギー」：自由民主主義やファシズム、権威主義、マルクス主義といった政治体制やイデオロギーについて説明する。
4回	「選挙と民主主義」：日本の選挙制度を事例とし、選挙制度について説明する。
5回	「議院内閣制と大統領制」：日本と米国を事例として、議院内閣制と大統領制の特徴について説明する。
6回	「議会と政党システム」：一党優位制や二大政党制、多党制などの政党システムについて説明する。
7回	「官僚制と利益団体」：政策過程に關与する官僚と利益団体について説明する。
8回	ここまでの講義内容について中間的な評価をするための試験を実施する。
9回	「政治の多元化」：政治における国際化と地域化、市民社会の役割の増大といった政治の多元化について概説する。
10回	「地方政治」：地方自治体と地方分権について説明する。
11回	「福祉」：リベラリズムとリバタリアニズムの観点から福祉国家について説明する。
12回	「市民社会」：今日のNGO/NPOの意義と役割について説明する。
13回	「マスメディア」：政治におけるマスメディアの役割について説明する。
14回	「国際化」：移民・難民問題や多文化主義の観点から「国際化」について説明する。
15回	「民主主義の限界？」：政治的無関心とポピュリズムについて説明する。
16回	最終評価試験を実施する。 最終評価試験のフィードバックとして、試験内容の解説を行う。

回数	準備学習
1回	新聞やTV、インターネットを通じ政治ニュースに触れて、政治問題に関心を持つよう努力すること (標準学習時間30分)
2回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
3回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
4回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
5回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
6回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
7回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
8回	前回までの講義内容についてしっかり復習しておくこと (標準学習時間60分)
9回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
10回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
11回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
12回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
13回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
14回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
15回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
16回	前回までの講義内容についてしっかり復習しておくこと (標準学習時間120分)

講義目的	今日、現代社会が抱える問題は拡大し複雑化している。それは多くの個人や組織が交通・情報革命によって国境を越えるなどし、その活動領域が飛躍的に拡大しているからである。これら諸問題を分析・解決するには、利害調整と妥協を重視する政治学の知識が欠かせない。この講義では、「政治」を学ぶことによって、現代社会の諸問題に対する考察と、自分なりの解決策の模索ができるようになることを目的とする。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	政治学におけるワードや基本的概念、そして歴史的展開について説明できる。 社会の政治問題領域が今日、拡大し続けていることを理解し説明できる。 政治学の知識を用いて、現代社会の問題を分析し、自分なりの解決策を考え出せるようになる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	現代政治、政治体制、政治イデオロギー、議院内閣制、大統領制、政党システム、政治過程、地方自治、市民社会、マスメディア、福祉政治、国際化、ポピュリズム
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	上記達成目標の到達度を中間評価試験(50%)と最終評価試験(50%)で評価する。
教科書	・現代政治学 [第4版] / 加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦 / 有斐閣 / 978-4641124554 ・政治学 / 川出良枝・谷口将紀 (編) / 東京大学出版会 / 978-4130322195
関連科目	国際関係論A / B
参考書	適宜指示する。
連絡先	
授業の運営方針	・日常生活と政治は日々密接化しており、現代の人びとは政治にまったく無関心でいられない。それゆえに、現代政治を理解することは社会人として極めて重要である。この講義では、受講生が現代政治への関心と理解を少しでも多く得られるように実施していく。そのため、受講生も新聞やニュースなどで、日々の政治動向に対して常に関心を持ち、情報を集めてもらいたい。また講義に関する受講生からの質問などは大いに歓迎する。 ・毎回授業開始時にその回の授業に関するレジュメ・資料を配布する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	中間評価試験と最終評価試験のフィードバックとして、試験問題内容の解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	政治学 (FB204010)
英文科目名	Political Science
担当教員名	玉井良尚* (たまいよしなお*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「政治とは」：権力と権威、そして支配の正統性について説明する。
2回	「国家」：市民革命と国民国家、主権概念について説明する。
3回	「政治体制とイデオロギー」：自由民主主義やファシズム、権威主義、マルクス主義といった政治体制やイデオロギーについて説明する。
4回	「選挙と民主主義」：日本の選挙制度を事例とし、選挙制度について説明する。
5回	「議院内閣制と大統領制」：日本と米国を事例として、議院内閣制と大統領制の特徴について説明する。
6回	「議会と政党システム」：一党優位制や二大政党制、多党制などの政党システムについて説明する。
7回	「官僚制と利益団体」：政策過程に關与する官僚と利益団体について説明する。
8回	ここまでの講義内容について中間的な評価をするための試験を実施する。
9回	「政治の多元化」：政治における国際化と地域化、市民社会の役割の増大といった政治の多元化について概説する。
10回	「地方政治」：地方自治体と地方分権について説明する。
11回	「福祉」：リベラリズムとリバタリアニズムの観点から福祉国家について説明する。
12回	「市民社会」：今日のNGO/NPOの意義と役割について説明する。
13回	「マスメディア」：政治におけるマスメディアの役割について説明する。
14回	「国際化」：移民・難民問題や多文化主義の観点から「国際化」について説明する。
15回	「民主主義の限界？」：政治的無関心とポピュリズムについて説明する。
16回	最終評価試験を実施する。 最終評価試験のフィードバックとして、試験内容の解説を行う。

回数	準備学習
1回	新聞やTV、インターネットを通じ政治ニュースに触れて、政治問題に関心を持つよう努力すること (標準学習時間30分)
2回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
3回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
4回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
5回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
6回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
7回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
8回	前回までの講義内容についてしっかり復習しておくこと (標準学習時間60分)
9回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
10回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
11回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
12回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
13回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
14回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
15回	講義終了時に、次回の範囲 (テキスト等の該当ページ) を指定するので、予習しておくこと (標準学習時間30分)
16回	前回までの講義内容についてしっかり復習しておくこと (標準学習時間120分)

講義目的	今日、現代社会が抱える問題は拡大し複雑化している。それは多くの個人や組織が交通・情報革命によって国境を越えるなどし、その活動領域が飛躍的に拡大しているからである。これら諸問題を分析・解決するには、利害調整と妥協を重視する政治学の知識が欠かせない。この講義では、「政治」を学ぶことによって、現代社会の諸問題に対する考察と、自分なりの解決策の模索ができるようになることを目的とする。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	政治学におけるワードや基本的概念、そして歴史的展開について説明できる。 社会の政治問題領域が今日、拡大し続けていることを理解し説明できる。 政治学の知識を用いて、現代社会の問題を分析し、自分なりの解決策を考え出せるようになる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	現代政治、政治体制、政治イデオロギー、議院内閣制、大統領制、政党システム、政治過程、地方自治、市民社会、マスメディア、福祉政治、国際化、ポピュリズム
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	上記達成目標の到達度を中間評価試験(50%)と最終評価試験(50%)で評価する。
教科書	・現代政治学 [第4版] / 加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦 / 有斐閣 / 978-4641124554 ・政治学 / 川出良枝・谷口将紀 (編) / 東京大学出版会 / 978-4130322195
関連科目	国際関係論A / B
参考書	適宜指示する。
連絡先	
授業の運営方針	・日常生活と政治は日々密接化しており、現代の人びとは政治にまったく無関心でいられない。それゆえに、現代政治を理解することは社会人として極めて重要である。この講義では、受講生が現代政治への関心と理解を少しでも多く得られるように実施していく。そのため、受講生も新聞やニュースなどで、日々の政治動向に対して常に関心を持ち、情報を集めてもらいたい。また講義に関する受講生からの質問などは大いに歓迎する。 ・毎回授業開始時にその回の授業に関するレジュメ・資料を配布する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	中間評価試験と最終評価試験のフィードバックとして、試験問題内容の解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	社会と人間 (FB204100)
英文科目名	Society and Human Beings
担当教員名	榎原宥* (えばらゆたか*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義オリエンテーション(1) 私たちが存在している「社会」とは一体何か、私たちの社会参画の意義は何かというテーマで講義内容を説明する。
2回	第一回講義の続き 「市民性の授業」の解説と憲法改正を含む政治の大きな流れについて、政権の動きを時系列で捉え、説明する。
3回	立法への市民参加(1) - 私たち周りにある究極の、また共通のルール=憲法と、憲法改定論議について解説する。憲法は何のためにあるのかを共に考える。
4回	立法への市民参加(2) - 憲法の前文と第九条について、特に、自衛権の問題について解説する。
5回	立法への市民参加(3) - 民主主義とは何か、立憲主義とは何か、また、統治行為論とは何かについて解説し、現行憲法の意味合いを今一度共に考える。
6回	ワイツェッカー西ドイツ大統領演説「荒野の40年」を題材に、第二次世界大戦敗戦国日本とドイツの戦後処理について解説する。
7回	日本社会の現状を考え、この先日本はどこへ向かおうとしているのか、今からの50年で君たちは何を体験するのか想像する。どのような「市民性」を発揮できるのか考える。
8回	講義の総括と中間評価のための試験を実施する。
9回	講義オリエンテーション(2) - 私たちの社会参画の意義と、現在、身の回りに起きている社会問題への関わり方=市民性の発揮=を再確認する。
10回	行政への市民参加(1) - ジェンダー問題と、日本女性の社会進出について、国際比較を交えながら解説する。
11回	第10回講義の続き - ワークシェアリングの説明と今話題の働き方改革、同一労働同一賃金、生産年齢人口等との関連を解説する。
12回	行政への市民参加(2) - 地球環境問題、日本のエネルギー政策、原子力発電(再稼働問題を含む)に私たち(君たち)はどう向かい合っていくかを共に考える。
13回	第12回の続き - 日本のエネルギー政策に関連し、福島原発事故を経験した今、電力会社、国、市民(私たち、あるいは君たち)の社会的責任を考える。
14回	第13回の続き - 企業の社会的責任をより詳しく、福島原発を持つ東京電力を題材に説明する。
15回	司法への市民参加 - 日本の裁判員制度とその課題について解説する。
16回	後半の総括と最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、講義内容を把握しておくこと。
2回	憲法改定についての自分の意見を持って授業に臨むこと。(標準学習時間: 講義期間は常にその意識を確認すること。また、その間、関連するニュースをチェックすること。)
3回	日本国憲法の前文と第九条を読んでおくこと。(標準学習時間: 60分)
4回	自衛隊の歴史と、何のために存在するのかを考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
5回	第3回、第4回の講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間: 60分)
6回	靖国神社問題の予備知識を持って授業に臨むこと。(標準学習時間: 60分)
7回	現在社会で起こっていることの中で、一番の関心事は何かを考えておくこと。
8回	第1回から第7回内容を良く理解し、整理しておくこと。(標準学習時間: 120分)
9回	三権分立の基礎知識を持って授業に臨むこと。(標準学習時間: 60分)
10回	アフターマティブ・アクションとは何か、予備知識を持って講義に臨むこと。(標準学習時間: 60分)
11回	ワーク・ライフ・バランスとは何かを調べておくこと。(標準学習時間: 60分)
12回	「パリ協定」の予備知識を持って授業に臨むこと。(標準学習時間: 60分)
13回	あなたは原子力発電の将来の姿について、どのような意見を持っているかを考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
14回	企業の社会的責任とはどのようなものを指すのかを考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
15回	日本の裁判員制度の概要を調べておくこと。(標準学習時間: 60分)
16回	第9回から第15回までの講義内容を良く理解し、整理しておくこと。(標準学習時間: 120分)

講義目的	「人間」が集まるところに「社会」が出現する。そしてこの「社会」には一定のルールと、それに基づく秩序が存在するが、それらの解釈を巡って、色々な対立が起き、様々な社会問題が生まれる。今、世界に蔓延する自国第一主義の潮流はこの対立に拍車をかけている。このような時代に、君
------	--

	<p>たち若者が「市民性=社会参画の権利と義務=社会変革の意識」を発揮することの重要性を解説する。そこで、この講義では、前半は、「三権」の内「立法」への市民参加について論ずる。皆に共通の社会ルールである日本国憲法を題材として、眼の前に迫る改憲に対する議論を様々な社会的側面（今夏には参議院議員選挙が行われることも踏まえて）を議論する。後半は、「行政」と「司法」への市民参加について論ずる。題材として、女性の社会進出問題、地球環境、原発再稼働、裁判員裁判等の現在進行形の時事問題を取り上げる。この講義を通して皆さんが良き市民として成長し、社会問題をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけば良いかを学ぶ。（教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する）</p>
達成目標	<p>憶測や予見を排して、社会問題を観察し、各々が主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、それを適切な（論理的で破綻のない）言葉や文章で表現出来る。 4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する</p>
キーワード	市民性、ルールと秩序、民主主義、立憲主義、社会的責任
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	中間試験50%、最終試験50%で評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。講義中にレジメを配布する。
関連科目	なし。
参考書	講義中適宜紹介する。
連絡先	必要な場合は、教務課に連絡すること。
授業の運営方針	<p>多人数の履修が予想されるため、講義（講師からの情報提供）中心の授業となるが、随時、宿題を出し理解状況を確認する予定。講義は、回毎に完結する、或は、完結したことを受け継いで次の講義に進むという形が多いので、欠席をすると前後の脈絡が分からなくなる可能性があるため、毎回の出席を心がけること。</p>
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	<p>最終評価試験は最終講義時間の後半に行う。講義はこの段階で完了のため、試験のフィードバック（解説）は行えないので、最終の成績評価で自身の成績を確認すること。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。必要に応じ講義の録音並びに黒板の撮影を許可するので、この件に関しても必ず事前に相談のこと。</p>
実務経験のある教員	<p>ア) 元ヤマハ株式会社勤務。ドイツ、アメリカの海外現地法人に各5年、通算10年駐在、勤務。 イ) 社会経験と国際経験を生かした、時事問題・国際社会問題の解説、講義を行う。</p>
その他（注意・備考）	

科目名	社会と人間 (FB204110)
英文科目名	Society and Human Beings
担当教員名	榎原宥* (えばらゆたか*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義オリエンテーション(1) 私たちが存在している「社会」とは一体何か、私たちの社会参画の意義は何かというテーマで講義内容を説明する。
2回	第一回講義の続き 「市民性の授業」の解説と憲法改正を含む政治の大きな流れについて、政権の動きを時系列で捉え、説明する。
3回	立法への市民参加(1) - 私たち周りにある究極の、また共通のルール=憲法と、憲法改定論議について解説する。憲法は何のためにあるのかを共に考える。
4回	立法への市民参加(2) - 憲法の前文と第九条について、特に、自衛権の問題について解説する。
5回	立法への市民参加(3) - 民主主義とは何か、立憲主義とは何か、また、統治行為論とは何かについて解説し、現行憲法の意味合いを今一度共に考える。
6回	ワイツェッカー西ドイツ大統領演説「荒野の40年」を題材に、第二次世界大戦敗戦国日本とドイツの戦後処理について解説する。
7回	日本社会の現状を考え、この先日本はどこへ向かおうとしているのか、今からの50年で君たちは何を体験するのか想像する。どのような「市民性」を発揮できるのか考える。
8回	講義の総括と中間評価のための試験を実施する。
9回	講義オリエンテーション(2) - 私たちの社会参画の意義と、現在、身の回りに起きている社会問題への関わり方=市民性の発揮=を再確認する。
10回	行政への市民参加(1) - ジェンダー問題と、日本女性の社会進出について、国際比較を交えながら解説する。
11回	第10回講義の続き - ワークシェアリングの説明と今話題の働き方改革、同一労働同一賃金、生産年齢人口等との関連を解説する。
12回	行政への市民参加(2) - 地球環境問題、日本のエネルギー政策、原子力発電(再稼働問題を含む)に私たち(君たち)はどう向かい合っていくかを共に考える。
13回	第12回の続き - 日本のエネルギー政策に関連し、福島原発事故を経験した今、電力会社、国、市民(私たち、あるいは君たち)の社会的責任を考える。
14回	第13回の続き - 企業の社会的責任をより詳しく、福島原発を持つ東京電力を題材に説明する。
15回	司法への市民参加 - 日本の裁判員制度とその課題について解説する。
16回	後半の総括と最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、講義内容を把握しておくこと。
2回	憲法改定についての自分の意見を持って授業に臨むこと。(標準学習時間: 講義期間は常にその意識を確認すること。また、その間、関連するニュースをチェックすること。)
3回	日本国憲法の前文と第九条を読んでおくこと。(標準学習時間: 60分)
4回	自衛隊の歴史と、何のために存在するのかを考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
5回	第3回、第4回の講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間: 60分)
6回	靖国神社問題の予備知識を持って授業に臨むこと。(標準学習時間: 60分)
7回	現在社会で起こっていることの中で、一番の関心事は何かを考えておくこと。
8回	第1回から第7回内容を良く理解し、整理しておくこと。(標準学習時間: 120分)
9回	三権分立の基礎知識を持って授業に臨むこと。(標準学習時間: 60分)
10回	アフターマティブ・アクションとは何か、予備知識を持って講義に臨むこと。(標準学習時間: 60分)
11回	ワーク・ライフ・バランスとは何かを調べておくこと。(標準学習時間: 60分)
12回	「パリ協定」の予備知識を持って授業に臨むこと。(標準学習時間: 60分)
13回	あなたは原子力発電の将来の姿について、どのような意見を持っているかを考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
14回	企業の社会的責任とはどのようなものを指すのかを考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
15回	日本の裁判員制度の概要を調べておくこと。(標準学習時間: 60分)
16回	第9回から第15回までの講義内容を良く理解し、整理しておくこと。(標準学習時間: 120分)

講義目的	「人間」が集まるところに「社会」が出現する。そしてこの「社会」には一定のルールと、それに基づく秩序が存在するが、それらの解釈を巡って、色々な対立が起き、様々な社会問題が生まれる。今、世界に蔓延する自国第一主義の潮流はこの対立に拍車をかけている。このような時代に、君
------	--

	<p>たち若者が「市民性=社会参画の権利と義務=社会変革の意識」を発揮することの重要性を解説する。そこで、この講義では、前半は、「三権」の内「立法」への市民参加について論ずる。皆に共通の社会ルールである日本国憲法を題材として、眼の前に迫る改憲に対する議論を様々な社会的側面（今夏には参議院議員選挙が行われることも踏まえて）を議論する。後半は、「行政」と「司法」への市民参加について論ずる。題材として、女性の社会進出問題、地球環境、原発再稼働、裁判員裁判等の現在進行形の時事問題を取り上げる。この講義を通して皆さんが良き市民として成長し、社会問題をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけば良いかを学ぶ。（教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する）</p>
達成目標	<p>憶測や予見を排して、社会問題を観察し、各々が主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、それを適切な（論理的で破綻のない）言葉や文章で表現出来る。 4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する</p>
キーワード	市民性、ルールと秩序、民主主義、立憲主義、社会的責任
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	中間試験50%、最終試験50%で評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。講義中にレジメを配布する。
関連科目	なし。
参考書	講義中適宜紹介する。
連絡先	必要な場合は、教務課に連絡すること。
授業の運営方針	<p>多人数の履修が予想されるため、講義（講師からの情報提供）中心の授業となるが、随時、宿題を出し理解状況を確認する予定。講義は、回毎に完結する、或は、完結したことを受け継いで次回の講義に進むという形が多いので、欠席をすると前後の脈絡が分からなくなる可能性があるため、毎回の出席を心がけること。</p>
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	<p>最終評価試験は最終講義時間の後半に行う。講義はこの段階で完了のため、試験のフィードバック（解説）は行えないので、最終の成績評価で自身の成績を確認すること。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。必要に応じ講義の録音並びに黒板の撮影を許可するので、この件に関しても必ず事前に相談のこと。</p>
実務経験のある教員	<p>ア) 元ヤマハ株式会社勤務。ドイツ、アメリカの海外現地法人に各5年、通算10年駐在、勤務。 イ) 社会経験と国際経験を生かした、時事問題・国際社会問題の解説、講義を行う。</p>
その他（注意・備考）	

科目名	社会と人間 (FB204120)
英文科目名	Society and Human Beings
担当教員名	市場恵子* (いちばけいこ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【自尊感情とジェンダー】性に関するキーワード「sex, gender, sexuality」を理解し、エンパワメントの理念を学ぶ。
2回	【性の多様性と可変性】性同一性障害(性別違和)・性分化疾患・性的指向(同性愛・両性愛・無性愛)など、性的少数者への理解を深める。
3回	【リプロダクティブ・ヘルス&ライツ】妊娠・出産・中絶・不妊など、生殖に関する基本的知識や、「性的自己決定権」を尊重し合う関係を学ぶ。性暴力や売買春についても検証する。
4回	【障がいとともに生きる】「障がい」とは? 自らの差別感や社会のバリアを検証する。
5回	【DVと虐待】アニメ『パパ、ママをぶたないで』を観て、DVや虐待について考える。DVのサイクル、子どもへの影響、被害者の救済と加害者の更生などを学ぶ。
6回	【デートDV】暴力や支配のない、お互いに尊重し合える対等なパートナーシップを学ぶ。
7回	【キャンパス・ハラスメント】キャンパスハラスメントとは? ハラスメントの防止対策を考える。
8回	【憲法とは何か?】(前半45分間講義)日本国憲法を守るのは誰か。憲法にはどんな役割があるのか。わかりやすい口語訳で解説する。 【中間試験】(後半45分間試験)
9回	【震災と原発】3.11から8年。原発の「安全・安心・必要」神話を問い直し、真の豊かさとは何かを問う。
10回	【「慰安婦」問題とメディア】戦時性暴力は今も繰り返されている。不処罰の連鎖を断つための試みとメディアの対応を検証する。
11回	【「ホームレス」と貧困】若者による「ホームレス」襲撃事件や、野宿生活者の実態を知り、「貧困」を生み出す社会的背景を考える。
12回	【犯罪と更生～暴力の被害と加害に向き合う】アメリカの受刑者更生施設「アミティ」の実践(治療共同体)を知り、加害者の更生には何が必要かを学ぶ。
13回	【育児とジェンダー】映画『クレマー・クレマー』を観て、「ワーク・ライフ・バランス」や父親の育児参加を促す。
14回	【介護とジェンダー】近年、ひとりぐらしの高齢者が増加。介護を担う人の4人に1人が男性という時代。介護疲れから虐待・心中に追い込まれる人もいる。『折り梅』を観て、これからの高齢者問題を考える。
15回	【アサーティブ・トレーニング】コミュニケーションパターンを学び、自分のクセに気づく。「Iメッセージ」と「YOUメッセージ」の違いを学び、2人組になって自他を尊重する会話や、「ノー」と言う練習もする。
16回	【ディーセントワーク】(前半45分間講義)人間らしい働き方とはどんな働き方か。労働基準法も併せて検討する。 【期末試験】(後半45分間試験)

回数	準備学習
1回	【自尊感情とジェンダー】シラバスを確認し、学習の過程を把握しておくこと。
2回	【性の多様性と可変性】テレビ番組や雑誌などで、性的少数者を差別・侮蔑・嘲笑したりする場面はないか、チェックしておくこと。同性婚が認められている国、日本の現状を調べておくこと。
3回	【リプロダクティブ・ヘルス&ライツ】男性性器・女性性器の科学的名称、避妊の方法、性感染症など、復習しておくこと。
4回	【障がいとともに生きる】大学や駅、公共施設などに設置されたトイレ・エレベーター・自販機など、障がいをもつ人にとって住みよい環境が整備されているかチェックしておくこと。
5回	【DVと虐待】DV(夫婦間暴力)や虐待はなぜ起きるのか。暴力の種類や影響について調べておくこと。
6回	【デートDV】交際中のカップルの間で起きる暴力にはどんなものがあるか調べておくこと。
7回	【キャンパス・ハラスメント】本学ではセクハラ・アカハラ・パワハラを防止するために、どんな対策が行われているか、ガイドラインや相談窓口を調べておくこと。
8回	【憲法とは何か?】日本国憲法の前文と9条・12条・13条・14条・24条を読んでおくこと。 【中間試験】1~7回の資料にもう一度目を通しておくこと。
9回	【震災と原発】原発事故後の報道がどんなものだったか、チェルノブイリ原発事故による外部被ば

	く・内部被ばくがどんなものだったか、自然エネルギーにはどんなものがあるか、調べておくこと。
10回	【日本軍「慰安婦」問題とメディア】「慰安婦」とは何を意味する言葉か、新聞報道やTV番組ではどう扱われてきたか、調べておくこと。
11回	【「ホームレス」と貧困】野宿生活者はなぜ野宿に至ったのか、どんなところでどんな生活をしているか、調べたり、考えてみる。岡山の野宿生活者の実態や支援活動についても調べておくこと。
12回	【犯罪と更生】日本では少年院や刑務所に入った人は、どのような教育を受けて、社会復帰しているのか、調べておくこと。
13回	【育児とジェンダー】将来、子育てをするとき、父として母としてどんな社会や職場が望ましいか、考えてくること。
14回	【介護とジェンダー】高齢者を誰が介護しているか？ 介護者の悩みは？ 身近な介護問題を調べてくること。
15回	【アサーティブ・トレーニング】あなたはイヤなことに「ノー」と言えているだろうか。自分の気持ちや欲求を率直に伝えられているだろうか。日常の会話を振り返ってみること。
16回	【ディーセントワーク】人間らしい働き方は？ 労働者の権利を守るために国内にはどんな法律があるか調べておく。 【期末試験】9～15回の資料に目を通しておく。

講義目的	性や人権に関する基礎知識を学び、現代社会で起きている様々な問題や、そこに暮らす多様な人間の存在を理解します。人権を守ったり、回復していくために必要な視点や、被害者支援の方法についても学び、他者と対等につながっていくためのコミュニケーション・スキルを練習します。（教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する）
達成目標	社会には性差別やさまざまな人権侵害が起きています。誤って身につけた「神話」や偏見を学び落とし、自他の意識変革・行動変容を促す力を身につけましょう。自尊感情を高め、自分も相手も尊重する自己表現のこつを学び、平和で対等なパートナーシップを築いていきましょう。 4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	自尊感情、セックス、ジェンダー、セクシュアリティ、性的少数者、性同一性障害、性的指向、インターセックス、リプロダクティブ・ヘルス&ライツ、避妊、性感染症、性暴力、売買春、障がい、発達障害、虐待、いじめ、DV、デートDV、セクハラ、アカハラ、パワハラ、震災、原発、避難、日本軍「慰安婦」、貧困、ホームレス、犯罪、更生、傾聴、Iメッセージ・YOUメッセージ、アサーティブ・トレーニング、ディーセントワーク、働き方改革
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	毎回講義後に提出するミニレポート50%、中間試験25%、最終評価試験25%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	憲法学・心理学・社会学など
参考書	山口のり子『愛する・愛される～デートDVをなくす若者のレッスン7』、砂川秀樹『カミングアウトレターズ』、安積遊歩『いのちに贈る超自立論』、熊谷晋一郎・綾屋紗月『発達障害当事者研究』、夾竹桃ジン『コミックちいさいひと(1~6巻)』、井上ひさし『けんぼうのおはなし』、谷口真由美『日本国憲法～大阪おばちゃん語訳～』、坂上香『ライフアーズ』、北村年子『「ホームレス」襲撃事件と子どもたち』、VAWW-NETジャパン『NHK番組改変と政治介入』、小出裕章『原発のない世界へ』、上野千鶴子『おひとりさまの老後』、森田汐生『ことばに出そう！自分の気持ち』、阿部彩『子どもの貧困II』（岩波新書）
連絡先	PCメール：kei3@po1.oninet.ne.jp T & F：086-277-7522
授業の運営方針	社会と人間に関する情報や枠組みを提供し、自分の心と頭で感じたり考えたりすることを促す。毎回、コメントペーパーを書いて提出してもらい、質問や異論があれば、次回講義の冒頭でできるだけ答えるようにする。 試験は資料・ノートの持ち込みで行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	質問や異論があれば、コメントペーパーに書いてもらい、次回講義で答える。 最終試験の模範解答と解説は、教務課と相談の上で公開する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音・録画・撮影も事前の打ち合わせで必要とあれば許可します。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	社会と人間 (FB204130)
英文科目名	Society and Human Beings
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/評価方法について説明する。 * 国際情勢に関する自己レベルを確認し、予習復習計画の立案を行う。
2回	* 古典とされる日本文明論/日本人論について説明する。
3回	* 古典とする環境問題/人口論について説明する。
4回	* 人口問題について、世界と日本の相違点を考察する。 * 基本的な国際時事用語を理解する。
5回	* 世界の国々の出生率/人口増加の原因について説明する。 * 基本的な国際時事用語を理解する。
6回	* 日本の食糧自給率と世界の食料不足について説明する。 * 基本的な国際時事用語を理解する。
7回	* 水不足の現象と新しい飢餓の発生について考察する。
8回	* 前半の講義の2本の柱である「人口」と「食料」の観点から、日本のおかれている立場を推察する。 * 中間テストを実施する。
9回	* 中間テストの結果を踏まえ、これまでの学習を確認する。 * 国際情勢(世界経済と宗教)の自己レベルを確認し、後半の予習復習計画の立案を行う。
10回	* 世界経済の全体像について説明する。 * 世界経済に関する記事を理解するために必要な用語を学ぶ。
11回	* 世界経済の要である金融機関の種類とその目的について説明する。 * 国際時事用語を学ぶ。
12回	* 世界経済/通貨について説明する。 * 国際時事用語を学ぶ。
13回	* アメリカ経済/EU経済/アジア経済について考察する。 * 国際時事用語を理解する。
14回	* 宗教と民族紛争の関連を分析する。 * 国際時事用語を学ぶ。
15回	* 後半の講義の2本の柱である「世界経済」と「民族/宗教」の観点から、今後の世界の現象を推察する。
16回	* これまでの講義を総括し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認し、講義の目的を理解しておくこと。 世界の中で日本のおかれている立場を最低限知っておくこと。 (標準学習時間 120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。(標準学習時間 120分)
3回	前回の講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
4回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
5回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
6回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
7回	前回までの講義から予想される世界現象を予想しておくこと。 (標準学習時間 120分)
8回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学

	習時間 120分)
9回	再度シラバスを確認し、講義の目的を理解しておくこと。 (標準学習時間 120分)
10回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
11回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
12回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
13回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
14回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
15回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120分)
16回	これまでの講義内容をよく理解し整理しておくこと。 (標準学習時間 120分)

講義目的	本授業では、グローバル化の進む現代社会における諸問題や社会の経済的な側面を理解するために「人口」「食料」「世界経済」「民族と宗教」等の事例を取り上げる。 これにより世界の状況や日本の状況を適切に理解したうえで、社会で生き抜くための素養を涵養する。また、本授業では、学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングを導入する。授業の後半では、これらの知識を実際に活用するためのワークショップを行う。これにより、大学での学びを社会へ適用するための方法論を理解することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	新聞の国際面に書かれている内容や用語を理解し、自分の言葉で友達に説明できる。 メディアの報道内容を鵜呑みにすることなく、物事の真偽を自分で判断できる。 国際情勢を理解することで、今後の日本がどのような立場におかれるのかを、自分なりに予測できる。 経済のグローバル化を理解したうえで、新聞記事の情報を活用できるようになる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	人口問題、出生率、食糧自給率、経済通貨、民族紛争、宗教
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	中間テストの結果50%・最終評価試験50%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	必要に応じ、指示する。
関連科目	企業と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、資料を配布する。
連絡先	非公開を希望
授業の運営方針	好むと好まざるとに係わらず、諸外国の影響を受ける日本国というの立場や状況を理解するための国際問題を理解するために基本的な知識について説明し、それが実際にどのような現象として現れるかを各種メディアを通じて具体的に理解する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	試験の解説を行い、これからの社会人に求められる最低限の理解力と判断力のレベルを自覚させる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	40年以上 日本企業の海外展開と海外企業の人事コンサルティングを手掛けて来た知識と経験を活かし、 刻々と変化する国際状況に対応できる判断力と理解力を習得させる講義を行う。
その他(注意・備考)	受講者数が100名を超える場合、受講制限をする可能性がある。

科目名	社会と人間 (FB204140)
英文科目名	Society and Human Beings
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/評価方法について説明する。 * 国際情勢に関する自己レベルを確認し、予習復習計画の立案を行う。
2回	* 古典とされる日本文明論/日本人論について説明する。
3回	* 古典とする環境問題/人口論について説明する。
4回	* 人口問題について、世界と日本の相違点を考察する。 * 基本的な国際時事用語を理解する。
5回	* 世界の国々の出生率/人口増加の原因について説明する。 * 基本的な国際時事用語を理解する。
6回	* 日本の食糧自給率と世界の食料不足について説明する。 * 基本的な国際時事用語を理解する。
7回	* 水不足の現象と新しい飢餓の発生について考察する。
8回	* 前半の講義の2本の柱である「人口」と「食料」の観点から、日本のおかれている立場を推察する。 * 中間テストを実施する。
9回	* 中間テストの結果を踏まえ、これまでの学習を確認する。 * 国際情勢(世界経済と宗教)の自己レベルを確認し、後半の予習復習計画の立案を行う。
10回	* 世界経済の全体像について説明する。 * 世界経済に関する記事を理解するために必要な用語を学ぶ。
11回	* 世界経済の要である金融機関の種類とその目的について説明する。 * 国際時事用語を学ぶ。
12回	* 世界経済/通貨について説明する。 * 国際時事用語を学ぶ。
13回	* アメリカ経済/EU経済/アジア経済について考察する。 * 国際時事用語を理解する。
14回	* 宗教と民族紛争の関連を分析する。 * 国際時事用語を学ぶ。
15回	* 後半の講義の2本の柱である「世界経済」と「民族/宗教」の観点から、今後の世界の現象を推察する。
16回	* これまでの講義を総括し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認し、講義の目的を理解しておくこと。 世界の中で日本のおかれている立場を最低限知っておくこと。 (標準学習時間 120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。(標準学習時間 120分)
3回	前回の講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
4回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
5回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
6回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
7回	前回までの講義から予想される世界現象を予想しておくこと。 (標準学習時間 120分)
8回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学

	習時間 120分)
9回	再度シラバスを確認し、講義の目的を理解しておくこと。 (標準学習時間 120分)
10回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
11回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
12回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
13回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
14回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
15回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120分)
16回	これまでの講義内容をよく理解し整理しておくこと。 (標準学習時間 120分)

講義目的	本授業では、グローバル化の進む現代社会における諸問題や社会の経済的な側面を理解するために「人口」「食料」「世界経済」「民族と宗教」等の事例を取り上げる。 これにより世界の状況や日本の状況を適切に理解したうえで、社会で生き抜くための素養を涵養する。また、本授業では、学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングを導入する。授業の後半では、これらの知識を実際に活用するためのワークショップを行う。これにより、大学での学びを社会へ適用するための方法論を理解することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	新聞の国際面に書かれている内容や用語を理解し、自分の言葉で友達に説明できる。 メディアの報道内容を鵜呑みにすることなく、物事の真偽を自分で判断できる。 国際情勢を理解することで、今後の日本がどのような立場におかれるのかを、自分なりに予測できる。 経済のグローバル化を理解したうえで、新聞記事の情報を活用できるようになる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	人口問題、出生率、食糧自給率、経済通貨、民族紛争、宗教
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	中間テストの結果50%・最終評価試験50%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	必要に応じ、指示する。
関連科目	企業と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、資料を配布する。
連絡先	非公開を希望
授業の運営方針	好むと好まざるとに係わらず、諸外国の影響を受ける日本国というの立場や状況を理解するための国際問題を理解するために基本的な知識について説明し、それが実際にどのような現象として現れるかを各種メディアを通じて具体的に理解する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	試験の解説を行い、これからの社会人に求められる最低限の理解力と判断力のレベルを自覚させる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	40年以上 日本企業の海外展開と海外企業の人事コンサルティングを手掛けて来た知識と経験を活かし、 刻々と変化する国際状況に対応できる判断力と理解力を習得させる講義を行う。
その他(注意・備考)	受講者数が100名を超える場合、受講制限をする可能性がある。

科目名	社会と人間 (FB204150)
英文科目名	Society and Human Beings
担当教員名	榎原宥* (えばらゆたか*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義オリエンテーション(1) 私たちが存在している「社会」とは一体何か、私たちの社会参画の意義は何かというテーマで講義内容を説明する。
2回	第一回講義の続き 「市民性の授業」の解説と憲法改正を含む政治の大きな流れについて、政権の動きを時系列で捉え、説明する。
3回	立法への市民参加(1) - 私たち周りにある究極の、また共通のルール=憲法と、憲法改定論議について解説する。憲法は何のためにあるのかを共に考える。
4回	立法への市民参加(2) - 憲法の前文と第九条について、特に、自衛権の問題について解説する。
5回	立法への市民参加(3) - 民主主義とは何か、立憲主義とは何か、また、統治行為論とは何かについて解説し、現行憲法の意味合いを今一度共に考える。
6回	ワイツェッカー西ドイツ大統領演説「荒野の40年」を題材に、第二次世界大戦敗戦国日本とドイツの戦後処理について解説する。
7回	日本社会の現状を考え、この先日本はどこへ向かおうとしているのか、今からの50年で君たちは何を体験するのか想像する。どのような「市民性」を発揮できるのか考える。
8回	講義の総括と中間評価のための試験を実施する。
9回	講義オリエンテーション(2) - 私たちの社会参画の意義と、現在、身の回りに起きている社会問題への関わり方=市民性の発揮=を再確認する。
10回	行政への市民参加(1) - ジェンダー問題と、日本女性の社会進出について、国際比較を交えながら解説する。
11回	第10回講義の続き - ワークシェアリングの説明と今話題の働き方改革、同一労働同一賃金、生産年齢人口等との関連を解説する。
12回	行政への市民参加(2) - 地球環境問題、日本のエネルギー政策、原子力発電(再稼働問題を含む)に私たち(君たち)はどう向かい合っていくかを共に考える。
13回	第12回の続き - 日本のエネルギー政策に関連し、福島原発事故を経験した今、電力会社、国、市民(私たち、あるいは君たち)の社会的責任を考える。
14回	第13回の続き - 企業の社会的責任をより詳しく、福島原発を持つ東京電力を題材に説明する。
15回	司法への市民参加 - 日本の裁判員制度とその課題について解説する。
16回	後半の総括と最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、講義内容を把握しておくこと。
2回	憲法改定についての自分の意見を持って授業に臨むこと。(標準学習時間: 講義期間は常にその意識を確認すること。また、その間、関連するニュースをチェックすること。)
3回	日本国憲法の前文と第九条を読んでおくこと。(標準学習時間: 60分)
4回	自衛隊の歴史と、何のために存在するのかを考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
5回	第3回、第4回の講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間: 60分)
6回	靖国神社問題の予備知識を持って授業に臨むこと。(標準学習時間: 60分)
7回	現在社会で起こっていることの中で、一番の関心事は何かを考えておくこと。
8回	第1回から第7回内容を良く理解し、整理しておくこと。(標準学習時間: 120分)
9回	三権分立の基礎知識を持って授業に臨むこと。(標準学習時間: 60分)
10回	アフターマティブ・アクションとは何か、予備知識を持って講義に臨むこと。(標準学習時間: 60分)
11回	ワーク・ライフ・バランスとは何かを調べておくこと。(標準学習時間: 60分)
12回	「パリ協定」の予備知識を持って授業に臨むこと。(標準学習時間: 60分)
13回	あなたは原子力発電の将来の姿について、どのような意見を持っているかを考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
14回	企業の社会的責任とはどのようなものを指すのかを考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
15回	日本の裁判員制度の概要を調べておくこと。(標準学習時間: 60分)
16回	第9回から第15回までの講義内容を良く理解し、整理しておくこと。(標準学習時間: 120分)

講義目的	「人間」が集まるところに「社会」が出現する。そしてこの「社会」には一定のルールと、それに基づく秩序が存在するが、それらの解釈を巡って、色々な対立が起き、様々な社会問題が生まれる。今、世界に蔓延する自国第一主義の潮流はこの対立に拍車をかけている。このような時代に、君
------	--

	<p>たち若者が「市民性=社会参画の権利と義務=社会変革の意識」を発揮することの重要性を解説する。そこで、この講義では、前半は、「三権」の内「立法」への市民参加について論ずる。皆に共通の社会ルールである日本国憲法を題材として、眼の前に迫る改憲に対する議論を様々な社会的側面（今夏には参議院議員選挙が行われることも踏まえて）を議論する。後半は、「行政」と「司法」への市民参加について論ずる。題材として、女性の社会進出問題、地球環境、原発再稼働、裁判員裁判等の現在進行形の時事問題を取り上げる。この講義を通して皆さんが良き市民として成長し、社会問題をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけば良いかを学ぶ。（教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する）</p>
達成目標	<p>憶測や予見を排して、社会問題を観察し、各々が主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、それを適切な（論理的で破綻のない）言葉や文章で表現出来る。 4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する</p>
キーワード	市民性、ルールと秩序、民主主義、立憲主義、社会的責任
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	中間試験50%、最終試験50%で評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。講義中にレジメを配布する。
関連科目	なし。
参考書	講義中適宜紹介する。
連絡先	必要な場合は、教務課に連絡すること。
授業の運営方針	<p>多人数の履修が予想されるため、講義（講師からの情報提供）中心の授業となるが、随時、宿題を出し理解状況を確認する予定。講義は、回毎に完結する、或は、完結したことを受け継いで次の講義に進むという形が多いので、欠席をすると前後の脈絡が分からなくなる可能性があるため、毎回の出席を心がけること。</p>
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	<p>最終評価試験は最終講義時間の後半に行う。講義はこの段階で完了のため、試験のフィードバック（解説）は行えないので、最終の成績評価で自身の成績を確認すること。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。必要に応じ講義の録音並びに黒板の撮影を許可するので、この件に関しても必ず事前に相談のこと。</p>
実務経験のある教員	<p>ア) 元ヤマハ株式会社勤務。ドイツ、アメリカの海外現地法人に各5年、通算10年駐在、勤務。 イ) 社会経験と国際経験を生かした、時事問題・国際社会問題の解説、講義を行う。</p>
その他（注意・備考）	

科目名	社会と人間 (FB204160)
英文科目名	Society and Human Beings
担当教員名	榎原宥* (えばらゆたか*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義オリエンテーション(1) 私たちが存在している「社会」とは一体何か、私たちの社会参画の意義は何かというテーマで講義内容を説明する。
2回	第一回講義の続き 「市民性の授業」の解説と憲法改正を含む政治の大きな流れについて、政権の動きを時系列で捉え、説明する。
3回	立法への市民参加(1) - 私たち周りにある究極の、また共通のルール=憲法と、憲法改定論議について解説する。憲法は何のためにあるのかを共に考える。
4回	立法への市民参加(2) - 憲法の前文と第九条について、特に、自衛権の問題について解説する。
5回	立法への市民参加(3) - 民主主義とは何か、立憲主義とは何か、また、統治行為論とは何かについて解説し、現行憲法の意味合いを今一度共に考える。
6回	ワイツェッカー西ドイツ大統領演説「荒野の40年」を題材に、第二次世界大戦敗戦国日本とドイツの戦後処理について解説する。
7回	日本社会の現状を考え、この先日本はどこへ向かおうとしているのか、今からの50年で君たちは何を体験するのか想像する。どのような「市民性」を発揮できるのか考える。
8回	講義の総括と中間評価のための試験を実施する。
9回	講義オリエンテーション(2) - 私たちの社会参画の意義と、現在、身の回りに起きている社会問題への関わり方=市民性の発揮=を再確認する。
10回	行政への市民参加(1) - ジェンダー問題と、日本女性の社会進出について、国際比較を交えながら解説する。
11回	第10回講義の続き - ワークシェアリングの説明と今話題の働き方改革、同一労働同一賃金、生産年齢人口等との関連を解説する。
12回	行政への市民参加(2) - 地球環境問題、日本のエネルギー政策、原子力発電(再稼働問題を含む)に私たち(君たち)はどう向かい合っていくかを共に考える。
13回	第12回の続き - 日本のエネルギー政策に関連し、福島原発事故を経験した今、電力会社、国、市民(私たち、あるいは君たち)の社会的責任を考える。
14回	第13回の続き - 企業の社会的責任をより詳しく、福島原発を持つ東京電力を題材に説明する。
15回	司法への市民参加 - 日本の裁判員制度とその課題について解説する。
16回	後半の総括と最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、講義内容を把握しておくこと。
2回	憲法改定についての自分の意見を持って授業に臨むこと。(標準学習時間: 講義期間は常にその意識を確認すること。また、その間、関連するニュースをチェックすること。)
3回	日本国憲法の前文と第九条を読んでおくこと。(標準学習時間: 60分)
4回	自衛隊の歴史と、何のために存在するのかを考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
5回	第3回、第4回の講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間: 60分)
6回	靖国神社問題の予備知識を持って授業に臨むこと。(標準学習時間: 60分)
7回	現在社会で起こっていることの中で、一番の関心事は何かを考えておくこと。
8回	第1回から第7回内容を良く理解し、整理しておくこと。(標準学習時間: 120分)
9回	三権分立の基礎知識を持って授業に臨むこと。(標準学習時間: 60分)
10回	アフターマティブ・アクションとは何か、予備知識を持って講義に臨むこと。(標準学習時間: 60分)
11回	ワーク・ライフ・バランスとは何かを調べておくこと。(標準学習時間: 60分)
12回	「パリ協定」の予備知識を持って授業に臨むこと。(標準学習時間: 60分)
13回	あなたは原子力発電の将来の姿について、どのような意見を持っているかを考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
14回	企業の社会的責任とはどのようなものを指すのかを考えておくこと。(標準学習時間: 60分)
15回	日本の裁判員制度の概要を調べておくこと。(標準学習時間: 60分)
16回	第9回から第15回までの講義内容を良く理解し、整理しておくこと。(標準学習時間: 120分)

講義目的	「人間」が集まるところに「社会」が出現する。そしてこの「社会」には一定のルールと、それに基づく秩序が存在するが、それらの解釈を巡って、色々な対立が起き、様々な社会問題が生まれる。今、世界に蔓延する自国第一主義の潮流はこの対立に拍車をかけている。このような時代に、君
------	--

	<p>たち若者が「市民性=社会参画の権利と義務=社会変革の意識」を発揮することの重要性を解説する。そこで、この講義では、前半は、「三権」の内「立法」への市民参加について論ずる。皆に共通の社会ルールである日本国憲法を題材として、眼の前に迫る改憲に対する議論を様々な社会的側面（今夏には参議院議員選挙が行われることも踏まえて）を議論する。後半は、「行政」と「司法」への市民参加について論ずる。題材として、女性の社会進出問題、地球環境、原発再稼働、裁判員裁判等の現在進行形の時事問題を取り上げる。この講義を通して皆さんが良き市民として成長し、社会問題をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけば良いかを学ぶ。（教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する）</p>
達成目標	<p>憶測や予見を排して、社会問題を観察し、各々が主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、それを適切な（論理的で破綻のない）言葉や文章で表現出来る。 4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する</p>
キーワード	市民性、ルールと秩序、民主主義、立憲主義、社会的責任
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	中間試験50%、最終試験50%で評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。講義中にレジメを配布する。
関連科目	なし。
参考書	講義中適宜紹介する。
連絡先	必要な場合は、教務課に連絡すること。
授業の運営方針	<p>多人数の履修が予想されるため、講義（講師からの情報提供）中心の授業となるが、随時、宿題を出し理解状況を確認する予定。講義は、回毎に完結する、或は、完結したことを受け継いで次の講義に進むという形が多いので、欠席をすると前後の脈絡が分からなくなる可能性があるため、毎回の出席を心がけること。</p>
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	<p>最終評価試験は最終講義時間の後半に行う。講義はこの段階で完了のため、試験のフィードバック（解説）は行えないので、最終の成績評価で自身の成績を確認すること。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。必要に応じ講義の録音並びに黒板の撮影を許可するので、この件に関しても必ず事前に相談のこと。</p>
実務経験のある教員	<p>ア) 元ヤマハ株式会社勤務。ドイツ、アメリカの海外現地法人に各5年、通算10年駐在、勤務。 イ) 社会経験と国際経験を生かした、時事問題・国際社会問題の解説、講義を行う。</p>
その他（注意・備考）	

科目名	社会と人間 (FB204170)
英文科目名	Society and Human Beings
担当教員名	市場恵子* (いちばけいこ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【自尊感情とジェンダー】性に関するキーワード「sex, gender, sexuality」を理解し、エンパワメントの理念を学ぶ。
2回	【性の多様性と可変性】性同一性障害（性別違和）・性分化疾患・性的指向（同性愛・両性愛・無性愛）など、性的少数者への理解を深める。
3回	【リプロダクティブ・ヘルス&ライツ】妊娠・出産・中絶・不妊など、生殖に関する基本的知識や、「性的自己決定権」を尊重し合う関係を学ぶ。性暴力や売買春についても検証する。
4回	【障がいとともに生きる】「障がい」とは？ 自らの差別感や社会のバリアを検証する。
5回	【DVと虐待】アニメ『パパ、ママをぶたないで』を観て、DVや虐待について考える。DVのサイクル、子どもへの影響、被害者の救済と加害者の更生などを学ぶ。
6回	【デートDV】暴力や支配のない、お互いに尊重し合える対等なパートナーシップを学ぶ。
7回	【キャンパス・ハラスメント】キャンパスハラスメントとは？ハラスメントの防止対策を考える。
8回	【憲法とは何か？】（前半45分間講義）日本国憲法を守るのは誰か。憲法にはどんな役割があるのか。わかりやすい口語訳で解説する。 【中間試験】（後半45分間試験）
9回	【震災と原発】3.11から8年。原発の「安全・安心・必要」神話を問い直し、真の豊かさとは何かを問う。
10回	【「慰安婦」問題とメディア】戦時性暴力は今も繰り返されている。不処罰の連鎖を断つための試みとメディアの対応を検証する。
11回	【「ホームレス」と貧困】若者による「ホームレス」襲撃事件や、野宿生活者の実態を知り、「貧困」を生み出す社会的背景を考える。
12回	【犯罪と更生～暴力の被害と加害に向き合う】アメリカの受刑者更生施設「アミティ」の実践（治療共同体）を知り、加害者の更生には何が必要かを学ぶ。
13回	【育児とジェンダー】映画『クレマー・クレマー』を観て、「ワーク・ライフ・バランス」や父親の育児参加を促す。
14回	【介護とジェンダー】近年、ひとりぐらしの高齢者が増加。介護を担う人の4人に1人が男性という時代。介護疲れから虐待・心中に追い込まれる人もいる。『折り梅』を観て、これからの高齢者問題を考える。
15回	【アサーティブ・トレーニング】コミュニケーションパターンを学び、自分のクセに気づく。「Iメッセージ」と「YOUメッセージ」の違いを学び、2人組になって自他を尊重する会話や、「ノー」と言う練習もする。
16回	【ディーセントワーク】（前半45分間講義）人間らしい働き方とはどんな働き方か。労働基準法も併せて検討する。 【期末試験】（後半45分間試験）

回数	準備学習
1回	【自尊感情とジェンダー】シラバスを確認し、学習の過程を把握しておくこと。
2回	【性の多様性と可変性】テレビ番組や雑誌などで、性的少数者を差別・侮蔑・嘲笑したりする場面はないか、チェックしておくこと。同性婚が認められている国、日本の現状を調べておくこと。
3回	【リプロダクティブ・ヘルス&ライツ】男性性器・女性性器の科学的名称、避妊の方法、性感染症など、復習しておくこと。
4回	【障がいとともに生きる】大学や駅、公共施設などに設置されたトイレ・エレベーター・自販機など、障がいをもつ人にとって住みよい環境が整備されているかチェックしておくこと。
5回	【DVと虐待】DV（夫婦間暴力）や虐待はなぜ起きるのか。暴力の種類や影響について調べておくこと。
6回	【デートDV】交際中のカップルの間で起きる暴力にはどんなものがあるか調べておくこと。
7回	【キャンパス・ハラスメント】本学ではセクハラ・アカハラ・パワハラを防止するために、どんな対策が行われているか、ガイドラインや相談窓口を調べておくこと。
8回	【憲法とは何か？】日本国憲法の前文と9条・12条・13条・14条・24条を読んでおくこと。 【中間試験】1～7回の資料にもう一度目を通しておくこと。
9回	【震災と原発】原発事故後の報道がどんなものだったか、チェルノブイリ原発事故による外部被ば

	く・内部被ばくがどんなものだったか、自然エネルギーにはどんなものがあるか、調べておくこと。
10回	【日本軍「慰安婦」問題とメディア】「慰安婦」とは何を意味する言葉か、新聞報道やTV番組ではどう扱われてきたか、調べておくこと。
11回	【「ホームレス」と貧困】野宿生活者はなぜ野宿に至ったのか、どんなところでどんな生活をしているか、調べたり、考えてみる。岡山の野宿生活者の実態や支援活動についても調べておくこと。
12回	【犯罪と更生】日本では少年院や刑務所に入った人は、どのような教育を受けて、社会復帰しているのか、調べておくこと。
13回	【育児とジェンダー】将来、子育てをするとき、父として母としてどんな社会や職場が望ましいか、考えてくること。
14回	【介護とジェンダー】高齢者を誰が介護しているか？ 介護者の悩みは？ 身近な介護問題を調べてくること。
15回	【アサーティブ・トレーニング】あなたはイヤなことに「ノー」と言えているだろうか。自分の気持ちや欲求を率直に伝えられているだろうか。日常の会話を振り返ってみること。
16回	【ディーセントワーク】人間らしい働き方は？ 労働者の権利を守るために国内にはどんな法律があるか調べておく。 【期末試験】9～15回の資料に目を通しておく。

講義目的	性や人権に関する基礎知識を学び、現代社会で起きている様々な問題や、そこに暮らす多様な人間の存在を理解します。人権を守ったり、回復していくために必要な視点や、被害者支援の方法についても学び、他者と対等につながっていくためのコミュニケーション・スキルを練習します。（教養教育センターの到達目標4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する）
達成目標	社会には性差別やさまざまな人権侵害が起きています。誤って身につけた「神話」や偏見を学び落とし、自他の意識変革・行動変容を促す力を身につけましょう。自尊感情を高め、自分も相手も尊重する自己表現のこつを学び、平和で対等なパートナーシップを築いていきましょう。 4領域の「知識・理解」にもっとも強く関与し、「思考・判断・表現」に強く関与する。
キーワード	自尊感情、セックス、ジェンダー、セクシュアリティ、性的少数者、性同一性障害、性的指向、インターセックス、リプロダクティブ・ヘルス&ライツ、避妊、性感染症、性暴力、売買春、障がい、発達障害、虐待、いじめ、DV、デートDV、セクハラ、アカハラ、パワハラ、震災、原発、避難、日本軍「慰安婦」、貧困、ホームレス、犯罪、更生、傾聴、Iメッセージ・YOUメッセージ、アサーティブ・トレーニング、ディーセントワーク、働き方改革
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	毎回講義後に提出するミニレポート50%、中間試験25%、最終評価試験25%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	憲法学・心理学・社会学など
参考書	山口のり子『愛する・愛される～デートDVをなくす若者のレッスン7』、砂川秀樹『カミングアウトレターズ』、安積遊歩『いのちに贈る超自立論』、熊谷晋一郎・綾屋紗月『発達障害当事者研究』、夾竹桃ジン『コミックちいさいひと(1~6巻)』、井上ひさし『けんぼうのおはなし』、谷口真由美『日本国憲法～大阪おばちゃん語訳～』、坂上香『ライフアーズ』、北村年子『「ホームレス」襲撃事件と子どもたち』、VAWW-NETジャパン『NHK番組改変と政治介入』、小出裕章『原発のない世界へ』、上野千鶴子『おひとりさまの老後』、森田汐生『ことばに出そう！自分の気持ち』、阿部彩『子どもの貧困II』（岩波新書）
連絡先	PCメール：kei3@po1.oninet.ne.jp T & F：086-277-7522
授業の運営方針	社会と人間に関する情報や枠組みを提供し、自分の心と頭で感じたり考えたりすることを促す。毎回、コメントペーパーを書いて提出してもらい、質問や異論があれば、次回講義の冒頭でできるだけ答えるようにする。 試験は資料・ノートの持ち込みで行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	質問や異論があれば、コメントペーパーに書いてもらい、次回講義で答える。 最終試験の模範解答と解説は、教務課と相談の上で公開する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音・録画・撮影も事前の打ち合わせで必要とあれば許可します。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	社会と人間 (FB204180)
英文科目名	Society and Human Beings
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/評価方法について説明する。 * 国際情勢に関する自己レベルを確認し、予習復習計画の立案を行う。
2回	* 古典とされる日本文明論/日本人論について説明する。
3回	* 古典とする環境問題/人口論について説明する。
4回	* 人口問題について、世界と日本の相違点を考察する。 * 基本的な国際時事用語を理解する。
5回	* 世界の国々の出生率/人口増加の原因について説明する。 * 基本的な国際時事用語を理解する。
6回	* 日本の食糧自給率と世界の食料不足について説明する。 * 基本的な国際時事用語を理解する。
7回	* 水不足の現象と新しい飢餓の発生について考察する。
8回	* 前半の講義の2本の柱である「人口」と「食料」の観点から、日本のおかれている立場を推察する。 * 中間テストを実施する。
9回	* 中間テストの結果を踏まえ、これまでの学習を確認する。 * 国際情勢(世界経済と宗教)の自己レベルを確認し、後半の予習復習計画の立案を行う。
10回	* 世界経済の全体像について説明する。 * 世界経済に関する記事を理解するために必要な用語を学ぶ。
11回	* 世界経済の要である金融機関の種類とその目的について説明する。 * 国際時事用語を学ぶ。
12回	* 世界経済/通貨について説明する。 * 国際時事用語を学ぶ。
13回	* アメリカ経済/EU経済/アジア経済について考察する。 * 国際時事用語を理解する。
14回	* 宗教と民族紛争の関連を分析する。 * 国際時事用語を学ぶ。
15回	* 後半の講義の2本の柱である「世界経済」と「民族/宗教」の観点から、今後の世界の現象を推察する。
16回	* これまでの講義を総括し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認し、講義の目的を理解しておくこと。 世界の中で日本のおかれている立場を最低限知っておくこと。 (標準学習時間 120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。(標準学習時間 120分)
3回	前回の講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
4回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
5回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
6回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
7回	前回までの講義から予想される世界現象を予想しておくこと。 (標準学習時間 120分)
8回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学

	習時間 120分)
9回	再度シラバスを確認し、講義の目的を理解しておくこと。 (標準学習時間 120分)
10回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
11回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
12回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
13回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
14回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
15回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120分)
16回	これまでの講義内容をよく理解し整理しておくこと。 (標準学習時間 120分)

講義目的	本授業では、グローバル化の進む現代社会における諸問題や社会の経済的な側面を理解するために「人口」「食料」「世界経済」「民族と宗教」等の事例を取り上げる。 これにより世界の状況や日本の状況を適切に理解したうえで、社会で生き抜くための素養を涵養する。また、本授業では、学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングを導入する。授業の後半では、これらの知識を実際に活用するためのワークショップを行う。これにより、大学での学びを社会へ適用するための方法論を理解することができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
達成目標	新聞の国際面に書かれている内容や用語を理解し、自分の言葉で友達に説明できる。 メディアの報道内容を鵜呑みにすることなく、物事の真偽を自分で判断できる。 国際情勢を理解することで、今後の日本がどのような立場におかれるのかを、自分なりに予測できる。 経済のグローバル化を理解したうえで、新聞記事の情報を活用できるようになる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。
キーワード	人口問題、出生率、食糧自給率、経済通貨、民族紛争、宗教
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	中間テストの結果50%・最終評価試験50%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	必要に応じ、指示する。
関連科目	企業と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、資料を配布する。
連絡先	非公開を希望
授業の運営方針	好むと好まざるとに係わらず、諸外国の影響を受ける日本国というの立場や状況を理解するための国際問題を理解するために基本的な知識について説明し、それが実際にどのような現象として現れるかを各種メディアを通じて具体的に理解する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	試験の解説を行い、これからの社会人に求められる最低限の理解力と判断力のレベルを自覚させる。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。
実務経験のある教員	40年以上 日本企業の海外展開と海外企業の人事コンサルティングを手掛けて来た知識と経験を活かし、 刻々と変化する国際状況に対応できる判断力と理解力を習得させる講義を行う。
その他(注意・備考)	受講者数が100名を超える場合、受講制限をする可能性がある。

科目名	福祉環境論 (FB204200)
英文科目名	Welfare Environmental Science
担当教員名	西村次郎 (にしむらじろう)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	本講義のガイダンス(福祉の目的、意義、講義概要)をする。 マズローの「自己実現」について説明する。
2回	現代社会の深刻な課題である少子高齢化や介護等の福祉環境について説明する。 人間の生涯で避けることのできない「生老病死」や人間の「幸せ」について説明する。
3回	幸福追求の権利、基本的人権、世界人権宣言、障害者の権利宣言等について説明する。「障がい」とは何か、について説明する。
4回	障がい者差別解消法について説明する。「人にやさしい街づくり」について説明する(DVD等)。
5回	「バリアフリー」や「誰もが使いやすい道具」「ユニバーサルデザイン」について説明する。
6回	視覚障がい者の疑似体験をする。「人にやさしい家づくり」について説明する(DVD等)。
7回	「人にやさしい道づくり」について説明する(DVD等)。
8回	これまでのまとめと最終評価試験
9回	本講義のガイダンス(福祉の目的、意義、講義概要)をする。 心と身体、DMD症について説明する。
10回	心と身体、DMD症について説明する。
11回	「身体障がい者補助犬法」と生きがい感の創造について説明する(DVD等)。
12回	「障がい者スポーツ」について説明する(DVD等)。
13回	福祉機器、車いすの疑似体験を行う。
14回	高齢者の心と身体の特徴について説明する。人間のライフサイクルと「生」と「死」について説明する。
15回	自己実現、至高経験、創造的人間について説明する。
16回	これまでのまとめと最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読んで講義の全体像を把握しておくこと。受講者調整の可能性があるので必ず出席のこと。(標準学習時間60分)
2回	福祉の目的、意義について復習すること。人間の生涯で避けることのできない「生老病死」や人生の「幸せとは何か」について考え、まとめておくこと。(標準学習時間120分)
3回	幸福追求の権利、基本的人権、世界人権宣言、障害者の権利宣言等について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
4回	福祉に関する条約や法規について復習すること。「人にやさしい街づくり」の事例について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
5回	「人にやさしい街づくり」の内容について復習すること。「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
6回	「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」について復習すること。「人にやさしい家づくり」の事例について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
7回	「人にやさしい道づくり」の事例について予習を行うこと。(標準学習時間100分)
8回	これまでのまとめをしておくこと。(標準学習時間180分)
9回	シラバスをよく読んで講義の全体像を把握しておくこと。DMD症の原因、診断方法、臨床症状について予習を行うこと。(標準学習時間60分)
10回	DMD児の心の課題について予習を行うこと。(標準学習時間100分)
11回	「身体障がい者補助犬法」について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
12回	「障がい者補助犬法」について復習すること。「障がい者スポーツ」について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
13回	疑似体験における大学内のチェックポイントを確認しておくこと。(標準学習時間120分)
14回	人間のライフサイクルについて予習を行うこと。(標準学習時間120分)
15回	マズローの自己実現や至高経験について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
16回	これまでのまとめをしておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	・人間尊重の視点から、基本的人権、幸福追求の権利、世界人権宣言、障がい者差別解消法について学び、「障がい」理解のための疑似体験や教材を通して、「障がい」、「障がい者」の意味や自己実現、合理的配慮の適切な提供について理解する。 (4領域の項目の「知識、理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」)
------	--

	に強く関与する)
達成目標	1) 「障がい」、「障がい者」の本質的意味について説明できること。 2) 「支援される人」、「支援する人」、「社会」におけるそれぞれのバリアについて理解し支援についての適切な合理的配慮の提供を説明できること。 3) 一人ひとりの人間の生涯と「障がい」が深く関わっていることを理解し、それが社会全体の共通課題として説明できること。 (4領域の項目の「知識、理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」に強く関与する)
キーワード	世界人権宣言、幸福追求の権利、障がい者、高齢者、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、障がい者差別解消法
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	課題提出2回(30%)、グループディスカッションワークシート(10%) 最終評価試験(60%)
教科書	適宜配布する。
関連科目	健康の科学。生涯スポーツ(ヨット)およびスポーツとフィールド科学(ヨット)では、障がいのある学生も受講できるようにユニバーサルデザインのヨット用いて授業のバリアフリー化を図っている。
参考書	適宜紹介する。
連絡先	B3号館 3階 西村(次)研究室
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の飲食や私語は禁止とする。 ・授業中は携帯電話の電源は切り、机の上には置かずしておくこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスを変更する場合がある。 ・課題については、期限内に提出のこと。 ・グループ学習により授業を行うので、毎回出席して、真摯に授業に取り組むこと。 ・介護体験や教育実習で欠席する場合は、事前に届を出すこと。 ・講義での録画/録音/撮影は原則認めない。理由がある場合は申し出ること。
アクティブ・ラーニング	ワークシートや視覚教材を用いて、ペアやグループによるディスカッションを行い授業を進めていきます。「障がい」の疑似体験ではグループディスカッションを行い意見を集約して発表する。
課題に対するフィードバック	提出課題や最終試験のフィードバックとして、授業中に説明を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	受講者の積極性を期待している。 <ul style="list-style-type: none"> ・知識を応用し、体験により考え、創造性の育成を図っている。 ・本講義ではアクティブラーニングを行うため、受講者が多数の場合は受講者制限をする場合がある。

科目名	福祉環境論 (FB204210)
英文科目名	Welfare Environmental Science
担当教員名	土橋恵美子* (つちはしえみこ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の目的、進め方、平等と公平について説明する。
2回	障害者差別解消法と合理的配慮について説明する。
3回	聴覚障がいとその程度・二次障害について説明する。
4回	聴覚障がいおよび視覚障がいの疑似体験を実施する。
5回	重複障がいの疑似体験を実施する。
6回	聴覚障がい学生支援について説明する。
7回	手話通訳の起源とろう文化について説明する。
8回	第1回から第7回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。
9回	オリエンテーション：後期講義の目的、進め方について説明する。 手話について実技(入門)をとおして説明する。
10回	手話について実技(入門)をとおして説明する
11回	ノートテイクについて実技をとおして説明する。
12回	パソコン通訳について実技をとおして説明する。
13回	障がいへの理解に関する映像を視聴する。
14回	支援すること・されることについてグループワークをとおして考察する。
15回	障がいを自分のこととしてとらえ、合理的配慮の視点から考察する。
16回	第1回から第15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読んで、講義全体の過程を把握しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	障がい者の差別に関する日本の現状について考えておくこと。(標準学習時間120分)
3回	聴覚障がいについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
4回	聴覚障がいおよび視覚障がいのある当事者について考えておくこと。(標準学習時間120分)
5回	重複障がいのある当事者について考えておくこと。(標準学習時間120分)
6回	聴覚障がい学生支援について考えておくこと。(標準学習時間120分)
7回	手話の歴史について調べておくこと。(標準学習時間120分)
8回	第1から第7回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間120分)
9回	シラバスをよく読んで、講義全体の過程を把握しておくこと。 指文字について自分の名前を調べておくこと。(標準学習時間60分)
10回	話実技で覚えた表現を繰り返し練習しておくこと。(標準学習時間120分)
11回	速く・正しく・読みやすく書くための方法を考えておくこと。(標準学習時間120分)
12回	パソコン通訳(パソコンテイク)について調べておくこと。(標準学習時間120分)
13回	障がいへの理解を新聞記事や番組(NHK教育テレビ「手話ニュース」など)をとおして考えておくこと。(標準学習時間120分)
14回	支援すること・されることについて考えておくこと。(標準学習時間120分)
15回	合理的配慮の視点と考え方を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
16回	第1回から第15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	人間尊重の視点から、基本的人権、幸福追求の権利、世界人権宣言、障がい者差別解消法等を学び、障がい理解のための疑似体験や教材を通して、「障がい」、「障がい者」の本質的意味、自己実現や合理的配慮の適切な提供について理解する。
達成目標	「障がい」、「障がい者」の本質的意味について、説明できること。 「支援される人」、「支援する人」、「社会」における、それぞれのバリア(障壁)について理解し、支援について適切な合理的配慮の提供を説明できること。 生きていくことと「障がい」は深く関わっていることを理解し、一人ひとりの人間や社会全体の共通課題として説明できること。
キーワード	障がい、聴覚障がい者、合理的配慮、知る、支援、バリア
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	グループワーク(ディスカッション)への貢献40%、講義最終日の試験(最終評価試験)60%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。適宜資料を配布する
関連科目	健康の科学
参考書	適宜紹介する

連絡先	C1号館6階 教務課
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で重視するのは覚えることより、擬似体験を通して知り、理論を用いて説明できること。 ・グループワーク（ディスカッション）を通して、積極的に参加する態度を求める。 ・クラスメイトの意見から新たな気づきを得、自分の言葉で説明できること。
アクティブ・ラーニング	<p>グループワーク、ディスカッション、ペアワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・擬似体験や事例紹介の後、自分で考えてから、ペア、グループディスカッションを通して授業を進めていきます。
課題に対するフィードバック	グループワークやディスカッションの発表は、その場で模範解答と解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	障がいのある学生で何らかの配慮を必要とする場合は、初回講義までに申し出ること。
実務経験のある教員	現在、同志社大学障がい学生支援室勤務。同障がい学生支援室における15年のコーディネート経験を活かして、高等教育における障がい学生支援の状況、および課題とその対策方法について講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	福祉環境論 (FB204220)
英文科目名	Welfare Environmental Science
担当教員名	西村次郎 (にしむらじろう)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	本講義のガイダンス (福祉の目的、意義、講義概要) をする。 マズローの「自己実現」について説明する。
2回	現代社会の深刻な課題である少子高齢化や介護等の福祉環境について説明する。 人間の生涯で避けることのできない「生老病死」や人間の「幸せ」について説明する。
3回	幸福追求の権利、基本的人権、世界人権宣言、障害者の権利宣言等について説明する。「障がい」とは何か、について説明する。
4回	障がい者差別解消法について説明する。「人にやさしい街づくり」について説明する (DVD等)。
5回	「バリアフリー」や「誰もが使いやすい道具」「ユニバーサルデザイン」について説明する。
6回	視覚障がい者の疑似体験をする。「人にやさしい家づくり」について説明する (DVD等)。
7回	「人にやさしい道づくり」について説明する (DVD等)。
8回	これまでのまとめと最終評価試験
9回	本講義のガイダンス (福祉の目的、意義、講義概要) をする。 心と身体、DMD症について説明する。
10回	心と身体、DMD症について説明する。
11回	「身体障がい者補助犬法」と生きがい感の創造について説明する (DVD等)。
12回	「障がい者スポーツ」について説明する (DVD等)。
13回	福祉機器、車いすの疑似体験を行う。
14回	高齢者の心と身体の特徴について説明する。人間のライフサイクルと「生」と「死」について説明する。
15回	自己実現、至高経験、創造的人間について説明する。
16回	これまでのまとめと最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読んで講義の全体像を把握しておくこと。受講者調整の可能性があるので必ず出席のこと。(標準学習時間60分)
2回	福祉の目的、意義について復習すること。人間の生涯で避けることのできない「生老病死」や人生の「幸せとは何か」について考え、まとめておくこと。(標準学習時間120分)
3回	幸福追求の権利、基本的人権、世界人権宣言、障害者の権利宣言等について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
4回	福祉に関する条約や法規について復習すること。「人にやさしい街づくり」の事例について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
5回	「人にやさしい街づくり」の内容について復習すること。「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
6回	「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」について復習すること。「人にやさしい家づくり」の事例について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
7回	「人にやさしい道づくり」の事例について予習を行うこと。(標準学習時間100分)
8回	これまでのまとめをしておくこと。(標準学習時間180分)
9回	シラバスをよく読んで講義の全体像を把握しておくこと。DMD症の原因、診断方法、臨床症状について予習を行うこと。(標準学習時間60分)
10回	DMD児の心の課題について予習を行うこと。(標準学習時間100分)
11回	「身体障がい者補助犬法」について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
12回	「障がい者補助犬法」について復習すること。「障がい者スポーツ」について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
13回	疑似体験における大学内のチェックポイントを確認しておくこと。(標準学習時間120分)
14回	人間のライフサイクルについて予習を行うこと。(標準学習時間120分)
15回	マズローの自己実現や至高経験について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
16回	これまでのまとめをしておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	・人間尊重の視点から、基本的人権、幸福追求の権利、世界人権宣言、障がい者差別解消法について学び、「障がい」理解のための疑似体験や教材を通して、「障がい」、「障がい者」の意味や自己実現、合理的配慮の適切な提供について理解する。 (4領域の項目の「知識、理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」)
------	--

	に強く関与する)
達成目標	1) 「障がい」、「障がい者」の本質的意味について説明できること。 2) 「支援される人」、「支援する人」、「社会」におけるそれぞれのバリアについて理解し支援についての適切な合理的配慮の提供を説明できること。 3) 一人ひとりの人間の生涯と「障がい」が深く関わっていることを理解し、それが社会全体の共通課題として説明できること。 (4領域の項目の「知識、理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」に強く関与する)
キーワード	世界人権宣言、幸福追求の権利、障がい者、高齢者、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、障がい者差別解消法
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	課題提出2回(30%)、グループディスカッションワークシート(10%) 最終評価試験(60%)
教科書	適宜配布する。
関連科目	健康の科学。生涯スポーツ(ヨット)およびスポーツとフィールド科学(ヨット)では、障がいのある学生も受講できるようにユニバーサルデザインのヨット用いて授業のバリアフリー化を図っている。
参考書	適宜紹介する。
連絡先	B3号館 3階 西村(次)研究室
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の飲食や私語は禁止とする。 ・授業中は携帯電話の電源は切り、机の上には置かずしておくこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスを変更する場合がある。 ・課題については、期限内に提出のこと。 ・グループ学習により授業を行うので、毎回出席して、真摯に授業に取り組むこと。 ・介護体験や教育実習で欠席する場合は、事前に届を出すこと。 ・講義での録画/録音/撮影は原則認めない。理由がある場合は申し出ること。
アクティブ・ラーニング	ワークシートや視覚教材を用いて、ペアやグループによるディスカッションを行い授業を進めていきます。「障がい」の疑似体験ではグループディスカッションを行い意見を集約して発表する。
課題に対するフィードバック	提出課題や最終試験のフィードバックとして、授業中に説明を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	受講者の積極性を期待している。 <ul style="list-style-type: none"> ・知識を応用し、体験により考え、創造性の育成を図っている。 ・本講義ではアクティブラーニングを行うため、受講者が多数の場合は受講者制限をする場合がある。

科目名	福祉環境論 (FB204230)
英文科目名	Welfare Environmental Science
担当教員名	土橋恵美子* (つちはしえみこ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の目的、進め方、平等と公平について説明する。
2回	障害者差別解消法と合理的配慮について説明する。
3回	聴覚障がいとその程度・二次障害について説明する。
4回	聴覚障がいおよび視覚障がいの疑似体験を実施する。
5回	重複障がいの疑似体験を実施する。
6回	聴覚障がい学生支援について説明する。
7回	手話通訳の起源とろう文化について説明する。
8回	第1回から第7回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。
9回	オリエンテーション：後期講義の目的、進め方について説明する。 手話について実技(入門)をとおして説明する。
10回	手話について実技(入門)をとおして説明する
11回	ノートテイクについて実技をとおして説明する。
12回	パソコン通訳について実技をとおして説明する。
13回	障がいへの理解に関する映像を視聴する。
14回	支援すること・されることについてグループワークをとおして考察する。
15回	障がいを自分のこととしてとらえ、合理的配慮の視点から考察する。
16回	第1回から第15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読んで、講義全体の過程を把握しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	障がい者の差別に関する日本の現状について考えておくこと。(標準学習時間120分)
3回	聴覚障がいについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
4回	聴覚障がいおよび視覚障がいのある当事者について考えておくこと。(標準学習時間120分)
5回	重複障がいのある当事者について考えておくこと。(標準学習時間120分)
6回	聴覚障がい学生支援について考えておくこと。(標準学習時間120分)
7回	手話の歴史について調べておくこと。(標準学習時間120分)
8回	第1から第7回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間120分)
9回	シラバスをよく読んで、講義全体の過程を把握しておくこと。 指文字について自分の名前を調べておくこと。(標準学習時間60分)
10回	話実技で覚えた表現を繰り返し練習しておくこと。(標準学習時間120分)
11回	速く・正しく・読みやすく書くための方法を考えること。(標準学習時間120分)
12回	パソコン通訳(パソコンテイク)について調べておくこと。(標準学習時間120分)
13回	障がいへの理解を新聞記事や番組(NHK教育テレビ「手話ニュース」など)をとおして考えること。(標準学習時間120分)
14回	支援すること・されることについて考えておくこと。(標準学習時間120分)
15回	合理的配慮の視点と考え方を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
16回	第1回から第15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	人間尊重の視点から、基本的人権、幸福追求の権利、世界人権宣言、障がい者差別解消法等を学び、障がい理解のための疑似体験や教材を通して、「障がい」、「障がい者」の本質的意味、自己実現や合理的配慮の適切な提供について理解する。
達成目標	「障がい」、「障がい者」の本質的意味について、説明できること。 「支援される人」、「支援する人」、「社会」における、それぞれのバリア(障壁)について理解し、支援について適切な合理的配慮の提供を説明できること。 生きていくことと「障がい」は深く関わっていることを理解し、一人ひとりの人間や社会全体の共通課題として説明できること。
キーワード	障がい、聴覚障がい者、合理的配慮、知る、支援、バリア
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	グループワーク(ディスカッション)への貢献40%、講義最終日の試験(最終評価試験)60%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。適宜資料を配布する
関連科目	健康の科学

参考書	適宜紹介する
連絡先	C1号館6階 教務課
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で重視するのは覚えることより、擬似体験を通して知り、理論を用いて説明できること。 ・グループワーク（ディスカッション）を通して、積極的に参加する態度を求める。 ・クラスメイトの意見から新たな気づきを得、自分の言葉で説明できること。
アクティブ・ラーニング	<p>グループワーク、ディスカッション、ペアワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・擬似体験や事例紹介の後、自分で考えてから、ペア、グループディスカッションを通して授業を進めていきます。
課題に対するフィードバック	グループワークやディスカッションの発表は、その場で模範解答と解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	障がいのある学生で何らかの配慮を必要とする場合は、初回講義までに申し出ること。
実務経験のある教員	現在、同志社大学障がい学生支援室勤務。同障がい学生支援室における15年のコーディネート経験を活かして、高等教育における障がい学生支援の状況、および課題とその対策方法について講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	外国史 (FB204600)
英文科目名	World History
担当教員名	奥山広規* (おくやまひろき*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション。 講義の進め方と外国史を学ぶ意義について説明する。
2回	オリエント世界と地中海世界を軸に、西洋古代について概観する。
3回	中華世界と南アジア世界を軸に、東洋古代について概観する。
4回	東西ユーラシア世界の交流について、シルクロードを軸に説明する。
5回	古代から中世への転換を軸に、時代の転換について説明する。
6回	ヨーロッパ世界の形成過程を軸に、西洋中世について概観する。
7回	東アジア世界の変容とモンゴル帝国の出現を軸に、東洋中世について概観する。 中間評価試験を実施する。
8回	東西ユーラシア世界の交流について、ビザンツとイスラームを軸に説明する。 中間評価試験の模範解答・解説を行う。
9回	大交易時代と南北アメリカ世界を軸に、近世世界を説明する。
10回	ユーラシア諸帝国の繁栄を軸に、近世世界を説明する。
11回	市民革命と産業革命を軸に、西洋近代について概観する。
12回	ヨーロッパの進出と東アジアの変貌を軸に、東洋近代について概観する。
13回	ヨーロッパとアフリカ・アジアの関係を軸に、帝国主義と世界秩序について説明する。
14回	第一次・第二次世界大戦の背景・展開・影響について説明する。
15回	第二次世界大戦後の世界について説明する。 最終評価試験を実施する。
16回	講義内容の総括をする。 最終評価試験の模範解答・解説を行う。

回数	準備学習
1回	講義内容の確認を行うこと。 外国史を学ぶ意義について、自分なりに考えておくこと(標準学習時間60分)。
2回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
3回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
4回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
5回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
6回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
7回	ここまでの講義内容についての復習を行うこと(標準学習時間180分)。
8回	ここまでの講義内容についての復習を行うこと(標準学習時間180分)。
9回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
10回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
11回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
12回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
13回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
14回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
15回	ここまでの講義内容についての復習を行うこと(標準学習時間180分)。
16回	ここまでの講義内容についての復習を行うこと(標準学習時間180分)。

講義目的	外国の歴史を古代から近代まで概説的に扱う。現代社会の原型となった近代社会が、古代社会と中
------	--

	世社会の基礎の上に成り立っていることを、時系列に沿って体系的に説明する。また、西洋と東洋という枠組みによって同時代の空間的な視点を、さらには比較によってそれぞれの特徴をも浮き彫りにする。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	世界の古代、中世、近代に関する基礎的な知識を習得し、説明できる。 毎回の講義が断片的な知識となるのではなく、相互がつながる巨視的な歴史観を身につけることができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	外国史、世界史、古代世界、中世世界、近代世界、現代世界
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験(80%)、毎回の小試験(20%)によって、成績を評価する。
教科書	使用しない。
関連科目	歴史学
参考書	講義中、適宜、指示する。
連絡先	徳澤啓一研究室（7号館4階）
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は板書(パワーポイント)と配布プリントを用いて行う。 ・プリントは、毎回ではなく、必要に応じて配布する。 ・授業では、学んだことを基に、考えることを重視する。そのため、最終評価試験では論述問題を課すので、ノート・配布プリントをよく復習し、関連情報を自分なりに収集すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストについては、毎回の講義の始めに解答し、前回の復習としても役立つ。 ・中間評価試験を7回目に行い、8回目に模範解答と解説を提示する。 ・最終評価試験を15回目に行い、16回目に模範解答と解説を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	外国史 (FB204610)
英文科目名	World History
担当教員名	奥山広規 * (おくやまひろき *)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション。 講義の進め方と外国史を学ぶ意義について説明する。
2回	オリエント世界と地中海世界を軸に、西洋古代について概観する。
3回	中華世界と南アジア世界を軸に、東洋古代について概観する。
4回	東西ユーラシア世界の交流について、シルクロードを軸に説明する。
5回	古代から中世への転換を軸に、時代の転換について説明する。
6回	ヨーロッパ世界の形成過程を軸に、西洋中世について概観する。
7回	東アジア世界の変容とモンゴル帝国の出現を軸に、東洋中世について概観する。 中間評価試験を実施する。
8回	東西ユーラシア世界の交流について、ビザンツとイスラームを軸に説明する。 中間評価試験の模範解答・解説を行う。
9回	大交易時代と南北アメリカ世界を軸に、近世世界を説明する。
10回	ユーラシア諸帝国の繁栄を軸に、近世世界を説明する。
11回	市民革命と産業革命を軸に、西洋近代について概観する。
12回	ヨーロッパの進出と東アジアの変貌を軸に、東洋近代について概観する。
13回	ヨーロッパとアフリカ・アジアの関係を軸に、帝国主義と世界秩序について説明する。
14回	第一次・第二次世界大戦の背景・展開・影響について説明する。
15回	第二次世界大戦後の世界について説明する。 最終評価試験を実施する。
16回	講義内容の総括をする。 最終評価試験の模範解答・解説を行う。

回数	準備学習
1回	講義内容の確認を行うこと。 外国史を学ぶ意義について、自分なりに考えておくこと(標準学習時間60分)。
2回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
3回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
4回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
5回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
6回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
7回	ここまでの講義内容についての復習を行うこと(標準学習時間180分)。
8回	ここまでの講義内容についての復習を行うこと(標準学習時間180分)。
9回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
10回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
11回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
12回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
13回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
14回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
15回	ここまでの講義内容についての復習を行うこと(標準学習時間180分)。
16回	ここまでの講義内容についての復習を行うこと(標準学習時間180分)。

講義目的	外国の歴史を古代から近代まで概説的に扱う。現代社会の原型となった近代社会が、古代社会と中
------	--

	世社会の基礎の上に成り立っていることを、時系列に沿って体系的に説明する。また、西洋と東洋という枠組みによって同時代の空間的な視点を、さらには比較によってそれぞれの特徴をも浮き彫りにする。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	世界の古代、中世、近代に関する基礎的な知識を習得し、説明できる。 毎回の講義が断片的な知識となるのではなく、相互がつながる巨視的な歴史観を身につけることができる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	外国史、世界史、古代世界、中世世界、近代世界、現代世界
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験(80%)、毎回の小試験(20%)によって、成績を評価する。
教科書	使用しない。
関連科目	歴史学
参考書	講義中、適宜、指示する。
連絡先	徳澤啓一研究室（7号館4階）
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は板書(パワーポイント)と配布プリントを用いて行う。 ・プリントは、毎回ではなく、必要に応じて配布する。 ・授業では、学んだことを基に、考えることを重視する。そのため、最終評価試験では論述問題を課すので、ノート・配布プリントをよく復習し、関連情報を自分なりに収集すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストについては、毎回の講義の始めに解答し、前回の復習としても役立つ。 ・中間評価試験を7回目に行い、8回目に模範解答と解説を提示する。 ・最終評価試験を15回目に行い、16回目に模範解答と解説を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	日本の文化と歴史 (FB204700)
英文科目名	Culture and History of Japan I
担当教員名	小林博昭* (こばやしひろあき*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション：授業の内容や、進め方、受講に際しての注意すべき点について説明する。その後、岡山県の地勢、同県を構成する市町村や風土等を説明する。受講生の理解を促進するために、配布プリントやOHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を通じて説明する。
2回	前回の補足説明の後、授業で使用する用語、具体的には「史跡」、「文化財」、「城」等を説明する。そして、日本における城のはじまりと、近世までのその発達状況について概観する。さらに岡山県最古級の城 鬼ノ城について、配布プリント、OHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を通じて説明する。
3回	鬼ノ城について補足説明をする。その後、岡山城そのものについて、いつだれがどのような理由で築造したのか、さらにその社会的背景等を説明する。なお、城に関する用語は授業の進行過程で説明する。さらに岡山城を中心に、近世に築造された他地域の城に見る縄張りの種類等を配布プリントや、スライドプロジェクターによる様々な画像を通じて説明する。
4回	前回の補足説明の後、岡山城を中心に他地域に存在する近世の城で天守の構成や、その種類、石垣の種類等を配布プリントや、スライドプロジェクターによる様々な画像を通じて説明する。
5回	前回の補足説明の後、本殿や拝殿が国宝および国指定重要文化財指定になっている吉備津神社や、県指定重要文化財の拝殿を有する吉備津彦神社について、その歴史や建築物の構成内容について説明する。受講生の理解の深化をはかるために、配布プリント、OHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を通じて説明する。
6回	前回の神社について補足説明の後、これら神社にちなむ神事や周辺地域に伝わる説話、さらによく知られている周囲の史跡等を配布プリント、OHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を通じて説明する。
7回	前回の諸神社についての補足説明と、これまでの授業内容の整理とまとめをおこなう。
8回	今まで扱ってきた岡山県の地勢、風土や城、神社の追加説明をする。中間的な評価のための試験を実施する。
9回	イントロダクション：授業の内容や、進め方、受講に際しての注意すべき点について説明する。その後、「日本文化遺産」とは何か、さらに出雲地域の地勢、この地域の立地条件や、地域内に存在する市町村、気候風土等を説明する。受講生の理解を促進するために、配布プリントやOHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を通じて説明する。
10回	前回の補足説明の後、授業で使用する用語、具体的には「国宝」、「国指定重要文化財」、「史跡」、「文化財」、「名勝」等を説明する。その後、出雲地域の中心的な存在である出雲大社について、その立地、歴史、建物群構成等について、配布プリント、OHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を通じて説明する。
11回	前回の出雲大社について補足説明の後、出雲地域にまつわる神話を説明する。くわえて、出雲大社以外で、日本遺産の「日が沈む聖地出雲」と認定されているこの地域の史跡等を配布プリント、OHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を通じて説明する。
12回	前回の補足説明の後、出雲地域や周辺地域の著名な遺跡とそこから発見された文化財について配布プリント、OHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を通じて説明する。時間的余裕があれば、鳥取県の地勢と風土を扱う。
13回	鳥取県の地勢と風土の追加説明をした後、同県に設定されている日本遺産「六根清浄と六感治癒の地」の三朝町を中心に文化財としての建築物の歴史と、それらをめぐる山岳修験を配布プリント、OHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を通じて説明する。
14回	鳥取県に設定されている日本遺産以外で、古代から栄えていたことを示す同県内の著名な遺跡と発見された文化財や、今に伝わる神話について配布プリント、OHC、スライドプロジェクターによる様々な画像を通じて説明する。

15回	前回の補足説明の後、これまでの授業内容の整理とまとめをおこなう。
16回	今まで扱ってきた出雲地域や鳥取県の地勢、風土や文化財、史跡の追加説明をする。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを授業の運営方針を含めて熟読しておくこと。岡山県の地形や気候、県内の市町村、そして鬼ノ城について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
2回	授業で説明した用語や、鬼ノ城についてノート、配布プリントを中心に復習すること。岡山城について図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
3回	岡山城の歴史や城に関する用語、縄張りの種類について、ノート、配布プリントを中心に復習すること。日本全国の代表的な国宝となっている城の天守の構成や、石垣の種類について図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
4回	授業で説明した岡山以外の他地域の城について、天守の構成や、石垣の種類等をノート、配布プリントを中心に復習すること。吉備津神社や吉備津彦神社について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
5回	吉備津神社や吉備津彦神社についての授業内容をノート、配布プリントを中心に復習すること。これらの神社の周辺地域の説話や著名な史跡について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
6回	授業で説明した2つの神社が存在する周辺地域の説話や著名な史跡をノート、配布プリントを中心に復習すること。これまでの授業を受講して生じた質問や理解しにくかった事柄を次回までにまとめておくこと。(標準学習時間 120分)
7回	これまでの授業で扱った諸事項を復習し、ノート、配布プリントを中心に説明出来るようにしておくこと。くわえて、第1回からこれまでの授業のポイントを各自まとめて、十分に復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
8回	この回を含めて、いままでの授業内容についての復習を各自おこなうこと。(標準学習時間 120分)
9回	シラバスを熟読しておくこと。出雲地域の地勢、日本列島での位置や気候風土を図書館で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
10回	授業で説明した用語や、出雲大社の立地、歴史、建物群構成等についてノート、配布プリントを中心に復習し、出雲地域の神話やこの地域の史跡を図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
11回	出雲地域の神話やこの地域の史跡などについてノート、配布プリントを中心に復習し、周辺地域の著名な遺跡とそこから発見された文化財を図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
12回	出雲地域や周辺地域の著名な遺跡とそこから発見された文化財についてノート、配布プリントを中心に復習し、鳥取県の地勢と風土、日本遺産「六根清浄と六感治癒の地」を図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
13回	日本遺産「六根清浄と六感治癒の地」についてノート、配布プリントを中心に復習し、鳥取県内の著名な遺跡と、そこから発見された文化財を図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
14回	鳥取県内の著名な遺跡と発見された文化財についてノート、配布プリントを中心に復習し、これまでの授業を受講して生じた質問や理解しにくかった事柄を次回までにまとめておくこと。(標準学習時間 120分)
15回	今までの授業で扱った諸事項を復習し、ノート、配布プリントを中心に説明出来るようにしておくこと。くわえて、第1回からこれまでの授業のポイントを各自まとめて、十分に復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
16回	この回を含めて、今までの授業内容についての復習を各自おこなうこと。(標準学習時間 120分)

講義目的	本講義は、外国人留学生の日本文化への知識を深め、くわえて日本人や日本の生活に一層の理解と親近感を増幅することを目的とする。日本人のこれまでの生活から生み出された日本の様々な文化について、第1回～第8回は、対象地域を岡山県に絞り、まずその地勢、風土を紹介し、そこから熟
------	---

	成された著名な文化遺産である史跡や文化財―城郭、神社―を中心に論を展開する。第9回～第16回は、文化庁の日本遺産が設定されている地域を中心に講義をおこなう。具体的には出雲、鳥取地域に視座を置き、各地域の地勢、風土を説明し、そこから熟成された著名な文化財、史跡について論を展開する。4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	1. 日本の文化や、日本人の暮らしぶりを説明できる。 2. 岡山の地勢、代表的な城、神社を説明できる。 3. 出雲や鳥取地域の地勢、文化財を説明できる。 4. 日本の文化と母国の文化との差違、類似点を説明できる。 4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	“岡山県”、“岡山城”、“吉備津神社”、“吉備津彦社”、“鬼ノ城”、“日本遺産”、“出雲”、“鳥取”
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	中間試験（達成目標1～4）50%、最終評価試験（達成目標1～4）50%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。
関連科目	日本の歴史と文化II
参考書	授業の進行過程で紹介する。
連絡先	
授業の運営方針	(1)毎回の授業は、スライドプロジェクターによる様々な画像をスクリーンに上映し、受講生の興味と理解の促進、さらにはそれらの深化をはかる。 (2)(1)に加えて、授業の開始時にプリントを配布し、それらをOHCを通じて提示しプリントに重要事項を受講生自らが記入することによって、授業で説明する事柄の理解と整理をはかる。プリント類は特別な事情が無い限り、後日の配布には応じない。なお、配布に際してMomo-campus等を利用することがある。その場合は、事前に受講生に連絡する。 (3)出欠は毎回とる。 (4)ケガ、病気、その他で欠席した場合は、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出すること。これらが無い場合は欠席扱いとなる。 (5)毎回、日本語の辞書(電子辞書でも可)を持参すること。 (6)講義中の録音/録画/撮影等は、原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に必ず相談すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	試験結果のフィードバックは、Momo-campus等による。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 なお、講義中の録音/録画/撮影等は、原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	この科目は、外国人留学生を対象とする科目であり、日本人学生は対象外となる。(学生便覧参照)

科目名	日本の文化と歴史 (FB204800)
英文科目名	Culture and History of Japan II
担当教員名	小林博昭* (こばやしひろあき*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション：講義の内容や、進め方、受講に際しての注意すべき点について、説明する。その後、日本文化の始まりの時代ー旧石器時代ーを概観する。さらにこの時代の日本列島と極東アジアの地形的な関係や、それに起因する日本列島への人類、動物などの移動にもついてもふれる。受講生の理解を促進するために、OHP、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示する。
2回	旧石器時代の文化を補足説明する。その後、次の時代である縄文時代を概観する。そして、この時代の文化について、OHP、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示しながら説明する。
3回	前回に続いて、縄文時代の文化の補足説明の後、弥生時代を概観しこの時代に海外から入ってきた様々な文化について説明する。とくに我が国の基層文化である稲作文化が、弥生時代から開始されており、この文化について詳しく説明する
4回	古墳時代を概観し、いつからいつまでの時代なのかをまず説明する。その後、古墳とは何か、加えてこの時代の開始を告げる古墳について、OHP、スライドプロジェクターによる様々な画像を通じて説明する。
5回	前回に続いて、この時代の文化について、古墳自体の移り変わりや、当時の人々が作り出した様々なモノについて、OHP、スライドプロジェクターによる様々な画像を通じて説明する。
6回	古墳時代の文化について補足説明をした後、奈良時代を概観する。そして、この時代の文化について、建築物、美術、書物、当時の首都の様子、そのあり方等について、OHP、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示しながら説明する。
7回	奈良時代の文化について、補足説明をする。さらにこれまでの講義内容の整理とまとめをおこなう。
8回	今まで扱ってきた日本の文化とその歴史の補足説明をする。中間的な評価のための試験を実施する。
9回	イントロダクション：講義の内容や、進め方、受講に際しての注意すべき点について説明する。その後、平安時代を概観し、この時代の諸文化についてOHP、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示しながら説明する。
10回	前回に続いて、平安時代の文化を説明した後、時間的余裕があれば、鎌倉時代を概観する。
11回	鎌倉時代の文化について、OHP、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示しながら説明する。
12回	鎌倉時代の文化を補足説明した後、室町時代を概観し、その文化についてOHP、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示しながら説明する。
13回	室町時代の文化について補足説明の後、安土桃山時代を概観し、その文化についてOHP、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示しながら説明する。
14回	安土桃山時代の文化について補足説明した後、江戸時代を概観し、この時代の文化をOHP、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示しながら説明する。
15回	江戸時代の文化の補足説明の後、明治時代の概観とその文化について、OHP、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示しながら説明する。さらに、これまでの講義内容の整理と、まとめをおこなう。
16回	今まで扱ってきた各時代の諸文化の補足説明をした後、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスの注意事項を熟読しておくこと。日本の旧石器時代について、図書館などで予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
2回	旧石器時代の文化について、ノートを中心に復習し、縄文時代の文化の内容を図書館等で、予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
3回	弥生時代の文化について、ノートを中心に復習すること。古墳時代の文化について図書館等で、予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
4回	古墳時代の文化について、ノートを中心に復習すること。古墳時代の文化の内容についてさらに詳しく図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
5回	古墳時代の文化について、ノートを中心に復習すること。また次回の奈良時代の文化について、図

	書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
6回	奈良時代の文化について、ノートを中心に復習すること。また、第1回目から今までの講義の内容のまとめと整理を各自おこない、そして疑問点などがあれば、次回の講義時に質問すること。(標準学習時間 120分)
7回	第1回から第7回までの講義のポイントを各自まとめて、十分に復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
8回	これまでの講義内容についての復習を十分におこなうこと。(標準学習時間 120分)
9回	シラバスの注意事項を熟読し、さらに平安時代の文化について図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
10回	平安時代の文化をノートを中心に復習すること。鎌倉時代の文化について図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
11回	鎌倉時代の文化について、ノートを中心に復習すること。室町時代の文化について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
12回	室町時代の文化について、ノートを中心に復習し、安土桃山時代の文化の内容について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
13回	室町時代の文化について、ノートを中心に復習し、安土桃山時代の文化の内容について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)
14回	江戸時代の文化について、ノートを中心に復習し、明治時代の文化の内容について、図書館等で予習しておくこと。さらに、第1回からこれまでに習った事柄のまとめと整理を各自おこない、疑問点があれば次回に質問すること。(標準学習時間 120分)
15回	明治時代の文化について、ノートを中心に復習すること。第9回からこれまでの講義のポイントを各自まとめて、十分に復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
16回	この回を含めて、いままでの講義内容についての復習を各自おこなうこと。(標準学習時間 120分)

講義目的	日本人の過去の生活から生み出され、醸成されてきた日本の様々な文化について、原始古代から明治時代までの各時代におけるその特色や、歴史的な形成過程をみていく。このことによって、外国人留学生の日本文化に対する理解を深め、さらには日本人や、日本の生活に一層の理解と親近感を持ってもらうことを目的とする。4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
達成目標	1. 日本の文化や、日本人の暮らしぶりを説明できる。 2. 日本の歴史について、概略を説明できる。 3. 日本の文化と母国の文化との差違、類似点を説明できる。 4 領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与している。
キーワード	“日本史”、“日本文化史”、“日本思想史”
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	中間テスト(達成目標1~3)(50%)、最終評価試験(達成目標1~3)(50%)により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。講義の進行過程で資料をプリント等で配布する。
関連科目	日本の文化と歴史IA、日本の文化と歴史IB
参考書	講義の進行過程で、適宜紹介する。
連絡先	
授業の運営方針	授業運営方針 (1)毎回の授業は、スライドプロジェクターによる様々な画像をスクリーンに上映し、受講生の興味と理解の促進、さらにはそれらの深化をはかる。 (2)(1)に加えて、授業の開始時にプリントを配布し、それらをOHCを通じて提示しプリントに重要事項を受講生自らが記入することによって、授業で説明する事柄の理解と整理をはかる。プリント類は特別な事情が無い限り、後日の配布には応じない。なお、配布に際してMomo-campus等を利用することがある。その場合は、事前に受講生に連絡する。 (3)出欠は毎回とる。 (4)ケガ、病気、その他で欠席した場合は、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出すること。もしが無い場合は欠席扱いとなる。 (5)講義中の録音/録画/撮影等は、原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に必ず相談すること。 (6)毎回、日本語の辞書(電子辞書でも可)を持参すること。
アクティブ・ラーニング	

ゲ	
課題に対するフィードバック	試験結果のフィードバックは、Momo-campus等による。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 なお、講義中の録音/録画/撮影等は、原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	この科目は、外国人留学生を対象とする科目であり、日本人学生は対象外となる。(学生便覧参照)

科目名	文章表現法 (FB205300)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	松尾美香(まつおみか)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義の概要、進め方、評価方法等の説明) マインドマップの書き方(自己紹介、自分史作成の準備)を説明する。
2回	相手に伝えるための技術を解説する。 自分史を作成することで、自己理解を深め、自分を表現する。
3回	読む技術を解説する。 効果的な読み方を説明する。
4回	資料の活用方法を理解するためのワーク を活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
5回	資料の活用方法を理解するためのワーク を活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
6回	映像内容の要約方法を学ぶためのワークを実践する。 視聴覚教材を用いて、要約を作成する。
7回	グループで協同した内容をまとめるためのワークを実践する。 グループワークを行い、要約を作成する。
8回	1回目から7回目までの総括を説明する。
9回	大学で求められるレポートについて説明する。 感想文とレポートの違い、事実と意見の違い、レポートの構成(序論、本論、結論)を説明する。
10回	論理的な文章の書き方について説明する。 パラグラフライティング、ロジックツリーの作成、演繹法、帰納法、三段論法等を説明する。
11回	レポートを書くときの決まり事について説明する。 引用の仕方や参考文献の書き方、学術文章にふさわしい文体等について説明する。
12回	レポート作成前に準備すべき事柄について解説する。 良いレポートと悪いレポートを比較する。
13回	レポート作成 テーマに基づき、レポートを作成する。
14回	ビジネス文書の基本について説明する。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を説明する。
15回	ビジネス文書作成ワーク ビジネス文書を作成する。
16回	9回目から15回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認して講義の目的を理解し、この科目に必要と考える高校までの基礎的知識を復習しておくこと(標準学修時間120分)
2回	予習として、過去の自分を振り返り、自己年表を作成しておくこと(標準学修時間120分)
3回	配布資料を読んで予習しておくこと。この際に、重要な部分にマーカーで印をつけておくこと(標準学修時間120分)
4回	予習として、配布資料を熟読し、内容をマインドマップを使い整理してくること(標準学修時間120分)
5回	文章の要点を把握できるように予習しておくこと(標準学修時間120分)
6回	要約の仕方について復習し、実際に新聞記事等を読んで、要約の練習をしておくこと(標準学修時間120分)
7回	視聴覚教材の要約文を完成させ、復習をしておくこと(標準学修時間120分)
8回	これまでの学習を整理して、復習し、実際に文章を書く練習を行うこと(標準学修時間120分)
9回	予習として、レポートと感想文の違いを理解しておくこと(標準学修時間120分)
10回	予習として、レポートの基本構造を理解しておくこと(標準学修時間120分)
11回	予習として、テーマに基づく参考文献を図書館等で探しておくこと(標準学修時間120分)
12回	予習として、関心のある領域での学術論文を探し、読んでおくこと(標準学修時間120分)
13回	予習としてテーマに基づく結論、主張・根拠を考え、アウトラインを作成しておくこと(標準学修時間120分)
14回	予習として、ビジネス文書とはどのようなものがあるのかを調べておくこと(標準学修時間120分)

15回	予習として、ビジネス文書の書き方を理解しておくこと（標準学修時間120分）
16回	これまでの学習を復習し、実際に文章を書く練習をしておくこと（標準学修時間120分）
講義目的	本講義の目的は、文章作成するために必要な基本的なスキルを習得することである。 まず、マインドマップを使って、自分の考えや集めた文献や情報を整理し、それを文章化する方法を学ぶ。次に、資料を読み解いたり、映像の内容を理解したりして、それを文章に要約するための方法について学ぶ。 これらのスキルは、文章を作成するための基本的なスキルであり、レポートやビジネス文書を作成する際に活用することができる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	自分の考えや主張を整理するために、マインドマップを作成することができる。 映像や資料から情報を読み取り、要点をマインドマップを活用して表現することができる。 マインドマップを読み、全体の構成を考えながら、200字程度にまとめることができる。 グループで話し合った内容を200字程度にまとめることができる。 大学で求められるレポートについて、友達に3分間で説明することができる。 論理的な文章の構成方法とその書き方について、友達に3分間で説明することができる。 レポートを書く際の決まり事を守って、レポートを作成することができる。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を使って、ビジネス文書を作成できる。
キーワード	マインドマップ、要約、資料の活用、読解力、レポート、論理表現、ビジネス文書
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（30%） ・小テスト（30%） ・課題提出（40%） より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
関連科目	学びの基礎論、文章表現法基礎編、プレゼンテーション、地域フィールドスタディ
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E-Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
授業の運営方針	・5回欠席すると評価対象としない。 ・早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の資料配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・準備学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートをまとめ、演習をしっかりと取り組むこと。 ・課題提出物等において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	文章表現法 (FB205302)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	崎重敏幸* (さきしげとしゆき*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 講義の目的・進め方について説明する。
2回	「自己の将来設計」について、文章を作成し、その意味を考える。
3回	「レポートの書き方」について説明する。
4回	「小論文の書き方(1)」について説明する。
5回	「小論文の書き方(2)」について説明する。
6回	「小論文の書き方(3)」について説明する。
7回	「知る」ことと「人生」について、説明する。 (「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の意味を説明する。)
8回	「言葉の違い」について説明する。
	最終評価試験

回数	準備学習
1回	シラバスを読んで、講義全体の内容・過程を把握しておくこと。 (標準学習時間 120分)
2回	将来の目標について考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
3回	レポート作成の基本的な構成の型や留意点について、考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
4回	「作文」と「小論文」の違いについて、考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
5回	現代社会の「キーワード」「用語」について、考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
6回	事前にテーマを選択し、関連する情報や資料を準備しておくこと。 (標準学習時間 120分)
7回	「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の意味について、考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
8回	日常使われる言葉で、言葉の違いが判然としないものについて、調べておくこと。(標準学習時間 120分)
	今まで学習してきたことを復習しておくこと。 (標準学習時間 180分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	1. 目的意識 2. 基礎知識 3. 実行力 4. 復習する

	<p>5. 確認の徹底</p> <p>6. 授業内容の「ポイント」は必ずメモを取る</p> <p>7. 文章を書く「目的・意義」の完全な理解</p>
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	課題提出（50%）、ワークシート（50%）
教科書	<p>「60歳からの健康人生」 / 執筆者代表 崎重敏幸 / / 株式会社 ライフ・サポート / / ISBN 978-4-9907110-0-9</p> <p>授業に必要な「資料」（プリント）を、適宜、配布する。</p>
関連科目	プレゼンテーション基礎編
参考書	適宜、指示する
連絡先	info@hiroshima-life.jp
授業の運営方針	<p>最初の授業の際に、「シャトルカード」（授業への出欠確認と、授業内容についての質問や要望などについて、やり取りできるカード）を個々に配布し、授業終了後に回収し、内容を、チェック・指導したものを、次回の授業の最初に返却し、学生とのコミュニケーションツールとして利用。</p> <p>授業には、当日の授業の主な指導内容をプリントして配布し、効率的な授業を心がける。またプリントの内容は、復習資料としても活用できることも考慮した。</p>
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	<p>授業における「提出課題」については、授業終了後、提出させ、指導内容をチェックしたものを、原則として、次々回の授業の初めに返却する。</p> <p>時間外における「提出課題」については、提出の締切日を設定して提出させ、指導内容をチェックしたものを、原則として、締切日後の二週間後の授業の初めに返却する。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>合理的な配慮が必要な学生の場合には、学校に相談し、適切な指導を仰ぎます。</p> <p>講義中の「録音・録画・撮影」などは、すべて不許可です。</p>
実務経験のある教員	<p>高等学校の教科書出版社の「常務取締役」「編集長」であった経験を活かし、就職試験への取り組みの仕方や、会社や社会での、より良い人間関係の在り方、ヒット商品の企画や重要性などを紹介して、岡山理科大学の建学精神の一つでもある、「社会に貢献できる人物」の育成にも留意しています。</p>
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法 (FB205303)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	尾崎美恵* (おざきみえ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の進め方並びにインターネットによる履修登録について説明する。 就職活動におけるエントリーシートの役割と重要性を説明する。 先輩が書いたエントリーシートを通じて、就職で内定を取るためには何が必要か、「生きる力」とは何かを説明する。 世の中の動きを捉え、社会に目を向けることを指導する。 何事も主体的に取り組むことの重要性を学び、自分の考えを持つように指導する。 学生同士で刺激しあい、自己分析の説明をする。 自己分析を言語化し、論理的な文章力を指導する。 「すごいお母さん、EUの大統領に会う」(文芸春秋出版)のキャッチコピーについて説明する。 「得意な事」を通じて自己分析を指導する。
2回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「得意な事」を指導する。
3回	「得意な事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
4回	「辛かった事」を通じて自己分析を指導する。
5回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「辛かった事」を指導する。
6回	「辛かった事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
7回	「大切なもの(事)」を通じて自己分析を指導する。
8回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「大切なもの(事)」の指導する。
9回	「大切なもの(事)」の完成文とキャッチコピーを指導する。 「最近の関心事」を通じて自己分析を指導する。
10回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「最近の関心事」を指導する。
11回	「最近の関心事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
12回	「ターニングポイント」を通じて自己分析を指導する。
13回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「ターニングポイント」を指導する。
14回	「ターニングポイント」の完成文とキャッチコピーを指導する。
15回	「将来したい事」を通じて自己分析を指導する。
16回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「将来したい事」の指導する。「最終評価試験」を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく確認し学習の過程を把握しておくこと。 予習：「得意な事」を考えておくこと。 復習：「得意な事」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
2回	予習：「得意な事」アウトラインを修正すること。 復習：「得意な事」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
3回	予習：「得意な事」キャッチコピーを作成すること。 復習：「得意な事」文章を完成させ、提出すること。標準学習時間120分)
4回	予習：「辛かった事」アウトラインを作成すること。 復習：「辛かった事」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
5回	予習：「辛かった事」文章を作成すること。 復習：「辛かった事」キャッチコピーを作成すること。(標準学習時間120分)

6回	予習： 「辛かった事」文章を完成させ、提出すること。 復習； 「大切なもの(事)」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
7回	予習： 「大切なもの(事)」アウトラインを修正すること。 復習： 「大切なもの(事)」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
8回	予習： 「大切なもの(事)」キャッチコピーを作成すること。 復習： 「大切なもの(事)」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分)
9回	予習： 「最近の関心事」を考えておくこと。 復習： 「最近の関心事」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
10回	予習： 「最近の関心事」アウトラインを修正すること。 復習： 「最近の関心事」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
11回	予習： 「最近の関心事」キャッチコピーを作成すること。 復習： 「最近の関心事」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分)
12回	予習： 「ターニングポイント」アウトラインを作成すること。 復習： 「ターニングポイント」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
13回	予習： 「ターニングポイント」文章を作成すること。 復習： 「ターニングポイント」キャッチコピーを作成すること。(標準学習時間120分)
14回	予習： 「ターニングポイント」文章を完成させ、提出すること。 復習； 「将来したい事」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
15回	予習： 「将来したい事」アウトラインを修正すること。 復習： 「将来したい事」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
16回	予習： 「将来したい事」キャッチコピーを作成すること。 復習： 「将来したい事」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分) 「最終評価試験」の準備をする。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している
キーワード	自分の長所も短所もそれを味方につけて相手の関心を引き込もう。
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	課題提出(50%)、ワークシート(50%)
教科書	「すごいお母さん、EUの大統領と会う」/ 著者尾崎美恵 / 出版社文芸春秋出版
関連科目	
参考書	なし 必要に応じて配布
連絡先	cool@muchujin.jp
授業の運営方針	課題提出はMomo-campusを利用する。 授業資料の配布は授業毎にするので、ファイル入れを用意する。 授業で重視するのは覚えることではなく自分自身を分析することである。 配布する資料をよく読んで自己分析を完成させる。

	最終評価試験は実施するが、授業時間と自宅学習が大切である。 アウトライン、アウトラインの修正、文章作成、文章完成を自分の言葉でしっかりと仕上げる。
アクティブ・ラーニング	過去の履修生の模範例文を教材として、個々が書いたエントリーシートと模範例文とどこが違うか気付かせる。
課題に対するフィードバック	予習復習課題は授業毎に個別にアドバイスをして、問題点を自分で考えさせる。 Momocampusに提出された課題レポートについては、評価とコメントを入れて返す。 優れた課題を提出した学生は公表して、どこが優れているかみんなで共有する。 自己分析を基に授業でエントリーシートを作成するので、自宅学習ができていない学生は授業についていけない。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学ガイドラインに係る内容“「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。”
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	受講者数の上限を50名とする。 講義の性格上、毎回文章作成の課題があり、課題も授業も厳しいことを理解した上で、受講すること。 原則として、自宅では自己分析と文章校正に時間を割き、講義はあくまでもその問題点を修正するように努める。 毎回の課題提出をいい加減にしている場合は出席日数を満たしていても、単位修得は無理である。 作成課題については添削指導を行い、返却する。 課題提出が締め切りに間に合わなかった場合、原則として受け付けない。ただし提出締め切り1日後までに「お詫びメール」を提出し、課題提出ができなかった理由が正当であり、お詫びができていない場合には受理される場合がある。

科目名	文章表現法 (FB205304)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	尾崎美恵* (おざきみえ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の進め方並びにインターネットによる履修登録について説明する。 就職活動におけるエントリーシートの役割と重要性を説明する。 先輩が書いたエントリーシートを通じて、就職で内定を取るためには何が必要か、「生きる力」とは何かを説明する。 世の中の動きを捉え、社会に目を向けることを指導する。 何事も主体的に取り組むことの重要性を学び、自分の考えを持つように指導する。 学生同士で刺激しあい、自己分析の説明をする。 自己分析を言語化し、論理的な文章力を指導する。 「すごいお母さん、EUの大統領に会う」(文芸春秋出版)のキャッチコピーについて説明する。 「得意な事」を通じて自己分析を指導する。
2回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「得意な事」を指導する。
3回	「得意な事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
4回	「辛かった事」を通じて自己分析を指導する。
5回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「辛かった事」を指導する。
6回	「辛かった事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
7回	「大切なもの(事)」を通じて自己分析を指導する。
8回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「大切なもの(事)」の指導する。
9回	「大切なもの(事)」の完成文とキャッチコピーを指導する。 「最近の関心事」を通じて自己分析を指導する。
10回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「最近の関心事」を指導する。
11回	「最近の関心事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
12回	「ターニングポイント」を通じて自己分析を指導する。
13回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「ターニングポイント」を指導する。
14回	「ターニングポイント」の完成文とキャッチコピーを指導する。
15回	「将来したい事」を通じて自己分析を指導する。
16回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「将来したい事」の指導する。「最終評価試験」を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく確認し学習の過程を把握しておくこと。 予習：「得意な事」を考えておくこと。 復習：「得意な事」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
2回	予習：「得意な事」アウトラインを修正すること。 復習：「得意な事」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
3回	予習：「得意な事」キャッチコピーを作成すること。 復習：「得意な事」文章を完成させ、提出すること。標準学習時間120分)
4回	予習：「辛かった事」アウトラインを作成すること。 復習：「辛かった事」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
5回	予習：「辛かった事」文章を作成すること。 復習：「辛かった事」キャッチコピーを作成すること。(標準学習時間120分)

6回	予習： 「辛かった事」文章を完成させ、提出すること。 復習； 「大切なもの(事)」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
7回	予習： 「大切なもの(事)」アウトラインを修正すること。 復習： 「大切なもの(事)」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
8回	予習： 「大切なもの(事)」キャッチコピーを作成すること。 復習： 「大切なもの(事)」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分)
9回	予習： 「最近の関心事」を考えておくこと。 復習： 「最近の関心事」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
10回	予習： 「最近の関心事」アウトラインを修正すること。 復習： 「最近の関心事」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
11回	予習： 「最近の関心事」キャッチコピーを作成すること。 復習： 「最近の関心事」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分)
12回	予習： 「ターニングポイント」アウトラインを作成すること。 復習： 「ターニングポイント」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
13回	予習： 「ターニングポイント」文章を作成すること。 復習： 「ターニングポイント」キャッチコピーを作成すること。(標準学習時間120分)
14回	予習： 「ターニングポイント」文章を完成させ、提出すること。 復習； 「将来したい事」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
15回	予習： 「将来したい事」アウトラインを修正すること。 復習： 「将来したい事」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
16回	予習： 「将来したい事」キャッチコピーを作成すること。 復習： 「将来したい事」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分) 「最終評価試験」の準備をする。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している
キーワード	自分の長所も短所もそれを味方につけて相手の関心を引き込もう。
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	課題提出(50%)、ワークシート(50%)
教科書	「すごいお母さん、EUの大統領と会う」/ 著者尾崎美恵 / 出版社文芸春秋出版
関連科目	
参考書	なし 必要に応じて配布
連絡先	cool@muchujin.jp
授業の運営方針	課題提出はMomo-campusを利用する。 授業資料の配布は授業毎にするので、ファイル入れを用意する。 授業で重視するのは覚えることではなく自分自身を分析することである。 配布する資料をよく読んで自己分析を完成させる。

	最終評価試験は実施するが、授業時間と自宅学習が大切である。 アウトライン、アウトラインの修正、文章作成、文章完成を自分の言葉でしっかりと仕上げる。
アクティブ・ラーニング	過去の履修生の模範例文を教材として、個々が書いたエントリーシートと模範例文とどこが違うか気付かせる。
課題に対するフィードバック	予習復習課題は授業毎に個別にアドバイスをして、問題点を自分で考えさせる。 Momocampusに提出された課題レポートについては、評価とコメントを入れて返す。 優れた課題を提出した学生は公表して、どこが優れているかみんなで共有する。 自己分析を基に授業でエントリーシートを作成するので、自宅学習ができていない学生は授業についていけない。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学ガイドラインに係る内容“「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。”
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	受講者数の上限を50名とする。 講義の性格上、毎回文章作成の課題があり、課題も授業も厳しいことを理解した上で、受講すること。 原則として、自宅では自己分析と文章校正に時間を割き、講義はあくまでもその問題点を修正するように努める。 毎回の課題提出をいい加減にしている場合は出席日数を満たしていても、単位修得は無理である。 作成課題については添削指導を行い、返却する。 課題提出が締め切りに間に合わなかった場合、原則として受け付けない。ただし提出締め切り1日後までに「お詫びメール」を提出し、課題提出ができなかった理由が正当であり、お詫びができていない場合には受理される場合がある。

科目名	文章表現法 (FB205305)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	崎重敏幸* (さきしげとしゆき*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 講義の目的・進め方について説明する。
2回	「自己の将来設計」について、文章を作成し、その意味を考える。
3回	「レポートの書き方」について説明する。
4回	「小論文の書き方(1)」について説明する。
5回	「小論文の書き方(2)」について説明する。
6回	「小論文の書き方(3)」について説明する。
7回	「知る」ことと「人生」について、説明する。 (「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の意味を説明する。)
8回	「言葉の違い」について説明する。
	最終評価試験

回数	準備学習
1回	シラバスを読んで、講義全体の内容・過程を把握しておくこと。 (標準学習時間 120分)
2回	将来の目標について考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
3回	レポート作成の基本的な構成の型や留意点について、考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
4回	「作文」と「小論文」の違いについて、考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
5回	現代社会の「キーワード」「用語」について、考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
6回	事前にテーマを選択し、関連する情報や資料を準備しておくこと。 (標準学習時間 120分)
7回	「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の意味について、考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
8回	日常使われる言葉で、言葉の違いが判然としないものについて、調べておくこと。(標準学習時間 120分)
	今まで学習してきたことを復習しておくこと。 (標準学習時間 180分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	1. 目的意識 2. 基礎知識 3. 実行力 4. 復習する

	<p>5. 確認の徹底</p> <p>6. 授業内容の「ポイント」は必ずメモを取る</p> <p>7. 文章を書く「目的・意義」の完全な理解</p>
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	課題提出（50%）、ワークシート（50%）
教科書	<p>「60歳からの健康人生」 / 執筆者代表 崎重敏幸 / / 株式会社 ライフ・サポート / / ISBN 978-4-9907110-0-9</p> <p>授業に必要な「資料」（プリント）を、適宜、配布する。</p>
関連科目	プレゼンテーション基礎編
参考書	適宜、指示する
連絡先	info@hiroshima-life.jp
授業の運営方針	<p>最初の授業の際に、「シャトルカード」（授業への出欠確認と、授業内容についての質問や要望などについて、やり取りできるカード）を個々に配布し、授業終了後に回収し、内容を、チェック・指導したものを、次回の授業の最初に返却し、学生とのコミュニケーションツールとして利用。</p> <p>授業には、当日の授業の主な指導内容をプリントして配布し、効率的な授業を心がける。またプリントの内容は、復習資料としても活用できることも考慮した。</p>
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	<p>授業における「提出課題」については、授業終了後、提出させ、指導内容をチェックしたものを、原則として、次々回の授業の初めに返却する。</p> <p>時間外における「提出課題」については、提出の締切日を設定して提出させ、指導内容をチェックしたものを、原則として、締切日後の二週間後の授業の初めに返却する。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>合理的な配慮が必要な学生の場合には、学校に相談し、適切な指導を仰ぎます。</p> <p>講義中の「録音・録画・撮影」などは、すべて不許可です。</p>
実務経験のある教員	<p>高等学校の教科書出版社の「常務取締役」「編集長」であった経験を活かし、就職試験への取り組みの仕方や、会社や社会での、より良い人間関係の在り方、ヒット商品の企画や重要性などを紹介して、岡山理科大学の建学精神の一つでもある、「社会に貢献できる人物」の育成にも留意しています。</p>
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法 (FB205306)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	石井成人* (いしいなるひと*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「文章表現法」講義概説 をする。
2回	文章の構成、アウトライン をする。
3回	アウトライン作成 をする。
4回	アウトラインの推敲 をする。
5回	アウトラインの完成 をする。
6回	序論・本論・結論の作成1 をする。
7回	序論・本論・結論の作成2 をする。
8回	小論文構成の再確認、 中間試験をする。
9回	序論・本論・結論の作成4 をする。
10回	800字小論文の完成・提出 をする。
11回	別テーマによる二本目論文の作成 をする。
12回	アウトライン添削・修正 をする。
13回	800字小論文作成 をする。
14回	800字小論文添削・修正 をする。
15回	800字小論文の完成 をする。
16回	小論文構成の再確認 最終評価試験をする。

回数	準備学習
1回	学内PCにログインが出来るようにID/Passを用意しておく
2回	各自PCにログインし、課題提出ページ・操作が出来るように確認しておく
3回	課題テーマの草案 を作る。 (標準学習時間60分)
4回	アウトラインの作成、修正 すること。 (標準学習時間60分)
5回	アウトラインの作成、修正 すること。 (標準学習時間60分)
6回	アウトラインの仕上げ すること。 (標準学習時間60分)
7回	800字小論文、序論の作成 すること。 (標準学習時間60分)
8回	800字小論文、本論の作成 学習内容の再確認すること。 (標準学習時間60分)
9回	800字小論文、結論の作成 すること。 (標準学習時間60分)
10回	800字小論文の仕上げ すること。 (標準学習時間60分)
11回	アウトラインの復習 すること。 (標準学習時間60分)
12回	アウトライン作成1 すること。 (標準学習時間60分)
13回	アウトライン作成2 すること。 (標準学習時間60分)
14回	800字小論文作成 すること。 (標準学習時間60分)
15回	800字小論文仕上げ をすること。 (標準学習時間60分)
16回	800字小論文、本論の作成 学習内容の再確認をすること。 (標準学習時間60分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。

	9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している
キーワード	文章表現、アイデア・構成・アウトライン・要約・作文
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（50%）・課題提出（50%）の総合評価
教科書	教室にてプリント資料等配布予定
関連科目	プレゼンテーション
参考書	必要に応じて教室にて指示
連絡先	elmar35@yahoo.co.jp
授業の運営方針	論文という領域での客観的、論理的文章は、他の領域で綴られる文章とは別物であるということを知識として学習するだけではなく、実際に文章作成の練習を重ねて実感、体感しつつ体得することを目指す。
アクティブ・ラーニング	学習した客観的な論文文章の書き方に関する知識だけにとどまらず、それらを実際に項目ごと、ステップごとに作成作業の練習を繰り返す。試行錯誤の中で客観的かつ論理的な思考パターンと文章表現力を実感しながら獲得していく。
課題に対するフィードバック	論文の文章作成練習のステップごとに、提出された課題例文を、毎回教室全体で確認チェックし、自分の練習内容だけではなく、その他多くの具体的実例を参考に自分の文章作成を常にステップアップさせることが出来るようにする。 そのため、PC教室では一つのファイルにすべての課題提出例をまとめ、モニター画面でスクロールさせながら、そのステップごとのポイントを確認チェック、添削を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	PC教室にて、Web上の課題システムを毎回利用して授業を行う。受講者数の上限を50名とする。 フィードバック 毎回試作、提出された論文原稿については、次の文章作成ステップへ反映させることが実現出来るように、コンピュータ室のモニタまたはプロジェクター表示された画面上で、個別にチェックし添削を行う。（自分の作成した文章だけではなく、他人の文章へのチェック・添削を客観的に眺めることで、試作している自分の取り組みに関して何倍も学習することを目指す）

科目名	文章表現法 (FB205307)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	藤野薫* (ふじのかおる*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
2回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
3回	文章を要約する : 参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
4回	文章を要約する : 参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
5回	文章を書くときの注意点 : 文章表現の形式とルールについて解説する。
6回	文章を要約する : 参考文を要約する。
7回	文章を書くときの注意点 : 正確でわかりやすい表現について解説する。
8回	前半の講義ををまとめる。課題を作成する。
9回	経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
10回	経験や知識の文章化に取り組む。
11回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
12回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
13回	対立する意見を使って文章を構成する。
14回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
15回	800字の構成について解説する。課題作成について説明する。
16回	文章表現のポイントを整理する。課題を作成する。

回数	準備学習
1回	予習: シラバスを読んでおくこと。 復習: 受講上の注意を再確認すること。 (標準学習時間30分)
2回	予習: 受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習: 記入した内容を自己点検すること。 (標準学習時間30分)
3回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: アウトラインの大切さを確認すること。 (標準学習時間45分)
4回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: 文章の基本的な組み立てを確認すること。 (標準学習時間45分)
5回	予習: 文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習: 文章表現の形式とルールをまとめること。 (標準学習時間45分)
6回	予習: 文章の要約についてまとめておくこと。 復習: 取り組んだ要約を自己点検すること。 (標準学習時間45分)
7回	予習: 文章表現の注意点について考えておくこと。 復習: 正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間45分)
8回	予習: 前半の講義内容を確認し、課題作成の準備をすること。 復習: 課題作成について自己点検を行うこと。 (標準学習時間120分)
9回	予習: 文章の構成について確認しておくこと。 復習: 文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
10回	予習: 文章化するための材料をまとめておくこと。 復習: 取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
11回	予習: 文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習: 対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
12回	予習: 指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習: ディスカッションの内容をまとめておくこと。

	(標準学習時間60分)
13回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
14回	予習：800字の参考文を読んでくること。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
15回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
16回	予習：後半の講義内容を確認し、課題作成の準備をしておくこと。 復習：課題作成について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	演習(40%)、最終評価試験(60%)
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽/新・文章表現法 基礎編(群青色版)/蜻文庫
関連科目	プレゼンテーション、プレゼンテーション、文章表現法
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
授業の運営方針	時間内での文章の要約作業、個人的な体験や時事問題についての考察の文章化が中心となる。また慣用表現、ことわざなどについて調べてもらう。
アクティブ・ラーニング	文章作成、プレゼンテーション(作成したものの発表)が中心となる。
課題に対するフィードバック	作成した文章は必ず添削して返却する。また、プレゼンテーション等については問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音/録画/撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	1. 現・蜻文庫(出版者記号:904789)共同代表 2. 編集プロダクションにて執筆、編集、校正を担当した経験を活かし、実践的でわかりやすい文章を書くための基本練習を重視した授業を行う。
その他(注意・備考)	1. 受講者数の上限を50名とする。2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3. 受講者は必ずテキストを購入すること。4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6. 講義には必ず国語辞典(通信機能のない電子辞書も可)を持参すること。7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10. 本講義ではグループディスカッションを行うことがある。11. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法 (FB205308)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	藤野薫* (ふじのかおる*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
2回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
3回	文章を要約する : 参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
4回	文章を要約する : 参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
5回	文章を書くときの注意点 : 文章表現の形式とルールについて解説する。
6回	文章を要約する : 参考文を要約する。
7回	文章を書くときの注意点 : 正確でわかりやすい表現について解説する。
8回	前半の講義ををまとめる。課題を作成する。
9回	経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
10回	経験や知識の文章化に取り組む。
11回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
12回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
13回	対立する意見を使って文章を構成する。
14回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
15回	800字の構成について解説する。課題作成について説明する。
16回	文章表現のポイントを整理する。課題を作成する。

回数	準備学習
1回	予習: シラバスを読んでおくこと。 復習: 受講上の注意を再確認すること。 (標準学習時間30分)
2回	予習: 受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習: 記入した内容を自己点検すること。 (標準学習時間30分)
3回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: アウトラインの大切さを確認すること。 (標準学習時間45分)
4回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: 文章の基本的な組み立てを確認すること。 (標準学習時間45分)
5回	予習: 文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習: 文章表現の形式とルールをまとめること。 (標準学習時間45分)
6回	予習: 文章の要約についてまとめておくこと。 復習: 取り組んだ要約を自己点検すること。 (標準学習時間45分)
7回	予習: 文章表現の注意点について考えておくこと。 復習: 正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間45分)
8回	予習: 前半の講義内容を確認し、課題作成の準備をすること。 復習: 課題作成について自己点検を行うこと。 (標準学習時間120分)
9回	予習: 文章の構成について確認しておくこと。 復習: 文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
10回	予習: 文章化するための材料をまとめておくこと。 復習: 取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
11回	予習: 文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習: 対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
12回	予習: 指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習: ディスカッションの内容をまとめておくこと。

	(標準学習時間60分)
13回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
14回	予習：800字の参考文を読んでくること。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
15回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
16回	予習：後半の講義内容を確認し、課題作成の準備をしておくこと。 復習：課題作成について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	演習(40%)、最終評価試験(60%)
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽/新・文章表現法 基礎編(群青色版)/蜻文庫
関連科目	プレゼンテーション、プレゼンテーション、文章表現法
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
授業の運営方針	時間内での文章の要約作業、個人的な体験や時事問題についての考察の文章化が中心となる。また慣用表現、ことわざなどについて調べてもらう。
アクティブ・ラーニング	文章作成、プレゼンテーション(作成したものの発表)が中心となる。
課題に対するフィードバック	作成した文章は必ず添削して返却する。また、プレゼンテーション等については問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音/録画/撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	1. 現・蜻文庫(出版者記号:904789)共同代表 2. 編集プロダクションにて執筆、編集、校正を担当した経験を活かし、実践的でわかりやすい文章を書くための基本練習を重視した授業を行う。
その他(注意・備考)	1. 受講者数の上限を50名とする。2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3. 受講者は必ずテキストを購入すること。4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6. 講義には必ず国語辞典(通信機能のない電子辞書も可)を持参すること。7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10. 本講義ではグループディスカッションを行うことがある。11. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法 (FB205309)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	三木恒治(みきこうじ)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
2回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
3回	文章を要約する : 参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
4回	文章を要約する : 参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
5回	文章を書くときの注意点 : 文章表現の形式とルールについて解説する。
6回	文章を要約する : 参考文を要約する。
7回	文章を書くときの注意点 : 正確でわかりやすい表現について解説する。
8回	前半の講義ををまとめる。課題を作成する。
9回	経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
10回	経験や知識の文章化に取り組む。
11回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
12回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
13回	対立する意見を使って文章を構成する。
14回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
15回	800字の構成について解説する。課題作成について説明する。
16回	文章表現のポイントを整理する。課題を作成する。

回数	準備学習
1回	予習: シラバスを読んでおくこと。 復習: 受講上の注意を再確認すること。 (標準学習時間30分)
2回	予習: 受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習: 記入した内容を自己点検すること。 (標準学習時間30分)
3回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: アウトラインの大切さを確認すること。 (標準学習時間45分)
4回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: 文章の基本的な組み立てを確認すること。 (標準学習時間45分)
5回	予習: 文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習: 文章表現の形式とルールをまとめること。 (標準学習時間45分)
6回	予習: 文章の要約についてまとめておくこと。 復習: 取り組んだ要約を自己点検すること。 (標準学習時間45分)
7回	予習: 文章表現の注意点について考えておくこと。 復習: 正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間45分)
8回	予習: 前半の講義内容を確認し、課題作成の準備をすること。 復習: 課題作成について自己点検を行うこと。 (標準学習時間120分)
9回	予習: 文章の構成について確認しておくこと。 復習: 文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
10回	予習: 文章化するための材料をまとめておくこと。 復習: 取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
11回	予習: 文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習: 対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
12回	予習: 指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習: ディスカッションの内容をまとめておくこと。

	(標準学習時間60分)
13回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
14回	予習：800字の参考文を読んでくること。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
15回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
16回	予習：後半の講義内容を確認し、課題作成の準備をしておくこと。 復習：課題作成について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	演習(40%)、最終評価試験(60%)。
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽/新・文章表現法 基礎編(群青色版)/蜻文庫
関連科目	プレゼンテーション、プレゼンテーション、文章表現法
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	A-2号館8階、内線4384 E-mail: miki(アットマーク)xmath.ous.ac.jp オフィスアワー：火曜3時限(春学期、秋学期とも)
授業の運営方針	時間内での文章の要約作業、個人的な体験や時事問題についての考察の文章化が中心となる。また慣用表現、ことわざなどについて調べてもらう。
アクティブ・ラーニング	文章作成、プレゼンテーション(作成したものの発表)が中心となる。
課題に対するフィードバック	作成した文章は必ず添削して返却する。また、プレゼンテーション等については問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音/録画/撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は必ずテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典(通信機能のない電子辞書も可)を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 本講義ではグループディスカッションを行うことがある。 11. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法 (FB205310)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義ガイダンス(文章の書き方の基本説明)の後に、枕草子の解説と序段「春は」の解釈をする。
2回	「夏は」「秋は」の緻密な解釈をする。
3回	「冬は」の緻密な解釈を行い、そのあとで簡単な感想を書いてもらう作業をする。
4回	浅田次郎の簡単な説明と「降霊会の夜」のプロローグ(第一章段P5~P7の5行目まで)を解釈する。
5回	第一章段P7の6行目~P10を解釈する。
6回	P11~P13の2行目までを緻密に解釈する。
7回	P13の3行目~P15までを緻密に解釈する。
8回	文章の書き方を解説した後、「降霊会の夜」プロローグを読んだ感想を書いてもらう作業をする。
9回	講義ガイダンス(文章の書き方の基本説明)ののちに、60秒~90秒以内で自己紹介をする。
10回	自己紹介の続きをする。その際質問事項も考えること。
11回	ことわざや故事成語を出題し、それを使って短文を作る練習をする。
12回	11回目の続きをする。
13回	こちらがテーマを出すので、それについて文章を作り上げてゆくことを実践する。
14回	下書きチェックをする。
15回	清書のチェックをする。
16回	清書をする。

回数	準備学習
1回	「春は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
2回	「夏は」「秋は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
3回	「冬は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
4回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
5回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
6回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
7回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
8回	各自プロローグ全体を読みなおし、感想をまとめておくこと。
9回	自己紹介文を考えておくこと。
10回	9回目と同じ
11回	語彙力を高めておくこと。
12回	語彙力を高めておくこと。
13回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
14回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
15回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
16回	文章構成の基礎を学習しておくこと。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。

キーワード	枕草子、浅田次郎、語彙力、原稿用紙の使い方
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（50％） ・課題提出（50％） 教えてきたことがどこまで出来ているかを一人ひとり対面でチェックし、点数化する。
教科書	「枕草子」＝プリントをこちらで用意する。 「降霊会の夜」＝浅田次郎/朝日文庫
関連科目	比較文化論
参考書	
連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4階
授業の運営方針	文章作成（表現）能力は、在学中のレポート作成や論文作成に必要なことは当然であるが、社会に出てからも報告書の作成や日報作成などに必要不可欠なものである。にもかかわらず、きちんとした言葉遣いはおろか、原稿用紙やレポート用紙の使い方さえ理解していない学生が相当数いる。これは昨今の「活字離れ」という言葉に象徴されるように、本をまともに読んで来なかったために、文章作成の基本となる文章解釈力が培われることなく今に至っているからであろうと推察される。そこで前半8回はまず、今まで緻密な解釈をしてこなかったであろう古文と現代文を読み解き、語彙力と解釈力を上げてゆくところから始めたい。また、後半8回は短文の書き方から始め、最終的にブログやインスタなどに正確な文章が書けるよう指導する。 この講義は全員参加型を目指しているため、講義中の私語や途中退出は厳禁とする。講義中もこちらから質問することがあるが、出来るだけ挙手して発言してほしい。 質問・相談等あればB3号館4階の辻研究室まで遠慮なく来てほしい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出されたレポートを一人ひとりその場でチェックし、アドバイスする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義の録音、撮影、録画はSNSに開示しないという前提で許可します（著作権保護のため）。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法 (FB205311)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	藤野薫* (ふじのかおる*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
2回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
3回	文章を要約する : 参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
4回	文章を要約する : 参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
5回	文章を書くときの注意点 : 文章表現の形式とルールについて解説する。
6回	文章を要約する : 参考文を要約する。
7回	文章を書くときの注意点 : 正確でわかりやすい表現について解説する。
8回	前半の講義ををまとめる。課題を作成する。
9回	経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
10回	経験や知識の文章化に取り組む。
11回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
12回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
13回	対立する意見を使って文章を構成する。
14回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
15回	800字の構成について解説する。課題作成について説明する。
16回	文章表現のポイントを整理する。課題を作成する。

回数	準備学習
1回	予習: シラバスを読んでおくこと。 復習: 受講上の注意を再確認すること。 (標準学習時間30分)
2回	予習: 受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習: 記入した内容を自己点検すること。 (標準学習時間30分)
3回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: アウトラインの大切さを確認すること。 (標準学習時間45分)
4回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: 文章の基本的な組み立てを確認すること。 (標準学習時間45分)
5回	予習: 文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習: 文章表現の形式とルールをまとめること。 (標準学習時間45分)
6回	予習: 文章の要約についてまとめておくこと。 復習: 取り組んだ要約を自己点検すること。 (標準学習時間45分)
7回	予習: 文章表現の注意点について考えておくこと。 復習: 正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間45分)
8回	予習: 前半の講義内容を確認し、課題作成の準備をすること。 復習: 課題作成について自己点検を行うこと。 (標準学習時間120分)
9回	予習: 文章の構成について確認しておくこと。 復習: 文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
10回	予習: 文章化するための材料をまとめておくこと。 復習: 取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
11回	予習: 文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習: 対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
12回	予習: 指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習: ディスカッションの内容をまとめておくこと。

	(標準学習時間60分)
13回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
14回	予習：800字の参考文を読んでくること。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
15回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
16回	予習：後半の講義内容を確認し、課題作成の準備をしておくこと。 復習：課題作成について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	演習(40%)、最終評価試験(60%)
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽/新・文章表現法 基礎編(群青色版)/蜻文庫
関連科目	プレゼンテーション、プレゼンテーション、文章表現法
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
授業の運営方針	時間内での文章の要約作業、個人的な体験や時事問題についての考察の文章化が中心となる。また慣用表現、ことわざなどについて調べてもらう。
アクティブ・ラーニング	文章作成、プレゼンテーション(作成したものの発表)が中心となる。
課題に対するフィードバック	作成した文章は必ず添削して返却する。また、プレゼンテーション等については問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音/録画/撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	1. 現・蜻文庫(出版者記号:904789)共同代表 2. 編集プロダクションにて執筆、編集、校正を担当した経験を活かし、実践的でわかりやすい文章を書くための基本練習を重視した授業を行う。
その他(注意・備考)	1. 受講者数の上限を50名とする。2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3. 受講者は必ずテキストを購入すること。4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6. 講義には必ず国語辞典(通信機能のない電子辞書も可)を持参すること。7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10. 本講義ではグループディスカッションを行うことがある。11. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法 (FB205312)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義ガイダンス(文章の書き方の基本説明)の後に、枕草子の解説と序段「春は」の解釈をする。
2回	「夏は」「秋は」の緻密な解釈をする。
3回	「冬は」の緻密な解釈を行い、そのあとで簡単な感想を書いてもらう作業をする。
4回	浅田次郎の簡単な説明と「降霊会の夜」のプロローグ(第一章段P5~P7の5行目まで)を解釈する。
5回	第一章段P7の6行目~P10を解釈する。
6回	P11~P13の2行目までを緻密に解釈する。
7回	P13の3行目~P15までを緻密に解釈する。
8回	文章の書き方を解説した後、「降霊会の夜」プロローグを読んだ感想を書いてもらう作業をする。
9回	講義ガイダンス(文章の書き方の基本説明)ののちに、60秒~90秒以内で自己紹介をする。
10回	自己紹介の続きをする。その際質問事項も考えること。
11回	ことわざや故事成語を出題し、それを使って短文を作る練習をする。
12回	11回目の続きをする。
13回	こちらがテーマを出すので、それについて文章を作り上げてゆくことを実践する。
14回	下書きチェックをする。
15回	清書のチェックをする。
16回	清書をする。

回数	準備学習
1回	「春は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
2回	「夏は」「秋は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
3回	「冬は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
4回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
5回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
6回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
7回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
8回	各自プロローグ全体を読みなおし、感想をまとめておくこと。
9回	自己紹介文を考えておくこと。
10回	9回目と同じ
11回	語彙力を高めておくこと。
12回	語彙力を高めておくこと。
13回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
14回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
15回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
16回	文章構成の基礎を学習しておくこと。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。

キーワード	枕草子、浅田次郎、語彙力、原稿用紙の使い方
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（50%） ・課題提出（50%） 教えてきたことがどこまで出来ているかを一人ひとり対面でチェックし、点数化する。
教科書	「枕草子」=プリントをこちらで用意する。 「降霊会の夜」=浅田次郎/朝日文庫
関連科目	比較文化論
参考書	
連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4階
授業の運営方針	文章作成（表現）能力は、在学中のレポート作成や論文作成に必要なことは当然であるが、社会に出てからも報告書の作成や日報作成などに必要不可欠なものである。にもかかわらず、きちんとした言葉遣いはおろか、原稿用紙やレポート用紙の使い方さえ理解していない学生が相当数いる。これは昨今の「活字離れ」という言葉に象徴されるように、本をまともに読んで来なかったために、文章作成の基本となる文章解釈力が培われることなく今に至っているからであろうと推察される。 そこで前半8回はまず、今まで緻密な解釈をしてこなかったであろう古文と現代文を読み解き、語彙力と解釈力を上げてゆくところから始めたい。また、後半8回は短文の書き方から始め、最終的にブログやインスタなどに正確な文章が書けるよう指導する。 この講義は全員参加型を目指しているため、講義中の私語や途中退出は厳禁とする。講義中もこちらから質問することがあるが、出来るだけ挙手して発言してほしい。 質問・相談等あればB3号館4階の辻研究室まで遠慮なく来てほしい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出されたレポートを一人ひとりその場でチェックし、アドバイスする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義の録音、撮影、録画はSNSに開示しないという前提で許可します（著作権保護のため）。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法 (FB205313)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義ガイダンス(文章の書き方の基本説明)の後に、枕草子の解説と序段「春は」の解釈をする。
2回	「夏は」「秋は」の緻密な解釈をする。
3回	「冬は」の緻密な解釈を行い、そのあとで簡単な感想を書いてもらう作業をする。
4回	浅田次郎の簡単な説明と「降霊会の夜」のプロローグ(第一章段P5~P7の5行目まで)を解釈する。
5回	第一章段P7の6行目~P10を解釈する。
6回	P11~P13の2行目までを緻密に解釈する。
7回	P13の3行目~P15までを緻密に解釈する。
8回	文章の書き方を解説した後、「降霊会の夜」プロローグを読んだ感想を書いてもらう作業をする。
9回	講義ガイダンス(文章の書き方の基本説明)ののちに、60秒~90秒以内で自己紹介をする。
10回	自己紹介の続きをする。その際質問事項も考えること。
11回	ことわざや故事成語を出題し、それを使って短文を作る練習をする。
12回	11回目の続きをする。
13回	こちらがテーマを出すので、それについて文章を作り上げてゆくことを実践する。
14回	下書きチェックをする。
15回	清書のチェックをする。
16回	清書をする。

回数	準備学習
1回	「春は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
2回	「夏は」「秋は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
3回	「冬は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
4回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
5回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
6回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
7回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
8回	各自プロローグ全体を読みなおし、感想をまとめておくこと。
9回	自己紹介文を考えておくこと。
10回	9回目と同じ
11回	語彙力を高めておくこと。
12回	語彙力を高めておくこと。
13回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
14回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
15回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
16回	文章構成の基礎を学習しておくこと。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。

キーワード	枕草子、浅田次郎、語彙力、原稿用紙の使い方
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（50%） ・課題提出（50%） 教えてきたことがどこまで出来ているかを一人ひとり対面でチェックし、点数化する。
教科書	「枕草子」=プリントをこちらで用意する。 「降霊会の夜」=浅田次郎/朝日文庫
関連科目	比較文化論
参考書	
連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4階
授業の運営方針	文章作成（表現）能力は、在学中のレポート作成や論文作成に必要なことは当然であるが、社会に出てからも報告書の作成や日報作成などに必要不可欠なものである。にもかかわらず、きちんとした言葉遣いはおろか、原稿用紙やレポート用紙の使い方さえ理解していない学生が相当数いる。これは昨今の「活字離れ」という言葉に象徴されるように、本をまともに読んで来なかったために、文章作成の基本となる文章解釈力が培われることなく今に至っているからであろうと推察される。そこで前半8回はまず、今まで緻密な解釈をしてこなかったであろう古文と現代文を読み解き、語彙力と解釈力を上げてゆくところから始めたい。また、後半8回は短文の書き方から始め、最終的にブログやインスタなどに正確な文章が書けるよう指導する。 この講義は全員参加型を目指しているため、講義中の私語や途中退出は厳禁とする。講義中もこちらから質問することがあるが、出来るだけ挙手して発言してほしい。 質問・相談等あればB3号館4階の辻研究室まで遠慮なく来てほしい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出されたレポートを一人ひとりその場でチェックし、アドバイスする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義の録音、撮影、録画はSNSに開示しないという前提で許可します（著作権保護のため）。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法 (FB205314)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	生田夏樹* (いくたなつき*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章 (「使用後を考えなかった兵器」) を要約する(1) 第1課題: アウトラインを作成する。
2回	文章 を要約する(2) 第2課題: 要約本文を作成する。
3回	文章 (「はたして科学者はパズルを解いているのか」) を要約する(1) 第3課題: アウトラインを作成する。
4回	文章 を要約する(2) 第4課題: 要約本文を作成する。
5回	与えられたテーマA(「協力のあり方について」) の文章を作成する(1) 第5課題: アウトライン1回目を作成する。
6回	与えられたテーマAの文章を作成する(2) 第6課題: アウトライン2回目を作成する。
7回	与えられたテーマAの文章を作成する(3) 第7課題: 本文のうち序論と本論1を作成する。
8回	与えられたテーマAの文章を作成する(4) 第8課題: 本文のうち本論2と結論を作成する。中間試験を実施する。
9回	与えられたテーマB(「私の職業観」) の文章を作成する(1) 第9課題: アウトラインを作成する。
10回	与えられたテーマB(「私の職業観」) の文章を作成する(1) 第10課題: 本文を作成する。
11回	与えられたテーマC(「創造性について」) の文章を作成する(1) 第11課題: アウトライン1回目を作成する。
12回	与えられたテーマCの文章を作成する(1) 第12課題: アウトライン2回目を作成する。
13回	与えられたテーマCの文章を作成する(2) 第13課題: 本文を作成する。
14回	与えられたテーマD(「情報について」) の文章を作成する(1) 第14課題: アウトライン1回目を作成する。
15回	与えられたテーマDの文章を作成する(2) 第15課題: アウトライン2回目を作成する。
16回	与えられたテーマDの文章を作成する(3) 第16課題: 本文を作成する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	特に無いが、学内でパソコンを使用するためのアカウントを準備しておくこと。(標準学習時間120分)
2回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。(アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
3回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
5回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 日常生活の様々な場面で見られる「協力」の例について考えておくこと。(標準学習時間120分)
6回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
7回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
8回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (序論、本論1に改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
9回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 これまでに、部活やアルバイトの経験があるなら、そこからどのようなことを学んだかを考えてみる。そのような経験がない場合も、将来、社会人となった場合に、どのような心構えを持って生きて行くかについて考えておくこと。(標準学習時間120分)
10回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
11回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。

	「創造性」が発揮される場としてどのようなものがあるか、例を考えておくこと。 必要なら、インターネットで検索して事例を探してみること。(標準学習時間120分)
12回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
13回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
14回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 「情報について」という題で小論文を書く場合、序論に入れる問題提起のフレーズとしてどのようなものが考えられるか、ノートに列挙してみること。(標準学習時間120分)
15回	前回提出した課題につけられたコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべきところがある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
16回	前回提出した課題につけられたコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべきところがある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している
キーワード	文章表現、作文、アウトライン、要約
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	・ワークシート(50%) ・課題提出(50%)
教科書	なし。
関連科目	「文章表現法II」「プレゼンテーションIおよびII」
参考書	プリント(資料)を配布する。
連絡先	korrigan@mocha.ocn.ne.jp
授業の運営方針	課題の指示および課題提出はMomo-campusを利用する。 毎回、授業の前半に、その回に取り組むべき課題(アウトライン作成または本文作成)に関する留意事項やキーポイント等について説明し、授業後半はパソコンにむかっのての実習作業に移る。 その際、教員は巡回して各受講生に適宜助言を行う。
アクティブ・ラーニング	実施していない。
課題に対するフィードバック	Momocampusに提出された課題については、Momocampusのフィードバックを利用して評価とコメントを返信する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	文章表現法 (FB205315)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	生田夏樹* (いくたなつき*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章 (「使用後を考えなかった兵器」) を要約する(1) 第1課題: アウトラインを作成する。
2回	文章 を要約する(2) 第2課題: 要約本文を作成する。
3回	文章 (「はたして科学者はパズルを解いているのか」) を要約する(1) 第3課題: アウトラインを作成する。
4回	文章 を要約する(2) 第4課題: 要約本文を作成する。
5回	与えられたテーマA(「協力のあり方について」) の文章を作成する(1) 第5課題: アウトライン1回目を作成する。
6回	与えられたテーマAの文章を作成する(2) 第6課題: アウトライン2回目を作成する。
7回	与えられたテーマAの文章を作成する(3) 第7課題: 本文のうち序論と本論1を作成する。
8回	与えられたテーマAの文章を作成する(4) 第8課題: 本文のうち本論2と結論を作成する。中間試験を実施する。
9回	与えられたテーマB(「私の職業観」) の文章を作成する(1) 第9課題: アウトラインを作成する。
10回	与えられたテーマB(「私の職業観」) の文章を作成する(1) 第10課題: 本文を作成する。
11回	与えられたテーマC(「創造性について」) の文章を作成する(1) 第11課題: アウトライン1回目を作成する。
12回	与えられたテーマCの文章を作成する(1) 第12課題: アウトライン2回目を作成する。
13回	与えられたテーマCの文章を作成する(2) 第13課題: 本文を作成する。
14回	与えられたテーマD(「情報について」) の文章を作成する(1) 第14課題: アウトライン1回目を作成する。
15回	与えられたテーマDの文章を作成する(2) 第15課題: アウトライン2回目を作成する。
16回	与えられたテーマDの文章を作成する(3) 第16課題: 本文を作成する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	特に無いが、学内でパソコンを使用するためのアカウントを準備しておくこと。(標準学習時間120分)
2回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。(アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
3回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
5回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 日常生活の様々な場面で見られる「協力」の例について考えておくこと。(標準学習時間120分)
6回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
7回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
8回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (序論、本論1に改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
9回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 これまでに、部活やアルバイトの経験があるなら、そこからどのようなことを学んだかを考えてみる。そのような経験がない場合も、将来、社会人となった場合に、どのような心構えを持って生きて行くかについて考えておくこと。(標準学習時間120分)
10回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
11回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。

	「創造性」が発揮される場としてどのようなものがあるか、例を考えておくこと。 必要なら、インターネットで検索して事例を探してみること。(標準学習時間120分)
12回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
13回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
14回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 「情報について」という題で小論文を書く場合、序論に入れる問題提起のフレーズとしてどのようなものが考えられるか、ノートに列挙してみること。(標準学習時間120分)
15回	前回提出した課題につけられたコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべきところがある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
16回	前回提出した課題につけられたコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべきところがある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している
キーワード	文章表現、作文、アウトライン、要約
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	・ワークシート(50%) ・課題提出(50%)
教科書	なし。
関連科目	「文章表現法II」「プレゼンテーションIおよびII」
参考書	プリント(資料)を配布する。
連絡先	korrigan@mocha.ocn.ne.jp
授業の運営方針	課題の指示および課題提出はMomo-campusを利用する。 毎回、授業の前半に、その回に取り組むべき課題(アウトライン作成または本文作成)に関する留意事項やキーポイント等について説明し、授業後半はパソコンにむかっのての実習作業に移る。 その際、教員は巡回して各受講生に適宜助言を行う。
アクティブ・ラーニング	実施していない。
課題に対するフィードバック	Momocampusに提出された課題については、Momocampusのフィードバックを利用して評価とコメントを返信する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	文章表現法 (FB205316)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	杉林周陽* (すぎばやしのりあき*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
2回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
3回	文章を要約する : 参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
4回	文章を要約する : 参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
5回	文章を書くときの注意点 : 文章表現の形式とルールについて解説する。
6回	文章を要約する : 参考文を要約する。
7回	文章を書くときの注意点 : 正確でわかりやすい表現について解説する。
8回	前半の講義ををまとめる。課題を作成する。
9回	経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
10回	経験や知識の文章化に取り組む。
11回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
12回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
13回	対立する意見を使って文章を構成する。
14回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
15回	800字の構成について解説する。課題作成について説明する。
16回	文章表現のポイントを整理する。課題を作成する。

回数	準備学習
1回	予習: シラバスを読んでおくこと。 復習: 受講上の注意を再確認すること。 (標準学習時間30分)
2回	予習: 受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習: 記入した内容を自己点検すること。 (標準学習時間30分)
3回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: アウトラインの大切さを確認すること。 (標準学習時間45分)
4回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: 文章の基本的な組み立てを確認すること。 (標準学習時間45分)
5回	予習: 文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習: 文章表現の形式とルールをまとめること。 (標準学習時間45分)
6回	予習: 文章の要約についてまとめておくこと。 復習: 取り組んだ要約を自己点検すること。 (標準学習時間45分)
7回	予習: 文章表現の注意点について考えておくこと。 復習: 正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間45分)
8回	予習: 前半の講義内容を確認し、課題作成の準備をすること。 復習: 課題作成について自己点検を行うこと。 (標準学習時間120分)
9回	予習: 文章の構成について確認しておくこと。 復習: 文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
10回	予習: 文章化するための材料をまとめておくこと。 復習: 取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
11回	予習: 文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習: 対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
12回	予習: 指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習: ディスカッションの内容をまとめておくこと。

	(標準学習時間60分)
13回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
14回	予習：800字の参考文を読んでくること。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
15回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
16回	予習：後半の講義内容を確認し、課題作成の準備をしておくこと。 復習：課題作成について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	演習(40%)、最終評価試験(60%)。
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽/新・文章表現法 基礎編(群青色版)/蜻文庫
関連科目	プレゼンテーション、プレゼンテーション、文章表現法
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の出席及び、課題の提出を前提とする。欠席する度に平常点から減点する。 ・出席回数が規定回数に達しない場合は最終試験の受験を認めない。 ・30分を超える遅刻に関しては、その回の出席として認めない。 ・提出課題は教科書に付属の提出用紙を使用の上、提出することとする。用紙のコピーは一切認めない。 ・ほぼ毎回、何らかの文章を書き、提出してもらう。 ・授業時間内に課題が提出できない場合は、それを宿題とし、次回授業の始めに提出してもらう。それ以降の提出は大幅な減点の対象、または評価の対象外とすることがある。
アクティブ・ラーニング	文章作成、プレゼンテーション(作成したものの発表)が中心となる。
課題に対するフィードバック	作成した文章は必ず添削して返却する。また、プレゼンテーション等については問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音/録画/撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は必ずテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信機器の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典(通信機能のない電子辞書も可)を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 本講義ではグループディスカッションを行うことがある。 11. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法 (FB205317)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	崎重敏幸* (さきしげとしゆき*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 講義の目的・進め方について説明する。
2回	「自己の将来設計」について、文章を作成し、その意味を考える。
3回	「レポートの書き方」について説明する。
4回	「小論文の書き方(1)」について説明する。
5回	「小論文の書き方(2)」について説明する。
6回	「小論文の書き方(3)」について説明する。
7回	「知る」ことと「人生」について、説明する。 (「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の意味を説明する。)
8回	「言葉の違い」について説明する。
	最終評価試験

回数	準備学習
1回	シラバスを読んで、講義全体の内容・過程を把握しておくこと。 (標準学習時間 120分)
2回	将来の目標について考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
3回	レポート作成の基本的な構成の型や留意点について、考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
4回	「作文」と「小論文」の違いについて、考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
5回	現代社会の「キーワード」「用語」について、考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
6回	事前にテーマを選択し、関連する情報や資料を準備しておくこと。 (標準学習時間 120分)
7回	「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の意味について、考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
8回	日常使われる言葉で、言葉の違いが判然としないものについて、調べておくこと。(標準学習時間 120分)
	今まで学習してきたことを復習しておくこと。 (標準学習時間 180分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	1. 目的意識 2. 基礎知識 3. 実行力 4. 復習する

	<p>5. 確認の徹底</p> <p>6. 授業内容の「ポイント」は必ずメモを取る</p> <p>7. 文章を書く「目的・意義」の完全な理解</p>
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	課題提出（50%）、ワークシート（50%）
教科書	<p>「60歳からの健康人生」 / 執筆者代表 崎重敏幸 / / 株式会社 ライフ・サポート / / ISBN 978-4-9907110-0-9</p> <p>授業に必要な「資料」（プリント）を、適宜、配布する。</p>
関連科目	プレゼンテーション基礎編
参考書	適宜、指示する
連絡先	info@hiroshima-life.jp
授業の運営方針	<p>最初の授業の際に、「シャトルカード」（授業への出欠確認と、授業内容についての質問や要望などについて、やり取りできるカード）を個々に配布し、授業終了後に回収し、内容を、チェック・指導したものを、次回の授業の最初に返却し、学生とのコミュニケーションツールとして利用。</p> <p>授業には、当日の授業の主な指導内容をプリントして配布し、効率的な授業を心がける。またプリントの内容は、復習資料としても活用できることも考慮した。</p>
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	<p>授業における「提出課題」については、授業終了後、提出させ、指導内容をチェックしたものを、原則として、次々回の授業の初めに返却する。</p> <p>時間外における「提出課題」については、提出の締切日を設定して提出させ、指導内容をチェックしたものを、原則として、締切日後の二週間後の授業の初めに返却する。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>合理的な配慮が必要な学生の場合には、学校に相談し、適切な指導を仰ぎます。</p> <p>講義中の「録音・録画・撮影」などは、すべて不許可です。</p>
実務経験のある教員	<p>高等学校の教科書出版社の「常務取締役」「編集長」であった経験を活かし、就職試験への取り組みの仕方や、会社や社会での、より良い人間関係の在り方、ヒット商品の企画や重要性などを紹介して、岡山理科大学の建学精神の一つでもある、「社会に貢献できる人物」の育成にも留意しています。</p>
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法 (FB205318)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	尾崎美恵* (おざきみえ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の進め方並びにインターネットによる履修登録について説明する。 就職活動におけるエントリーシートの役割と重要性を説明する。 先輩が書いたエントリーシートを通じて、就職で内定を取るためには何が必要か、「生きる力」とは何かを説明する。 世の中の動きを捉え、社会に目を向けることを指導する。 何事も主体的に取り組むことの重要性を学び、自分の考えを持つように指導する。 学生同士で刺激しあい、自己分析の説明をする。 自己分析を言語化し、論理的な文章力を指導する。 「すごいお母さん、EUの大統領に会う」(文芸春秋出版)のキャッチコピーについて説明する。 「得意な事」を通じて自己分析を指導する。
2回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「得意な事」を指導する。
3回	「得意な事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
4回	「辛かった事」を通じて自己分析を指導する。
5回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「辛かった事」を指導する。
6回	「辛かった事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
7回	「大切なもの(事)」を通じて自己分析を指導する。
8回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「大切なもの(事)」の指導する。
9回	「大切なもの(事)」の完成文とキャッチコピーを指導する。 「最近の関心事」を通じて自己分析を指導する。
10回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「最近の関心事」を指導する。
11回	「最近の関心事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
12回	「ターニングポイント」を通じて自己分析を指導する。
13回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「ターニングポイント」を指導する。
14回	「ターニングポイント」の完成文とキャッチコピーを指導する。
15回	「将来したい事」を通じて自己分析を指導する。
16回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「将来したい事」の指導する。「最終評価試験」を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく確認し学習の過程を把握しておくこと。 予習：「得意な事」を考えておくこと。 復習：「得意な事」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
2回	予習：「得意な事」アウトラインを修正すること。 復習：「得意な事」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
3回	予習：「得意な事」キャッチコピーを作成すること。 復習：「得意な事」文章を完成させ、提出すること。標準学習時間120分)
4回	予習：「辛かった事」アウトラインを作成すること。 復習：「辛かった事」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
5回	予習：「辛かった事」文章を作成すること。 復習：「辛かった事」キャッチコピーを作成すること。(標準学習時間120分)

6回	予習： 「辛かった事」文章を完成させ、提出すること。 復習； 「大切なもの(事)」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
7回	予習： 「大切なもの(事)」アウトラインを修正すること。 復習： 「大切なもの(事)」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
8回	予習： 「大切なもの(事)」キャッチコピーを作成すること。 復習： 「大切なもの(事)」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分)
9回	予習： 「最近の関心事」を考えておくこと。 復習： 「最近の関心事」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
10回	予習： 「最近の関心事」アウトラインを修正すること。 復習： 「最近の関心事」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
11回	予習： 「最近の関心事」キャッチコピーを作成すること。 復習： 「最近の関心事」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分)
12回	予習： 「ターニングポイント」アウトラインを作成すること。 復習： 「ターニングポイント」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
13回	予習： 「ターニングポイント」文章を作成すること。 復習： 「ターニングポイント」キャッチコピーを作成すること。(標準学習時間120分)
14回	予習： 「ターニングポイント」文章を完成させ、提出すること。 復習； 「将来したい事」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
15回	予習： 「将来したい事」アウトラインを修正すること。 復習： 「将来したい事」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
16回	予習： 「将来したい事」キャッチコピーを作成すること。 復習： 「将来したい事」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分) 「最終評価試験」の準備をする。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している
キーワード	自分の長所も短所もそれを味方につけて相手の関心を引き込もう。
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	課題提出(50%)、ワークシート(50%)
教科書	「すごいお母さん、EUの大統領と会う」/ 著者尾崎美恵 / 出版社文芸春秋出版
関連科目	
参考書	なし 必要に応じて配布
連絡先	cool@muchujin.jp
授業の運営方針	課題提出はMomo-campusを利用する。 授業資料の配布は授業毎にするので、ファイル入れを用意する。 授業で重視するのは覚えることではなく自分自身を分析することである。 配布する資料をよく読んで自己分析を完成させる。

	最終評価試験は実施するが、授業時間と自宅学習が大切である。 アウトライン、アウトラインの修正、文章作成、文章完成を自分の言葉でしっかりと仕上げる。
アクティブ・ラーニング	過去の履修生の模範例文を教材として、個々が書いたエントリーシートと模範例文とどこが違うか気付かせる。
課題に対するフィードバック	予習復習課題は授業毎に個別にアドバイスをして、問題点を自分で考えさせる。 Momocampusに提出された課題レポートについては、評価とコメントを入れて返す。 優れた課題を提出した学生は公表して、どこが優れているかみんなで共有する。 自己分析を基に授業でエントリーシートを作成するので、自宅学習ができていない学生は授業についていけない。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学ガイドラインに係る内容「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。」
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	受講者数の上限を50名とする。 講義の性格上、毎回文章作成の課題があり、課題も授業も厳しいことを理解した上で、受講すること。 原則として、自宅では自己分析と文章校正に時間を割き、講義はあくまでもその問題点を修正するように努める。 毎回の課題提出をいい加減にしている場合は出席日数を満たしていても、単位修得は無理である。 作成課題については添削指導を行い、返却する。 課題提出が締め切りに間に合わなかった場合、原則として受け付けない。ただし提出締め切り1日後までに「お詫びメール」を提出し、課題提出ができなかった理由が正当であり、お詫びができていない場合には受理される場合がある。

科目名	文章表現法 (FB205319)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	松尾美香(まつおみか)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義の概要、進め方、評価方法等の説明) マインドマップの書き方(自己紹介、自分史作成の準備)を説明する。
2回	相手に伝えるための技術を解説する。 自分史を作成することで、自己理解を深め、自分を表現する。
3回	読む技術を解説する。 効果的な読み方を説明する。
4回	資料の活用方法を理解するためのワーク を活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
5回	資料の活用方法を理解するためのワーク を活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
6回	映像内容の要約方法を学ぶためのワークを実践する。 視聴覚教材を用いて、要約を作成する。
7回	グループで協同した内容をまとめるためのワークを実践する。 グループワークを行い、要約を作成する。
8回	1回目から7回目までの総括を説明する。
9回	大学で求められるレポートについて説明する。 感想文とレポートの違い、事実と意見の違い、レポートの構成(序論、本論、結論)を説明する。
10回	論理的な文章の書き方について説明する。 パラグラフライティング、ロジックツリーの作成、演繹法、帰納法、三段論法等を説明する。
11回	レポートを書くときの決まり事について説明する。 引用の仕方や参考文献の書き方、学術文章にふさわしい文体等について説明する。
12回	レポート作成前に準備すべき事柄について解説する。 良いレポートと悪いレポートを比較する。
13回	レポート作成 テーマに基づき、レポートを作成する。
14回	ビジネス文書の基本について説明する。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を説明する。
15回	ビジネス文書作成ワーク ビジネス文書を作成する。
16回	9回目から15回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認して講義の目的を理解し、この科目に必要と考える高校までの基礎的知識を復習しておくこと(標準学修時間120分)
2回	予習として、過去の自分を振り返り、自己年表を作成しておくこと(標準学修時間120分)
3回	配布資料を読んで予習しておくこと。この際に、重要な部分にマーカーで印をつけておくこと(標準学修時間120分)
4回	予習として、配布資料を熟読し、内容をマインドマップを使い整理してくること(標準学修時間120分)
5回	文章の要点を把握できるように予習しておくこと(標準学修時間120分)
6回	要約の仕方について復習し、実際に新聞記事等を読んで、要約の練習をしておくこと(標準学修時間120分)
7回	視聴覚教材の要約文を完成させ、復習をしておくこと(標準学修時間120分)
8回	これまでの学習を整理して、復習し、実際に文章を書く練習を行うこと(標準学修時間120分)
9回	予習として、レポートと感想文の違いを理解しておくこと(標準学修時間120分)
10回	予習として、レポートの基本構造を理解しておくこと(標準学修時間120分)
11回	予習として、テーマに基づく参考文献を図書館等で探しておくこと(標準学修時間120分)
12回	予習として、関心のある領域での学術論文を探し、読んでおくこと(標準学修時間120分)
13回	予習としてテーマに基づく結論、主張・根拠を考え、アウトラインを作成しておくこと(標準学修時間120分)
14回	予習として、ビジネス文書とはどのようなものがあるのかを調べておくこと(標準学修時間120分)

15回	予習として、ビジネス文書の書き方を理解しておくこと（標準学修時間120分）
16回	これまでの学習を復習し、実際に文章を書く練習をしておくこと（標準学修時間120分）
講義目的	本講義の目的は、文章作成するために必要な基本的なスキルを習得することである。 まず、マインドマップを使って、自分の考えや集めた文献や情報を整理し、それを文章化する方法を学ぶ。次に、資料を読み解いたり、映像の内容を理解したりして、それを文章に要約するための方法について学ぶ。 これらのスキルは、文章を作成するための基本的なスキルであり、レポートやビジネス文書を作成する際に活用することができる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	自分の考えや主張を整理するために、マインドマップを作成することができる。 映像や資料から情報を読み取り、要点をマインドマップを活用して表現することができる。 マインドマップを読み、全体の構成を考えながら、200字程度にまとめることができる。 グループで話し合った内容を200字程度にまとめることができる。 大学で求められるレポートについて、友達に3分間で説明することができる。 論理的な文章の構成方法とその書き方について、友達に3分間で説明することができる。 レポートを書く際の決まり事を守って、レポートを作成することができる。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を使って、ビジネス文書を作成できる。
キーワード	マインドマップ、要約、資料の活用、読解力、レポート、論理表現、ビジネス文書
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（30%） ・小テスト（30%） ・課題提出（40%） より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
関連科目	学びの基礎論、文章表現法基礎編、プレゼンテーション、地域フィールドスタディ
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E-Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
授業の運営方針	・5回欠席すると評価対象としない。 ・早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の資料配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・準備学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートをまとめ、演習をしっかりと取り組むこと。 ・課題提出物等において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	文章表現法 (FB205320)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	尾崎美恵* (おざきみえ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の進め方並びにインターネットによる履修登録について説明する。 就職活動におけるエントリーシートの役割と重要性を説明する。 先輩が書いたエントリーシートを通じて、就職で内定を取るためには何が必要か、「生きる力」とは何かを説明する。 世の中の動きを捉え、社会に目を向けることを指導する。 何事も主体的に取り組むことの重要性を学び、自分の考えを持つように指導する。 学生同士で刺激しあい、自己分析の説明をする。 自己分析を言語化し、論理的な文章力を指導する。 「すごいお母さん、EUの大統領に会う」(文芸春秋出版)のキャッチコピーについて説明する。 「得意な事」を通じて自己分析を指導する。
2回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「得意な事」を指導する。
3回	「得意な事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
4回	「辛かった事」を通じて自己分析を指導する。
5回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「辛かった事」を指導する。
6回	「辛かった事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
7回	「大切なもの(事)」を通じて自己分析を指導する。
8回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「大切なもの(事)」の指導する。
9回	「大切なもの(事)」の完成文とキャッチコピーを指導する。 「最近の関心事」を通じて自己分析を指導する。
10回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「最近の関心事」を指導する。
11回	「最近の関心事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
12回	「ターニングポイント」を通じて自己分析を指導する。
13回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「ターニングポイント」を指導する。
14回	「ターニングポイント」の完成文とキャッチコピーを指導する。
15回	「将来したい事」を通じて自己分析を指導する。
16回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に「将来したい事」の指導する。「最終評価試験」を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく確認し学習の過程を把握しておくこと。 予習：「得意な事」を考えておくこと。 復習：「得意な事」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
2回	予習：「得意な事」アウトラインを修正すること。 復習：「得意な事」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
3回	予習：「得意な事」キャッチコピーを作成すること。 復習：「得意な事」文章を完成させ、提出すること。標準学習時間120分)
4回	予習：「辛かった事」アウトラインを作成すること。 復習：「辛かった事」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
5回	予習：「辛かった事」文章を作成すること。 復習：「辛かった事」キャッチコピーを作成すること。(標準学習時間120分)

6回	予習： 「辛かった事」文章を完成させ、提出すること。 復習； 「大切なもの(事)」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
7回	予習： 「大切なもの(事)」アウトラインを修正すること。 復習： 「大切なもの(事)」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
8回	予習： 「大切なもの(事)」キャッチコピーを作成すること。 復習： 「大切なもの(事)」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分)
9回	予習： 「最近の関心事」を考えておくこと。 復習： 「最近の関心事」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
10回	予習： 「最近の関心事」アウトラインを修正すること。 復習： 「最近の関心事」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
11回	予習： 「最近の関心事」キャッチコピーを作成すること。 復習： 「最近の関心事」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分)
12回	予習： 「ターニングポイント」アウトラインを作成すること。 復習： 「ターニングポイント」アウトラインを修正すること。(標準学習時間120分)
13回	予習： 「ターニングポイント」文章を作成すること。 復習： 「ターニングポイント」キャッチコピーを作成すること。(標準学習時間120分)
14回	予習： 「ターニングポイント」文章を完成させ、提出すること。 復習； 「将来したい事」アウトラインを作成すること。(標準学習時間120分)
15回	予習： 「将来したい事」アウトラインを修正すること。 復習： 「将来したい事」文章を作成すること。(標準学習時間120分)
16回	予習： 「将来したい事」キャッチコピーを作成すること。 復習： 「将来したい事」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分) 「最終評価試験」の準備をする。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している
キーワード	自分の長所も短所もそれを味方につけて相手の関心を引き込もう。
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	課題提出(50%)、ワークシート(50%)
教科書	「すごいお母さん、EUの大統領と会う」/ 著者尾崎美恵 / 出版社文芸春秋出版
関連科目	
参考書	なし 必要に応じて配布
連絡先	cool@muchujin.jp
授業の運営方針	課題提出はMomo-campusを利用する。 授業資料の配布は授業毎にするので、ファイル入れを用意する。 授業で重視するのは覚えることではなく自分自身を分析することである。 配布する資料をよく読んで自己分析を完成させる。

	最終評価試験は実施するが、授業時間と自宅学習が大切である。 アウトライン、アウトラインの修正、文章作成、文章完成を自分の言葉でしっかりと仕上げる。
アクティブ・ラーニング	過去の履修生の模範例文を教材として、個々が書いたエントリーシートと模範例文とどこが違うか気付かせる。
課題に対するフィードバック	予習復習課題は授業毎に個別にアドバイスをして、問題点を自分で考えさせる。 Momocampusに提出された課題レポートについては、評価とコメントを入れて返す。 優れた課題を提出した学生は公表して、どこが優れているかみんなで共有する。 自己分析を基に授業でエントリーシートを作成するので、自宅学習ができていない学生は授業についていけない。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学ガイドラインに係る内容“「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。”
実務経験のある教員 その他（注意・備考）	受講者数の上限を50名とする。 講義の性格上、毎回文章作成の課題があり、課題も授業も厳しいことを理解した上で、受講すること。 原則として、自宅では自己分析と文章校正に時間を割き、講義はあくまでもその問題点を修正するように努める。 毎回の課題提出をいい加減にしている場合は出席日数を満たしていても、単位修得は無理である。 作成課題については添削指導を行い、返却する。 課題提出が締め切りに間に合わなかった場合、原則として受け付けない。ただし提出締め切り1日後までに「お詫びメール」を提出し、課題提出ができなかった理由が正当であり、お詫びができていない場合には受理される場合がある。

科目名	文章表現法 (FB205321)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	崎重敏幸* (さきしげとしゆき*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 講義の目的・進め方について説明する。
2回	「自己の将来設計」について、文章を作成し、その意味を考える。
3回	「レポートの書き方」について説明する。
4回	「小論文の書き方(1)」について説明する。
5回	「小論文の書き方(2)」について説明する。
6回	「小論文の書き方(3)」について説明する。
7回	「知る」ことと「人生」について、説明する。 (「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の意味を説明する。)
8回	「言葉の違い」について説明する。
	最終評価試験

回数	準備学習
1回	シラバスを読んで、講義全体の内容・過程を把握しておくこと。 (標準学習時間 120分)
2回	将来の目標について考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
3回	レポート作成の基本的な構成の型や留意点について、考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
4回	「作文」と「小論文」の違いについて、考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
5回	現代社会の「キーワード」「用語」について、考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
6回	事前にテーマを選択し、関連する情報や資料を準備しておくこと。 (標準学習時間 120分)
7回	「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の意味について、考えておくこと。 (標準学習時間 120分)
8回	日常使われる言葉で、言葉の違いが判然としないものについて、調べておくこと。(標準学習時間 120分)
	今まで学習してきたことを復習しておくこと。 (標準学習時間 180分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	1. 目的意識 2. 基礎知識 3. 実行力 4. 復習する

	<p>5. 確認の徹底</p> <p>6. 授業内容の「ポイント」は必ずメモを取る</p> <p>7. 文章を書く「目的・意義」の完全な理解</p>
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	<p>1. 授業における「提出課題」+時間外における「提出課題」 50%</p> <p>2. 最終評価試験 50%</p> <p>1. と 2. の総計で、得点率60%以上を合格とする。</p>
教科書	<p>「60歳からの健康人生」/ 執筆者代表 崎重敏幸 / / 株式会社 ライフ・サポート / / ISBN 978-4-9907110-0-9</p> <p>授業に必要な「資料」（プリント）を、適宜、配布する。</p>
関連科目	プレゼンテーション基礎編
参考書	適宜、指示する
連絡先	info@hiroshima-life.jp
授業の運営方針	<p>最初の授業の際に、「シャトルカード」（授業への出欠確認と、授業内容についての質問や要望などについて、やり取りできるカード）を個々に配布し、授業終了後に回収し、内容を、チェック・指導したものを、次回の授業の最初に返却し、学生とのコミュニケーションツールとして利用。</p> <p>授業には、当日の授業の主な指導内容をプリントして配布し、効率的な授業を心がける。またプリントの内容は、復習資料としても活用できることも考慮した。</p>
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	<p>授業における「提出課題」については、授業終了後、提出させ、指導内容をチェックしたものを、原則として、次々回の授業の初めに返却する。</p> <p>時間外における「提出課題」については、提出の締切日を設定して提出させ、指導内容をチェックしたものを、原則として、締切日後の二週間後の授業の初めに返却する。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>合理的な配慮が必要な学生の場合には、学校に相談し、適切な指導を仰ぎます。</p> <p>講義中の「録音・録画・撮影」などは、すべて不許可です。</p>
実務経験のある教員	<p>高等学校の教科書出版社の「常務取締役」「編集長」であった経験を活かし、就職試験への取り組みの仕方や、会社や社会での、より良い人間関係の在り方、ヒット商品の企画や重要性などを紹介して、岡山理科大学の建学精神の一つでもある、「社会に貢献できる人物」の育成にも留意しています。</p>
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法 (FB205322)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	松尾美香(まつおみか)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義の概要、進め方、評価方法等の説明) マインドマップの書き方(自己紹介、自分史作成の準備)を説明する。
2回	相手に伝えるための技術を解説する。 自分史を作成することで、自己理解を深め、自分を表現する。
3回	読む技術を解説する。 効果的な読み方を説明する。
4回	資料の活用方法を理解するためのワーク を活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
5回	資料の活用方法を理解するためのワーク を活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
6回	映像内容の要約方法を学ぶためのワークを実践する。 視聴覚教材を用いて、要約を作成する。
7回	グループで協同した内容をまとめるためのワークを実践する。 グループワークを行い、要約を作成する。
8回	1回目から7回目までの総括を説明する。
9回	大学で求められるレポートについて説明する。 感想文とレポートの違い、事実と意見の違い、レポートの構成(序論、本論、結論)を説明する。
10回	論理的な文章の書き方について説明する。 パラグラフライティング、ロジックツリーの作成、演繹法、帰納法、三段論法等を説明する。
11回	レポートを書くときの決まり事について説明する。 引用の仕方や参考文献の書き方、学術文章にふさわしい文体等について説明する。
12回	レポート作成前に準備すべき事柄について解説する。 良いレポートと悪いレポートを比較する。
13回	レポート作成 テーマに基づき、レポートを作成する。
14回	ビジネス文書の基本について説明する。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を説明する。
15回	ビジネス文書作成ワーク ビジネス文書を作成する。
16回	9回目から15回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認して講義の目的を理解し、この科目に必要と考える高校までの基礎的知識を復習しておくこと(標準学修時間120分)
2回	予習として、過去の自分を振り返り、自己年表を作成しておくこと(標準学修時間120分)
3回	配布資料を読んで予習しておくこと。この際に、重要な部分にマーカーで印をつけておくこと(標準学修時間120分)
4回	予習として、配布資料を熟読し、内容をマインドマップを使い整理してくること(標準学修時間120分)
5回	文章の要点を把握できるように予習しておくこと(標準学修時間120分)
6回	要約の仕方について復習し、実際に新聞記事等を読んで、要約の練習をしておくこと(標準学修時間120分)
7回	視聴覚教材の要約文を完成させ、復習をしておくこと(標準学修時間120分)
8回	これまでの学習を整理して、復習し、実際に文章を書く練習を行うこと(標準学修時間120分)
9回	予習として、レポートと感想文の違いを理解しておくこと(標準学修時間120分)
10回	予習として、レポートの基本構造を理解しておくこと(標準学修時間120分)
11回	予習として、テーマに基づく参考文献を図書館等で探しておくこと(標準学修時間120分)
12回	予習として、関心のある領域での学術論文を探し、読んでおくこと(標準学修時間120分)
13回	予習としてテーマに基づく結論、主張・根拠を考え、アウトラインを作成しておくこと(標準学修時間120分)
14回	予習として、ビジネス文書とはどのようなものがあるのかを調べておくこと(標準学修時間120分)

15回	予習として、ビジネス文書の書き方を理解しておくこと（標準学修時間120分）
16回	これまでの学習を復習し、実際に文章を書く練習をしておくこと（標準学修時間120分）
講義目的	本講義の目的は、文章作成するために必要な基本的なスキルを習得することである。 まず、マインドマップを使って、自分の考えや集めた文献や情報を整理し、それを文章化する方法を学ぶ。次に、資料を読み解いたり、映像の内容を理解したりして、それを文章に要約するための方法について学ぶ。 これらのスキルは、文章を作成するための基本的なスキルであり、レポートやビジネス文書を作成する際に活用することができる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	自分の考えや主張を整理するために、マインドマップを作成することができる。 映像や資料から情報を読み取り、要点をマインドマップを活用して表現することができる。 マインドマップを読み、全体の構成を考えながら、200字程度にまとめることができる。 グループで話し合った内容を200字程度にまとめることができる。 大学で求められるレポートについて、友達に3分間で説明することができる。 論理的な文章の構成方法とその書き方について、友達に3分間で説明することができる。 レポートを書く際の決まり事を守って、レポートを作成することができる。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を使って、ビジネス文書を作成できる。
キーワード	マインドマップ、要約、資料の活用、読解力、レポート、論理表現、ビジネス文書
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（30%） ・小テスト（30%） ・課題提出（40%） より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
関連科目	学びの基礎論、文章表現法基礎編、プレゼンテーション、地域フィールドスタディ
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E-Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
授業の運営方針	・5回欠席すると評価対象としない。 ・早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の資料配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・準備学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートをまとめ、演習をしっかりと取り組むこと。 ・課題提出物等において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	文章表現法 (FB205323)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	松尾美香(まつおみか)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義の概要、進め方、評価方法等の説明) マインドマップの書き方(自己紹介、自分史作成の準備)を説明する。
2回	相手に伝えるための技術を解説する。 自分史を作成することで、自己理解を深め、自分を表現する。
3回	読む技術を解説する。 効果的な読み方を説明する。
4回	資料の活用方法を理解するためのワーク を活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
5回	資料の活用方法を理解するためのワーク を活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
6回	映像内容の要約方法を学ぶためのワークを実践する。 視聴覚教材を用いて、要約を作成する。
7回	グループで協同した内容をまとめるためのワークを実践する。 グループワークを行い、要約を作成する。
8回	1回目から7回目までの総括を説明する。
9回	大学で求められるレポートについて説明する。 感想文とレポートの違い、事実と意見の違い、レポートの構成(序論、本論、結論)を説明する。
10回	論理的な文章の書き方について説明する。 パラグラフライティング、ロジックツリーの作成、演繹法、帰納法、三段論法等を説明する。
11回	レポートを書くときの決まり事について説明する。 引用の仕方や参考文献の書き方、学術文章にふさわしい文体等について説明する。
12回	レポート作成前に準備すべき事柄について解説する。 良いレポートと悪いレポートを比較する。
13回	レポート作成 テーマに基づき、レポートを作成する。
14回	ビジネス文書の基本について説明する。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を説明する。
15回	ビジネス文書作成ワーク ビジネス文書を作成する。
16回	9回目から15回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認して講義の目的を理解し、この科目に必要と考える高校までの基礎的知識を復習しておくこと(標準学修時間120分)
2回	予習として、過去の自分を振り返り、自己年表を作成しておくこと(標準学修時間120分)
3回	配布資料を読んで予習しておくこと。この際に、重要な部分にマーカーで印をつけておくこと(標準学修時間120分)
4回	予習として、配布資料を熟読し、内容をマインドマップを使い整理してくること(標準学修時間120分)
5回	文章の要点を把握できるように予習しておくこと(標準学修時間120分)
6回	要約の仕方について復習し、実際に新聞記事等を読んで、要約の練習をしておくこと(標準学修時間120分)
7回	視聴覚教材の要約文を完成させ、復習をしておくこと(標準学修時間120分)
8回	これまでの学習を整理して、復習し、実際に文章を書く練習を行うこと(標準学修時間120分)
9回	予習として、レポートと感想文の違いを理解しておくこと(標準学修時間120分)
10回	予習として、レポートの基本構造を理解しておくこと(標準学修時間120分)
11回	予習として、テーマに基づく参考文献を図書館等で探しておくこと(標準学修時間120分)
12回	予習として、関心のある領域での学術論文を探し、読んでおくこと(標準学修時間120分)
13回	予習としてテーマに基づく結論、主張・根拠を考え、アウトラインを作成しておくこと(標準学修時間120分)
14回	予習として、ビジネス文書とはどのようなものがあるのかを調べておくこと(標準学修時間120分)

15回	予習として、ビジネス文書の書き方を理解しておくこと（標準学修時間120分）
16回	これまでの学習を復習し、実際に文章を書く練習をしておくこと（標準学修時間120分）
講義目的	本講義の目的は、文章作成するために必要な基本的なスキルを習得することである。 まず、マインドマップを使って、自分の考えや集めた文献や情報を整理し、それを文章化する方法を学ぶ。次に、資料を読み解いたり、映像の内容を理解したりして、それを文章に要約するための方法について学ぶ。 これらのスキルは、文章を作成するための基本的なスキルであり、レポートやビジネス文書を作成する際に活用することができる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	自分の考えや主張を整理するために、マインドマップを作成することができる。 映像や資料から情報を読み取り、要点をマインドマップを活用して表現することができる。 マインドマップを読み、全体の構成を考えながら、200字程度にまとめることができる。 グループで話し合った内容を200字程度にまとめることができる。 大学で求められるレポートについて、友達に3分間で説明することができる。 論理的な文章の構成方法とその書き方について、友達に3分間で説明することができる。 レポートを書く際の決まり事を守って、レポートを作成することができる。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を使って、ビジネス文書を作成できる。
キーワード	マインドマップ、要約、資料の活用、読解力、レポート、論理表現、ビジネス文書
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（30%） ・小テスト（30%） ・課題提出（40%） より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
関連科目	学びの基礎論、文章表現法基礎編、プレゼンテーション、地域フィールドスタディ
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E-Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
授業の運営方針	・5回欠席すると評価対象としない。 ・早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の資料配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・準備学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートをまとめ、演習をしっかりと取り組むこと。 ・課題提出物等において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	文章表現法 (FB205324)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	松尾美香(まつおみか)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義の概要、進め方、評価方法等の説明) マインドマップの書き方(自己紹介、自分史作成の準備)を説明する。
2回	相手に伝えるための技術を解説する。 自分史を作成することで、自己理解を深め、自分を表現する。
3回	読む技術を解説する。 効果的な読み方を説明する。
4回	資料の活用方法を理解するためのワーク を活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
5回	資料の活用方法を理解するためのワーク を活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
6回	映像内容の要約方法を学ぶためのワークを実践する。 視聴覚教材を用いて、要約を作成する。
7回	グループで協同した内容をまとめるためのワークを実践する。 グループワークを行い、要約を作成する。
8回	1回目から7回目までの総括を説明する。
9回	大学で求められるレポートについて説明する。 感想文とレポートの違い、事実と意見の違い、レポートの構成(序論、本論、結論)を説明する。
10回	論理的な文章の書き方について説明する。 パラグラフライティング、ロジックツリーの作成、演繹法、帰納法、三段論法等を説明する。
11回	レポートを書くときの決まり事について説明する。 引用の仕方や参考文献の書き方、学術文章にふさわしい文体等について説明する。
12回	レポート作成前に準備すべき事柄について解説する。 良いレポートと悪いレポートを比較する。
13回	レポート作成 テーマに基づき、レポートを作成する。
14回	ビジネス文書の基本について説明する。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を説明する。
15回	ビジネス文書作成ワーク ビジネス文書を作成する。
16回	9回目から15回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認して講義の目的を理解し、この科目に必要と考える高校までの基礎的知識を復習しておくこと(標準学修時間120分)
2回	予習として、過去の自分を振り返り、自己年表を作成しておくこと(標準学修時間120分)
3回	配布資料を読んで予習しておくこと。この際に、重要な部分にマーカーで印をつけておくこと(標準学修時間120分)
4回	予習として、配布資料を熟読し、内容をマインドマップを使い整理してくること(標準学修時間120分)
5回	文章の要点を把握できるように予習しておくこと(標準学修時間120分)
6回	要約の仕方について復習し、実際に新聞記事等を読んで、要約の練習をしておくこと(標準学修時間120分)
7回	視聴覚教材の要約文を完成させ、復習をしておくこと(標準学修時間120分)
8回	これまでの学習を整理して、復習し、実際に文章を書く練習を行うこと(標準学修時間120分)
9回	予習として、レポートと感想文の違いを理解しておくこと(標準学修時間120分)
10回	予習として、レポートの基本構造を理解しておくこと(標準学修時間120分)
11回	予習として、テーマに基づく参考文献を図書館等で探しておくこと(標準学修時間120分)
12回	予習として、関心のある領域での学術論文を探し、読んでおくこと(標準学修時間120分)
13回	予習としてテーマに基づく結論、主張・根拠を考え、アウトラインを作成しておくこと(標準学修時間120分)
14回	予習として、ビジネス文書とはどのようなものがあるのかを調べておくこと(標準学修時間120分)

15回	予習として、ビジネス文書の書き方を理解しておくこと（標準学修時間120分）
16回	これまでの学習を復習し、実際に文章を書く練習をしておくこと（標準学修時間120分）
講義目的	本講義の目的は、文章作成するために必要な基本的なスキルを習得することである。 まず、マインドマップを使って、自分の考えや集めた文献や情報を整理し、それを文章化する方法を学ぶ。次に、資料を読み解いたり、映像の内容を理解したりして、それを文章に要約するための方法について学ぶ。 これらのスキルは、文章を作成するための基本的なスキルであり、レポートやビジネス文書を作成する際に活用することができる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	自分の考えや主張を整理するために、マインドマップを作成することができる。 映像や資料から情報を読み取り、要点をマインドマップを活用して表現することができる。 マインドマップを読み、全体の構成を考えながら、200字程度にまとめることができる。 グループで話し合った内容を200字程度にまとめることができる。 大学で求められるレポートについて、友達に3分間で説明することができる。 論理的な文章の構成方法とその書き方について、友達に3分間で説明することができる。 レポートを書く際の決まり事を守って、レポートを作成することができる。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を使って、ビジネス文書を作成できる。
キーワード	マインドマップ、要約、資料の活用、読解力、レポート、論理表現、ビジネス文書
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（30%） ・小テスト（30%） ・課題提出（40%） より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
関連科目	学びの基礎論、文章表現法基礎編、プレゼンテーション、地域フィールドスタディ
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E-Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
授業の運営方針	・5回欠席すると評価対象としない。 ・早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の資料配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・準備学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートをまとめ、演習をしっかりと取り組むこと。 ・課題提出物等において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	文章表現法 (FB205325)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	松尾美香(まつおみか)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義の概要、進め方、評価方法等の説明) マインドマップの書き方(自己紹介、自分史作成の準備)を説明する。
2回	相手に伝えるための技術を解説する。 自分史を作成することで、自己理解を深め、自分を表現する。
3回	読む技術を解説する。 効果的な読み方を説明する。
4回	資料の活用方法を理解するためのワーク を活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
5回	資料の活用方法を理解するためのワーク を活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
6回	映像内容の要約方法を学ぶためのワークを実践する。 視聴覚教材を用いて、要約を作成する。
7回	グループで協同した内容をまとめるためのワークを実践する。 グループワークを行い、要約を作成する。
8回	1回目から7回目までの総括を説明する。
9回	大学で求められるレポートについて説明する。 感想文とレポートの違い、事実と意見の違い、レポートの構成(序論、本論、結論)を説明する。
10回	論理的な文章の書き方について説明する。 パラグラフライティング、ロジックツリーの作成、演繹法、帰納法、三段論法等を説明する。
11回	レポートを書くときの決まり事について説明する。 引用の仕方や参考文献の書き方、学術文章にふさわしい文体等について説明する。
12回	レポート作成前に準備すべき事柄について解説する。 良いレポートと悪いレポートを比較する。
13回	レポート作成 テーマに基づき、レポートを作成する。
14回	ビジネス文書の基本について説明する。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を説明する。
15回	ビジネス文書作成ワーク ビジネス文書を作成する。
16回	9回目から15回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認して講義の目的を理解し、この科目に必要と考える高校までの基礎的知識を復習しておくこと(標準学修時間120分)
2回	予習として、過去の自分を振り返り、自己年表を作成しておくこと(標準学修時間120分)
3回	配布資料を読んで予習しておくこと。この際に、重要な部分にマーカーで印をつけておくこと(標準学修時間120分)
4回	予習として、配布資料を熟読し、内容をマインドマップを使い整理してくること(標準学修時間120分)
5回	文章の要点を把握できるように予習しておくこと(標準学修時間120分)
6回	要約の仕方について復習し、実際に新聞記事等を読んで、要約の練習をしておくこと(標準学修時間120分)
7回	視聴覚教材の要約文を完成させ、復習をしておくこと(標準学修時間120分)
8回	これまでの学習を整理して、復習し、実際に文章を書く練習を行うこと(標準学修時間120分)
9回	予習として、レポートと感想文の違いを理解しておくこと(標準学修時間120分)
10回	予習として、レポートの基本構造を理解しておくこと(標準学修時間120分)
11回	予習として、テーマに基づく参考文献を図書館等で探しておくこと(標準学修時間120分)
12回	予習として、関心のある領域での学術論文を探し、読んでおくこと(標準学修時間120分)
13回	予習としてテーマに基づく結論、主張・根拠を考え、アウトラインを作成しておくこと(標準学修時間120分)
14回	予習として、ビジネス文書とはどのようなものがあるのかを調べておくこと(標準学修時間120分)

15回	予習として、ビジネス文書の書き方を理解しておくこと（標準学修時間120分）
16回	これまでの学習を復習し、実際に文章を書く練習をしておくこと（標準学修時間120分）
講義目的	本講義の目的は、文章作成するために必要な基本的なスキルを習得することである。 まず、マインドマップを使って、自分の考えや集めた文献や情報を整理し、それを文章化する方法を学ぶ。次に、資料を読み解いたり、映像の内容を理解したりして、それを文章に要約するための方法について学ぶ。 これらのスキルは、文章を作成するための基本的なスキルであり、レポートやビジネス文書を作成する際に活用することができる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	自分の考えや主張を整理するために、マインドマップを作成することができる。 映像や資料から情報を読み取り、要点をマインドマップを活用して表現することができる。 マインドマップを読み、全体の構成を考えながら、200字程度にまとめることができる。 グループで話し合った内容を200字程度にまとめることができる。 大学で求められるレポートについて、友達に3分間で説明することができる。 論理的な文章の構成方法とその書き方について、友達に3分間で説明することができる。 レポートを書く際の決まり事を守って、レポートを作成することができる。 ビジネス文書の基本フォーマットや慣用表現を使って、ビジネス文書を作成できる。
キーワード	マインドマップ、要約、資料の活用、読解力、レポート、論理表現、ビジネス文書
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（30%） ・小テスト（30%） ・課題提出（40%） より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
関連科目	学びの基礎論、文章表現法基礎編、プレゼンテーション、地域フィールドスタディ
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E-Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
授業の運営方針	・5回欠席すると評価対象としない。 ・早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の資料配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・準備学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートをまとめ、演習をしっかりと取り組むこと。 ・課題提出物等において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	文章表現法 (FB205326)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	石井成人* (いしいなるひと*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「文章表現法」講義概説 をする。
2回	文章の構成、アウトライン をする。
3回	アウトライン作成 をする。
4回	アウトラインの推敲 をする。
5回	アウトラインの完成 をする。
6回	序論・本論・結論の作成 1 をする。
7回	序論・本論・結論の作成 2 をする。
8回	小論文構成の再確認、 中間試験をする。
9回	序論・本論・結論の作成 4 をする。
10回	800字小論文の完成・提出 をする。
11回	別テーマによる二本目論文の作成 をする。
12回	アウトライン添削・修正 をする。
13回	800字小論文作成 をする。
14回	800字小論文添削・修正 をする。
15回	800字小論文の完成 をする。
16回	小論文構成の再確認 最終評価試験をする。

回数	準備学習
1回	学内PCにログインが出来るようにID/Passを用意しておく
2回	各自PCにログインし、課題提出ページ・操作が出来るように確認しておく
3回	課題テーマの草案 を作る。 (標準学習時間60分)
4回	アウトラインの作成、修正 すること。 (標準学習時間60分)
5回	アウトラインの作成、修正 すること。 (標準学習時間60分)
6回	アウトラインの仕上げ すること。 (標準学習時間60分)
7回	800字小論文、序論の作成 すること。 (標準学習時間60分)
8回	800字小論文、本論の作成 学習内容の再確認すること。 (標準学習時間60分)
9回	800字小論文、結論の作成 すること。 (標準学習時間60分)
10回	800字小論文の仕上げ すること。 (標準学習時間60分)
11回	アウトラインの復習 すること。 (標準学習時間60分)
12回	アウトライン作成 1 すること。 (標準学習時間60分)
13回	アウトライン作成 2 すること。 (標準学習時間60分)
14回	800字小論文作成 すること。 (標準学習時間60分)
15回	800字小論文仕上げ をすること。 (標準学習時間60分)
16回	800字小論文、本論の作成 学習内容の再確認をすること。 (標準学習時間60分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。

	9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している
キーワード	文章表現、アイデア・構成・アウトライン・要約・作文
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（50%）・課題提出（50%）の総合評価
教科書	教室にてプリント資料等配布予定
関連科目	プレゼンテーション
参考書	必要に応じて教室にて指示
連絡先	elmar35@yahoo.co.jp
授業の運営方針	論文という領域での客観的、論理的文章は、他の領域で綴られる文章とは別物であるということを知識として学習するだけではなく、実際に文章作成の練習を重ねて実感、体感しつつ体得することを目指す。
アクティブ・ラーニング	学習した客観的な論文文章の書き方に関する知識だけにとどまらず、それらを実際に項目ごと、ステップごとに作成作業の練習を繰り返す。試行錯誤の中で客観的かつ論理的な思考パターンと文章表現力を実感しながら獲得していく。
課題に対するフィードバック	論文の文章作成練習のステップごとに、提出された課題例文を、毎回教室全体で確認チェックし、自分の練習内容だけではなく、その他多くの具体的実例を参考に自分の文章作成を常にステップアップさせることが出来るようにする。 そのため、PC教室では一つのファイルにすべての課題提出例をまとめ、モニター画面でスクロールさせながら、そのステップごとのポイントを確認チェック、添削を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	PC教室にて、Web上の課題システムを毎回利用して授業を行う。受講者数の上限を50名とする。 フィードバック 毎回試作、提出された論文原稿については、次の文章作成ステップへ反映させることが実現出来るように、コンピュータ室のモニタまたはプロジェクター表示された画面上で、個別にチェックし添削を行う。（自分の作成した文章だけではなく、他人の文章へのチェック・添削を客観的に眺めることで、試作している自分の取り組みに関して何倍も学習することを目指す）

科目名	文章表現法 (FB205327)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義ガイダンス(文章の書き方の基本説明)の後に、枕草子の解説と序段「春は」の解釈をする。
2回	「夏は」「秋は」の緻密な解釈をする。
3回	「冬は」の緻密な解釈を行い、そのあとで簡単な感想を書いてもらう作業をする。
4回	浅田次郎の簡単な説明と「降霊会の夜」のプロローグ(第一章段P5~P7の5行目まで)を解釈する。
5回	第一章段P7の6行目~P10を解釈する。
6回	P11~P13の2行目までを緻密に解釈する。
7回	P13の3行目~P15までを緻密に解釈する。
8回	文章の書き方を解説した後、「降霊会の夜」プロローグを読んだ感想を書いてもらう作業をする。
9回	講義ガイダンス(文章の書き方の基本説明)ののちに、60秒~90秒以内で自己紹介をする。
10回	自己紹介の続きをする。その際質問事項も考えること。
11回	ことわざや故事成語を出題し、それを使って短文を作る練習をする。
12回	11回目の続きをする。
13回	こちらがテーマを出すので、それについて文章を作り上げてゆくことを実践する。
14回	下書きチェックをする。
15回	清書のチェックをする。
16回	清書をする。

回数	準備学習
1回	「春は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
2回	「夏は」「秋は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
3回	「冬は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
4回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
5回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
6回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
7回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
8回	各自プロローグ全体を読みなおし、感想をまとめておくこと。
9回	自己紹介文を考えておくこと。
10回	9回目と同じ
11回	語彙力を高めておくこと。
12回	語彙力を高めておくこと。
13回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
14回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
15回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
16回	文章構成の基礎を学習しておくこと。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。

キーワード	枕草子、浅田次郎、語彙力、原稿用紙の使い方
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（50%） ・課題提出（50%） 教えてきたことがどこまで出来ているかを一人ひとり対面でチェックし、点数化する。
教科書	「枕草子」=プリントをこちらで用意する。 「降霊会の夜」=浅田次郎/朝日文庫
関連科目	比較文化論
参考書	
連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4階
授業の運営方針	文章作成（表現）能力は、在学中のレポート作成や論文作成に必要なことは当然であるが、社会に出てからも報告書の作成や日報作成などに必要不可欠なものである。にもかかわらず、きちんとした言葉遣いはおろか、原稿用紙やレポート用紙の使い方さえ理解していない学生が相当数いる。これは昨今の「活字離れ」という言葉に象徴されるように、本をまともに読んで来なかったために、文章作成の基本となる文章解釈力が培われることなく今に至っているからであろうと推察される。そこで前半8回はまず、今まで緻密な解釈をしてこなかったであろう古文と現代文を読み解き、語彙力と解釈力を上げてゆくところから始めたい。また、後半8回は短文の書き方から始め、最終的にブログやインスタなどに正確な文章が書けるよう指導する。 この講義は全員参加型を目指しているため、講義中の私語や途中退出は厳禁とする。講義中もこちらから質問することがあるが、出来るだけ挙手して発言してほしい。 質問・相談等あればB3号館4階の辻研究室まで遠慮なく来てほしい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出されたレポートを一人ひとりその場でチェックし、アドバイスする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義の録音、撮影、録画はSNSに開示しないという前提で許可します（著作権保護のため）。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法 (FB205328)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	藤野薫* (ふじのかおる*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
2回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
3回	文章を要約する : 参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
4回	文章を要約する : 参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
5回	文章を書くときの注意点 : 文章表現の形式とルールについて解説する。
6回	文章を要約する : 参考文を要約する。
7回	文章を書くときの注意点 : 正確でわかりやすい表現について解説する。
8回	前半の講義ををまとめる。課題を作成する。
9回	経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
10回	経験や知識の文章化に取り組む。
11回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
12回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
13回	対立する意見を使って文章を構成する。
14回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
15回	800字の構成について解説する。課題作成について説明する。
16回	文章表現のポイントを整理する。課題を作成する。

回数	準備学習
1回	予習: シラバスを読んでおくこと。 復習: 受講上の注意を再確認すること。 (標準学習時間30分)
2回	予習: 受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習: 記入した内容を自己点検すること。 (標準学習時間30分)
3回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: アウトラインの大切さを確認すること。 (標準学習時間45分)
4回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: 文章の基本的な組み立てを確認すること。 (標準学習時間45分)
5回	予習: 文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習: 文章表現の形式とルールをまとめること。 (標準学習時間45分)
6回	予習: 文章の要約についてまとめておくこと。 復習: 取り組んだ要約を自己点検すること。 (標準学習時間45分)
7回	予習: 文章表現の注意点について考えておくこと。 復習: 正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間45分)
8回	予習: 前半の講義内容を確認し、課題作成の準備をすること。 復習: 課題作成について自己点検を行うこと。 (標準学習時間120分)
9回	予習: 文章の構成について確認しておくこと。 復習: 文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
10回	予習: 文章化するための材料をまとめておくこと。 復習: 取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
11回	予習: 文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習: 対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
12回	予習: 指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習: ディスカッションの内容をまとめておくこと。

	(標準学習時間60分)
13回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
14回	予習：800字の参考文を読んでくること。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
15回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
16回	予習：後半の講義内容を確認し、課題作成の準備をしておくこと。 復習：課題作成について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	演習(40%)、最終評価試験(60%)
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽/新・文章表現法 基礎編(群青色版)/蜻文庫
関連科目	プレゼンテーション、プレゼンテーション、文章表現法
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
授業の運営方針	時間内での文章の要約作業、個人的な体験や時事問題についての考察の文章化が中心となる。また慣用表現、ことわざなどについて調べてもらう。
アクティブ・ラーニング	文章作成、プレゼンテーション(作成したものの発表)が中心となる。
課題に対するフィードバック	作成した文章は必ず添削して返却する。また、プレゼンテーション等については問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音/録画/撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	1. 現・蜻文庫(出版者記号:904789)共同代表 2. 編集プロダクションにて執筆、編集、校正を担当した経験を活かし、実践的でわかりやすい文章を書くための基本練習を重視した授業を行う。
その他(注意・備考)	1. 受講者数の上限を50名とする。2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3. 受講者は必ずテキストを購入すること。4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6. 講義には必ず国語辞典(通信機能のない電子辞書も可)を持参すること。7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10. 本講義ではグループディスカッションを行うことがある。11. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法 (FB205329)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	藤野薫* (ふじのかおる*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
2回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
3回	文章を要約する : 参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
4回	文章を要約する : 参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
5回	文章を書くときの注意点 : 文章表現の形式とルールについて解説する。
6回	文章を要約する : 参考文を要約する。
7回	文章を書くときの注意点 : 正確でわかりやすい表現について解説する。
8回	前半の講義ををまとめる。課題を作成する。
9回	経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
10回	経験や知識の文章化に取り組む。
11回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
12回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
13回	対立する意見を使って文章を構成する。
14回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
15回	800字の構成について解説する。課題作成について説明する。
16回	文章表現のポイントを整理する。課題を作成する。

回数	準備学習
1回	予習: シラバスを読んでおくこと。 復習: 受講上の注意を再確認すること。 (標準学習時間30分)
2回	予習: 受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習: 記入した内容を自己点検すること。 (標準学習時間30分)
3回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: アウトラインの大切さを確認すること。 (標準学習時間45分)
4回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: 文章の基本的な組み立てを確認すること。 (標準学習時間45分)
5回	予習: 文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習: 文章表現の形式とルールをまとめること。 (標準学習時間45分)
6回	予習: 文章の要約についてまとめておくこと。 復習: 取り組んだ要約を自己点検すること。 (標準学習時間45分)
7回	予習: 文章表現の注意点について考えておくこと。 復習: 正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間45分)
8回	予習: 前半の講義内容を確認し、課題作成の準備をすること。 復習: 課題作成について自己点検を行うこと。 (標準学習時間120分)
9回	予習: 文章の構成について確認しておくこと。 復習: 文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
10回	予習: 文章化するための材料をまとめておくこと。 復習: 取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
11回	予習: 文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習: 対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
12回	予習: 指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習: ディスカッションの内容をまとめておくこと。

	(標準学習時間60分)
13回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
14回	予習：800字の参考文を読んでくること。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
15回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
16回	予習：後半の講義内容を確認し、課題作成の準備をしておくこと。 復習：課題作成について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	演習(40%)、最終評価試験(60%)
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽/新・文章表現法 基礎編(群青色版)/蜻文庫
関連科目	プレゼンテーション、プレゼンテーション、文章表現法
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
授業の運営方針	時間内での文章の要約作業、個人的な体験や時事問題についての考察の文章化が中心となる。また慣用表現、ことわざなどについて調べてもらう。
アクティブ・ラーニング	文章作成、プレゼンテーション(作成したものの発表)が中心となる。
課題に対するフィードバック	作成した文章は必ず添削して返却する。また、プレゼンテーション等については問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音/録画/撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	1. 現・蜻文庫(出版者記号:904789)共同代表 2. 編集プロダクションにて執筆、編集、校正を担当した経験を活かし、実践的でわかりやすい文章を書くための基本練習を重視した授業を行う。
その他(注意・備考)	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は必ずテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典(通信機能のない電子辞書も可)を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 本講義ではグループディスカッションを行うことがある。 11. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法 (FB205330)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義ガイダンス(文章の書き方の基本説明)の後に、枕草子の解説と序段「春は」の解釈をする。
2回	「夏は」「秋は」の緻密な解釈をする。
3回	「冬は」の緻密な解釈を行い、そのあとで簡単な感想を書いてもらう作業をする。
4回	浅田次郎の簡単な説明と「降霊会の夜」のプロローグ(第一章段P5~P7の5行目まで)を解釈する。
5回	第一章段P7の6行目~P10を解釈する。
6回	P11~P13の2行目までを緻密に解釈する。
7回	P13の3行目~P15までを緻密に解釈する。
8回	文章の書き方を解説した後、「降霊会の夜」プロローグを読んだ感想を書いてもらう作業をする。
9回	講義ガイダンス(文章の書き方の基本説明)ののちに、60秒~90秒以内で自己紹介をする。
10回	自己紹介の続きをする。その際質問事項も考えること。
11回	ことわざや故事成語を出題し、それを使って短文を作る練習をする。
12回	11回目の続きをする。
13回	こちらがテーマを出すので、それについて文章を作り上げてゆくことを実践する。
14回	下書きチェックをする。
15回	清書のチェックをする。
16回	清書をする。

回数	準備学習
1回	「春は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
2回	「夏は」「秋は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
3回	「冬は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
4回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
5回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
6回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
7回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
8回	各自プロローグ全体を読みなおし、感想をまとめておくこと。
9回	自己紹介文を考えておくこと。
10回	9回目と同じ
11回	語彙力を高めておくこと。
12回	語彙力を高めておくこと。
13回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
14回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
15回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
16回	文章構成の基礎を学習しておくこと。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。

キーワード	枕草子、浅田次郎、語彙力、原稿用紙の使い方
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（50％） ・課題提出（50％） 教えてきたことがどこまで出来ているかを一人ひとり対面でチェックし、点数化する。
教科書	「枕草子」＝プリントをこちらで用意する。 「降霊会の夜」＝浅田次郎/朝日文庫
関連科目	比較文化論
参考書	
連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4階
授業の運営方針	文章作成（表現）能力は、在学中のレポート作成や論文作成に必要なことは当然であるが、社会に出てからも報告書の作成や日報作成などに必要不可欠なものである。にもかかわらず、きちんとした言葉遣いはおろか、原稿用紙やレポート用紙の使い方さえ理解していない学生が相当数いる。これは昨今の「活字離れ」という言葉に象徴されるように、本をまともに読んで来なかったために、文章作成の基本となる文章解釈力が培われることなく今に至っているからであろうと推察される。 そこで前半8回はまず、今まで緻密な解釈をしてこなかったであろう古文と現代文を読み解き、語彙力と解釈力を上げてゆくところから始めたい。また、後半8回は短文の書き方から始め、最終的にブログやインスタなどに正確な文章が書けるよう指導する。 この講義は全員参加型を目指しているため、講義中の私語や途中退出は厳禁とする。講義中もこちらから質問することがあるが、出来るだけ挙手して発言してほしい。 質問・相談等あればB3号館4階の辻研究室まで遠慮なく来てほしい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出されたレポートを一人ひとりその場でチェックし、アドバイスする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義の録音、撮影、録画はSNSに開示しないという前提で許可します（著作権保護のため）。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法 (FB205331)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	藤野薫* (ふじのかおる*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
2回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
3回	文章を要約する : 参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
4回	文章を要約する : 参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
5回	文章を書くときの注意点 : 文章表現の形式とルールについて解説する。
6回	文章を要約する : 参考文を要約する。
7回	文章を書くときの注意点 : 正確でわかりやすい表現について解説する。
8回	前半の講義ををまとめる。課題を作成する。
9回	経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
10回	経験や知識の文章化に取り組む。
11回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
12回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
13回	対立する意見を使って文章を構成する。
14回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
15回	800字の構成について解説する。課題作成について説明する。
16回	文章表現のポイントを整理する。課題を作成する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを読んでおくこと。 復習：受講上の注意を再確認すること。 (標準学習時間30分)
2回	予習：受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習：記入した内容を自己点検すること。 (標準学習時間30分)
3回	予習：指示された参考文を読んでおくこと。 復習：アウトラインの大切さを確認すること。 (標準学習時間45分)
4回	予習：指示された参考文を読んでおくこと。 復習：文章の基本的な組み立てを確認すること。 (標準学習時間45分)
5回	予習：文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習：文章表現の形式とルールをまとめること。 (標準学習時間45分)
6回	予習：文章の要約についてまとめておくこと。 復習：取り組んだ要約を自己点検すること。 (標準学習時間45分)
7回	予習：文章表現の注意点について考えておくこと。 復習：正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間45分)
8回	予習：前半の講義内容を確認し、課題作成の準備をすること。 復習：課題作成について自己点検を行うこと。 (標準学習時間120分)
9回	予習：文章の構成について確認しておくこと。 復習：文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
10回	予習：文章化するための材料をまとめておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
11回	予習：文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習：対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
12回	予習：指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。

	(標準学習時間60分)
13回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
14回	予習：800字の参考文を読んでくること。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
15回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
16回	予習：後半の講義内容を確認し、課題作成の準備をしておくこと。 復習：課題作成について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	演習(40%)、最終評価試験(60%)
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽/新・文章表現法 基礎編(群青色版)/蜻文庫
関連科目	プレゼンテーション、プレゼンテーション、文章表現法
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
授業の運営方針	時間内での文章の要約作業、個人的な体験や時事問題についての考察の文章化が中心となる。また慣用表現、ことわざなどについて調べてもらう。
アクティブ・ラーニング	文章作成、プレゼンテーション(作成したものの発表)が中心となる。
課題に対するフィードバック	作成した文章は必ず添削して返却する。また、プレゼンテーション等については問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音/録画/撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	1. 現・蜻文庫(出版者記号:904789)共同代表 2. 編集プロダクションにて執筆、編集、校正を担当した経験を活かし、実践的でわかりやすい文章を書くための基本練習を重視した授業を行う。
その他(注意・備考)	1. 受講者数の上限を50名とする。2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3. 受講者は必ずテキストを購入すること。4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6. 講義には必ず国語辞典(通信機能のない電子辞書も可)を持参すること。7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10. 本講義ではグループディスカッションを行うことがある。11. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法 (FB205332)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	辻維周(つじまさちか)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義ガイダンス(文章の書き方の基本説明)の後に、枕草子の解説と序段「春は」の解釈をする。
2回	「夏は」「秋は」の緻密な解釈をする。
3回	「冬は」の緻密な解釈を行い、そのあとで簡単な感想を書いてもらう作業をする。
4回	浅田次郎の簡単な説明と「降霊会の夜」のプロローグ(第一章段P5~P7の5行目まで)を解釈する。
5回	第一章段P7の6行目~P10を解釈する。
6回	P11~P13の2行目までを緻密に解釈する。
7回	P13の3行目~P15までを緻密に解釈する。
8回	文章の書き方を解説した後、「降霊会の夜」プロローグを読んだ感想を書いてもらう作業をする。
9回	講義ガイダンス(文章の書き方の基本説明)ののちに、60秒~90秒以内で自己紹介をする。
10回	自己紹介の続きをする。その際質問事項も考えること。
11回	ことわざや故事成語を出題し、それを使って短文を作る練習をする。
12回	11回目の続きをする。
13回	こちらがテーマを出すので、それについて文章を作り上げてゆくことを実践する。
14回	下書きチェックをする。
15回	清書のチェックをする。
16回	清書をする。

回数	準備学習
1回	「春は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
2回	「夏は」「秋は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
3回	「冬は」の部分の自己解釈を行い、必ず各自1つずつ疑問点を持ってくること。
4回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
5回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
6回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
7回	講義内容に上げた部分を解釈して、各自1つずつ疑問点をもってくること。
8回	各自プロローグ全体を読みなおし、感想をまとめておくこと。
9回	自己紹介文を考えておくこと。
10回	9回目と同じ
11回	語彙力を高めておくこと。
12回	語彙力を高めておくこと。
13回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
14回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
15回	文章構成の基礎を学習しておくこと。
16回	文章構成の基礎を学習しておくこと。

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。

キーワード	枕草子、浅田次郎、語彙力、原稿用紙の使い方
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・ワークシート（50%） ・課題提出（50%） 教えてきたことがどこまで出来ているかを一人ひとり対面でチェックし、点数化する。
教科書	「枕草子」=プリントをこちらで用意する。 「降霊会の夜」=浅田次郎/朝日文庫
関連科目	比較文化論
参考書	
連絡先	ous.tsuji@gmail.com 086-256-9644 B3号館4階
授業の運営方針	文章作成（表現）能力は、在学中のレポート作成や論文作成に必要なことは当然であるが、社会に出てからも報告書の作成や日報作成などに必要不可欠なものである。にもかかわらず、きちんとした言葉遣いはおろか、原稿用紙やレポート用紙の使い方さえ理解していない学生が相当数いる。これは昨今の「活字離れ」という言葉に象徴されるように、本をまともに読んで来なかったために、文章作成の基本となる文章解釈力が培われることなく今に至っているからであろうと推察される。 そこで前半8回はまず、今まで緻密な解釈をしてこなかったであろう古文と現代文を読み解き、語彙力と解釈力を上げてゆくところから始めたい。また、後半8回は短文の書き方から始め、最終的にブログやインスタなどに正確な文章が書けるよう指導する。 この講義は全員参加型を目指しているため、講義中の私語や途中退出は厳禁とする。講義中もこちらから質問することがあるが、出来るだけ挙手して発言してほしい。 質問・相談等あればB3号館4階の辻研究室まで遠慮なく来てほしい。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出されたレポートを一人ひとりその場でチェックし、アドバイスする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義の録音、撮影、録画はSNSに開示しないという前提で許可します（著作権保護のため）。
実務経験のある教員	代々木ゼミナール講師（約30年）、暁星中学高等学校非常勤講師、神奈川県立大和西高校、大和高校非常勤講師、テレビ朝日イベント事業部嘱託職員（大徳川展事務局（企画、立案、運営）、アガサクリスティー展学芸員）、宮内庁式部職嘱託（平成のご大礼にて衣文方）、八重山日報論説委員、校正、航空記者、旅行代理店SDMジャパンにて旅行企画立案、環境省環境カウンセラー 以上
その他（注意・備考）	

科目名	文章表現法 (FB205333)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	三木恒治(みきこうじ)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
2回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
3回	文章を要約する : 参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
4回	文章を要約する : 参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
5回	文章を書くときの注意点 : 文章表現の形式とルールについて解説する。
6回	文章を要約する : 参考文を要約する。
7回	文章を書くときの注意点 : 正確でわかりやすい表現について解説する。
8回	前半の講義ををまとめる。課題を作成する。
9回	経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
10回	経験や知識の文章化に取り組む。
11回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
12回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
13回	対立する意見を使って文章を構成する。
14回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
15回	800字の構成について解説する。課題作成について説明する。
16回	文章表現のポイントを整理する。課題を作成する。

回数	準備学習
1回	予習: シラバスを読んでおくこと。 復習: 受講上の注意を再確認すること。 (標準学習時間30分)
2回	予習: 受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習: 記入した内容を自己点検すること。 (標準学習時間30分)
3回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: アウトラインの大切さを確認すること。 (標準学習時間45分)
4回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: 文章の基本的な組み立てを確認すること。 (標準学習時間45分)
5回	予習: 文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習: 文章表現の形式とルールをまとめること。 (標準学習時間45分)
6回	予習: 文章の要約についてまとめておくこと。 復習: 取り組んだ要約を自己点検すること。 (標準学習時間45分)
7回	予習: 文章表現の注意点について考えておくこと。 復習: 正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間45分)
8回	予習: 前半の講義内容を確認し、課題作成の準備をすること。 復習: 課題作成について自己点検を行うこと。 (標準学習時間120分)
9回	予習: 文章の構成について確認しておくこと。 復習: 文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
10回	予習: 文章化するための材料をまとめておくこと。 復習: 取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
11回	予習: 文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習: 対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
12回	予習: 指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習: ディスカッションの内容をまとめておくこと。

	(標準学習時間60分)
13回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
14回	予習：800字の参考文を読んでくること。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
15回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
16回	予習：後半の講義内容を確認し、課題作成の準備をしておくこと。 復習：課題作成について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	演習(40%)、最終評価試験(60%)。
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽/新・文章表現法 基礎編(群青色版)/蜻文庫
関連科目	プレゼンテーション、プレゼンテーション、文章表現法
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	AA-2号館8階、内線4384 E-mail: miki(アットマーク)xmath.ous.ac.jp オフィスアワー：火曜3時限(春学期、秋学期とも)
授業の運営方針	時間内での文章の要約作業、個人的な体験や時事問題についての考察の文章化が中心となる。また慣用表現、ことわざなどについて調べてもらう。
アクティブ・ラーニング	文章作成、プレゼンテーション(作成したものの発表)が中心となる。
課題に対するフィードバック	作成した文章は必ず添削して返却する。また、プレゼンテーション等については問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音/録画/撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は必ずテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典(通信機能のない電子辞書も可)を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 本講義ではグループディスカッションを行うことがある。 11. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法 (FB205334)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	佐藤美穂* (さとうみほ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス 講義の概要、進め方、評価方法等を理解する。 効果的な自己紹介のしかたについてポイントを学習し、書けるようにする。
2回	自己紹介をする。 文章の記号と原稿用紙の使い方を理解し使えるようにする。 原稿用紙に書いた自己紹介文を推敲する。
3回	文体 文の種類と文体、連用中止形を学習し使えるようにする。
4回	話し言葉と書き言葉 話し言葉と書き言葉の表現の違いを理解する。
5回	正しい文の構造 主語と述語の関係、修飾する言葉とされる言葉の関係を理解する。
6回	正しい文の構造 文末の制限を学習する。簡潔な文を書く練習をする。
7回	先生宛てのEメールの書き方についてのポイントを学習し適切な文章が書けるようにする。
8回	中間的な評価をするための試験を実施する。 知識の定着を図るため、試験後フィードバックを行う。
9回	段落 段落の中心文と支持文が何か学び、段落内の構造について学習する。 接続詞と指示詞について学習し、練習をする。
10回	段落 段落の中心文と支持文、段落のつながりを学習する。複数の段落のある文章を書く準備をする。
11回	要約文 1段落の文章や複数の段落の文章の要約の仕方を学習する。
12回	意見文を書く 意見文には意見と、意見に説得力を持たせるための根拠が必要であることを学習する。また意見文を書くための表現を学習する。
13回	意見文を書く 意見文のアウトラインについて学習し、作成する。アウトラインのモデル文と意見文のモデル文から意見文の書き方を学習する。
14回	自分をアピールする文を書く 就職するための自己アピール文の効果的な書き方を学習する。必要な表現を学習する。
15回	自分をアピールする文を書く 自分をアピールする文を書くために必要な自己分析表を完成させる。モデル文にある表現について確認する。
16回	最終評価試験を実施し、フィードバックとして模範解答と解説をする。

回数	準備学習
1回	授業内容の確認をすること。 第2回授業までに原告用紙に自己紹の文を書くこと。(標準学習時間60分)
2回	原稿用紙の書き方、表記のルールについて復習すること。原稿用紙の書き方、表記のルールについて小テストの準備をすること。(標準学習時間60分)
3回	復習により一つの文章に一つの文体が使われることを確認すること。また連用中止形の作り方と使い方を復習すること。これらについて小テストの準備をすること。(標準学習時間60分)
4回	日本語で話すときと書くときの言葉の使い分けを復習すること。これについて小テストの準備をすること。(標準学習時間60分)
5回	復習により、わかりやすい文を書くために必要な言葉の関係を確認すること。これについて小テストの準備をすること。(標準学習時間60分)
6回	復習により文末の制限について確認すること。簡潔な文を書くために必要な事項を確認し、文章を書くこと。(標準学習時間60分)
7回	復習により先生宛てのEメールの書き方のポイントを確認し、文章を書くこと。(標準学習時間60分)

	分)
8回	文章の表記のしかたを確認すること。文の種類に合わせた文体、文型、語彙の使い分けを確認すること。話し言葉と書き言葉の違いと使い分けを確認すること。正しい文の構造を確認すること。(標準学習時間90分)
9回	復習により、段落内の構造、接続詞、指示詞について確認し、小テストの準備をすること。(標準学習時間60分)
10回	復習として授業で準備したことをもとに文章を書くこと。一貫性のある文章を書くためには段落のつながりを考える必要があることを確認すること。(標準学習時間60分)
11回	復習により1段落の要約の仕方、複数の段落の要約の仕方を確認し、小テストの準備をすること。(標準学習時間60分)
12回	復習により意見文には意見とその根拠が必要であることを確認すること。意見文を書くための表現について小テストの準備をすること。(標準学習時間60分)
13回	復習により意見文の書き方を確認し、意見文を書くこと。(標準学習時間60分)
14回	復習により、就職するための自己アピール文を効果的に書くために必要な事項や表現を確認すること。小テストの準備をすること。(標準学習時間60分)
15回	復習により、モデル文にある表現を確認し、自己分析表見ながら自己アピール文を書くこと。(標準学習時間60分)
16回	読みやすく適切な文章を書くために必要な事項や表現を復習すること。(標準学習時間90分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	書き方のルール、構造、読み手、文章表現
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	課題提出(50%)、ワークシート(50%)
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	プレゼンテーション、日本語関連授業
参考書	適宜指示する
連絡先	mihosato0919@yahoo.co.jp
授業の運営方針	毎回出席して積極的に授業に取り組むこと。授業開始時に確認テストとして「小テスト」を実施するが遅刻すると受験できないので注意すること。また事後テストは行わない。課題が成績に大きく関わるので、期限を守って提出すること。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク 文章を書くにあたって、グループでディスカッションを行い、グループごとに意見を発表する。また互いに文章を推敲しあう活動を行う。
課題に対するフィードバック	授業時間内に実施する小テストは実施日に、課題は評価後にフィードバックする。 最終評価試験は実施日に模範解答と解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学習支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。 ・授業中に配布する資料の予備は保管しないため、欠席した場合は、出席者の資料をコピーすること。 ・当日、欠席により課題提出が遅れる場合は、事前に受け取る。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部、シラバスを変更する場合がある。受講者数の上限を5

0名とする。

科目名	文章表現法 (FB205335)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	生田夏樹* (いくたなつき*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章 (「使用後を考えなかった兵器」) を要約する(1) 第1課題: アウトラインを作成する。
2回	文章 を要約する(2) 第2課題: 要約本文を作成する。
3回	文章 (「はたして科学者はパズルを解いているのか」) を要約する(1) 第3課題: アウトラインを作成する。
4回	文章 を要約する(2) 第4課題: 要約本文を作成する。
5回	与えられたテーマA(「協力のあり方について」) の文章を作成する(1) 第5課題: アウトライン1回目を作成する。
6回	与えられたテーマAの文章を作成する(2) 第6課題: アウトライン2回目を作成する。
7回	与えられたテーマAの文章を作成する(3) 第7課題: 本文のうち序論と本論1を作成する。
8回	与えられたテーマAの文章を作成する(4) 第8課題: 本文のうち本論2と結論を作成する。中間試験を実施する。
9回	与えられたテーマB(「私の職業観」) の文章を作成する(1) 第9課題: アウトラインを作成する。
10回	与えられたテーマB(「私の職業観」) の文章を作成する(1) 第10課題: 本文を作成する。
11回	与えられたテーマC(「創造性について」) の文章を作成する(1) 第11課題: アウトライン1回目を作成する。
12回	与えられたテーマCの文章を作成する(1) 第12課題: アウトライン2回目を作成する。
13回	与えられたテーマCの文章を作成する(2) 第13課題: 本文を作成する。
14回	与えられたテーマD(「情報について」) の文章を作成する(1) 第14課題: アウトライン1回目を作成する。
15回	与えられたテーマDの文章を作成する(2) 第15課題: アウトライン2回目を作成する。
16回	与えられたテーマDの文章を作成する(3) 第16課題: 本文を作成する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	特に無いが、学内でパソコンを使用するためのアカウントを準備しておくこと。(標準学習時間120分)
2回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。(アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
3回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
5回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 日常生活の様々な場面で見られる「協力」の例について考えておくこと。(標準学習時間120分)
6回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
7回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
8回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (序論、本論1に改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
9回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 これまでに、部活やアルバイトの経験があるなら、そこからどのようなことを学んだかを考えてみる。そのような経験がない場合も、将来、社会人となった場合に、どのような心構えを持って生きて行くかについて考えておくこと。(標準学習時間120分)
10回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
11回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。

	「創造性」が発揮される場としてどのようなものがあるか、例を考えておくこと。 必要なら、インターネットで検索して事例を探してみること。(標準学習時間120分)
12回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
13回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
14回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 「情報について」という題で小論文を書く場合、序論に入れる問題提起のフレーズとしてどのようなものが考えられるか、ノートに列挙してみること。(標準学習時間120分)
15回	前回提出した課題につけられたコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべきところがある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)
16回	前回提出した課題につけられたコメントを一読しておくこと。 (アウトラインに改良すべきところがある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。)(標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している (教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関連している
キーワード	文章表現、作文、アウトライン、要約
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	・ワークシート(50%) ・課題提出(50%)
教科書	なし。
関連科目	「文章表現法II」「プレゼンテーションIおよびII」
参考書	プリント(資料)を配布する。
連絡先	korrigan@mocha.ocn.ne.jp
授業の運営方針	課題の指示および課題提出はMomo-campusを利用する。 毎回、授業の前半に、その回に取り組むべき課題(アウトライン作成または本文作成)に関する留意事項やキーポイント等について説明し、授業後半はパソコンにむかっのての実習作業に移る。 その際、教員は巡回して各受講生に適宜助言を行う。
アクティブ・ラーニング	実施していない。
課題に対するフィードバック	Momocampusに提出された課題については、Momocampusのフィードバックを利用して評価とコメントを返信する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供いたしますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	文章表現法 (FB205336)
英文科目名	Technical Writing I
担当教員名	杉林周陽* (すぎばやしのりあき*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
2回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
3回	文章を要約する : 参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
4回	文章を要約する : 参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
5回	文章を書くときの注意点 : 文章表現の形式とルールについて解説する。
6回	文章を要約する : 参考文を要約する。
7回	文章を書くときの注意点 : 正確でわかりやすい表現について解説する。
8回	前半の講義ををまとめる。課題を作成する。
9回	経験や知識の文章化と構成のパターンについて解説する。
10回	経験や知識の文章化に取り組む。
11回	対立する意見を使った文章構成について解説する。
12回	指示したテーマについてディスカッションを行う。
13回	対立する意見を使って文章を構成する。
14回	800字の文章を組み立てるために、情報の収集と引用、意見のまとめ方について解説する。
15回	800字の構成について解説する。課題作成について説明する。
16回	文章表現のポイントを整理する。課題を作成する。

回数	準備学習
1回	予習: シラバスを読んでおくこと。 復習: 受講上の注意を再確認すること。 (標準学習時間30分)
2回	予習: 受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習: 記入した内容を自己点検すること。 (標準学習時間30分)
3回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: アウトラインの大切さを確認すること。 (標準学習時間45分)
4回	予習: 指示された参考文を読んでおくこと。 復習: 文章の基本的な組み立てを確認すること。 (標準学習時間45分)
5回	予習: 文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習: 文章表現の形式とルールをまとめること。 (標準学習時間45分)
6回	予習: 文章の要約についてまとめておくこと。 復習: 取り組んだ要約を自己点検すること。 (標準学習時間45分)
7回	予習: 文章表現の注意点について考えておくこと。 復習: 正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間45分)
8回	予習: 前半の講義内容を確認し、課題作成の準備をすること。 復習: 課題作成について自己点検を行うこと。 (標準学習時間120分)
9回	予習: 文章の構成について確認しておくこと。 復習: 文章構成のパターンについて確認すること。 (標準学習時間45分)
10回	予習: 文章化するための材料をまとめておくこと。 復習: 取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間45分)
11回	予習: 文章構成のパターンを確認しておくこと。 復習: 対立する意見による文章構成の要点を確認すること。 (標準学習時間45分)
12回	予習: 指示されたテーマについて情報や自分の意見をまとめておくこと。 復習: ディスカッションの内容をまとめておくこと。

	(標準学習時間60分)
13回	予習：指示されたテーマについて文章構成を考えておくこと。 復習：取り組んだ文章について自己点検すること。 (標準学習時間60分)
14回	予習：800字の参考文を読んでくること。 復習：構成のポイントを整理すること。 (標準学習時間45分)
15回	予習：800字を組み立てるための準備をしておくこと。 復習：文章表現に取り組む姿勢について確認すること。 (標準学習時間60分)
16回	予習：後半の講義内容を確認し、課題作成の準備をしておくこと。 復習：課題作成について自己点検すること。 (標準学習時間120分)

講義目的	本講義は、大学で求められる学術的なレポート作成に必要な基礎技能の習得を目的とする。それには、自分の考えを、適切に他者に伝える文章力が必要である。文献を調べ、自分の考えの根拠の示し方、批判的な思考方法などもあわせて学修する。そのうえで、書く内容のまとめ方、アイディアの整理の仕方、パラグラフ毎のまとめ方もあわせて指導する。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1) レポートに必要な情報を集めるために、文献リストとその簡単な要約を作成できる。 2) レポートの構成を理解し、適切な章節だてができる。 3) レポートの基本的なルールを説明することができる。 4) 読み手に明確に伝わるレポートを書くことができる。 5) 自分の文章や他人が書いた文章を推敲して、読みやすい文章にすることができる。 6) 文献や資料から著者の指摘や主張を理解し、適切に引用することができる。 7) テーマに即して体系的に論述することができる。 8) 様々な文献をクリティカルに読み、多面的なレポートを書くことができる。 9) レポートに適した学術的な文章表現に従って、レポートが作成できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	演習(40%)、最終評価試験(60%)。
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽/新・文章表現法 基礎編(群青色版)/蜻文庫
関連科目	プレゼンテーション、プレゼンテーション、文章表現法
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の出席及び、課題の提出を前提とする。欠席する度に平常点から減点する。 ・出席回数が規定回数に達しない場合は最終試験の受験を認めない。 ・30分を超える遅刻に関しては、その回の出席として認めない。 ・提出課題は教科書に付属の提出用紙を使用の上、提出することとする。用紙のコピーは一切認めない。 ・ほぼ毎回、何らかの文章を書き、提出してもらう。 ・授業時間内に課題が提出できない場合は、それを宿題とし、次回授業の始めに提出してもらう。それ以降の提出は大幅な減点の対象、または評価の対象外とすることがある。
アクティブ・ラーニング	文章作成、プレゼンテーション(作成したものの発表)が中心となる。
課題に対するフィードバック	作成した文章は必ず添削して返却する。また、プレゼンテーション等については問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音/録画/撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は必ずテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信機器の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典(通信機能のない電子辞書も可)を持参すること。 7. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9. 演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10. 本講義ではグループディスカッションを行うことがある。 11. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法 (FB205400)
英文科目名	Technical Writing II
担当教員名	杉林周陽* (すぎばやしのりあき*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて説明する。文章スキルの大切さについて解説する。
2回	文章表現の注意点(1)リライトのポイントを解説する。受講シートの記入に取り組む。
3回	小論文を書く(1):文章の組み立てを説明する。
4回	小論文を書く(2):準備した材料を使って文章化する。
5回	ストーリーを書く(1):ストーリーを構想する。
6回	ストーリーを書く(2):ストーリーを書く。
7回	文章表現の注意点(2):表記や表現のポイントを解説する。中間テストについて説明する。
8回	中間テストを実施する。テスト終了後、テスト問題について解説する。
9回	広告文を書く(1):指示されたテーマで広告コピーを構想する。
10回	広告文を書く(2):広告コピーに取り組み、作品を講評する。
11回	文章実務の実例(1):ビジネスレターや履歴書について解説する。
12回	エントリーシートを書く(1):エントリーシートの実例とポイントを解説する。
13回	エントリーシートを書く(2):エントリーシートに取り組む。
14回	文章実務の実例(2):契約書や企画書について解説する。
15回	実用的な文章表現についてのまとめを行い、文章スキルのポイントを整理する。最終評価試験について説明する。
16回	最終評価試験を実施する。試験終了後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1回	予習:シラバスを読んでおくこと。復習:受講上の注意を確認すること。(標準学習時間15分)
2回	予習:文章表現で大切な点をまとめること。復習:リライトのポイントを整理すること。(標準学習時間45分)
3回	予習:文章の組み立て方を理解しておくこと。復習:文章を組み立てるポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
4回	予習:指示されたテーマについて調べておくこと。復習:組み立てた文章を自己点検すること。(標準学習時間60分)
5回	予習:ストーリーの基本構成を理解しておくこと。復習:ストーリーを書くポイントを整理すること。(標準学習時間90分)
6回	予習:ストーリーの構想を準備してくること。復習:自分が書いた文章を点検・リライトすること。(標準学習時間90分)
7回	予習:文章表現の注意点について考えておくこと。復習:表記や表現のポイントをまとめること。(標準学習時間90分)
8回	予習:中間テストの準備をしておくこと。復習:中間テストについて自己点検すること。(標準学習時間120分)
9回	予習:広告表現の実例を収集しておくこと。復習:広告コピーのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
10回	予習:指示されたテーマについて情報を集めておくこと。復習:広告コピーを自己点検すること。(標準学習時間60分)
11回	予習:ビジネスレターや履歴書の実例に触れておくこと。復習:ビジネスレターや履歴書のポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
12回	予習:エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習:エントリーシートのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
13回	予習:自己分析を行っておくこと。復習:エントリーシートを自己点検すること。(標準学習時間90分)
14回	予習:契約書や企画書の実例に触れておくこと。復習:契約書や企画書のポイントをまとめること。(標準学習時間60分)
15回	予習:実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習:文章表現で大切な点を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
16回	予習:後半の講義内容をまとめ、最終評価試験の準備をすること。復習:最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養
------	--

	う。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
達成目標	1.文章表現の基本を身につけている。 2.自分の考えをわかりやすく文章にまとめることができる。 3.状況に応じた文章を書くことができる。 4.文章で自身をアピールすることができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語、エントリーシート、就職活動、大学院入試
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	学修（達成目標1-4）の到達度確認試験100%（中間テスト50%、最終評価試験50%）により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和・藤野薫 / 「文章スキルとプレゼン力」（緑版） / 蜻文庫
関連科目	プレゼンテーション、プレゼンテーション、文章表現法
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の出席及び、課題の提出を前提とする。欠席する度に平常点から減点する。 ・出席回数が規定回数に達しない場合は最終試験の受験を認めない。 ・30分を超える遅刻に関しては、その回の出席として認めない。 ・提出課題は教科書に付属の提出用紙を使用の上、提出することとする。用紙のコピーは一切認めない。 ・ほぼ毎回、何らかの文章を書き、提出してもらう。 ・授業時間内に課題が提出できない場合は、それを宿題とし、次回授業の始めに提出してもらう。それ以降の提出は大幅な減点の対象、または評価の対象外とすることがある。
アクティブ・ラーニング	<p>ディスカッション、アクティブ・ラーニング</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2.課題について各自の感想や意見を述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	<ol style="list-style-type: none"> 1.フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2.中間テストや最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	<ol style="list-style-type: none"> 1.「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、支援担当者の協力を得て合理的配慮を行うので、必要な学生は必ず事前に学生支援窓口に相談すること。 2.講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	<ol style="list-style-type: none"> 1.受講者数の上限を50名とする。 2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3.受講者は指示されたテキストを購入すること。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6.受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、演習未消化・レポート未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 7.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法 (FB205410)
英文科目名	Technical Writing II
担当教員名	杉林周陽* (すぎばやしのりあき*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて説明する。文章スキルの大 切さについて解説する。
2回	文章表現の注意点(1)リライトのポイントを解説する。受講シートの記入に取り組む。
3回	小論文を書く(1):文章の組み立てを説明する。
4回	小論文を書く(2):準備した材料を使って文章化する。
5回	ストーリーを書く(1):ストーリーを構想する。
6回	ストーリーを書く(2):ストーリーを書く。
7回	文章表現の注意点(2):表記や表現のポイントを解説する。中間テストについて説明する。
8回	中間テストを実施する。テスト終了後、テスト問題について解説する。
9回	広告文を書く(1):指示されたテーマで広告コピーを構想する。
10回	広告文を書く(2):広告コピーに取り組み、作品を講評する。
11回	文章実務の実例(1):ビジネスレターや履歴書について解説する。
12回	エントリーシートを書く(1):エントリーシートの実例とポイントを解説する。
13回	エントリーシートを書く(2):エントリーシートに取り組む。
14回	文章実務の実例(2):契約書や企画書について解説する。
15回	実用的な文章表現についてのまとめを行い、文章スキルのポイントを整理する。最終評価試験につ いて説明する。
16回	最終評価試験を実施する。試験終了後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1回	予習:シラバスを読んでおくこと。復習:受講上の注意を確認すること。(標準学習時間15分)
2回	予習:文章表現で大切な点をまとめること。復習:リライトのポイントを整理すること。(標準学 習時間45分)
3回	予習:文章の組み立て方を理解しておくこと。復習:文章を組み立てるポイントを整理すること。 (標準学習時間60分)
4回	予習:指示されたテーマについて調べておくこと。復習:組み立てた文章を自己点検すること。(標 準学習時間60分)
5回	予習:ストーリーの基本構成を理解しておくこと。復習:ストーリーを書くポイントを整理するこ と。(標準学習時間90分)
6回	予習:ストーリーの構想を準備してくること。復習:自分が書いた文章を点検・リライトすること 。(標準学習時間90分)
7回	予習:文章表現の注意点について考えておくこと。復習:表記や表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間90分)
8回	予習:中間テストの準備をしておくこと。復習:中間テストについて自己点検すること。(標準学 習時間120分)
9回	予習:広告表現の実例を収集しておくこと。復習:広告コピーのポイントを整理すること。(標準 学習時間60分)
10回	予習:指示されたテーマについて情報を集めておくこと。復習:広告コピーを自己点検すること。 (標準学習時間60分)
11回	予習:ビジネスレターや履歴書の実例に触れておくこと。復習:ビジネスレターや履歴書のポイン トを整理すること。(標準学習時間60分)
12回	予習:エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習:エントリーシートのポイントを整理 すること。(標準学習時間60分)
13回	予習:自己分析を行っておくこと。復習:エントリーシートを自己点検すること。(標準学習時間 90分)
14回	予習:契約書や企画書の実例に触れておくこと。復習:契約書や企画書のポイントをまとめること 。(標準学習時間60分)
15回	予習:実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習:文章表現で大切な点を整 理しておくこと。(標準学習時間60分)
16回	予習:後半の講義内容をまとめ、最終評価試験の準備をすること。復習:最終評価試験について自 己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養
------	--

	う。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
達成目標	1.文章表現の基本を身につけている。 2.自分の考えをわかりやすく文章にまとめることができる。 3.状況に応じた文章を書くことができる。 4.文章で自身をアピールすることができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語、エントリーシート、就職活動、大学院入試
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	学修（達成目標1-4）の到達度確認試験100%（中間テスト50%、最終評価試験50%）により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和・藤野薫 / 「文章スキルとプレゼン力」（緑版） / 蜻文庫
関連科目	プレゼンテーション、プレゼンテーション、文章表現法
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の出席及び、課題の提出を前提とする。欠席する度に平常点から減点する。 ・出席回数が規定回数に達しない場合は最終試験の受験を認めない。 ・30分を超える遅刻に関しては、その回の出席として認めない。 ・提出課題は教科書に付属の提出用紙を使用の上、提出することとする。用紙のコピーは一切認めない。 ・ほぼ毎回、何らかの文章を書き、提出してもらう。 ・授業時間内に課題が提出できない場合は、それを宿題とし、次回授業の始めに提出してもらう。それ以降の提出は大幅な減点の対象、または評価の対象外とすることがある。
アクティブ・ラーニング	<p>ディスカッション、アクティブ・ラーニング</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2.課題について各自の感想や意見を述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	<ol style="list-style-type: none"> 1.フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2.中間テストや最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	<ol style="list-style-type: none"> 1.「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、支援担当者の協力を得て合理的配慮を行うので、必要な学生は必ず事前に学生支援窓口に相談すること。 2.講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	<ol style="list-style-type: none"> 1.受講者数の上限を50名とする。 2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3.受講者は指示されたテキストを購入すること。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6.受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、演習未消化・レポート未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 7.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法 (FB205420)
英文科目名	Technical Writing II
担当教員名	世良利和* (せらとしかず*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて説明する。文章スキルの大切さについて解説する。
2回	文章表現の注意点(1)リライトのポイントを解説する。受講シートの記入に取り組む。
3回	小論文を書く(1):文章の組み立てを説明する。
4回	小論文を書く(2):準備した材料を使って文章化する。
5回	ストーリーを書く(1):ストーリーを構想する。
6回	ストーリーを書く(2):ストーリーを書く。
7回	文章表現の注意点(2):表記や表現のポイントを解説する。中間テストについて説明する。
8回	中間テストを実施する。テスト終了後、テスト問題について解説する。
9回	広告文を書く(1):指示されたテーマで広告コピーを構想する。
10回	広告文を書く(2):広告コピーに取り組み、作品を講評する。
11回	文章実務の実例(1):ビジネスレターや履歴書について解説する。
12回	エントリーシートを書く(1):エントリーシートの実例とポイントを解説する。
13回	エントリーシートを書く(2):エントリーシートに取り組む。
14回	文章実務の実例(2):契約書や企画書について解説する。
15回	実用的な文章表現についてのまとめを行い、文章スキルのポイントを整理する。最終評価試験について説明する。
16回	最終評価試験を実施する。試験終了後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1回	予習:シラバスを読んでおくこと。復習:受講上の注意を確認すること。(標準学習時間15分)
2回	予習:文章表現で大切な点をまとめること。復習:リライトのポイントを整理すること。(標準学習時間45分)
3回	予習:文章の組み立て方を理解しておくこと。復習:文章を組み立てるポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
4回	予習:指示されたテーマについて調べておくこと。復習:組み立てた文章を自己点検すること。(標準学習時間60分)
5回	予習:ストーリーの基本構成を理解しておくこと。復習:ストーリーを書くポイントを整理すること。(標準学習時間90分)
6回	予習:ストーリーの構想を準備してくること。復習:自分が書いた文章を点検・リライトすること。(標準学習時間90分)
7回	予習:文章表現の注意点について考えておくこと。復習:表記や表現のポイントをまとめること。(標準学習時間90分)
8回	予習:中間テストの準備をしておくこと。復習:中間テストについて自己点検すること。(標準学習時間120分)
9回	予習:広告表現の実例を収集しておくこと。復習:広告コピーのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
10回	予習:指示されたテーマについて情報を集めておくこと。復習:広告コピーを自己点検すること。(標準学習時間60分)
11回	予習:ビジネスレターや履歴書の実例に触れておくこと。復習:ビジネスレターや履歴書のポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
12回	予習:エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習:エントリーシートのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
13回	予習:自己分析を行っておくこと。復習:エントリーシートを自己点検すること。(標準学習時間90分)
14回	予習:契約書や企画書の実例に触れておくこと。復習:契約書や企画書のポイントをまとめること。(標準学習時間60分)
15回	予習:実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習:文章表現で大切な点を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
16回	予習:後半の講義内容をまとめ、最終評価試験の準備をすること。復習:最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養
------	--

	う。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
達成目標	1. 文章表現の基本を身につけている。 2. 自分の考えをわかりやすく文章にまとめることができる。 3. 状況に応じた文章を書くことができる。 4. 文章で自身をアピールすることができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語、エントリーシート、就職活動、大学院入試
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	学修（達成目標1-4）の到達度確認試験100%（中間テスト50%、最終評価試験50%）により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和・藤野薫 / 「文章スキルとプレゼン力」（緑版） / 蜻文庫
関連科目	プレゼンテーション、プレゼンテーション、文章表現法
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公表
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. ワークブック形式の部分は各自で予め調べておくこと。 3. 必要に応じて配布資料を用意する。 4. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2. 課題について各自の感想や意見を述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 中間テストや最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツアー取締役（総務・人事・広報担当） 2. 会社での経験を踏まえて、社会で必要となる文章スキルをわかりやすく、具体的に指導する。
その他（注意・備考）	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は指示されたテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、演習未消化・レポート未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法 (FB205430)
英文科目名	Technical Writing II
担当教員名	杉林周陽* (すぎばやしのみあき*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて説明する。文章スキルの大 切さについて解説する。
2回	文章表現の注意点(1)リライトのポイントを解説する。受講シートの記入に取り組む。
3回	小論文を書く(1):文章の組み立てを説明する。
4回	小論文を書く(2):準備した材料を使って文章化する。
5回	ストーリーを書く(1):ストーリーを構想する。
6回	ストーリーを書く(2):ストーリーを書く。
7回	文章表現の注意点(2):表記や表現のポイントを解説する。中間テストについて説明する。
8回	中間テストを実施する。テスト終了後、テスト問題について解説する。
9回	広告文を書く(1):指示されたテーマで広告コピーを構想する。
10回	広告文を書く(2):広告コピーに取り組み、作品を講評する。
11回	文章実務の実例(1):ビジネスレターや履歴書について解説する。
12回	エントリーシートを書く(1):エントリーシートの実例とポイントを解説する。
13回	エントリーシートを書く(2):エントリーシートに取り組む。
14回	文章実務の実例(2):契約書や企画書について解説する。
15回	実用的な文章表現についてのまとめを行い、文章スキルのポイントを整理する。最終評価試験につ いて説明する。
16回	最終評価試験を実施する。試験終了後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1回	予習:シラバスを読んでおくこと。復習:受講上の注意を確認すること。(標準学習時間15分)
2回	予習:文章表現で大切な点をまとめること。復習:リライトのポイントを整理すること。(標準学 習時間45分)
3回	予習:文章の組み立て方を理解しておくこと。復習:文章を組み立てるポイントを整理すること。 (標準学習時間60分)
4回	予習:指示されたテーマについて調べておくこと。復習:組み立てた文章を自己点検すること。(標 準学習時間60分)
5回	予習:ストーリーの基本構成を理解しておくこと。復習:ストーリーを書くポイントを整理するこ と。(標準学習時間90分)
6回	予習:ストーリーの構想を準備してくること。復習:自分が書いた文章を点検・リライトすること 。(標準学習時間90分)
7回	予習:文章表現の注意点について考えておくこと。復習:表記や表現のポイントをまとめること。 (標準学習時間90分)
8回	予習:中間テストの準備をしておくこと。復習:中間テストについて自己点検すること。(標準学 習時間120分)
9回	予習:広告表現の実例を収集しておくこと。復習:広告コピーのポイントを整理すること。(標準 学習時間60分)
10回	予習:指示されたテーマについて情報を集めておくこと。復習:広告コピーを自己点検すること。 (標準学習時間60分)
11回	予習:ビジネスレターや履歴書の実例に触れておくこと。復習:ビジネスレターや履歴書のポイン トを整理すること。(標準学習時間60分)
12回	予習:エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習:エントリーシートのポイントを整理 すること。(標準学習時間60分)
13回	予習:自己分析を行っておくこと。復習:エントリーシートを自己点検すること。(標準学習時間 90分)
14回	予習:契約書や企画書の実例に触れておくこと。復習:契約書や企画書のポイントをまとめること 。(標準学習時間60分)
15回	予習:実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習:文章表現で大切な点を整 理しておくこと。(標準学習時間60分)
16回	予習:後半の講義内容をまとめ、最終評価試験の準備をすること。復習:最終評価試験について自 己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養
------	--

	う。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
達成目標	1.文章表現の基本を身につけている。 2.自分の考えをわかりやすく文章にまとめることができる。 3.状況に応じた文章を書くことができる。 4.文章で自身をアピールすることができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語、エントリーシート、就職活動、大学院入試
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	学修（達成目標1-4）の到達度確認試験100%（中間テスト50%、最終評価試験50%）により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和・藤野薫 / 「文章スキルとプレゼン力」（緑版） / 蜻文庫
関連科目	プレゼンテーション、プレゼンテーション、文章表現法
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の出席及び、課題の提出を前提とする。欠席する度に平常点から減点する。 ・出席回数が規定回数に達しない場合は最終試験の受験を認めない。 ・30分を超える遅刻に関しては、その回の出席として認めない。 ・提出課題は教科書に付属の提出用紙を使用の上、提出することとする。用紙のコピーは一切認めない。 ・ほぼ毎回、何らかの文章を書き、提出してもらう。 ・授業時間内に課題が提出できない場合は、それを宿題とし、次回授業の始めに提出してもらう。それ以降の提出は大幅な減点の対象、または評価の対象外とすることがある。
アクティブ・ラーニング	<p>ディスカッション、アクティブ・ラーニング</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2.課題について各自の感想や意見を述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	<ol style="list-style-type: none"> 1.フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2.中間テストや最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	<ol style="list-style-type: none"> 1.「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、支援担当者の協力を得て合理的配慮を行うので、必要な学生は必ず事前に学生支援窓口に相談すること。 2.講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	<ol style="list-style-type: none"> 1.受講者数の上限を50名とする。 2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3.受講者は指示されたテキストを購入すること。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6.受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、演習未消化・レポート未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 7.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法 (FB205440)
英文科目名	Technical Writing II
担当教員名	杉林周陽* (すぎばやしのりあき*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて説明する。文章スキルの大切さについて解説する。
2回	文章表現の注意点(1)リライトのポイントを解説する。受講シートの記入に取り組む。
3回	小論文を書く(1):文章の組み立てを説明する。
4回	小論文を書く(2):準備した材料を使って文章化する。
5回	ストーリーを書く(1):ストーリーを構想する。
6回	ストーリーを書く(2):ストーリーを書く。
7回	文章表現の注意点(2):表記や表現のポイントを解説する。中間テストについて説明する。
8回	中間テストを実施する。テスト終了後、テスト問題について解説する。
9回	広告文を書く(1):指示されたテーマで広告コピーを構想する。
10回	広告文を書く(2):広告コピーに取り組み、作品を講評する。
11回	文章実務の実例(1):ビジネスレターや履歴書について解説する。
12回	エントリーシートを書く(1):エントリーシートの実例とポイントを解説する。
13回	エントリーシートを書く(2):エントリーシートに取り組む。
14回	文章実務の実例(2):契約書や企画書について解説する。
15回	実用的な文章表現についてのまとめを行い、文章スキルのポイントを整理する。最終評価試験について説明する。
16回	最終評価試験を実施する。試験終了後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1回	予習:シラバスを読んでおくこと。復習:受講上の注意を確認すること。(標準学習時間15分)
2回	予習:文章表現で大切な点をまとめること。復習:リライトのポイントを整理すること。(標準学習時間45分)
3回	予習:文章の組み立て方を理解しておくこと。復習:文章を組み立てるポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
4回	予習:指示されたテーマについて調べておくこと。復習:組み立てた文章を自己点検すること。(標準学習時間60分)
5回	予習:ストーリーの基本構成を理解しておくこと。復習:ストーリーを書くポイントを整理すること。(標準学習時間90分)
6回	予習:ストーリーの構想を準備してくること。復習:自分が書いた文章を点検・リライトすること。(標準学習時間90分)
7回	予習:文章表現の注意点について考えておくこと。復習:表記や表現のポイントをまとめること。(標準学習時間90分)
8回	予習:中間テストの準備をしておくこと。復習:中間テストについて自己点検すること。(標準学習時間120分)
9回	予習:広告表現の実例を収集しておくこと。復習:広告コピーのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
10回	予習:指示されたテーマについて情報を集めておくこと。復習:広告コピーを自己点検すること。(標準学習時間60分)
11回	予習:ビジネスレターや履歴書の実例に触れておくこと。復習:ビジネスレターや履歴書のポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
12回	予習:エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習:エントリーシートのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
13回	予習:自己分析を行っておくこと。復習:エントリーシートを自己点検すること。(標準学習時間90分)
14回	予習:契約書や企画書の実例に触れておくこと。復習:契約書や企画書のポイントをまとめること。(標準学習時間60分)
15回	予習:実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習:文章表現で大切な点を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
16回	予習:後半の講義内容をまとめ、最終評価試験の準備をすること。復習:最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養
------	--

	う。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
達成目標	1.文章表現の基本を身につけている。 2.自分の考えをわかりやすく文章にまとめることができる。 3.状況に応じた文章を書くことができる。 4.文章で自身をアピールすることができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語、エントリーシート、就職活動、大学院入試
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	学修（達成目標1-4）の到達度確認試験100%（中間テスト50%、最終評価試験50%）により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和・藤野薫 / 「文章スキルとプレゼン力」（緑版） / 蜻文庫
関連科目	プレゼンテーション、プレゼンテーション、文章表現法
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の出席及び、課題の提出を前提とする。欠席する度に平常点から減点する。 ・出席回数が規定回数に達しない場合は最終試験の受験を認めない。 ・30分を超える遅刻に関しては、その回の出席として認めない。 ・提出課題は教科書に付属の提出用紙を使用の上、提出することとする。用紙のコピーは一切認めない。 ・ほぼ毎回、何らかの文章を書き、提出してもらう。 ・授業時間内に課題が提出できない場合は、それを宿題とし、次回授業の始めに提出してもらう。それ以降の提出は大幅な減点の対象、または評価の対象外とすることがある。
アクティブ・ラーニング	<p>ディスカッション、アクティブ・ラーニング</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2.課題について各自の感想や意見を述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	<ol style="list-style-type: none"> 1.フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2.中間テストや最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	<ol style="list-style-type: none"> 1.「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、支援担当者の協力を得て合理的配慮を行うので、必要な学生は必ず事前に学生支援窓口に相談すること。 2.講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	<ol style="list-style-type: none"> 1.受講者数の上限を50名とする。 2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3.受講者は指示されたテキストを購入すること。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6.受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、演習未消化・レポート未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 7.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	文章表現法 (FB205450)
英文科目名	Technical Writing II
担当教員名	世良利和* (せらとしかず*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて説明する。文章スキルの大切さについて解説する。
2回	文章表現の注意点(1)リライトのポイントを解説する。受講シートの記入に取り組む。
3回	小論文を書く(1):文章の組み立てを説明する。
4回	小論文を書く(2):準備した材料を使って文章化する。
5回	ストーリーを書く(1):ストーリーを構想する。
6回	ストーリーを書く(2):ストーリーを書く。
7回	文章表現の注意点(2):表記や表現のポイントを解説する。中間テストについて説明する。
8回	中間テストを実施する。テスト終了後、テスト問題について解説する。
9回	広告文を書く(1):指示されたテーマで広告コピーを構想する。
10回	広告文を書く(2):広告コピーに取り組み、作品を講評する。
11回	文章実務の実例(1):ビジネスレターや履歴書について解説する。
12回	エントリーシートを書く(1):エントリーシートの実例とポイントを解説する。
13回	エントリーシートを書く(2):エントリーシートに取り組む。
14回	文章実務の実例(2):契約書や企画書について解説する。
15回	実用的な文章表現についてのまとめを行い、文章スキルのポイントを整理する。最終評価試験について説明する。
16回	最終評価試験を実施する。試験終了後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1回	予習:シラバスを読んでおくこと。復習:受講上の注意を確認すること。(標準学習時間15分)
2回	予習:文章表現で大切な点をまとめること。復習:リライトのポイントを整理すること。(標準学習時間45分)
3回	予習:文章の組み立て方を理解しておくこと。復習:文章を組み立てるポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
4回	予習:指示されたテーマについて調べておくこと。復習:組み立てた文章を自己点検すること。(標準学習時間60分)
5回	予習:ストーリーの基本構成を理解しておくこと。復習:ストーリーを書くポイントを整理すること。(標準学習時間90分)
6回	予習:ストーリーの構想を準備してくること。復習:自分が書いた文章を点検・リライトすること。(標準学習時間90分)
7回	予習:文章表現の注意点について考えておくこと。復習:表記や表現のポイントをまとめること。(標準学習時間90分)
8回	予習:中間テストの準備をしておくこと。復習:中間テストについて自己点検すること。(標準学習時間120分)
9回	予習:広告表現の実例を収集しておくこと。復習:広告コピーのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
10回	予習:指示されたテーマについて情報を集めておくこと。復習:広告コピーを自己点検すること。(標準学習時間60分)
11回	予習:ビジネスレターや履歴書の実例に触れておくこと。復習:ビジネスレターや履歴書のポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
12回	予習:エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習:エントリーシートのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)
13回	予習:自己分析を行っておくこと。復習:エントリーシートを自己点検すること。(標準学習時間90分)
14回	予習:契約書や企画書の実例に触れておくこと。復習:契約書や企画書のポイントをまとめること。(標準学習時間60分)
15回	予習:実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習:文章表現で大切な点を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
16回	予習:後半の講義内容をまとめ、最終評価試験の準備をすること。復習:最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養
------	--

	う。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
達成目標	1.文章表現の基本を身につけている。 2.自分の考えをわかりやすく文章にまとめることができる。 3.状況に応じた文章を書くことができる。 4.文章で自身をアピールすることができる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与する。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語、エントリーシート、就職活動、大学院入試
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	学修（達成目標1-4）の到達度確認試験100%（中間テスト50%、最終評価試験50%）により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和・藤野薫 / 「文章スキルとプレゼン力」（緑版） / 蜻文庫
関連科目	プレゼンテーション、プレゼンテーション、文章表現法
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公表
授業の運営方針	1.講義は指定したテキストに沿って進める。 2.ワークブック形式の部分は各自で予め調べておくこと。 3.必要に応じて配布資料を用意する。 4.講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1.講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2.課題について各自の感想や意見を述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	1.フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2.中間テストや最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1.元・株式会社ケーアイツアー取締役（総務・人事・広報担当） 2.会社での経験を踏まえて、社会で必要となる文章スキルをわかりやすく、具体的に指導する。
その他（注意・備考）	1.受講者数の上限を50名とする。 2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3.受講者は指示されたテキストを購入すること。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6.受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、演習未消化・レポート未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 7.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	プレゼンテーション (FB205500)
英文科目名	Presentation Skills I
担当教員名	世良利和* (せらとしかず*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて説明する。プレゼンテーションの大切さについて解説する。
2回	プレゼンテーションとは何か、について解説する。受講シートの記入に取り組む。
3回	スクリプトの組み立て方について解説する。
4回	プレゼンテーション演習(1)を行い、演習を講評する。
5回	人前で話すためのポイントについて解説する。
6回	プレゼンテーションの技法(1)印象で損をしないためのポイントについて解説する。
7回	グループ・ミーティング(1)進め方の注意点を確認し、ミーティングを行う。中間テストについて説明する。
8回	中間テストを行う。テスト終了後、テスト問題について解説する。
9回	プレゼンテーションの技法(2)つかみ・アイコンタクト・身ぶりといった技法を解説する。
10回	「人の話を聞くこと」について解説する。
11回	プレゼンテーション演習(2)インタビューを行う。
12回	プレゼンテーション演習(2)の講評を行う。プレゼンテーションの技法(3)プレゼンテーションのツールと事前準備について解説する。
13回	グループ・ミーティング(2)役割分担を意識し、ミーティングを行う。
14回	ペア・プレゼンについて解説する。
15回	ペア・プレゼンの準備に取り組む。最終評価試験について説明する。
16回	最終評価試験を実施する。試験終了後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間15分)
2回	予習：プレゼンテーションとは何か、について考えておくこと。復習：プレゼンテーションの基本についてまとめること。(標準学習時間30分)
3回	予習：スクリプトの大切さを理解しておくこと。復習：スクリプトの組み立てを確認すること。(標準学習時間45分)
4回	予習：指示されたテーマで短いプレゼンテーションを準備しておくこと。復習：講評で指摘された点を確認すること。(標準学習時間60分)
5回	予習：演習(1)についてレポートを書き、人前で話す際の心構えをまとめておくこと。復習：人前で話すためのポイントを確認すること。(標準学習時間90分)
6回	予習：印象の大切さについて考えてくること。復習：印象で損をしないための技法を確認すること。(標準学習時間30分)
7回	予習：指示されたテーマについてミーティングの準備をしておくこと。復習：ミーティングの内容をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
8回	予習：プレゼンテーションのポイントをまとめ、中間テストの準備をしておくこと。復習：中間テストについて自己点検すること。(標準学習時間120分)
9回	予習：聴衆にアピールする方法について考えてくること。復習：つかみ・アイコンタクト・身ぶりにといった技法について確認しておくこと。(標準学習時間60分)
10回	予習：「人の話を聞くこと」について意味を考えておくこと。復習：人の話を聞くためのポイントを確認すること。(標準学習時間60分)
11回	予習：インタビューの準備をしておくこと。復習：インタビューについて自己点検しておくこと。(標準学習時間60分)
12回	予習：プレゼンテーションのツールと事前準備について調べておくこと。復習：ツールと事前準備について確認すること。(標準学習時間60分)
13回	予習：指示されたテーマについてミーティングの準備をしておくこと。復習：ミーティングの内容をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
14回	予習：プレゼンテーションでペアを組む意味について考えてくること。復習：ペアを組む意味を確認すること。(標準学習時間60分)
15回	予習：指示されたテーマについて調べてくること。復習：ペアとしての役割に取り組むこと。(標準学習時間120分)
16回	予習：後半の講義内容を確認し、最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験につ

	いて自己点検すること。(標準学習時間120分)
講義目的	自分の考えをわかりやすく、印象的に他人に伝えるための基本を身につける。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1.与えられたテーマでスクリプトを構成することができる。 2.スクリプトに基いて数分程度の発表をすることができる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	プレゼンテーション、コミュニケーション、面接、就職活動、日本語表現
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修の到達度(達成目標1-2)確認試験100%(中間テスト50%、最終評価試験50%)により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	初回の講義で指示する。
関連科目	プレゼンテーション、文章表現法、文章表現法
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公開
授業の運営方針	1.講義は指定したテキストに沿って進める。 2.必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。 3.講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。 4.講義内容と自身の考えを文章にまとめる作業を行う。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1.講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2.受講生同士で各自の感想や考えを述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	1.フィードバックは講義内の講評やディスカッションを通じて行う。 2.中間テストや最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1.本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2.講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1.元・株式会社ケーアイツアー取締役(総務・人事・広報担当) 2.会社での経験を踏まえて、プレゼンテーションのポイントをわかりやすく、具体的に指導する。
その他(注意・備考)	1.受講者数の上限を50名とする。 2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3.受講者は指示されたテキストを購入すること。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6.受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、演習未消化・レポート未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 7.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	プレゼンテーション (FB205510)
英文科目名	Presentation Skills I
担当教員名	石井成人* (いしいなるひと*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業概説 をする
2回	非言語的コミュニケーションの特徴、スクリプトの作成 をする
3回	模擬発表とプレゼンテーションスクリプトの改良 をする
4回	リハーサル・プレゼンテーションの実施 をする
5回	PowerPoint利用のプレゼンテーション をする
6回	PowerPoint資料の改良 をする
7回	PowerPoint資料を使ったりハーサル・プレゼンテーション をする
8回	プレゼンテーション全体構成の再確認 最終評価試験をする
9回	授業概説 をする
10回	非言語的コミュニケーションの特徴、スクリプトの作成 をする
11回	模擬発表とプレゼンテーションスクリプトの改良 をする スクリプト修正 すること
12回	リハーサル・プレゼンテーションの実施 をする
13回	PowerPoint利用のプレゼンテーション をする プレゼンテーション改良 すること
14回	PowerPoint資料の改良 をする
15回	PowerPoint資料を使ったりハーサル・プレゼンテーション をする
16回	プレゼンテーション全体構成の再確認 最終評価試験をする

回数	準備学習
1回	PCにログインできるようID・PASSを手元に準備しておく
2回	スクリプト準備 すること
3回	スクリプト修正 すること
4回	プレゼンテーション練習とスクリプト修正 すること
5回	プレゼンテーション改良 すること
6回	PowerPointの作成 すること
7回	PowerPointの修正 すること
8回	学習内容の整理 すること
9回	PCにログインできるようID・PASSを手元に準備しておく
10回	スクリプト準備 すること
11回	スクリプト修正 すること
12回	プレゼンテーション練習とスクリプト修正 すること
13回	プレゼンテーション改良 すること
14回	PowerPointの作成 すること
15回	PowerPointの修正 すること
16回	学習内容の整理 すること

講義目的	聴衆を前にした単独での発表の場において、自分のアピールポイントを明瞭かつ論理的、戦略的に展開する技法の基礎を身につける。(4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。)
達成目標	受講者は、

	<p>1. プレゼンテーションが何かを認識できる。</p> <p>2. 代表的アプリケーションのPowerPointを理解、運用ができる。</p> <p>3. 実際に模擬発表の形でプレゼンテーションを体験し、質的向上を実現できる。 (パワーポイント資料、責任者としての発表者のプレゼンス、明確なアピールポイント) (4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。)</p>
キーワード	プレゼンテーション、PowerPoint、非言語的コミュニケーション、自己表現
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	課題添削・修正作業(40%)、中間提出(40%)、最終提出(20%)の総合評価
教科書	教室にてプリント資料等配布予定
関連科目	文章表現法、およびその他のプレゼンテーション
参考書	必要に応じて配布、指示
連絡先	elmar35@yahoo.co.jp
授業の運営方針	<p>「プレゼンテーション」とは何か?をより明確に認識すること。プレゼンテーションに関する知識だけでなく、実際に模擬発表を重ねていくことでより認識を深め、知識に踏まえて技能を体感、体得することを目指す。</p> <p>抽象的で主観的な話題で意味のないおしゃべりをして時間を過ごすことと、明確なアピールポイントをふまえた、論理的、戦略的なプレゼンテーションの区別を体感すること、そしてその認識の上で少しでも上質なプレゼンテーションの実現を、実感、体感、体得することを目指す。</p>
アクティブ・ラーニング	講義で学習したプレゼンテーション全般に関する知識だけにとどまらず、それらをもとに、実際に発表可能な内容を構成し作り上げ、最終的な模擬発表を繰り返し行う中で、プレゼンテーションに関する知識を確かな認識とし、多くの人前での発表の経験値を多く獲得していく。
課題に対するフィードバック	<p>授業ではプレゼンテーションに関する知識を得るだけではなく、それら知識をもとに、居室にて実際にほぼ毎回「模擬発表」を重ねていく。</p> <p>模擬発表では、個々に必要な点、不可欠な点を確認チェックしていく。自分の模擬発表だけではなく、他人の模擬発表の問題点も、「たにんごと」ではなく「明日は我が身」と緊張感をもって学習できることを目指す。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。</p>
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	PC教室にて、Web上の課題システムを毎回利用して授業を行う。受講者数の上限を50名とする。

科目名	プレゼンテーション (FB205520)
英文科目名	Presentation Skills I
担当教員名	松尾美香(まつおみか)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンスおよびプレゼンテーションの基本について説明する 講義の概要、進め方、評価方法を説明し、よいプレゼンテーションや目的に応じたプレゼンテーションを説明する。
2回	プレゼンテーションの準備について説明する。 プレゼンテーションを行うために、どのような準備をすればよいかを説明する。また、プレゼンテーションの構成や心得について説明する。
3回	プレゼンテーションの進め方について説明する。 話し方やコミュニケーション(非言語も含む)について説明する。
4回	効果的なプレゼンテーションの技法を説明する。 PowerPoint実習を行いつつ、相手に伝わるスライドの構成について説明する
5回	スライド作成の実践 趣味の紹介のスライド作成を行う。趣味の概要、趣味の楽しさ、趣味の奥深さ、自分の趣味への誘いの4枚のスライドを作成する。
6回	プレゼンテーションの実践 プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。
7回	プレゼンテーションの実践 プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。
8回	1回目から7回目の総括を説明し、グループ編成を行う。
9回	課題発表のテーマの設定 日頃の問題意識からテーマを選び、目的、方法を決定する。
10回	決定した方法にしたがい、参考文献の収集しながら、調査分析を行う。
11回	プレゼンテーションを完成させる 論理展開、聞き手の分かりやすさを考えた説明の順番を考える。
12回	よいプレゼンテーションについて説明する。 プレゼンテーションを評価するためのルーブリックを各自で作成する。
13回	プレゼンテーションのリハーサル ルーブリックの修正を行う。
14回	最終プレゼンテーション 発表とフィードバックを実施する。
15回	最終プレゼンテーション 発表とフィードバックを実施する。
16回	9回目～15回目の総括を説明する。

回数	準備学習
1回	予習として講義の目的を理解し、シラバスを確認しておくこと。また、これまで学んだことで、関連する内容を復習しておくこと(標準学修時間120分)
2回	よいプレゼンテーションや目的に応じたプレゼンテーションが説明できるようにしておくこと(標準学修時間120分)
3回	プレゼンテーションの基本的構造を理解しておくこと(標準学修時間120分)
4回	プレゼンテーションにおけるコミュニケーション言動の要素について理解しておくこと(標準学修時間120分)
5回	PowerPointの操作方法について確認しておくこと(標準学修時間120分)
6回	PowerPointを使ってプレゼンスライドを完成させ、発表ができるよう準備を整えておくこと(標準学修時間120分)
7回	復習として、目的を明確にした内容にまとめておくこと。 予習として、相手を引き付ける工夫を考えておくこと。(標準学修時間120分)
8回	これまでの学習を復習しておくこと(標準学修時間120分)
9回	課題を考えてくること(標準学修時間120分)
10回	調べた内容をまとめる。 調査結果をまとめるとともに、プレゼンテーションを作成する(標準学修時間120分)
11回	スライドの構成を考えてくること(標準学修時間120分)
12回	どうすればよいプレゼンテーションができるか考えてくること(標準学修時間120分)
13回	プレゼンテーションの練習を行うこと(標準学修時間120分)

14回	原稿を見ないでプレゼンテーションができるようにすること（標準学修時間120分）
15回	原稿を見ないでプレゼンテーションができるようにすること（標準学修時間120分）
16回	これまでの学習を整理しておくこと（標準学修時間120分）
講義目的	本講義の目的は、プレゼンテーションの計画方法、発表の技術、プレゼンターの人的側面等の基本を学びながら、実践を通して自分の主張を明確に伝える表現力を養うことである。そのため、設定されたテーマについて、個人あるいはグループで調査分析し、論理的な内容にまとめたいうで、適切な速度と声量でパワーポイントを活用した発表を行う。また、発表のフィードバックを行うことで改善点を検討し、学会発表や研究発表等で効果的に行えるようにプレゼンテーションスキルの修得を目指す。 （4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。）
達成目標	パワーポイントを使ってプレゼンテーション用のスライドを作成することができる。 図表を使ったり、アニメーションを使って視覚に訴え、相手を説得するためのスライドを作成することができる。 自分の考えや主張をまとめたスライドにまとめることができる。 自分の考えや主張を相手に伝えることができる。 特定のテーマについて目的と方法を明確にして、調査を行い、その結果をスライドにまとめることができる。 自分の主張を根拠やデータを用いてスライドにまとめることができる。 聴衆を前にした発表の場で、アイコンタクトを取り、適切な速度や声量で発表することができる。 （4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。）
キーワード	コミュニケーション、グループワーク、論理表現、情報収集、情報分析
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・実際のプレゼンテーションを評価する（50%） 発表内容の内訳は、内容構成、話し方、図表の使い方とする。 ・小テスト（25%） ・ワークシート（25%） より、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	学びの基礎論、地域フィールドスタディ、プレゼンテーション、文章表現法、文章表現法
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
授業の運営方針	・5回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は、2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・グループワーク、プレゼン作成およびプレゼン発表（リハーサルも含む）の欠席の場合は、その時点で評価対象としない。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。ただし、私語については、グループワークを行うときはこの限りではない。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。 ・パワーポイントを利用した実習を行う。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・準備学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートをまとめ、演習をしっかりと取り組むこと。 ・課題提出物等において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・受講生の既習知や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	プレゼンテーション (FB205530)
英文科目名	Presentation Skills I
担当教員名	松尾美香(まつおみか)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンスおよびプレゼンテーションの基本について説明する 講義の概要、進め方、評価方法を説明し、よいプレゼンテーションや目的に応じたプレゼンテーションを説明する。
2回	プレゼンテーションの準備について説明する。 プレゼンテーションを行うために、どのような準備をすればよいかを説明する。また、プレゼンテーションの構成や心得について説明する。
3回	プレゼンテーションの進め方について説明する。 話し方やコミュニケーション(非言語も含む)について説明する。
4回	効果的なプレゼンテーションの技法を説明する。 PowerPoint実習を行いつつ、相手に伝わるスライドの構成について説明する
5回	スライド作成の実践 趣味の紹介のスライド作成を行う。趣味の概要、趣味の楽しさ、趣味の奥深さ、自分の趣味への誘いの4枚のスライドを作成する。
6回	プレゼンテーションの実践 プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。
7回	プレゼンテーションの実践 プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。
8回	1回目から7回目の総括を説明し、グループ編成を行う。
9回	課題発表のテーマの設定 日頃の問題意識からテーマを選び、目的、方法を決定する。
10回	決定した方法にしたがい、参考文献の収集しながら、調査分析を行う。
11回	プレゼンテーションを完成させる 論理展開、聞き手の分かりやすさを考えた説明の順番を考える。
12回	よいプレゼンテーションについて説明する。 プレゼンテーションを評価するためのルーブリックを各自で作成する。
13回	プレゼンテーションのリハーサル ルーブリックの修正を行う。
14回	最終プレゼンテーション 発表とフィードバックを実施する。
15回	最終プレゼンテーション 発表とフィードバックを実施する。
16回	9回目～15回目の総括を説明する。

回数	準備学習
1回	予習として講義の目的を理解し、シラバスを確認しておくこと。また、これまで学んだことで、関連する内容を復習しておくこと(標準学修時間120分)
2回	よいプレゼンテーションや目的に応じたプレゼンテーションが説明できるようにしておくこと(標準学修時間120分)
3回	プレゼンテーションの基本的構造を理解しておくこと(標準学修時間120分)
4回	プレゼンテーションにおけるコミュニケーション言動の要素について理解しておくこと(標準学修時間120分)
5回	PowerPointの操作方法について確認しておくこと(標準学修時間120分)
6回	PowerPointを使ってプレゼンスライドを完成させ、発表ができるよう準備を整えておくこと(標準学修時間120分)
7回	復習として、目的を明確にした内容にまとめておくこと。 予習として、相手を引き付ける工夫を考えておくこと。(標準学修時間120分)
8回	これまでの学習を復習しておくこと(標準学修時間120分)
9回	課題を考えてくること(標準学修時間120分)
10回	調べた内容をまとめる。 調査結果をまとめるとともに、プレゼンテーションを作成する(標準学修時間120分)
11回	スライドの構成を考えてくること(標準学修時間120分)
12回	どうすればよいプレゼンテーションができるか考えてくること(標準学修時間120分)
13回	プレゼンテーションの練習を行うこと(標準学修時間120分)

14回	原稿を見ないでプレゼンテーションができるようにすること（標準学修時間120分）
15回	原稿を見ないでプレゼンテーションができるようにすること（標準学修時間120分）
16回	これまでの学習を整理しておくこと（標準学修時間120分）
講義目的	本講義の目的は、プレゼンテーションの計画方法、発表の技術、プレゼンターの人的側面等の基本を学びながら、実践を通して自分の主張を明確に伝える表現力を養うことである。そのため、設定されたテーマについて、個人あるいはグループで調査分析し、論理的な内容にまとめたいうで、適切な速度と声量でパワーポイントを活用した発表を行う。また、発表のフィードバックを行うことで改善点を検討し、学会発表や研究発表等で効果的に行えるようにプレゼンテーションスキルの修得を目指す。 (4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。)
達成目標	パワーポイントを使ってプレゼンテーション用のスライドを作成することができる。 図表を使ったり、アニメーションを使って視覚に訴え、相手を説得するためのスライドを作成することができる。 自分の考えや主張をまとめたスライドにまとめることができる。 自分の考えや主張を相手に伝えることができる。 特定のテーマについて目的と方法を明確にして、調査を行い、その結果をスライドにまとめることができる。 自分の主張を根拠やデータを用いてスライドにまとめることができる。 聴衆を前にした発表の場で、アイコンタクトを取り、適切な速度や声量で発表することができる。 (4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。)
キーワード	コミュニケーション、グループワーク、論理表現、情報収集、情報分析
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・実際のプレゼンテーションを評価する（50%） 発表内容の内訳は、内容構成、話し方、図表の使い方とする。 ・小テスト（25%） ・ワークシート（25%） より、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	学びの基礎論、地域フィールドスタディ、プレゼンテーション、文章表現法、文章表現法
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
授業の運営方針	・5回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は、2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・グループワーク、プレゼン作成およびプレゼン発表（リハーサルも含む）の欠席の場合は、その時点で評価対象としない。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。ただし、私語については、グループワークを行うときはこの限りではない。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。 ・パワーポイントを利用した実習を行う。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・準備学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートをまとめ、演習をしっかりと取り組むこと。 ・課題提出物等において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・受講生の既習知や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	プレゼンテーション (FB205540)
英文科目名	Presentation Skills I
担当教員名	石井成人* (いしいなるひと*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業概説 をする
2回	非言語的コミュニケーションの特徴、スクリプトの作成 をする
3回	模擬発表とプレゼンテーションスクリプトの改良 をする
4回	リハーサル・プレゼンテーションの実施 をする
5回	PowerPoint利用のプレゼンテーション をする
6回	PowerPoint資料の改良 をする
7回	PowerPoint資料を使ったりハーサル・プレゼンテーション をする
8回	プレゼンテーション全体構成の再確認 最終評価試験をする
9回	授業概説 をする
10回	非言語的コミュニケーションの特徴、スクリプトの作成 をする
11回	模擬発表とプレゼンテーションスクリプトの改良 をする スクリプト修正 すること
12回	リハーサル・プレゼンテーションの実施 をする
13回	PowerPoint利用のプレゼンテーション をする プレゼンテーション改良 すること
14回	PowerPoint資料の改良 をする
15回	PowerPoint資料を使ったりハーサル・プレゼンテーション をする
16回	プレゼンテーション全体構成の再確認 最終評価試験をする

回数	準備学習
1回	PCにログインできるようID・PASSを手元に準備しておく
2回	スクリプト準備 すること
3回	スクリプト修正 すること
4回	プレゼンテーション練習とスクリプト修正 すること
5回	プレゼンテーション改良 すること
6回	PowerPointの作成 すること
7回	PowerPointの修正 すること
8回	学習内容の整理 すること
9回	PCにログインできるようID・PASSを手元に準備しておく
10回	スクリプト準備 すること
11回	スクリプト修正 すること
12回	プレゼンテーション練習とスクリプト修正 すること
13回	プレゼンテーション改良 すること
14回	PowerPointの作成 すること
15回	PowerPointの修正 すること
16回	学習内容の整理 すること

講義目的	聴衆を前にした単独での発表の場において、自分のアピールポイントを明瞭かつ論理的、戦略的に展開する技法の基礎を身につける。(4領域の項目では「技能」に最も強く関連している。)
達成目標	受講者は、

	<p>1. プレゼンテーションが何かを認識できる。</p> <p>2. 代表的アプリケーションのPowerPointを理解、運用が出来る。</p> <p>3. 実際に模擬発表の形でプレゼンテーションを体験し、質的向上を実現できる。 (パワーポイント資料、責任者としての発表者のプレゼンス、明確なアピールポイント) (4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。)</p>
キーワード	プレゼンテーション、PowerPoint、非言語的コミュニケーション、自己表現
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	課題添削・修正作業(40%)、中間提出(40%)、最終提出(20%)の総合評価
教科書	教室にてプリント資料等配布予定
関連科目	文章表現法、およびその他のプレゼンテーション
参考書	必要に応じて配布、指示
連絡先	elmar35@yahoo.co.jp
授業の運営方針	<p>「プレゼンテーション」とは何か?をより明確に認識すること。プレゼンテーションに関する知識だけでなく、実際に模擬発表を重ねていくことでより認識を深め、知識に踏まえて技能を体感、体得することを目指す。</p> <p>抽象的で主観的な話題で意味のないおしゃべりをして時間を過ごすことと、明確なアピールポイントをふまえた、論理的、戦略的なプレゼンテーションの区別を体感すること、そしてその認識の上で少しでも上質なプレゼンテーションの実現を、実感、体感、体得することを目指す。</p>
アクティブ・ラーニング	講義で学習したプレゼンテーション全般に関する知識だけにとどまらず、それらをもとに、実際に発表可能な内容を構成し作り上げ、最終的な模擬発表を繰り返し行う中で、プレゼンテーションに関する知識を確かな認識とし、多くの人前での発表の経験値を多く獲得していく。
課題に対するフィードバック	<p>授業ではプレゼンテーションに関する知識を得るだけではなく、それら知識をもとに、居室にて実際にほぼ毎回「模擬発表」を重ねていく。</p> <p>模擬発表では、個々に必要な点、不可欠な点を確認チェックしていく。自分の模擬発表だけではなく、他人の模擬発表の問題点も、「たにんごと」ではなく「明日は我が身」と緊張感をもって学習できることを目指す。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。</p>
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	PC教室にて、Web上の課題システムを毎回利用して授業を行う。受講者数の上限を50名とする。

科目名	プレゼンテーション (FB205600)
英文科目名	Presentation Skills II
担当教員名	世良利和* (せらとしかず*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて説明する。プレゼンテーションの基本について解説する。
2回	パワーポイントの功罪について解説し、グループディスカッションを行う。受講シートの記入に取り組む。
3回	指示されたテーマについてグループディスカッションを行い、プレゼンテーションの準備をする。
4回	プレゼンテーション演習(1)を行う。
5回	プレゼンテーション演習(1)を講評し、グループワークを行う。
6回	プレゼンテーションのツールと効果について解説し、自己分析に取り組む。
7回	指示されたテーマについて、グループディスカッションを行い、グループプレゼンテーションを準備する。中間テストについて説明する。
8回	中間テストを実施する。中間テスト後、テスト問題について解説する。
9回	プレゼンテーションの応用と実践について概説する。
10回	ディスカッションとディベートについて解説し、グループディスカッションを行う。
11回	クレームの発生と対応について概観し、就職活動のための企業研究について解説する。
12回	企業・職業についてグループワークを行い、プレゼンテーションを準備する。
13回	プレゼンテーション演習(2)を実施し、講評とグループワークを行う。
14回	採用試験の実例について解説する。
15回	グループディスカッションを行ってテーマと方法を決め、プレゼンテーションの実施を準備する。最終評価試験について説明する。
16回	最終評価試験を実施し、試験終了後に試験問題について解説する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講上の注意とプレゼンテーションの基本を確認すること。(標準学習時間15分)
2回	予習：パワーポイントの特徴について考えておくこと。復習：パワーポイントとディスカッションの内容についてまとめること。(標準学習時間45分)
3回	予習：指示されたテーマについて考えをまとめておくこと。復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
4回	予習：指示されたテーマでプレゼンテーションを準備してくること。復習：プレゼンテーション演習の自己点検をすること。(標準学習時間120分)
5回	予習：プレゼンテーション演習の反省点をまとめてくること。復習：グループワークの内容を整理すること。(標準学習時間60分)
6回	予習：プレゼンテーションのツールについて確認しておくこと。復習：自己分析の結果をまとめること。(標準学習時間45分)
7回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：ディスカッションの内容をまとめること。(標準学習時間60分)
8回	予習：グループプレゼンテーションを準備しておくこと。復習：中間テストについて自己点検すること。(標準学習時間120分)
9回	予習：プレゼンテーションの応用と実践について考えておくこと。復習：プレゼンテーションの応用例をまとめること。(標準学習時間45分)
10回	予習：ディスカッションとディベートについて調べておくこと。復習：グループディスカッションの内容を整理すること。(標準学習時間60分)
11回	予習：クレームの発生について考えておくこと。復習：企業研究についてまとめておくこと。(標準学習時間45分)
12回	予習：興味のある企業・職業について調べてくること。復習：グループワークの内容を整理すること。(標準学習時間60分)
13回	予習：プレゼンテーション演習の準備をすること。復習：講評とグループワークの内容を整理すること。(標準学習時間120分)
14回	予習：履歴書とエントリーシートを理解しておくこと。復習：採用試験のポイントを確認すること。(標準学習時間60分)
15回	予習：プレゼンテーションのテーマと方法を考えてくること。復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
16回	予習：最終評価試験の準備をしてくること。復習：最終評価試験を自己点検すること。(標準学習時間)

	時間120分)
講義目的	プレゼンテーションの発想と応用範囲を確認し、就職活動や研究発表、社会生活に必要な社会人基礎力を養う。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する) 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
達成目標	1. プレゼンテーションの技法を实践できる。 2. プレゼンテーションに必要な発想と応用を理解できている。 3. 自らプレゼンテーションのテーマを見つけることができる。 4. 他と協力してミーティングやプレゼンテーションを企画運営できる。 4領域の項目では「技能」に最も強く関与している。
キーワード	プレゼンテーション、コミュニケーション、日本語表現、就職活動、キャリア支援、大学院進学、研究発表、社会人基礎力
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	学修(達成目標1-4)の到達度確認試験100%(中間テスト50%、最終評価試験50%)により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和・藤野薫/「文章スキルとプレゼン力」(緑版)/蜻文庫
関連科目	プレゼンテーション、文章表現法、文章表現法
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	非公開
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. 必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。 3. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。 4. 講義内容と自身の考えを文章にまとめる作業を行う。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2. 受講生同士で各自の演習について感想や考えを述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内の講評やディスカッションを通じて行う。 2. 中間テストや最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツアー取締役(総務・人事・広報担当) 2. 会社での経験を踏まえて、プレゼンテーションのポイントをわかりやすく、具体的に指導する。
その他(注意・備考)	1. 受講者数の上限を50名とする。 2. 受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3. 受講者は指示されたテキストを購入すること。 4. 講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、演習未消化・レポート未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。

科目名	ボランティア論 (FB208600)
英文科目名	Introduction to Volunteer
担当教員名	世良利和* (せらとしかず*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて解説する。受講生のボランティア体験についてディスカッションする。
2回	受講シートの記入に取り組み、ボランティアのイメージとその背景について考察する。
3回	ボランティアを行う動機とその具体的な事例について検証する。
4回	近代社会の成立とそれに付随する社会問題を概観し、近代的ボランティアの発生と歴史について解説する。
5回	ボランティアの具体的な事例を取り上げ、その問題点について検証する。
6回	ボランティアの特徴とその可能性について解説する。
7回	ボランティアをめぐる今後の課題を示し、中間テストについて説明する。
8回	中間テストを実施する。テスト終了後、テスト問題について解説する。
9回	後半の講義概要を説明し、ボランティアの現状についてディスカッションする。
10回	海外ボランティアの事例を取り上げ、その意義と問題点を分析する。
11回	ボランティアと報酬について考察し、報酬の定義と無償性の根拠、その問題点を分析する。
12回	ボランティアの事例を取り上げ、現場での様々な困難やトラブルの可能性を検証する。
13回	ボランティアをめぐる批判・反発・葛藤について考える。
14回	NPO (特定非営利活動) の歴史と法的根拠、組織について解説する。
15回	NPOの現状と問題点について考察する。最終評価試験について説明する。
16回	最終評価試験を実施する。試験終了後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1回	予習：必ずシラバスに目を通しておくこと。復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間15分)
2回	予習：自身のボランティアの体験やボランティアに対するイメージをまとめておくこと。復習：ボランティアについての多様なイメージ、視点を確認すること。(標準学習時間30分)
3回	予習：ボランティアに参加するきっかけについて考えておくこと。復習：講義で取り上げたボランティアの事例について整理すること。(標準学習時間45分)
4回	予習：近代社会の特徴と、ボランティアの発生・歴史について調べておくこと。復習：ボランティアの歴史を整理すること。(標準学習時間60分)
5回	予習：ボランティアの現状と問題点について考えておくこと。復習：講義で取上げたボランティアの事例について整理すること。(標準学習時間45周年分)
6回	予習：ボランティアの特徴について考えておくこと。復習：ボランティアを定義するさまざまな特徴を整理すること。(標準学習時間60分)
7回	予習：ボランティアの意義について考えておくこと。復習：講義で取り上げたボランティアの事例について整理すること。(標準学習時間60分)
8回	予習：ここまでの講義内容を整理し、中間テストの準備をすること。復習：中間テストについて自己点検すること。(標準学習時間120分)
9回	予習：ボランティアの現状について考えておくこと。復習：講義で取上げた事例についてまとめること。(標準学習時間30分)
10回	予習：海外ボランティアの制度について調べておくこと。復習：海外ボランティアの制度と現状を整理すること。(標準学習時間60分)
11回	予習：ボランティアの無償性について考えておくこと。復習：ボランティアの報酬についてまとめること。(標準学習時間60分)
12回	予習：ボランティアが直面する問題について考えておくこと。復習：講義で取り上げた事例についてまとめること。(標準学習時間60分)
13回	予習：ボランティアに対する批判について考えてくること。復習：ボランティアを受ける立場から見た問題点をまとめること。(標準学習時間60分)
14回	予習：NPOについて調べておくこと。復習：NPOの定義についてまとめること。(標準学習時間60分)
15回	予習：NPOの現状と問題点について考えておくこと。復習：NPOをめぐる諸問題と現代社会の仕組みを整理すること。(標準学習時間60分)
16回	予習：後半の講義内容を整理し、最終評価試験の準備をすること。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	被災地での支援活動や地域のコミュニティ活動など、現代社会においてボランティアが果たす役割の重要度は増しているが、その一方で安易なボランティア募集や活動現場でのトラブルも多発している。本講義ではボランティアの具体的な事例を取り上げながら、参加の動機や活動の背景を分析するとともに、ボランティアの歴史と特徴およびその意義について多角的に検証し、理解を深める。4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与している。
達成目標	1. ボランティアの語源と歴史を説明できる。 2. ボランティアに参加する多様な動機を説明できる。 3. ボランティアの現状と問題点、およびそれらの背景を説明できる。 4. ボランティアの特徴と意義を説明できる。 5. 上記1-4を踏まえ、ボランティアをめぐる諸問題についての考えを明確に述べることができる。 4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与している。
キーワード	ボランティア、NPO、社会貢献、フェアトレード、映画
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	学修（達成目標1-5）の到達度確認試験100%（中間テスト50%、最終評価試験50%）により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和 / 「ボランティアへの視線 - 映画を手がかりにして考える（改定版）」（ピンク版） / 靖文庫
関連科目	なし
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	非公表
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. ワークブック形式の部分は各自で予め調べておくこと。 3. ボランティアの事例等については、必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。 4. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。 5. 毎回、講義内容と自身の考えを文章にまとめる作業を行う。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2. ボランティアをめぐる各自の経験や考えを述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 中間テストと最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツアー取締役、現・NPO法人地域文化研究所代表理事 2. 企業による社会貢献活動の経験とNPO活動の経験を踏まえ、ボランティアをめぐる諸問題について講義する。
その他（注意・備考）	1. 受講者は必ず第1回目の講義に出席し、受講上の注意を確認すること。 2. 受講者は必ず指定されたテキストを用意すること。 3. 受講に際してボランティアへの賛否、経験の有無は問わない。 4. 講義中の飲食や私語、無断の入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばんに片付けること。 6. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、講義で課したレポートが未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 7. 100名程度を目安に受講制限を行うことがある。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9. 講義中の録音・録画・撮影は、プライバシー保護および著作権の観点から許可しない。

科目名	ボランティア論 (FB208610)
英文科目名	Introduction to Volunteer
担当教員名	世良利和* (せらとしかず*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて解説する。受講生のボランティア体験についてディスカッションする。
2回	受講シートの記入に取り組み、ボランティアのイメージとその背景について考察する。
3回	ボランティアを行う動機とその具体的な事例について検証する。
4回	近代社会の成立とそれに付随する社会問題を概観し、近代的ボランティアの発生と歴史について解説する。
5回	ボランティアの具体的な事例を取り上げ、その問題点について検証する。
6回	ボランティアの特徴とその可能性について解説する。
7回	ボランティアをめぐる今後の課題を示し、中間テストについて説明する。
8回	中間テストを実施する。テスト終了後、テスト問題について解説する。
9回	後半の講義概要を説明し、ボランティアの現状についてディスカッションする。
10回	海外ボランティアの事例を取り上げ、その意義と問題点を分析する。
11回	ボランティアと報酬について考察し、報酬の定義と無償性の根拠、その問題点を分析する。
12回	ボランティアの事例を取り上げ、現場での様々な困難やトラブルの可能性を検証する。
13回	ボランティアをめぐる批判・反発・葛藤について考える。
14回	NPO (特定非営利活動) の歴史と法的根拠、組織について解説する。
15回	NPOの現状と問題点について考察する。最終評価試験について説明する。
16回	最終評価試験を実施する。試験終了後、試験問題について解説する。

回数	準備学習
1回	予習：必ずシラバスに目を通しておくこと。復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間15分)
2回	予習：自身のボランティアの体験やボランティアに対するイメージをまとめておくこと。復習：ボランティアについての多様なイメージ、視点を確認すること。(標準学習時間30分)
3回	予習：ボランティアに参加するきっかけについて考えておくこと。復習：講義で取り上げたボランティアの事例について整理すること。(標準学習時間45分)
4回	予習：近代社会の特徴と、ボランティアの発生・歴史について調べておくこと。復習：ボランティアの歴史を整理すること。(標準学習時間60分)
5回	予習：ボランティアの現状と問題点について考えておくこと。復習：講義で取上げたボランティアの事例について整理すること。(標準学習時間45周年分)
6回	予習：ボランティアの特徴について考えておくこと。復習：ボランティアを定義するさまざまな特徴を整理すること。(標準学習時間60分)
7回	予習：ボランティアの意義について考えておくこと。復習：講義で取り上げたボランティアの事例について整理すること。(標準学習時間60分)
8回	予習：ここまでの講義内容を整理し、中間テストの準備をすること。復習：中間テストについて自己点検すること。(標準学習時間120分)
9回	予習：ボランティアの現状について考えておくこと。復習：講義で取上げた事例についてまとめること。(標準学習時間30分)
10回	予習：海外ボランティアの制度について調べておくこと。復習：海外ボランティアの制度と現状を整理すること。(標準学習時間60分)
11回	予習：ボランティアの無償性について考えておくこと。復習：ボランティアの報酬についてまとめること。(標準学習時間60分)
12回	予習：ボランティアが直面する問題について考えておくこと。復習：講義で取り上げた事例についてまとめること。(標準学習時間60分)
13回	予習：ボランティアに対する批判について考えてくること。復習：ボランティアを受ける立場から見た問題点をまとめること。(標準学習時間60分)
14回	予習：NPOについて調べておくこと。復習：NPOの定義についてまとめること。(標準学習時間60分)
15回	予習：NPOの現状と問題点について考えておくこと。復習：NPOをめぐる諸問題と現代社会の仕組みを整理すること。(標準学習時間60分)
16回	予習：後半の講義内容を整理し、最終評価試験の準備をすること。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	被災地での支援活動や地域のコミュニティ活動など、現代社会においてボランティアが果たす役割の重要度は増しているが、その一方で安易なボランティア募集や活動現場でのトラブルも多発している。本講義ではボランティアの具体的な事例を取り上げながら、参加の動機や活動の背景を分析するとともに、ボランティアの歴史と特徴およびその意義について多角的に検証し、理解を深める。4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与している。
達成目標	1. ボランティアの語源と歴史を説明できる。 2. ボランティアに参加する多様な動機を説明できる。 3. ボランティアの現状と問題点、およびそれらの背景を説明できる。 4. ボランティアの特徴と意義を説明できる。 5. 上記1-4を踏まえ、ボランティアをめぐる諸問題についての考えを明確に述べることができる。 4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与している。
キーワード	ボランティア、NPO、社会貢献、フェアトレード、映画
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	学修（達成目標1-5）の到達度確認試験100%（中間テスト50%、最終評価試験50%）により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和 / 「ボランティアへの視線 - 映画を手がかりにして考える（改定版）」（ピンク版） / 蜻蛉文庫
関連科目	なし
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	非公表
授業の運営方針	1. 講義は指定したテキストに沿って進める。 2. ワークブック形式の部分は各自で予め調べておくこと。 3. ボランティアの事例等については、必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。 4. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。 5. 毎回、講義内容と自身の考えを文章にまとめる作業を行う。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、アクティブ・ラーニング 1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。 2. ボランティアをめぐる各自の経験や考えを述べ合い、ディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。 2. 中間テストと最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。
実務経験のある教員	1. 元・株式会社ケーアイツアー取締役、現・NPO法人地域文化研究所代表理事 2. 企業による社会貢献活動の経験とNPO活動の経験を踏まえ、ボランティアをめぐる諸問題について講義する。
その他（注意・備考）	1. 受講者は必ず第1回目の講義に出席し、受講上の注意を確認すること。 2. 受講者は必ず指定されたテキストを用意すること。 3. 受講に際してボランティアへの賛否、経験の有無は問わない。 4. 講義中の飲食や私語、無断の入退室は禁じる。 5. 講義中は通信器機の電源を切り、かばんに片付けること。 6. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、講義で課したレポートが未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。 7. 100名程度を目安に受講制限を行うことがある。 8. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9. 講義中の録音・録画・撮影は、プライバシー保護および著作権の観点から許可しない。

科目名	ボランティア論 (FB208620)
英文科目名	Introduction to Volunteer
担当教員名	高原周一 (たかはらしゅういち), 猪口雅彦 (いのぐちまさひこ)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【中継】 なし 【教室内】 講義の概要について説明する。 (全教員)
2回	【中継】 テレビ会議システムを使ったライブ配信により、改めてこの講義の進め方等について説明する。(予定講師: 山陽学園大学・澁谷俊彦教授) 【教室内】 グループを決定し、グループ内で自己紹介を行う。自分が行ってきたボランティア活動の内容およびボランティア活動のイメージについて出し合う。 (全教員)
3回	【中継】 大学コンソーシアム岡山の地域貢献活動について紹介する。(予定講師: 岡山商科大学・大崎統一教授) 【教室内】 学生が参画する地域貢献活動の企画案をグループ内で出し合う。 (全教員)
4回	【中継】 岡山県下の様々な地域貢献ボランティア活動について紹介する。また、現代社会におけるボランティア活動の意義と魅力について説明する。(予定講師: ゆうあいセンター職員) 【教室内】 学生が参画する地域貢献活動の企画案についてグループごとに発表する。 (全教員)
5回	【中継】 大学コンソーシアム岡山主催の「日ようび子ども大学」について全体的な説明を行う。(予定講師: 岡山理科大学・高原周一教授) 【教室内】 「日ようび子ども大学」の改善案をグループ内で出し合う。 (全教員)
6回	【中継】 「日ようび子ども大学」での実践を学生が報告する(1回目)。 【教室内】 「日ようび子ども大学」の改善案をグループごとに発表する。 (全教員)
7回	【中継】 「日ようび子ども大学」での実践を学生が報告する(2回目)。「日ようび子ども大学」の改善案について他大学の学生も交えて討論する。 【教室内】 これまでの授業内容を振り返る。 (全教員)
8回	【中継】 岡山市のESD(持続可能な開発のための教育)活動について説明する。(予定講師: 岡山市役所市民協働局ESD推進課職員) 【教室内】 学生が参画するESD活動の企画案をグループ内で出し合う。 (全教員)
9回	【中継】 大学コンソーシアム岡山主催の「エコナイト」について全体的な説明をする。(予定講師: 山陽学園大学・澁谷俊彦教授) 【教室内】 学生が参画するESD活動の企画案をグループごとに発表する。 (全教員)
10回	【中継】 「エコナイト」での実践を学生が報告する(1回目)。 【教室内】 「エコナイト」に関する改善案をグループ内で出し合う。 (全教員)
11回	【中継】 「エコナイト」での実践を学生が報告する(2回目)。 【教室内】 「エコナイト」に関する改善案をグループごとに発表する。 (全教員)
12回	【中継】 災害復興支援ボランティアの取り組みと今後の課題について説明する。(1回目, 予定講師: 岡山経済同友会・黒住宗道氏)

	<p>【教室内】 災害復興支援および防災に役立つ企画案をグループ内で出し合う。</p> <p>(全教員)</p>
13回	<p>【中継】 災害復興支援ボランティアの取り組みと今後の課題について説明する。(2回目, 予定講師: NPO法人AMDA職員)</p> <p>【教室内】 AMDAの方との質疑応答を行う。感想をレポートにまとめる。 AMDAは岡山に本拠地を置く国際人道支援活動(主に保健医療関係)を行っているNPO法人で、東日本大震災復興支援活動も行っている。</p> <p>(全教員)</p>
14回	<p>【中継】 災害復興支援ボランティアに参加した学生が活動内容を報告する。</p> <p>【教室内】 災害復興支援および防災に役立つ企画案をグループごとに発表する。</p> <p>(全教員)</p>
15回	<p>【中継】 各大学で行われているボランティア・地域貢献活動について学生が発表する。</p> <p>【教室内】 学生でもできるボランティア・地域貢献活動をグループ内で出し合い、その結果をグループごとに発表する。</p> <p>(全教員)</p>
16回	<p>【中継】 受講学生の一言発表・教員一言まとめを行う。</p> <p>【教室内】 この講義についての良かった点、改善すべき点を出し合う。</p> <p>(全教員)</p>

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。大学コンソーシアム岡山についてインターネットで検索して調べておくこと。(標準学習時間30分)
2回	これまで自分が行ってきたボランティア活動についてまとめておくこと。ボランティア活動の経験がない人は、自分がボランティア活動に対して持っているイメージをまとめておくこと。(標準学習時間30分)
3回	学生が参画する地域貢献活動の企画案を考えておくこと。(標準学習時間30分)
4回	学生が参画する地域貢献活動の企画案について、グループ討議の内容も踏まえて再度考えておくこと。(標準学習時間30分)
5回	岡山県下の様々な地域貢献ボランティア活動について、インターネット等で調べておくこと。(標準学習時間60分)
6回	「日ようび子ども大学」の改善案について、グループ討議の内容も踏まえて再度考えておくこと。(標準学習時間30分)
7回	「日ようび子ども大学」の改善案について、他のグループの発表内容も踏まえて再度考えておくこと。(標準学習時間30分)
8回	ESD(持続可能な開発のための教育)について調べておくこと。(標準学習時間60分)
9回	改めてシラバスを読んでこれからの講義内容を把握しておくこと。各地で行われている様々なエコ啓発活動について、インターネット等で調べておくこと。(標準学習時間60分)
10回	「エコナイト」について復習しておくこと。各地で行われている様々なエコ啓発活動について、インターネット等で調べておくこと。(標準学習時間30分)
11回	「エコナイト」に関する改善案を検討しておくこと。(標準学習時間30分)
12回	東日本大震災および西日本豪雨の復興状況について、インターネット等で調べておくこと。(標準学習時間60分)
13回	AMDAについて、インターネット等で調べておくこと。(標準学習時間30分)
14回	災害復興支援および防災に役立つ企画案について、グループ討議の内容も踏まえて再度考えておくこと。(標準学習時間30分)
15回	学生でもできるボランティア・地域貢献活動について考えておくこと。(標準学習時間30分)
16回	これまでの講義で感じたことをまとめ、一言発表ができるようにしておくこと。(標準学習時間30分)

講義目的	<p>大学コンソーシアム岡山が行っている子ども・環境・災害復興等に関係した地域貢献ボランティア活動を紹介し、その改善案・新規提案を考える中で、ボランティア活動についての実践的な知識と参加意欲を高めることを目的とする。岡山県内の複数の大学(本学・岡山商科大学・山陽学園大学・中国学園大学)をテレビ会議システムで結び、双方向ライブ型遠隔授業として実施する。講義の内容は、4大学を中心に、大学コンソーシアム岡山が共同で制作する。前半は主に「日ようび子ども大学」を取り上げる。後半は主に「エコナイト」「災害復興支援」を取り上げる。</p> <p>4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与している。</p>
達成目標	<p>1. 大学コンソーシアム岡山がおこなっている地域貢献ボランティア活動について、その改善策も</p>

	しくは新規の企画を提案することができる。(C) 2. 地域貢献ボランティア活動に関心をもち、自分の感想・質問・意見を積極的に発言できる。(C) 4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与している。
キーワード	大学コンソーシアム岡山 地域貢献活動 ボランティア活動
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	毎回の授業で作成するレポートの内容85%(到達目標1を確認)、および発言の内容15%(到達目標2を確認)で評価する。
教科書	使用しない。
関連科目	ボランティア活動A・B
参考書	適宜指示する。
連絡先	高原周一: A1号館3階、takahara[アトマーク]ped.ous.ac.jp 猪口雅彦: A1号館7階、ino[アトマーク]dbc.ous.ac.jp
授業の運営方針	授業は毎週約50分間の共同制作・同時中継の時間帯(授業内容欄では【中継】と表記)と、その前後で教室内で40分おこなう大学独自の内容(授業内容欄では【教室内】と表記)の合わせて90分からなる。【中継】の時間帯には外部講師の講義を聞くとともに他大学の学生と大いに情報交換する。【教室内】の時間帯には主にグループ討議・発表などのアクティブ・ラーニングを行う。受講生自身が講義を作り上げていくという意識で、積極的に講義に参加すること。グループ討議を含むので、欠席は極力避けること。欠席する場合は事前に連絡すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク, ディスカッション, プレゼンテーション グループ討議・発表という形式でアクティブ・ラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	毎回の授業で提出するレポートに書かれた意見・質問については、次の講義で紹介し、質問については回答するという形でフィードバックを行う。発言についてはその場でフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	教養演習 (FB218300)
英文科目名	Seminar on Liberal Arts
担当教員名	高池久隆 (たかいけひさたか)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	テキストの概要について説明するとともに、授業の進め方、成績評価などについても説明する。
2回	哲学への誤解について議論する。
3回	哲学と日常について議論する。
4回	哲学の出発点について議論する。
5回	哲学と時間について議論する。
6回	哲学の歪みについて議論する。
7回	哲学の存在理由について議論する。
8回	中間的な評価をするためのテストを実施する。テスト終了後解説をする。
9回	哲学と二十世紀について議論する。
10回	哲学の知について議論する。
11回	哲学と教養について議論する。
12回	トランスサイエンスの時代について議論する。
13回	教養としての哲学について議論する。
14回	哲学の現場について議論する。
15回	方法への懐疑について議論する。
16回	学修の到達度確認テストを実施する。テスト終了後解説をする。

回数	準備学習
1回	シラバスを読み、教養関わる質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	テキストの1~14ページを読み、哲学への誤解について自らの考えをを整理しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	テキストの14~31ページを読み、哲学と日常について自らの考えをを整理しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	テキストの31~46ページを読み、哲学の出発点について自らの考えをを整理しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	テキストの46~57ページを読み、哲学と時間について自らの考えをを整理しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	テキストの57~70ページを読み、哲学の歪みについて自らの考えをを整理しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	テキストの71~81ページを読み、哲学の存在理由について自らの考えをを整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	テストの準備をすること。(標準学習時間120分)
9回	テキストの81~91ページを読み、哲学と二十世紀について自らの考えをを整理しておくこと。(標準学習時間120分)
10回	テキストの91~103ページを読み、哲学の知について自らの考えをを整理しておくこと。(標準学習時間120分)
11回	テキストの104~115ページを読み、哲学と教養について自らの考えをを整理しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	テキストの115~124ページを読み、トランスサイエンスの時代について自らの考えをを整理しておくこと。(標準学習時間120分)
13回	テキストの124~138ページを読み、教養としての哲学について自らの考えをを整理しておくこと。(標準学習時間120分)
14回	テキストの139~155ページを読み、哲学の現場について自らの考えをを整理しておくこと。(標準学習時間120分)
15回	テキストの155~163ページを読み、方法への懐疑について自らの考えをを整理しておくこと。(標準学習時間120分)
16回	テストの準備をすること。(標準学習時間120分)

講義目的	さまざまなことを調べ、発表や討論によって思考能力、表現能力の向上を目指す。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1)自分の考えを整理できる。 2)説得力のある発言を行なえる。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。

キーワード	討論、思考、表現
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	中間的な評価をするためのテスト（50％）（達成目標1,2を評価）、学修の到達度確認テスト（50％）（達成目標1,2を評価）により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	哲学の使い方 / 鷲田 清一 / 岩波新書 / 978-4-00-431500-1
関連科目	比較文化論、文学
参考書	適宜指示する。
連絡先	研究室：B 1号館 2階高池研究室 直通電話：086-256-9448 E-mail:takaike（アットマーク）dbc.ous.ac.jp オフィスアワー：火曜日 2時限
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・テストにおける不正行為に対して厳格に対処する。 ・やむを得ず早退する場合は、あらかじめ相談すること。無断早退が判明した場合は厳格に対処する。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション：テキストおよび新聞記事に基づき受講者による討論を行なう。
課題に対するフィードバック	中間的な評価をするためのテストおよび学修の到達度確認テストの終了後、フィードバックとして解説をする。
合理的配慮が必要な学生への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 ・講義中の録音 / 録画 / 撮影は原則認めない。特別の理由がある場合事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	教養演習 (FB218310)
英文科目名	Seminar on Liberal Arts
担当教員名	三木恒治 (みきこうじ)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	ガイダンス。講義の進め方について説明する。
2回	印象的な旅について手短かに語る。(1)
3回	印象的な旅について手短かに語る。(2)
4回	印象的な旅について手短かに語る。(3)
5回	岡山について語る(1)
6回	岡山について語る(2)
7回	岡山について語る(3)
8回	試験と話し方の基本的な手順について説明し、中間テストを実施する。
9回	グループに分かれて、特定のテーマについて発表する。(1)
10回	グループに分かれて、特定のテーマについて発表する。(2)
11回	グループに分かれて、特定のテーマについて発表する。(3)
12回	話を興味深いものにするための工夫について説明する。
13回	レジュメの作成方法について説明する。
14回	ディスカッション、5分間スピーチの要領について説明する。
15回	後半の総まとめを行う。
16回	到達度確認テストと今後の取り組みへの提言を行う。

回数	準備学習
1回	シラバスの内容を確認し、講義の主旨を把握しておくこと。
2回	自分の経験した旅について、話ができるように準備しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	自分の経験した旅について、話ができるように準備しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	自分の経験した旅について、話ができるように準備しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	自分の体験の範囲内で、「岡山」について話ができるように準備しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	自分の体験の範囲内で、「岡山」について話ができるように準備しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	自分の体験の範囲内で、「岡山」について話ができるように準備しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	これまでの話の進め方について、問題点を確認しておくこと。 中間テストに備えておくこと。(標準学習時間120分)
9回	グループ毎にテーマを決めて、それについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
10回	グループ毎にテーマを決めて、それについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
11回	グループ毎にテーマを決めて、それについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
12回	資料の作成方法、プレゼンテーションの方法について復習しておくこと。(標準学習時間120分)
13回	自分の関心のある分野、事象を扱った文献を調べてみる。(標準学習時間120分)
14回	レジュメの作成方法について復習しておくこと。
15回	これまでの学習を通じて、「自己表現能力」がどの程度身に付いたか、確認すること。(標準学習時間120分)
16回	到達度確認テストの準備をしておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	さまざまなことを調べ、発表や討論によって思考能力、表現能力の向上を目指す。4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 自分の考えを整理できること。 2) 説得力のある発言が行えること。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	「文化に触れる」「社会を知る」「自己を表現する」
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	中間テスト、学修の到達度確認テスト(50%×2)により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	プリント配布
関連科目	プレゼンテーション、
参考書	適宜指示します。

連絡先	A-2号館8階、内線4384 E-mail: miki (アットマーク) xmath.ous.ac.jp オフィスアワー：火曜3時限（春学期、秋学期とも）
授業の運営方針	受講マナーは守り、講義内で積極的に発言、発表をしてください。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、質問を中心に行う。
課題に対するフィードバック	プレゼンテーション終了後、その都度問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音/録画/撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	時事、文化に関する情報、知識を、書物等を通じて日頃から収集するよう心がけてください。 この講義は15～20名を前提としていますが、そうでない場合は講義内容が変更となる場合がありますので、ご注意ください。 また、初回は必ず出席してください。 受講者数の上限は50名とする。

科目名	教養演習 (FB218320)
英文科目名	Seminar on Liberal Arts
担当教員名	三木恒治 (みきこうじ)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	ガイダンス。講義の進め方について説明する。
2回	印象的な旅について手短かに語る。(1)
3回	印象的な旅について手短かに語る。(2)
4回	印象的な旅について手短かに語る。(3)
5回	岡山について語る(1)
6回	岡山について語る(2)
7回	岡山について語る(3)
8回	試験と話し方の基本的な手順について説明し、中間テストを実施する。
9回	グループに分かれて、特定のテーマについて発表する。(1)
10回	グループに分かれて、特定のテーマについて発表する。(2)
11回	グループに分かれて、特定のテーマについて発表する。(3)
12回	話を興味深いものにするための工夫について説明する。
13回	レジュメの作成方法について説明する。
14回	ディスカッション、5分間スピーチの要領について説明する。
15回	後半の総まとめを行う。
16回	到達度確認テストと今後の取り組みへの提言を行う。

回数	準備学習
1回	シラバスの内容を確認し、講義の主旨を把握しておくこと。
2回	自分の経験した旅について、話ができるように準備しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	自分の経験した旅について、話ができるように準備しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	自分の経験した旅について、話ができるように準備しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	自分の体験の範囲内で、「岡山」について話ができるように準備しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	自分の体験の範囲内で、「岡山」について話ができるように準備しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	自分の体験の範囲内で、「岡山」について話ができるように準備しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	これまでの話の進め方について、問題点を確認しておくこと。 中間テストに備えておくこと。(標準学習時間120分)
9回	グループ毎にテーマを決めて、それについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
10回	グループ毎にテーマを決めて、それについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
11回	グループ毎にテーマを決めて、それについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
12回	資料の作成方法、プレゼンテーションの方法について復習しておくこと。(標準学習時間120分)
13回	自分の関心のある分野、事象を扱った文献を調べてみる。(標準学習時間120分)
14回	レジュメの作成方法について復習しておくこと。
15回	これまでの学習を通じて、「自己表現能力」がどの程度身に付いたか、確認すること。(標準学習時間120分)
16回	到達度確認テストの準備をしておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	さまざまなことを調べ、発表や討論によって思考能力、表現能力の向上を目指す。4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
達成目標	1) 自分の考えを整理できること。 2) 説得力のある発言が行えること。 4領域の項目の「思考・判断・表現」にもっとも強く関与している。
キーワード	「文化に触れる」「社会を知る」「自己を表現する」
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	中間テスト、学修の到達度確認テスト(50%×2)により成績を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	プリント配布
関連科目	プレゼンテーション、
参考書	適宜指示します。

連絡先	A-2号館8階、内線4384 E-mail: miki (アットマーク) xmath.ous.ac.jp オフィスアワー：火曜3時限（春学期、秋学期とも）
授業の運営方針	受講マナーは守り、講義内で積極的に発言、発表をしてください。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、質問を中心に行う。
課題に対するフィードバック	プレゼンテーション終了後、その都度問題点を指摘し、的確なアドバイスを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音/録画/撮影などは、原則として認めません。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	時事、文化に関する情報、知識を、書物等を通じて日頃から収集するよう心がけてください。 この講義は15～20名を前提としていますが、そうでない場合は講義内容が変更となる場合がありますので、ご注意ください。 また、初回は必ず出席してください。 受講者数の上限は50名とする。

科目名	企業と人間 (FB218601)
英文科目名	Industry and Humans
担当教員名	世良利和* (せらとしかず*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて解説する。企業のイメージについてディスカッションする。
2回	資本主義について基本的な説明を行い、受講シートの記入に取り組む。
3回	企業とは何か。会社組織について基本的な説明を行い、職業の事例を紹介する。
4回	就活や雇用における日本的なシステムを分析する。
5回	企業の社会的責任について考え、職業の事例を紹介する。
6回	CSRの具体的な事例について検証し、職業の事例を紹介する。
7回	ISOが示す企業の姿について考察し、職業の事例を紹介する。中間テストについて説明する。
8回	中間テストを実施する。テストの終了後、テスト問題について解説する。
9回	後半の講義概要を説明し、企業や組織の不祥事についてディスカッションする。
10回	就職活動の現状と海外の就職事情について概観する。
11回	就活市場の仕組みを分析し、職業の事例を紹介する。
12回	食の安全と企業利益について考察し、職業の事例を紹介する。
13回	外国人労働者をめぐる問題について考察する。
14回	フランチャイズシステムを分析し、その現状と問題点を検証する。
15回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。最終評価試験について説明する。
16回	最終評価試験を実施し、試験終了後に試験問題について解説する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間15分)
2回	予習：資本主義の原理について調べておくこと。復習：資本主義の問題点をまとめること。(標準学習時間45分)
3回	予習：会社の組織について調べておくこと。復習：講義で取上げた事例についてまとめること。(標準学習時間45分)
4回	予習：日本の企業風土について調べておくこと。復習：日本のシステムについてまとめること。(標準学習時間45分)
5回	予習：企業倫理について考えておくこと。復習：講義で取上げた事例についてまとめること。(標準学習時間45分)
6回	予習：企業の社会的責任について考えておくこと。復習：CSRの事例をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
7回	予習：ISOについて調べておくこと。復習：講義で取上げた事例をまとめること。(標準学習時間45分)
8回	予習：ここまでの講義をまとめ、中間テストの準備をしておくこと。復習：中間テストを自己点検すること。(標準学習時間120分)
9回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：企業の不祥事についてまとめること。(標準学習時間30分)
10回	予習：就職活動について考えておくこと。復習：就職活動の現状についてまとめること。(標準学習時間45分)
11回	予習：日本の就職活動の問題点を考えておくこと。復習：講義で取上げた事例をまとめておくこと。(標準学習時間45分)
12回	予習：食をめぐる現状について考えておくこと。復習：食の安全についてまとめること。(標準学習時間45分)
13回	予習：外国人労働者について調べておくこと。復習：外国人労働者をめぐる問題についてまとめること。(標準学習時間45分)
14回	予習：フランチャイズシステムについて調べておくこと。復習：フランチャイズの問題点をまとめること。(標準学習時間60分)
15回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義で取上げた事例をまとめること。(標準学習時間60分)
16回	予習：後半の講義についてまとめ、最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	企業の本質とは何か。そして企業と個人はどのような関係を結ぶことになるのか。本講義ではこうした点に照準しながら、様々な職業や事例を取り上げて分析し、企業と人間をめぐる現状とあるべ
------	--

	<p>き姿について考察する。</p> <p>4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与する。</p>
達成目標	<p>1. 資本主義の原理と問題点を説明できる。</p> <p>2. 企業や組織の特性を説明できる。</p> <p>3. 企業と個人の関係について自身の意見を述べるができる。</p> <p>4. 上記1-3を踏まえ、キャリアデザインに取り組むことができる。</p> <p>4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与する。</p>
キーワード	企業、会社、組織、仕事、キャリアデザイン、就職活動
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	学修（達成目標1-4）の到達度確認試験100%（中間テスト50%、最終評価試験50%）により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和 / 「企業と人間」（黒版） / 蜻文庫
関連科目	ボランティア論、技術者の社会人基礎
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公開
授業の運営方針	<p>1. 講義は指定したテキストに沿って進める。</p> <p>2. ワークブック形式の部分は各自で予め調べておくこと。</p> <p>3. 企業や職業の事例等については、必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。</p> <p>4. 講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。</p> <p>5. 毎回、講義内容と自身の考えを文章にまとめる作業を行う。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>ディスカッション、アクティブ・ラーニング</p> <p>1. 講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。</p> <p>2. 企業や組織をめぐる各自の経験や考えを述べ合い、ディスカッションを行う。</p>
課題に対するフィードバック	<p>1. フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。</p> <p>2. 中間テストや最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>1. 本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。</p> <p>2. 講義中の録音・録画・撮影は許可しない。</p>
実務経験のある教員	<p>1. 元・株式会社ケーアイツ取締役</p> <p>2. 会社経営の経験を踏まえて、企業と人間をめぐる諸問題について講義する。</p>
その他（注意・備考）	<p>1. 受講者は必ず第1回目の講義に出席すること。</p> <p>2. 受講者は必ず指定されたテキストを用意すること。</p> <p>3. 講義中の飲食や私語、無断の入退室は禁じる。</p> <p>4. 講義中は通信器機の電源を切り、かばんに片付けること。</p> <p>5. 受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、講義で課したレポートが未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。</p> <p>6. 70名を目安に受講制限を行う。</p> <p>7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。</p> <p>8. 講義中の録音・録画・撮影は、プライバシー保護および著作権の観点から許可しない。</p>

科目名	企業と人間 (FB218602)
英文科目名	Industry and Humans
担当教員名	世良利和* (せらとしかず*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の目標と概要、進め方、受講上の注意、使用するテキストについて解説する。企業のイメージについてディスカッションする。
2回	資本主義について基本的な説明を行い、受講シートの記入に取り組む。
3回	企業とは何か。会社組織について基本的な説明を行い、職業の事例を紹介する。
4回	就活や雇用における日本的なシステムを分析する。
5回	企業の社会的責任について考え、職業の事例を紹介する。
6回	CSRの具体的な事例について検証し、職業の事例を紹介する。
7回	ISOが示す企業の姿について考察し、職業の事例を紹介する。中間テストについて説明する。
8回	中間テストを実施する。テストの終了後、テスト問題について解説する。
9回	後半の講義概要を説明し、企業や組織の不祥事についてディスカッションする。
10回	就職活動の現状と海外の就職事情について概観する。
11回	就活市場の仕組みを分析し、職業の事例を紹介する。
12回	食の安全と企業利益について考察し、職業の事例を紹介する。
13回	外国人労働者をめぐる問題について考察する。
14回	フランチャイズシステムを分析し、その現状と問題点を検証する。
15回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。最終評価試験について説明する。
16回	最終評価試験を実施し、試験終了後に試験問題について解説する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間15分)
2回	予習：資本主義の原理について調べておくこと。復習：資本主義の問題点をまとめること。(標準学習時間45分)
3回	予習：会社の組織について調べておくこと。復習：講義で取上げた事例についてまとめること。(標準学習時間45分)
4回	予習：日本の企業風土について調べておくこと。復習：日本のシステムについてまとめること。(標準学習時間45分)
5回	予習：企業倫理について考えておくこと。復習：講義で取上げた事例についてまとめること。(標準学習時間45分)
6回	予習：企業の社会的責任について考えておくこと。復習：CSRの事例をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
7回	予習：ISOについて調べておくこと。復習：講義で取上げた事例をまとめること。(標準学習時間45分)
8回	予習：ここまでの講義をまとめ、中間テストの準備をしておくこと。復習：中間テストを自己点検すること。(標準学習時間120分)
9回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：企業の不祥事についてまとめること。(標準学習時間30分)
10回	予習：就職活動について考えておくこと。復習：就職活動の現状についてまとめること。(標準学習時間45分)
11回	予習：日本の就職活動の問題点を考えておくこと。復習：講義で取上げた事例をまとめておくこと。(標準学習時間45分)
12回	予習：食をめぐる現状について考えておくこと。復習：食の安全についてまとめること。(標準学習時間45分)
13回	予習：外国人労働者について調べておくこと。復習：外国人労働者をめぐる問題についてまとめること。(標準学習時間45分)
14回	予習：フランチャイズシステムについて調べておくこと。復習：フランチャイズの問題点をまとめること。(標準学習時間60分)
15回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義で取上げた事例をまとめること。(標準学習時間60分)
16回	予習：後半の講義についてまとめ、最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	企業の本質とは何か。そして企業と個人はどのような関係を結ぶことになるのか。本講義ではこうした点に照準しながら、様々な職業や事例を取り上げて分析し、企業と人間をめぐる現状とあるべ
------	--

	<p>き姿について考察する。</p> <p>4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与する。</p>
達成目標	<p>1.資本主義の原理と問題点を説明できる。</p> <p>2.企業や組織の特性を説明できる。</p> <p>3.企業と個人の関係について自身の意見を述べるができる。</p> <p>4.上記1-3を踏まえ、キャリアデザインに取り組むことができる。</p> <p>4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与する。</p>
キーワード	企業、会社、組織、仕事、キャリアデザイン、就職活動
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	学修（達成目標1-4）の到達度確認試験100%（中間テスト50%、最終評価試験50%）により評価し、60%以上を合格とする。
教科書	世良利和 / 「企業と人間」（黒版） / 蜻文庫
関連科目	ボランティア論、技術者の社会人基礎
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	非公開
授業の運営方針	<p>1.講義は指定したテキストに沿って進める。</p> <p>2.ワークブック形式の部分は各自で予め調べておくこと。</p> <p>3.企業や職業の事例等については、必要に応じて映像資料や配布資料を用意する。</p> <p>4.講義にはディスカッションと質疑応答を取り入れ、受講生の積極的な発言を求める。</p> <p>5.毎回、講義内容と自身の考えを文章にまとめる作業を行う。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>ディスカッション、アクティブ・ラーニング</p> <p>1.講義は一方的な解説ではなく、テーマについて受講生が調べたことを発表し、質疑応答を行う。</p> <p>2.企業や組織をめぐる各自の経験や考えを述べ合い、ディスカッションを行う。</p>
課題に対するフィードバック	<p>1.フィードバックは講義内のディスカッションを通じて行う。</p> <p>2.中間テストや最終評価試験については、試験終了後に解説を行う。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>1.本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。</p> <p>2.講義中の録音・録画・撮影は許可しない。</p>
実務経験のある教員	<p>1.元・株式会社ケーアイツ取締役</p> <p>2.会社経営の経験を踏まえて、企業と人間をめぐる諸問題について講義する。</p>
その他（注意・備考）	<p>1.受講者は必ず第1回目の講義に出席すること。</p> <p>2.受講者は必ず指定されたテキストを用意すること。</p> <p>3.講義中の飲食や私語、無断の入退室は禁じる。</p> <p>4.講義中は通信器機の電源を切り、かばんに片付けること。</p> <p>5.受講マナーおよび講義中の指示が守れない場合や、講義で課したレポートが未提出の場合は「減点」または「評価不能」とする。</p> <p>6.70名を目安に受講制限を行う。</p> <p>7.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。</p> <p>8.講義中の録音・録画・撮影は、プライバシー保護および著作権の観点から許可しない。</p>

科目名	企業と人間 (FB218603)
英文科目名	Industry and Humans
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2回	* コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3回	* 「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4回	* より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5回	* コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6回	* 自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 * 社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけを学ぶ。
7回	* テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8回	中間まとめと中間評価試験
9回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
10回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
11回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
12回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
13回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
14回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
15回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
16回	* まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 次回講義までに 自己に不足しているコミュニケーションの知識と技術の不足部分の確認をしておくこと。(標準学習時間120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間120分)
3回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間120分)
5回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	第1回から第7回までの講義内容をよく理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
9回	前期講義で自覚した言葉遣い/手紙面での不足分の復習をしておくこと。 シラバスを再読し、後期の講義内容の目的を理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
10回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間120分)
11回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。

	(標準学習時間120分)
12回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間120分)
13回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間120分)
14回	配布資料を読んでおくこと。 (標準学習時間120分)
15回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間120分)
16回	これまでの講義内容の復習をしておくこと。 (標準学習時間120分)

講義目的	<p>社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。</p> <p>そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。</p> <p>また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。</p> <p>4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。</p>
達成目標	<p>自分の考えや意見を短い時間で正確にわかりやすく伝えることができる。</p> <p>ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。</p> <p>定型的なビジネス文書を作成することができる。</p> <p>ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。</p> <p>自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。</p> <p>4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。</p>
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	小テスト10%、中間評価試験45%、最終評価試験45%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	非公開を希望する
授業の運営方針	講師から提示される課題や事例研究などに積極的に取り組みことにより、各自の考え方の傾向や強みを自覚させる。仕事のやり方には正解が無いことに気付かせると同時に状況を把握する力や決断力、人間力の基礎を習得させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	<p>課題や試験問題に対する取り組み方や考え方、状況判断のポイントについて解説を行い、模範解答を示す。</p> <p>また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。</p> <p>講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。</p> <p>やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。</p>
実務経験のある教員	専門である人事全般(採用戦略、教育戦略、評価システム構築 及び ブランド戦略)に関する40年以上の経験を活かし具体的なビジネススキルの習得を目的とする講義を行う。
その他(注意・備考)	*参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。

科目名	企業と人間 (FB218604)
英文科目名	Industry and Humans
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2回	* コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3回	* 「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4回	* より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5回	* コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6回	* 自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 * 社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけを学ぶ。
7回	* テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8回	中間まとめと中間評価試験
9回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
10回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
11回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
12回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
13回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
14回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
15回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
16回	* まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 次回講義までに 自己に不足しているコミュニケーションの知識と技術の不足部分の確認をしておくこと。(標準学習時間120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間120分)
3回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間120分)
5回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	第1回から第7回までの講義内容をよく理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
9回	前期講義で自覚した言葉遣い/手紙面での不足分の復習をしておくこと。 シラバスを再読し、後期の講義内容の目的を理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
10回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間120分)
11回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。

	(標準学習時間120分)
12回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間120分)
13回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間120分)
14回	配布資料を読んでおくこと。 (標準学習時間120分)
15回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間120分)
16回	これまでの講義内容の復習をしておくこと。 (標準学習時間120分)

講義目的	<p>社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。</p> <p>そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。</p> <p>また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。</p> <p>4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。</p>
達成目標	<p>自分の考えや意見を短い時間で正確にわかりやすく伝えることができる。</p> <p>ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。</p> <p>定型的なビジネス文書を作成することができる。</p> <p>ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。</p> <p>自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。</p> <p>4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。</p>
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	小テスト10%、中間評価試験45%、最終評価試験45%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	非公開を希望する
授業の運営方針	講師から提示される課題や事例研究などに積極的に取り組みことにより、各自の考え方の傾向や強みを自覚させる。仕事のやり方には正解が無いことに気付かせると同時に状況を把握する力や決断力、人間力の基礎を習得させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	<p>課題や試験問題に対する取り組み方や考え方、状況判断のポイントについて解説を行い、模範解答を示す。</p> <p>また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。</p> <p>講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。</p> <p>やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。</p>
実務経験のある教員	専門である人事全般(採用戦略、教育戦略、評価システム構築 及び ブランド戦略)に関する40年以上の経験を活かし具体的なビジネススキルの習得を目的とする講義を行う。
その他(注意・備考)	*参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。

科目名	企業と人間 (FB218605)
英文科目名	Industry and Humans
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2回	* コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3回	* 「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4回	* より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5回	* コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6回	* 自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 * 社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使い分けを学ぶ。
7回	* テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8回	中間まとめと中間評価試験
9回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
10回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
11回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
12回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
13回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
14回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
15回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
16回	* まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 次回講義までに 自己に不足しているコミュニケーションの知識と技術の不足部分の確認をしておくこと。(標準学習時間120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間120分)
3回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間120分)
5回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	第1回から第7回までの講義内容をよく理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
9回	前期講義で自覚した言葉遣い/手紙面での不足分の復習をしておくこと。 シラバスを再読し、後期の講義内容の目的を理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
10回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間120分)
11回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。

	(標準学習時間120分)
12回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間120分)
13回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間120分)
14回	配布資料を読んでおくこと。 (標準学習時間120分)
15回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間120分)
16回	これまでの講義内容の復習をしておくこと。 (標準学習時間120分)

講義目的	<p>社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。</p> <p>そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。</p> <p>また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。</p> <p>4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。</p>
達成目標	<p>自分の考えや意見を短い時間で正確にわかりやすく伝えることができる。</p> <p>ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。</p> <p>定型的なビジネス文書を作成することができる。</p> <p>ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。</p> <p>自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。</p> <p>4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。</p>
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	小テスト10%、中間評価試験45%、最終評価試験45%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	非公開を希望する
授業の運営方針	講師から提示される課題や事例研究などに積極的に取り組みことにより、各自の考え方の傾向や強みを自覚させる。仕事のやり方には正解が無いことに気付かせると同時に状況を把握する力や決断力、人間力の基礎を習得させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	<p>課題や試験問題に対する取り組み方や考え方、状況判断のポイントについて解説を行い、模範解答を示す。</p> <p>また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。</p> <p>講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。</p> <p>やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。</p>
実務経験のある教員	専門である人事全般(採用戦略、教育戦略、評価システム構築 及び ブランド戦略)に関する40年以上の経験を活かし具体的なビジネススキルの習得を目的とする講義を行う。
その他(注意・備考)	*参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。

科目名	企業と人間 (FB218606)
英文科目名	Industry and Humans
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	* ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 * 文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
2回	* コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
3回	* 「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
4回	* より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
5回	* コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
6回	* 自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 * 社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、TPOに応じて使いわけを学ぶ。
7回	* テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
8回	中間まとめと中間評価試験
9回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
10回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
11回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
12回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
13回	* 事例 を取り上げ、読解力の向上を目指し、状況に応じた最適な判断をするための方法論を学ぶ。
14回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
15回	* 経営者のエピソード を通じて、マネジメント/リーダーシップ論を学ぶ。
16回	* まとめと最終評価試験

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 次回講義までに 自己に不足しているコミュニケーションの知識と技術の不足部分の確認をしておくこと。(標準学習時間120分)
2回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 (標準学習時間120分)
3回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	発表するエピソードを考えておくこと。(標準学習時間120分)
5回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	第1回から第7回までの講義内容をよく理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
9回	前期講義で自覚した言葉遣い/手紙面での不足分の復習をしておくこと。 シラバスを再読し、後期の講義内容の目的を理解しておくこと。 (標準学習時間120分)
10回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間120分)
11回	配布資料に目を通しておくこと。 ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。

	(標準学習時間120分)
12回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間120分)
13回	ケーススタディ事例をよく読み、状況を把握しておくこと。 (標準学習時間120分)
14回	配布資料を読んでおくこと。 (標準学習時間120分)
15回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間120分)
16回	これまでの講義内容の復習をしておくこと。 (標準学習時間120分)

講義目的	<p>社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要になってくる。</p> <p>そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニケーション力の向上も図る。</p> <p>また、自己の弱点と強みを認識できるようになれるように、配慮する。さらに、事例を通して経済知識を習得する機会や、優れた経営者/実業家のエピソードを通して仕事の仕方や生き方を考える機会も設ける。</p> <p>4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。</p>
達成目標	<p>自分の考えや意見を短い時間で正確にわかりやすく伝えることができる。</p> <p>ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。</p> <p>定型的なビジネス文書を作成することができる。</p> <p>ビジネス書が読める程度の経済用語を理解することができる。</p> <p>自分のなりたい社会人像を友達に3分間程度で説明することができる。</p> <p>4領域の項目の「知識・理解」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」にある程度関与。</p>
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ケーススタディ、マネジメント
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	小テスト10%、中間評価試験45%、最終評価試験45%により成績を判断し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	非公開を希望する
授業の運営方針	講師から提示される課題や事例研究などに積極的に取り組みことにより、各自の考え方の傾向や強みを自覚させる。仕事のやり方には正解が無いことに気付かせると同時に状況を把握する力や決断力、人間力の基礎を習得させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	<p>課題や試験問題に対する取り組み方や考え方、状況判断のポイントについて解説を行い、模範解答を示す。</p> <p>また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。</p>
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。</p> <p>講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。</p> <p>やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じ 録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講じる。</p>
実務経験のある教員	専門である人事全般(採用戦略、教育戦略、評価システム構築 及び ブランド戦略)に関する40年以上の経験を活かし具体的なビジネススキルの習得を目的とする講義を行う。
その他(注意・備考)	*参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。

科目名	キャリア形成講座 (FB218900)
英文科目名	Career Design
担当教員名	飯田哲司* (いいたてつし*), 桑田朋美* (くわたともみ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	<p>【キャリア形成と社会人基礎力】 キャリア形成とは何か、実社会で求められる社会人基礎力とは何かを確認する。</p> <p>(講座の概要：社会人基礎力の習得と応用力の強化を「実践的な課題」に基づく「講義」と「演習・ワーク」を通じて行い、即戦力人材としての基礎を固める)</p> <p>(演習形態：個人ワーク、ペアワーク、グループワーク、グループ対抗ワーク)</p> <p>(具体的に取り上げる社会的基礎力：「コミュニケーション力」「課題解決力」「チームワーク力」「自己肯定力」「思考力」「自己表現力」「アサーティブ力」「社会性」など)</p> <p>(全教員)</p>
2回	<p>【自分を知る・自己理解】 自己分析・自己診断チェックと体験型交流ワークを通じて、自己認識を深めるとともに自分の高め方・活かし方について理解する。</p> <p>(桑田 朋美*)</p>
3回	<p>【コミュニケーションの強化】 現代社会におけるコミュニケーションの意味・目的を知り、「話すこと」の基本と「表現力アップ」のための応用技術を体験ワークにより理解・習得する。</p> <p>(飯田 哲司*)</p>
4回	<p>【コミュニケーションの強化】 コミュニケーション能力のさらなる向上を目指し、「聴くこと」の基本と「相互理解・共有・協働」のスキルアップのための実践トレーニングを体験型スタイルで実施する。</p> <p>(桑田 朋美*)</p>
5回	<p>【社会が求める人材とは】 現代社会で求められる能力とは何かを知り、その能力の習得法と実践現場での活かし方について理解を深め、自分の「力」「武器」にする</p> <p>(飯田 哲司*)</p>
6回	<p>【キャリア形成新理論】 キャリアプランニングの考え方・方法の時代的变化を学び、これからのキャリア形成のあり方と自己実現・他者実現のための自分への活かし方を理解する。</p> <p>(飯田 哲司*)</p>
7回	<p>【印象マネジメント】 自己表現力の向上のための印象力マネジメントについて体験ワークを通じて学び、自己理解と自己認識を高めると共に表現力アップを理解・実践する。</p> <p>【中間レポート配布】 翌週に提出 (回収)</p> <p>(桑田 朋美*)</p>
8回	<p>【発想力養成トレーニング】 これから必須の能力要件として注目度の高い「発想力」「思考力 (特にラテラルシンキング) 」について、その強化法を学び、習得・活用のための実践的トレーニングを行う。</p> <p>(全教員)</p>
9回	<p>【チーム力の強化演習】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、「コンセンサス力 (合意力) 」の強化を目的に、課題解決力のための考え方と個働協働のあり方について理解する。</p> <p>(飯田 哲司*)</p>
10回	<p>【表現力・展開力の強化演習】 集団の中での自分の活かしかを知る基礎であるブレインストーミングを通じて、表現力・展開力・要約力と整理力の強化を図る演習を実施する。</p> <p>(桑田 朋美*)</p>
11回	<p>【チーム力の強化演習】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、「課題解決」のための考え方と個働協働のあり方について理解する。また時間管理の意識についても実践課題解決のなかから強化していく。</p>

	(飯田 哲司*)
1 2 回	【セルフコントロール】 協働で課題に取り組む際の自己コントロールについて理解を深め、ワークにより体感・体験する。あわせて周囲との意思疎通・報連相についての理解も深め、集団の中で行動する自分のスキルとマインドアップを考える。
	(桑田 朋美*)
1 3 回	【ビジネスマインド演習】 ビジネス現場ならびに対人マネジメントの分野で活かされる「ビジネス心理学(行動経済学)」「脳科学」「一般常識力」についての基礎を学び、その応用と展開策を実社会事例から研究する。
	(飯田 哲司*)
1 4 回	【目標達成のための行動計画】 自己目標の達成のための具体的な行動計画作成シートの作成を、発想展開ツールを用いて個働～協働のステップで実施する。またグループ内での行動宣言により自己肯定力の醸成・共有も図る。
	(飯田 哲司*)
1 5 回	【国際感覚を身につける】 人口問題・世界情勢をテーマに国際感覚の意識拡大と、課題発見のための視野・視点の拡大を図る。
	(飯田 哲司*)
1 6 回	【講座のまとめ・最終評価試験】 社会人基礎力の習得についての振り返りとキャリア形成に関する整理を行う。実社会で求められる人材となるための基礎力の習得度合いとステップアップの確認を課題解決テストにより最終チェックする。
	(全教員)

回数	準備学習
1 回	「実社会が求める能力・要件」について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
2 回	「自分らしさ」「自分の強み・弱み」について、自分なりの整理をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
3 回	ペアワークによる実践訓練体験を初歩から実施。積極的かつ前向きな姿勢で臨むこと。(標準学習時間 60分)
4 回	「相手主体」をベースにした関係性の強化について、自分なりの考えを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
5 回	「社会が求める力」「できる人材」のワードについて、その内容・具体的事例を自分なりに整理して臨むこと。(標準学習時間 60分)
6 回	自己のキャリア形成のうえで大きな要因となるものについて、自分なりのイメージをして臨むこと。(標準学習時間 60分)
7 回	「第一印象」「印象管理」の持つ意味・効果について、自分なりのイメージ・考えを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
8 回	自分の持つ「発想力」のクセ・特徴・発揮の仕方について、自分なりの整理をして除くこと。(標準学習時間 60分)
9 回	「合意力」の強化と共に、「タイムマネジメント」の意識強化も図ります。社会人にとっての「時間」「時間管理」について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 0 回	チームワーク力の基礎を学びます。集団の中での自分の位置・役割を知る意味でもより積極的な姿勢で臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 1 回	チームで課題を解決するうえで必要なこと、意識すべきこと、取るべき行動のイメージを、自分なりに整理して臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 2 回	自分をコントロールするとはどういうことが、自分なりのイメージをもって臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 3 回	「行動経済学」「ビジネス心理学」のワードについて、自分なりの理解をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 4 回	達成したい目標(短期目標・長期目標)とその達成のための行動イメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 5 回	海を越えた意識・感覚について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 6 回	【講座のまとめ・最終評価試験】 社会人基礎力の習得についての振り返りとキャリア形成に関する整理を行う。実社会で求められる人材となるための基礎力の習得度合いとステップアップの確認を課題解決テストにより最終チェックする。

講義目的	・社会で必要とされる力(コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力) を実践
------	--

	<p>的な演習を通じて習得する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的ワークを通じて、主張力・傾聴力・展開力を徹底強化する ・就活対策のみならず、社会人となった以降に役立つ生涯キャリア形成の意識と実践力について学ぶ <p>4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与。「思考・判断・表現」にある程度関与。</p>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション力、課題解決力、自己表現等のレベルアップを、ペアワークおよび演習を通じて実現することができる。 ・自己分析と自己理解について、個働と協働の両視点から実施し、答え・課題等をつかむことができる。 ・発想～会議～プレゼン～検証の過程から、実社会での企画展開を体験し、自分の個性・特徴・強み・弱みを知ることができる。 <p>4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与。「思考・判断・表現」にある程度関与。</p>
キーワード	社会人基礎力、コミュニケーション力、課題解決力、自己表現力、自己分析・自己理解、偶発的行動論、セルフコントロール、企画発想、アサーティブ、自己肯定力
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・毎回のレポート 60%・課題ワークへの取り組み姿勢 20%・中間レポートと最終課題レポート 20%
教科書	毎回プリントを配布
関連科目	キャリア形成講座
参考書	必要に応じて講義内で連絡
連絡先	教務課を經由で
授業の運営方針	<p>【実践的・体験型授業】</p> <p>講義：実社会で起こる現場事例と課題を題材に、参加型講義を実施</p> <p>演習：個人ワーク、ペアワーク、グループワークをステップアップ型の演習により徹底</p> <p>*アクティブラーニング手法により、自主性・行動力・思考力・自己肯定力の向上を図ります。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>アクティブラーニング</p> <p>【実施具体例】 伝達力チェック、自己紹介～質問ワーク、セールストーク演習、洞察力チェック、印象マネジメント演習、価値観診断、行動特性診断、セルフコントロール演習、適性検査、ブレインストーミング、発想力チェッククイズ、行動経済学応用ワーク、課題解決ワーク、合意力形成ワーク、マンダラート法、リフレーミング演習</p>
課題に対するフィードバック	提出課題（中間レポート）については講義中に連絡・指示
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。</p> <p>講義中の録音・録画・撮影は不可</p>
実務経験のある教員	<p>飯田哲司： 元生命保険会社 管理職、元教育企業（ベネッセ）管理職・役員秘書、元中国短期大学 教授、元ベンチャー企業 取締役、現大阪経済大学 教授</p> <p>桑田朋美： 元メーカー（オムロン岡山）人事部、現社会保険労務士事務所 代表、特定社会保険労務士、香川大学 非常勤講師</p> <p>社会で必要とされる力（コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力） について講義を行う。</p>
その他（注意・備考）	受講者数の上限を50名とする。

科目名	キャリア形成講座 (FB218910)
英文科目名	Career Design
担当教員名	飯田哲司* (いいたてつし*), 桑田朋美* (くわたともみ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	<p>【キャリア形成と社会人基礎力】 キャリア形成とは何か、実社会で求められる社会人基礎力とは何かを確認する。</p> <p>(講座の概要：社会人基礎力の習得と応用力の強化を「実践的な課題」に基づく「講義」と「演習・ワーク」を通じて行い、即戦力人材としての基礎を固める)</p> <p>(演習形態：個人ワーク、ペアワーク、グループワーク、グループ対抗ワーク)</p> <p>(具体的に取り上げる社会的基礎力：「コミュニケーション力」「課題解決力」「チームワーク力」「自己肯定力」「思考力」「自己表現力」「アサーティブ力」「社会性」など)</p> <p>(全教員)</p>
2回	<p>【自分を知る・自己理解】 自己分析・自己診断チェックと体験型交流ワークを通じて、自己認識を深めるとともに自分の高め方・活かし方について理解する。</p> <p>(桑田 朋美*)</p>
3回	<p>【コミュニケーションの強化】 現代社会におけるコミュニケーションの意味・目的を知り、「話すこと」の基本と「表現力アップ」のための応用技術を体験ワークにより理解・習得する。</p> <p>(飯田 哲司*)</p>
4回	<p>【コミュニケーションの強化】 コミュニケーション能力のさらなる向上を目指し、「聴くこと」の基本と「相互理解・共有・協働」のスキルアップのための実践トレーニングを体験型スタイルで実施する。</p> <p>(桑田 朋美*)</p>
5回	<p>【社会が求める人材とは】 現代社会で求められる能力とは何かを知り、その能力の習得法と実践現場での活かし方について理解を深め、自分の「力」「武器」にする</p> <p>(飯田 哲司*)</p>
6回	<p>【キャリア形成新理論】 キャリアプランニングの考え方・方法の時代的变化を学び、これからのキャリア形成のあり方と自己実現・他者実現のための自分への活かし方を理解する。</p> <p>(飯田 哲司*)</p>
7回	<p>【印象マネジメント】 自己表現力の向上のための印象力マネジメントについて体験ワークを通じて学び、自己理解と自己認識を高めると共に表現力アップを理解・実践する。</p> <p>【中間レポート配布】 翌週に提出 (回収)</p> <p>(桑田 朋美*)</p>
8回	<p>【発想力養成トレーニング】 これから必須の能力要件として注目度の高い「発想力」「思考力 (特にラテラルシンキング) 」について、その強化法を学び、習得・活用のための実践的トレーニングを行う。</p> <p>(飯田 哲司*)</p>
9回	<p>【チーム力の強化演習】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、「コンセンサス力 (合意力) 」の強化を目的に、課題解決力のための考え方と個働協働のあり方について理解する。</p> <p>(全教員)</p>
10回	<p>【表現力・展開力の強化演習】 集団の中での自分の活かしかを知る基礎であるブレインストーミングを通じて、表現力・展開力・要約力と整理力の強化を図る演習を実施する。</p> <p>(桑田 朋美*)</p>
11回	<p>【チーム力の強化演習】 企業内研修でも実施されるチームワーク力強化ワークを体験し、「課題解決」のための考え方と個働協働のあり方について理解する。また時間管理の意識についても実践課題解決のなかから強化していく。</p>

	(飯田 哲司*)
1 2 回	【セルフコントロール】 協働で課題に取り組む際の自己コントロールについて理解を深め、ワークにより体感・体験する。あわせて周囲との意思疎通・報連相についての理解も深め、集団の中で行動する自分のスキルとマインドアップを考える。
	(桑田 朋美*)
1 3 回	【ビジネスマインド演習】 ビジネス現場ならびに対人マネジメントの分野で活かされる「ビジネス心理学(行動経済学)」「脳科学」「一般常識力」についての基礎を学び、その応用と展開策を実社会事例から研究する。
	(飯田 哲司*)
1 4 回	【目標達成のための行動計画】 自己目標の達成のための具体的な行動計画作成シートの作成を、発想展開ツールを用いて個働～協働のステップで実施する。またグループ内での行動宣言により自己肯定力の醸成・共有も図る。
	(飯田 哲司*)
1 5 回	【国際感覚を身につける】 人口問題・世界情勢をテーマに国際感覚の意識拡大と、課題発見のための視野・視点の拡大を図る。
	(飯田 哲司*)
1 6 回	【講座のまとめ・最終評価試験】 社会人基礎力の習得についての振り返りとキャリア形成に関する整理を行う。実社会で求められる人材となるための基礎力の習得度合いとステップアップの確認を課題解決テストにより最終チェックする。
	(全教員)

回数	準備学習
1 回	「実社会が求める能力・要件」について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
2 回	「自分らしさ」「自分の強み・弱み」について、自分なりの整理をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
3 回	ペアワークによる実践訓練体験を初歩から実施。積極的かつ前向きな姿勢で臨むこと。(標準学習時間 60分)
4 回	「相手主体」をベースにした関係性の強化について、自分なりの考えを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
5 回	「社会が求める力」「できる人材」のワードについて、その内容・具体的事例を自分なりに整理して臨むこと。(標準学習時間 60分)
6 回	自己のキャリア形成のうえで大きな要因となるものについて、自分なりのイメージをして臨むこと。(標準学習時間 60分)
7 回	「第一印象」「印象管理」の持つ意味・効果について、自分なりのイメージ・考えを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
8 回	自分の持つ「発想力」のクセ・特徴・発揮の仕方について、自分なりの整理をして除くこと。(標準学習時間 60分)
9 回	「合意力」の強化と共に、「タイムマネジメント」の意識強化も図ります。社会人にとっての「時間」「時間管理」について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 0 回	チームワーク力の基礎を学びます。集団の中での自分の位置・役割を知る意味でもより積極的な姿勢で臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 1 回	チームで課題を解決するうえで必要なこと、意識すべきこと、取るべき行動のイメージを、自分なりに整理して臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 2 回	自分をコントロールするとはどういうことが、自分なりのイメージをもって臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 3 回	「行動経済学」「ビジネス心理学」のワードについて、自分なりの理解をして臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 4 回	達成したい目標(短期目標・長期目標)とその達成のための行動イメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 5 回	海を越えた意識・感覚について、自分なりのイメージを持って臨むこと。(標準学習時間 60分)
1 6 回	【講座のまとめ・最終評価試験】 社会人基礎力の習得についての振り返りとキャリア形成に関する整理を行う。実社会で求められる人材となるための基礎力の習得度合いとステップアップの確認を課題解決テストにより最終チェックする。

講義目的	・社会で必要とされる力(コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力) を実践
------	--

	<p>的な演習を通じて習得する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的ワークを通じて、主張力・傾聴力・展開力を徹底強化する ・就活対策のみならず、社会人となった以降に役立つ生涯キャリア形成の意識と実践力について学ぶ <p>4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与。「思考・判断・表現」にある程度関与。</p>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション力、課題解決力、自己表現等のレベルアップを、ペアワークおよび演習を通じて実現することができる。 ・自己分析と自己理解について、個働と協働の両視点から実施し、答え・課題等をつかむことができる。 ・発想～会議～プレゼン～検証の過程から、実社会での企画展開を体験し、自分の個性・特徴・強み・弱みを知ることができる。 <p>4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与。「思考・判断・表現」にある程度関与。</p>
キーワード	社会人基礎力、コミュニケーション力、課題解決力、自己表現力、自己分析・自己理解、偶発的行動論、セルフコントロール、企画発想、アサーティブ、自己肯定力
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・毎回のレポート 60%・課題ワークへの取り組み姿勢 20%・中間レポートと最終課題レポート 20%
教科書	毎回プリントを配布
関連科目	キャリア形成講座
参考書	必要に応じて講義内で連絡
連絡先	教務課を經由で
授業の運営方針	<p>【実践的・体験型授業】</p> <p>講義：実社会で起こる現場事例と課題を題材に、参加型講義を実施</p> <p>演習：個人ワーク、ペアワーク、グループワークをステップアップ型の演習により徹底</p> <p>*アクティブラーニング手法により、自主性・行動力・思考力・自己肯定力の向上を図ります。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>アクティブラーニング</p> <p>【実施具体例】 伝達力チェック、自己紹介～質問ワーク、セールストーク演習、洞察力チェック、印象マネジメント演習、価値観診断、行動特性診断、セルフコントロール演習、適性検査、ブレインストーミング、発想力チェッククイズ、行動経済学応用ワーク、課題解決ワーク、合意力形成ワーク、マンダラート法、リフレーミング演習</p>
課題に対するフィードバック	提出課題（中間レポート）については講義中に連絡・指示
合理的配慮が必要な学生への対応	<p>本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。</p> <p>講義中の録音・録画・撮影は不可</p>
実務経験のある教員	<p>飯田哲司： 元生命保険会社 管理職、元教育企業（ベネッセ）管理職・役員秘書、元中国短期大学 教授、元ベンチャー企業 取締役、現大阪経済大学 教授</p> <p>桑田朋美： 元メーカー（オムロン岡山）人事部、現社会保険労務士事務所 代表、特定社会保険労務士、香川大学 非常勤講師</p> <p>社会で必要とされる力（コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力） について講義を行う。</p>
その他（注意・備考）	受講者数の上限を50名とする。

科目名	学びの基礎論 (FB219200)
英文科目名	Introduction to Life Long Learning
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 本講義の概要と進め方について、シラバスを確認しながら行う。また、評価方法についても説明する。
2回	アイスブレイクと仲間作り アクティブラーニング型の授業のため、グループでの活動を円滑にするための仲間づくりを行う。
3回	目標設定 学びの目的を考えながら、大学での目標を設定する。 4年間の大学生活をイメージし、4年間の学びの計画表を作成する。また、課外での学びについても計画表を作成する。
4回	タイムマネジメント 目標を達成するための時間の使い方について考える。
5回	大学での学び 学ぶことの意義や学び方について説明する。
6回	ノートティキング ノートの取り方について検討し、ノートを取る意味について考え、情報を能動的に受け取る姿勢について説明する。
7回	リーディングスキル 効率よく読む方法について説明する。
8回	振り返りの仕方 3回目で設定した目標がどこまで達成できているかどうかを点検するために、振り返りの仕方を学ぶ
9回	図書館の活用の仕方 情報収集の概念と大学における図書館の利用方法について説明する。
10回	本のレビューとレコメンド 本を読んだ評価を他の学生に情報として伝える批評・評論(レビュー)と推薦文(レコメンド)について説明する。
11回	アカデミックライティング レポートとは何か、レポートの作成手順について説明する。
12回	効果的なアカデミックライティング 分かりやすい文および分かりやすい表現方法を説明する。
13回	わかりやすいプレゼンテーションのために プレゼンテーションの基本スキルについて説明する。
14回	プレゼンテーションスライドの作成
15回	課題発表と振り返り プレゼンテーションを行い、ピア・レビューを実践する。
16回	課題発表と振り返り プレゼンテーションを行い、ピア・レビューを実践する。

回数	準備学習
1回	予習として、シラバスを確認して講義の目的を理解すること。また、大学で学ぶ意義について、自分の夢や目標を踏まえつつ、考えておくこと(標準学修時間60分)
2回	グループ活動において、これまでどのような役割を担ってきたのか、理由とともに考えておくこと。(標準学修時間60分)
3回	4年間にどのようなことを学びたいのか、どんな資格が取りたいのかをまとめておくこと。(標準学修時間60分)
4回	目標を達成するために、どのように時間を使うべきかを考えておくこと。(標準学修時間60分)
5回	大学生活を送るうえで、大切にしていることを理由とともに考えておくこと。(標準学修時間60分)
6回	これまでの授業において、どのような方法で情報を受け取っているかを振り返っておくこと。(標準学修時間60分)
7回	配布資料を読んで、内容を理解しておくこと。(標準学修時間60分)
8回	3回目で設定した目標を確認しておくこと。(標準学修時間60分)

9回	図書館に行き、OPAC検索を行い、関心がある書籍を1冊借り、読んでおくこと。(標準学修時間120分)
10回	読んだ本の要点をまとめておくこと。(標準学修時間120分)
11回	与えたテーマから、レポートを作成しておくこと。(標準学修時間120分)
12回	11回目で学習したことを参考に、修正したレポートを作成すること。(標準学修時間120分)
13回	予習として、岡山理科大学について、図書館やインターネット上の資料を使って調べてくる。また、その内容を整理しておくこと(標準学修時間120分)
14回	予習として、前回の内容を文章にまとめてくる。なお、この文章を使ってスライドを作成することに留意すること(標準学修時間120分)
15回	決められた手順と制限時間に従って、発表ができるように予習しておくこと(標準学修時間120分)
16回	決められた手順と制限時間に従って、発表ができるように予習しておくこと(標準学修時間120分)

講義目的	新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機づけを行うとともに、基礎的な学習技術を修得させることである。 (4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与)
達成目標	生涯にわたる学びや大学で学ぶ意義について理解し、実践につなげることができる。 これまでの経験を意味づけし、将来に向けて自分のキャリアの目標設定ができる。 第三者が読んで理解しやすく、説得力ある文章を書くことができる。 相手の発言を聞き取り、把握した上で自分の意見を明確に主張することができる。 グループワークにおいて積極的にコミュニケーションをとり、円滑な人間関係を築くことができる。 自分の考えをまとめ、プレゼンテーションすることができる。 (4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与)
キーワード	学び、キャリア設計、コミュニケーション、アカデミックスキル
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	課題(ワークシート等)への取り組み(30%)レポート(35%)課題研究発表(35%)より成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
関連科目	地域フィールドスタディ、文章表現法、プレゼンテーション
参考書	適宜指示する。
連絡先	松尾研究室:matsuo@are.ous.ac.jp オフィスアワーについては、mylogを参照のこと。
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・5回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・課題発表、グループワークの欠席の場合は、その時点で評価対象としない。 ・1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源を切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の資料配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・授業外学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートをまとめ、演習に取り組むこと。 ・課題提出物において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型授業であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	学びの基礎論 (FB219210)
英文科目名	Introduction to Life Long Learning
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 本講義の概要と進め方について、シラバスを確認しながら行う。また、評価方法についても説明する。
2回	アイスブレイクと仲間作り アクティブラーニング型の授業のため、グループでの活動を円滑にするための仲間づくりを行う。
3回	目標設定 学びの目的を考えながら、大学での目標を設定する。 4年間の大学生活をイメージし、4年間の学びの計画表を作成する。また、課外での学びについても計画表を作成する。
4回	タイムマネジメント 目標を達成するための時間の使い方について考える。
5回	大学での学び 学ぶことの意義や学び方について説明する。
6回	ノートティキング ノートの取り方について検討し、ノートを取る意味について考え、情報を能動的に受け取る姿勢について説明する。
7回	リーディングスキル 効率よく読む方法について説明する。
8回	振り返りの仕方 3回目で設定した目標がどこまで達成できているかどうかを点検するために、振り返りの仕方を学ぶ
9回	図書館の活用の仕方 情報収集の概念と大学における図書館の利用方法について説明する。
10回	本のレビューとレコメンド 本を読んだ評価を他の学生に情報として伝える批評・評論(レビュー)と推薦文(レコメンド)について説明する。
11回	アカデミックライティング レポートとは何か、レポートの作成手順について説明する。
12回	効果的なアカデミックライティング 分かりやすい文および分かりやすい表現方法を説明する。
13回	わかりやすいプレゼンテーションのために プレゼンテーションの基本スキルについて説明する。
14回	プレゼンテーションスライドの作成
15回	課題発表と振り返り プレゼンテーションを行い、ピア・レビューを実践する。
16回	課題発表と振り返り プレゼンテーションを行い、ピア・レビューを実践する。

回数	準備学習
1回	予習として、シラバスを確認して講義の目的を理解すること。また、大学で学ぶ意義について、自分の夢や目標を踏まえつつ、考えておくこと(標準学修時間60分)
2回	グループ活動において、これまでどのような役割を担ってきたのか、理由とともに考えておくこと。(標準学修時間60分)
3回	4年間にどのようなことを学びたいのか、どんな資格が取りたいのかをまとめておくこと。(標準学修時間60分)
4回	目標を達成するために、どのように時間を使うべきかを考えておくこと。(標準学修時間60分)
5回	大学生活を送るうえで、大切にしていることを理由とともに考えておくこと。(標準学修時間60分)
6回	これまでの授業において、どのような方法で情報を受け取っているかを振り返っておくこと。(標準学修時間60分)
7回	配布資料を読んで、内容を理解しておくこと。(標準学修時間60分)
8回	3回目で設定した目標を確認しておくこと。(標準学修時間60分)

9回	図書館に行き、OPAC検索を行い、関心がある書籍を1冊借り、読んでおくこと。(標準学修時間120分)
10回	読んだ本の要点をまとめておくこと。(標準学修時間120分)
11回	与えたテーマから、レポートを作成しておくこと。(標準学修時間120分)
12回	11回目で学習したことを参考に、修正したレポートを作成すること。(標準学修時間120分)
13回	予習として、岡山理科大学について、図書館やインターネット上の資料を使って調べてくる。また、その内容を整理しておくこと(標準学修時間120分)
14回	予習として、前回の内容を文章にまとめてくる。なお、この文章を使ってスライドを作成することに留意すること(標準学修時間120分)
15回	決められた手順と制限時間に従って、発表ができるように予習しておくこと(標準学修時間120分)
16回	決められた手順と制限時間に従って、発表ができるように予習しておくこと(標準学修時間120分)

講義目的	新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機づけを行うとともに、基礎的な学習技術を修得させることである。 (4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与)
達成目標	生涯にわたる学びや大学で学ぶ意義について理解し、実践につなげることができる。 これまでの経験を意味づけし、将来に向けて自分のキャリアの目標設定ができる。 第三者が読んで理解しやすく、説得力ある文章を書くことができる。 相手の発言を聞き取り、把握した上で自分の意見を明確に主張することができる。 グループワークにおいて積極的にコミュニケーションをとり、円滑な人間関係を築くことができる。 自分の考えをまとめ、プレゼンテーションすることができる。 (4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与)
キーワード	学び、キャリア設計、コミュニケーション、アカデミックスキル
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	課題(ワークシート等)への取り組み(30%)レポート(35%)課題研究発表(35%)より成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
関連科目	地域フィールドスタディ、文章表現法、プレゼンテーション
参考書	適宜指示する。
連絡先	松尾研究室:matsuo@are.ous.ac.jp オフィスアワーについては、mylogを参照のこと。
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・5回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・課題発表、グループワークの欠席の場合は、その時点で評価対象としない。 ・1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源を切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の資料配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・授業外学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートをまとめ、演習に取り組むこと。 ・課題提出物において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型授業であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	学びの基礎論 (FB219220)
英文科目名	Introduction to Life Long Learning
担当教員名	松尾美香 (まつおみか)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 本講義の概要と進め方について、シラバスを確認しながら行う。また、評価方法についても説明する。
2回	アイスブレイクと仲間作り アクティブラーニング型の授業のため、グループでの活動を円滑にするための仲間づくりを行う。
3回	目標設定 学びの目的を考えながら、大学での目標を設定する。 4年間の大学生活をイメージし、4年間の学びの計画表を作成する。また、課外での学びについても計画表を作成する。
4回	タイムマネジメント 目標を達成するための時間の使い方について考える。
5回	大学での学び 学ぶことの意義や学び方について説明する。
6回	ノートテイキング ノートの取り方について検討し、ノートを取る意味について考え、情報を能動的に受け取る姿勢について説明する。
7回	リーディングスキル 効率よく読む方法について説明する。
8回	振り返りの仕方 3回目で設定した目標がどこまで達成できているかどうかを点検するために、振り返りの仕方を学ぶ
9回	図書館の活用の仕方 情報収集の概念と大学における図書館の利用方法について説明する。
10回	本のレビューとレコメンド 本を読んだ評価を他の学生に情報として伝える批評・評論(レビュー)と推薦文(レコメンド)について説明する。
11回	アカデミックライティング レポートとは何か、レポートの作成手順について説明する。
12回	効果的なアカデミックライティング 分かりやすい文および分かりやすい表現方法を説明する。
13回	わかりやすいプレゼンテーションのために プレゼンテーションの基本スキルについて説明する。
14回	プレゼンテーションスライドの作成
15回	課題発表と振り返り プレゼンテーションを行い、ピア・レビューを実践する。
16回	課題発表と振り返り プレゼンテーションを行い、ピア・レビューを実践する。

回数	準備学習
1回	予習として、シラバスを確認して講義の目的を理解すること。また、大学で学ぶ意義について、自分の夢や目標を踏まえつつ、考えておくこと(標準学修時間60分)
2回	グループ活動において、これまでどのような役割を担ってきたのか、理由とともに考えておくこと。(標準学修時間60分)
3回	4年間にどのようなことを学びたいのか、どんな資格が取りたいのかをまとめておくこと。(標準学修時間60分)
4回	目標を達成するために、どのように時間を使うべきかを考えておくこと。(標準学修時間60分)
5回	大学生活を送るうえで、大切にしていることを理由とともに考えておくこと。(標準学修時間60分)
6回	これまでの授業において、どのような方法で情報を受け取っているかを振り返っておくこと。(標準学修時間60分)
7回	配布資料を読んで、内容を理解しておくこと。(標準学修時間60分)
8回	3回目で設定した目標を確認しておくこと。(標準学修時間60分)

9回	図書館に行き、OPAC検索を行い、関心がある書籍を1冊借り、読んでおくこと。(標準学修時間120分)
10回	読んだ本の要点をまとめておくこと。(標準学修時間120分)
11回	与えたテーマから、レポートを作成しておくこと。(標準学修時間120分)
12回	11回目で学習したことを参考に、修正したレポートを作成すること。(標準学修時間120分)
13回	予習として、岡山理科大学について、図書館やインターネット上の資料を使って調べてくる。また、その内容を整理しておくこと(標準学修時間120分)
14回	予習として、前回の内容を文章にまとめてくる。なお、この文章を使ってスライドを作成することに留意すること(標準学修時間120分)
15回	決められた手順と制限時間に従って、発表ができるように予習しておくこと(標準学修時間120分)
16回	決められた手順と制限時間に従って、発表ができるように予習しておくこと(標準学修時間120分)

講義目的	新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機づけを行うとともに、基礎的な学習技術を修得させることである。 (4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与)
達成目標	生涯にわたる学びや大学で学ぶ意義について理解し、実践につなげることができる。 これまでの経験を意味づけし、将来に向けて自分のキャリアの目標設定ができる。 第三者が読んで理解しやすく、説得力ある文章を書くことができる。 相手の発言を聞き取り、把握した上で自分の意見を明確に主張することができる。 グループワークにおいて積極的にコミュニケーションをとり、円滑な人間関係を築くことができる。 自分の考えをまとめ、プレゼンテーションすることができる。 (4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与)
キーワード	学び、キャリア設計、コミュニケーション、アカデミックスキル
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	課題(ワークシート等)への取り組み(30%)レポート(35%)課題研究発表(35%)より成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
関連科目	地域フィールドスタディ、文章表現法、プレゼンテーション
参考書	適宜指示する。
連絡先	松尾研究室:matsuo@are.ous.ac.jp オフィスアワーについては、mylogを参照のこと。
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・5回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ・課題発表、グループワークの欠席の場合は、その時点で評価対象としない。 ・1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源を切り、机の上に置かずしておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の資料配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・授業外学習および課題を必ず取り組んだうえで、授業に臨むこと。 ・授業外学習が重要になるため、授業ノートをまとめ、演習に取り組むこと。 ・課題提出物において、条件に従っていなかったり、剽窃があった場合は、成績評価の対象としない。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニング型授業であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。
課題に対するフィードバック	・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、合理的配慮を提供するため、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。

科目名	学びの基礎論 (FB219230)
英文科目名	Introduction to Life Long Learning
担当教員名	西村次郎 (にしむらじろう)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション、アイスブレイクと仲間づくり、本講義の概要と進め方について、シラバスを確認しながら説明する。また、評価方法についても説明する。本講義は、アクティブラーニング型の授業であるため、グループ活動を円滑にするための仲間づくりを行う。
2回	生涯にわたる学びについて説明する。 エリクソンの人間の発達とアイデンティティーについて、生涯の8つの段階について説明する(1)。
3回	生涯にわたる学びについて説明する。 エリクソンの人間の発達とアイデンティティーについて、生涯の8つの段階について説明する(2)。人間のライフサイクルについて説明する。
4回	ピアジェの人間の発達段階について説明する。
5回	生涯にわたる学びと自己実現・マズローの欲求階層について説明する。
6回	生涯にわたる学びと自己実現・マズローの自己実現と創造的人間について説明する。
7回	生涯における学びと大学で学ぶことの意義や学び方について説明する。 学びが自己実現や幸福追求とどのように関わるかを説明する。
8回	生涯における自己実現や大学での目標を設定する。大学での学びや課外での学びについて計画を作成する。
9回	・ガイダンス ・マズロー自己実現と学び
10回	リーディングスキル ・筆者の意図や何を伝えたいのかを文章から読みとる。 ・文章から読みとった内容と他の事柄との関連づけを図る。
11回	リーディングスキル ・筆者の意図や何を伝えたいのかを文章から読みとる。 ・文章から読みとった内容と他の事柄との関連づけを図る。
12回	アカデミックライティング ・レポートについて、作成手順を説明する。
13回	効果的なアカデミックライティング ・わかりやすい文章や表現方法について説明する。 プレゼンテーションの基本的スキルについて説明する。
14回	プレゼンテーションの基本的スキルとスライドの作成。
15回	課題発表とふり返り。 ・これまでのまとめとして、プレゼンテーションを行い、プア・レビューを行う。
16回	課題発表とふり返り。 ・これまでのまとめとして、プレゼンテーションを行い、プア・レビューを行う。

回数	準備学習
1回	予習として、シラバスを確認して本講義の目的を理解すること。また、大学で学ぶ意義について、自分の夢や目標を踏まえつつ、考えておくこと。(標準学習時間60分)
2回	アイデンティティーの意味についてまとめておくこと。(標準学習時間60分)
3回	エリクソンの人間のライフサイクルについてまとめておくこと。(標準学習時間60分)
4回	ピアジェの人間の発達段階についてまとめておくこと。(標準学習時間60分)
5回	マズローの欲求階層についてまとめておくこと。(標準学習時間60分)
6回	マズローの自己実現と創造的人間の要素についてまとめておくこと。(標準学習時間60分)
7回	生涯における学びと大学で学ぶことの意義や学び方についてまとめておくこと。(標準学習時間60分)
8回	大学での学びや課外での学びについて計画をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
9回	シラバスを確認して本講義の目的をまとめておくこと。 マズローの自己実現にまとめておくこと。(標準学習時間60分)
10回	配布資料を読んで、内容を理解しておくこと。(標準学習時間60分)
11回	配布資料を読んで、内容を理解しておくこと。(標準学習時間60分)

1 2 回	与えられたテーマから、レポートを作成していくこと。(標準学習時間120分)
1 3 回	4回目で学んだことを参考にして、修正したレポートを作成すること。 (標準学習時間120分)
1 4 回	課題の内容を文章にまとめておくこと。このまとめを使ってスライドを作成することに留意する。 (標準学習時間120分)
1 5 回	決められた手順と制限時間にしがって、発表が円滑にできるように予習をしておくこと。(標準学習時間120分)
1 6 回	決められた手順と制限時間にしがって、発表が円滑にできるように予習をしておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機づけを行うとともに、基礎的な学習技術を修得させることである。 (4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与する)
達成目標	生涯にわたる学びや大学で学ぶ意義について理解し、実践につなげることができる。グループにおいて積極的にコミュニケーションをとり、円滑な人間関係を構築できること。第三者が読んで、理解しやすく、正しい表現で文章を書くことができる。自分の考えをまとめ、プレゼンテーションすることができる。 (4領域の項目の「関心・意欲・態度」にもっとも強く関与、「思考・判断・表現」に強く関与する)
キーワード	エリクソン、マズロー、ピアジェ、アイデンティティ、自己実現、プレゼンテーション、アカデミックスキル
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	・ワークシート(20%)、レポート(20%)、小テスト(20%)、発表(40%)より、成績を評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	特定の教科書は使用しない。
関連科目	地域フィールドスタディ、文章表現法基礎編A・B、プレゼンテーションA・B
参考書	適宜指示する。
連絡先	西村(次)研究室:jiro@ee.ous.ac.jp オフィスアワーについては、mylogを参照のこと。
授業の運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の飲食や私語は禁止とする。 ・授業中は携帯電話の電源は切り、机の上には置かずしておくこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスを変更する場合がある。 ・課題については、期限内に提出のこと。 ・グループ学習により授業を行うので、毎回出席して、真摯に授業に取り組むこと。 ・介護体験や教育実習で欠席する場合は、事前に届を出すこと。 ・講義での録画/録音/撮影は原則認めない。理由がある場合は申し出ること。
アクティブ・ラーニング	アクティブ・ラーニングとして、グループディスカッションや発表を行う。
課題に対するフィードバック	提出課題のフィードバックとして、授業中に説明を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供する。配慮が必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	グループディスカッションを行うので積極的に参加すること。